令和３年度第１５回

地域連携推進機構運営会議　議事次第

日　時：令和４年２月１７日（木）１０：００～１１：３０
場　所：オンライン開催

【議題】

＜審議事項＞		資料番号
1	特命教員採用計画（案）について ①多機関連携による沖縄型高度地域公共人材養成 ②STEAM 教育・次世代科学人材育成事業プロジェクト（仮称）	審議 1
2	特命職員採用計画（案）及びクロスアポイントメント制度実施に係る申出について	審議 2
3	令和４年度公開講座・公開授業について	審議 3
4	職業実践力育成プログラム（ＢＰ）として認定された３プログラムの廃止について	審議 4
5	第３期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について	審議 5
6	非常勤講師の変更について	審議 6
7	JST 次世代人材育成事業への申請について	審議 7
＜報告事項＞		
1	地域連携活動に係る動画コンテンツ HP 開設について	報告 1
2	令和３年度地域連携推進機構予算執行状況について	報告 2

※参考資料

・　地域連携推進機構運営会議 委員名簿（令和３年４月１日時点）（参考資料２）

（案）

令和３年度第 14 回地域連携推進機構運営会議

議事要旨

日　時: 令和４年１月 20 日（木）　10：00～11：05
場　所：zoom による WEB 会議
出席者：牛窪 潔（機構長）、竹村 明洋（副機構長）、背戸 博史（地域共創企画室長）、柴田 聡史（地域共創企画室 准教授）、小島 肇（地域共創企画室 准教授）、島袋 亮道（地域共創企画室 特命准教授）、畑中 寛（地域共創企画室 特命准教授）、下地 孝之（総合企画戦略部 地域連携推進課長）
欠席者：なし
陪席者：瀬名波 出（学長補佐、研究企画室員、工学部教授）、平敷監事、稲福 太一（課長代理）、新城 伸幸（地域連携推進係長）、金城 まなみ（企画係長）、根間 友紀乃（企画係員）

※報告に先立ち、令和３年度第 12 回、及び、第 13 回運営会議の議事要旨案について確認があり、承認された。

＜報告事項＞
議長から，次の３つの事項について機構の現状の認識と情報の共有を図るため，各担当から報告を行うよう発言があった。

1. 沖縄県地域振興協会との包括連携定締結について
下地地域連携推進課課長から、資料（報告 1）に基づき報告があった。

2. 令和３年度地域連携推進機構予算執行状況について
下地地域連携推進課課長から、資料（報告 2）に基づき報告があった。
平敷監事より、知のふるさと納税事業実施の予定の有無について質問があり、背戸室長より令和４年３月頃に伊江村立伊江中学校と交流事業を行う予定であるとの回答があった。

3. 大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材成事業～ＳＰＡＲＣ～」について
稲福地域連携推進課課長代理から、資料（報告 3）に基づき、大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材成事業～ＳＰＡＲＣ～」の制度について報告があった。主な意見は下記の通り。

- 琉球大学が申請するとなるとパートナーとなるような大学が必要となると考えるが、沖縄に関係する他大学は本制度の事務説明会への参加はしていたか。また、当機構から申請するのであればタイプ②の方が、採用される可能性が高いと考える。（竹村副機構長）
- 半数以上の学位プログラムを再編するとなると学部の負担が大きいため、申請する際の課題は学部からの協力が得られるかという点である。また、地域連携プラットフォームがあることを前提にした制度であるため、現在の体制等を鑑みると申請は難しい。（牛窪機構長）
- 申請要件が学位プログラム単位となっているため学部単位やプログラム単位が最小である

と考えるが、学位プログラムの定義については申請者の判断に委ねられている旨の記載があるため、副専攻を学位プログラム単位と解釈しても良いのか。（小島准教授）

- 学生の数が減っていく中で学部等の再編を視野に入れた制度だと考えるが、大学等連携推進法人等の仕組みを新たに作るとするとニーズがないと難しい。また、申請には地域との連携があることを前提とした制度であり、既に他大学とともに構想が練られていることが必要であると考える。（平敷監事）
- 本制度の本筋は教育改革だと考えるため、グローバル教育支援機構との情報共有と協力が必要である。もし申請を行うなら学部との意見交換を踏まえて進めていくべきであると考える。（背戸室長）

4. その他

背戸室長より、学生部入試課からの令和４年度大学入学共通テストの実施に伴う職員の協力依頼に基づき、当機構から柴田准教授及び小島准教授の２名が、監督者として協力したことについて報告があった。

特命職員採用計画書

地域連携推進機構

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名	多機関連携による沖縄型高度地域公共人材養成
資金配分機関名	琉球大学
取　組　名	多機関連携による沖縄型高度地域公共人材養成
所　　属	地域連携推進機構地域共創企画室
職　　名	特命准教授、特命講師又は特命助教（常勤）
人　　数	１名
職 務 内 容	地域の多機関連携による沖縄型高度地域公共人材養成事業を推進するために、以下の内容を職務とする。 (1)　地域公共人材の養成に係る科目の企画・提供【教育】 (2)　琉球大学イノベーションイニシアティブ「地域公共政策士ネットワーク」に係るコーディネートやマッチング等の実務【研究及び地域連携】 (3)　その他、地域連携推進機構において、第４期中期目標・中期計画を達成するために必要な業務
雇 用 期 間	令和４年４月１日～令和５年３月３１日（令和９年度まで更新の可能性あり）
給　与　等	基　本　給：予算の範囲内で支給する 諸　手　当：予算の範囲内で支給する 賞　　与：予算の範囲内で支給する 年度一時金：　□支給する。　■支給しない。
応募資格等	・国立大学法人琉球大学地域連携推進機構教員選考内規に準ずる。 ・地域連携型教育プログラム統括教員（主に資格教育プログラムを担当）として、学内外と連携し、円滑に仕事を遂行するための協働性･積極性･コミュニケーション能力等を有する者

採 用 理 由	第３期中期目標期間において、地域連携推進機構では、「沖縄産学官協働人財育成円卓会議」の連携のもと、多様な人材育成プログラムを開発・実施してきた。これら目的別人材育成プログラムうち６科目が一般財団法人地域公共人材開発機構（COLPU）の「初級地域公共政策士」資格に認定され、令和元年 10 月に資格取得のための科目認証制度を本学で開設した（令和２年度に２科目を新設し、対象８科目に拡充）。この科目認証制度の認定は、京都以外では初めての認定となる。 「初級地域公共政策士」資格科目認証制度は、教育内容及び受講生数ともに着実に成長を続けているが、令和４年度に本学に開設される地域公共政策士（修士クラス）と連携し、さらに高度な地域公共人材の養成に取り組んでいく必要がある。また、初級地域公共政策士取得者等から組織される地域公共人材のネットワーク「沖縄地域公共政策研究会」と連携した地域課題解決の実践により、沖縄の地域特性に応じた地域課題解決に積極的に寄与し、人材養成を通じた実践的な地域との協働に期待がされる。 本事業の発展的拡充のためにも、本事業に専属的に従事し、学内の部局横断的なコーディネート能力、他機関とのコーディネート能力を有し、本事業を適切に運営できる人員の常置が必要である。

事業の概要

プログラム名称	多機関連携による沖縄型高度地域公共人材養成
事　業　名　称	多機関連携による沖縄型高度地域公共人材養成
事業推進責任者	牛窪　潔（地域連携推進機構長、理事(地域貢献・国際交流・広報担当)）
令和４年度	-------千円
次年度以降の予定額	令和５年度から令和９年度（予定）----------千円

事業の目的

１．事業の概要

２．事業の全体計画

【第３期を踏まえての発展的展開】

別　紙

特命職員採用計画書

地域連携推進機構

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名	STEAM 教育（キャリア教育・初等中等教育）・次世代科学人材育成事業プロジェクト（仮称）
資金配分機関名	琉球大学
取　組　名	STEAM 教育（キャリア教育・初等中等教育）・次世代科学人材育成事業プロジェクト（仮称）
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ期間	令和４年４月１日～令和５年３月３１日
所　　属	地域連携推進機構
職　　名	特命准教授、特命講師又は特命助教（常勤）
人　　数	１名
職 務 内 容	リカレント教育の一環として、将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成を目的とした琉大ハカセ塾（ジュニアドクター育成塾）また、将来、世界を舞台に活躍し、世界をリードする科学技術人材の育成を目的とした琉大カガク院（グローバルサイエンスキャンパス）、さらに、女子中高生を主対象に理科への興味・関心を高めることを目的としたサイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ（以下、リケジョ。女子中高生の理系進路選択支援プログラム）をＪＳＴからの支援を受けて実施してきたが、支援期間が 2021 年度で終了する。 しかし、ＪＳＴ（国立研究開発法人科学技術振興機構）には支援期間終了後も事業を継続する旨、計画書に記載していることから、外部資金獲得が叶わなかった場合でも、自走にて事業を実施する必要がある。また、琉大カガク院については、現受講生には２年間のプログラムを約束していることから、令和４年４月以降も切れ目なくプログラムを実施する必要がある。 この状況の中、事業を継続、発展させていく取り組みの統括として、企画および指導内容の立案に関わり、受講生の活動支援、メンターの指導・管理・相談・調整等、マネジメントの役割を担う。 具体的には以下の内容を職務とする。 ① 琉大カガク院（グローバルサイエンスキャンパス） ・オンライン学習システムの開発を含む教育プログラム・教材開発および講義の提供 ・受講生評価および評価法・システムの開発 ・メンター大学生の募集，連絡，運用，教育業務

	② 琉大ハカセ塾（ジュニアドクター育成塾） ・オンライン学習システムの開発を含む教育プログラム・教材開発および講義の提供 ・受講生の評価業務，第二段階受講生の選抜業務，評価法・システムの開発業務 ・計画書，報告書作成業務 ③ リケジョ（女子中高生の理系進路選択支援プログラム） ・学内関係部局や学外機関との調整 ・教育機関に対する広報活動 ④ その他本事業に関する教育・研究
雇 用 期 間	令和４年４月１日～令和５年３月３１日
給　与　等	基　本　給：　予算の範囲内で調整 諸　手　当：　　〃 賞　　与：　　〃 年度一時金：　　〃
応募資格等	学位：修士以上の学位を有する者若しくはそれと同等の能力を有する者 資格：大学の社会的意義について優れた見識と、マネジメント能力および行動力を有し、かつ以下に該当する者 ・企画・運営・調整能力を有する者 ・科学や科学実験に関する深い知見をもち、自然科学分野の研究活動経験を有する者 ・教育プログラム開発にかかる調査研究について推進する能力のある者 ・e ラーニング教材の開発・研究に関心をもっていること ・業務遂行に必要なコミュニケーション能力、適応力を備えた者 ・強いリーダーシップを有し、研修会等を開催するマネジメント能力を有する者 ・本事業の職務内容に理解を持ち、任務に責任を持って取り組む姿勢があること 業績等：大学院を修了していない者であっても、自然科学分野研究もしくは教育プログラム開発等に関する顕著な実務経験等がある方はその経験等を考慮します。

採 用 理 由	琉大ハカセ塾（ジュニアドクター育成塾)、琉大カガク院（グローバルサイエンスキャンパス）では、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材の育成に向けて地域で卓越した意欲・能力を有する高校生を発掘し、生徒の能力を伸長する体系的育成プランの開発、実施します。 また、リケジョ（女子中高生の理系進路選択支援プログラム）では、中高生や保護者、教員、市民に向けて、外部機関とも連携しつつ、仕事紹介、ロールモデル提示、研究室での実験演習、サイエンスカフェなどを実施します。 本プロジェクトにおいては、受講生の研究活動に由来する成果創出に加え、科学技術系人材育成手法の開発、継続的な成果の把握、事業の改善を通して有効性の向上を図り、広く普及させることで社会全体への還元することも目的としています。そのためには、学内外の関係者と協力体制を構築しながら教育プログラムの開発・提供・評価を行うとともに、生徒に対して十分なフォローアップを行うことも求められるため、専任として特命教員を採用します。

事業の概要

プログラム名称	STEAM 教育（キャリア・初等中等教育）・次世代科学人材育成事業プロジェクト（仮称）
事　業　名　称	STEAM 教育（キャリア・初等中等教育）・次世代科学人材育成事業プロジェクト（仮称）
事業推進責任者	牛窪　潔（地域連携推進機構長長）
令 和 4 年 度	6,000 千円（調整中）
次年度以降の予定額	未定

事業の目的

１．事業の概要

リカレント教育の一環として、将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成を目的とした琉大ハカセ塾（ジュニアドクター育成塾）また、将来、世界を舞台に活躍し、世界をリードする科学技術人材の育成を目的とした琉大カガク院（グローバルサイエンスキャンパス）、さらに、女子中高生を主対象に理科への興味・関心を高めることを目的としたサイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ（以下、リケジョ。女子中高生の理系進路選択支援プログラム）をＪＳＴからの支援を受けて実施してきたが、支援期間が2021 年度で終了する。

しかし、ＪＳＴには支援期間終了後も事業を継続する旨、計画書に記載していることから、外部資金獲得が叶わなかった場合でも、自走にて事業を実施する必要がある。

また、琉大カガク院については、現受講生には２年間のプログラムを約束していることから、令和４年４月以降も切れ目なくプログラムを実施する必要がある。

２．事業の全体計画

琉大カガク院（グローバルサイエンスキャンパス）

受講生の募集人数について、2021 年度と同程度の人数とする。

募集人数（受講生数）：第一段階　高校生 40 名程度（2022 年 6 月～8 月）
：第二段階　高校生 16 名程度（2022 年 2 月～2023 年 3 月）
高校生 16 名程度（2022 年 9 月～2022 年 3 月）

第一段階の基礎講義

・科学に関する基礎的および先端的な知識を学ぶための講義を，オンライン（オンデマンド含む）を基本として，22 講義（8 講義日程度を想定）程度提供する．

第一段階の探究講義

・研究活動を行う上で必要な論理的思考力を養うための講義（グループディスカッション等）の講義を，対面を基礎として，10 講義（5 講義日程度を想定）程度提供する．

第二段階の講義および研究活動

・研究活動に関するより実践的な講義を 12 講義（6 講義日程度を想定）程度提供する．
・第二段階全体を通して，受講生自身の興味関心に応じた研究活動を行い，特命教員が、オフィスアワー形式で対応する。
・受講生の要望・能力により、専門性の高い研究内容が求められる際は、研究室に配属を行う

（5 名程度）。

琉大ハカセ塾（ジュニアドクター育成塾）

受講生の募集人数について、2021 年度と同程度の人数とする。

募集人数（受講生数）：第一段階　小中学生 40 名程度（2022 年 6 月～8 月）
：第二段階　小中学生 04 名程度（2022 年 2 月～2023 年 3 月）
小中学生 08 名程度（2022 年 9 月～2022 年 3 月）

第一段階の講義

・科学に関する基礎的および先端的な知識を学ぶための講義を，オンライン（オンデマンドおよび VR 空間上でのものを含む）を基本として，22 講義（8 講義日程度を想定）程度提供する.

第一段階の探究講義

・研究活動を行う上で必要な論理的思考力を養うための講義（グループディスカッション等）の講義を，対面を基礎として，10 講義（6 講義日程度を想定）程度提供する.

第二段階の講義および研究活動

・研究活動に関するより実践的な講義を 12 講義（6 講義日程度を想定）程度提供する.
・第二段階全体を通して，受講生自身の興味関心に応じた研究活動を行い，特命教員が、オフィスアワー形式で対応する。
・受講生の要望・能力により、専門性の高い研究内容が求められる際は、研究室に配属を行う（3 名程度）。

リケジョ（女子中高生の理系進路選択支援プログラム）

・沖縄科学技術教育シンポジウム（OASES）の開催（８月頃）
　小中高校を対象とした、科学技術分野の研究成果発表会。沖縄県内の小中高校生だけでなく、学校教員や教育行政、大学教員も参加し、意見交換会も実施する。発表件数５０件程度、参加登録者８００名程度を予定。
・OIST 共催のサイエンスキャンプ
　コロナ禍の影響も十分に配慮しつつ、中高生を対象とした宿泊を伴う研修（１泊２日程度)、もしくは日帰り研修を実施する。参加者２０名を予定。
・医学部体験ツアー、キャリア講演会
　中高生を対象とした医療分野でのキャリアを解説する医学部体験ツアー、講演会を開催する。参加者５００名（オンライン含む）を予定。
・ホームページ・twitter・instagram の管理・配信
　理系進路を選択、目指す社会人、大学生、高校生、中学生を対象としたイベント情報尾発信。
・ロールモデル動画制作、配信
　理系進路を選択、目指す社会人、大学生、高校生、中学生を紹介する３０秒動画の制作と配信。年間２回程度を予定。

特命職員採用計画書

地域連携推進機構

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名	島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発
資金配分機関名	地域連携推進機構寄附金
取　組　名	島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発
所　　属	地域連携推進機構
職　　名	特命教授（クロスアポイントメント）
人　　数	１名
職 務 内 容	地方大学に求められているニーズオリエンテッドな教育・研究として、島嶼地域における産業や地域を担う航空産業に焦点を当て、島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発・実施を行うこととし、これを担当する教員の主な職務は以下の内容とする。 （１）航空事業に関する本学での授業の実施 （２）航空事業に関する新たな教育プログラムの開発・実施 （３）上記に関する学外関係機関との連絡調整 （４）その他、地域連携推進機構内において、中期目標・中期計画を達成するために必要な業務
雇 用 期 間	令和４年４月１日～令和５年３月３１日
給　与　等	基　本　給：従事業務割合に応じて支給する（クロスアポイントメント） 諸　手　当：従事業務割合に応じて支給する（クロスアポイントメント） 賞　　与：従事業務割合に応じて支給する（クロスアポイントメント） 年度一時金：　□支給する。　■支給しない。
応募資格等	・国立大学法人琉球大学教員選考基準に準ずる ・大学等において航空事業に関する授業の実施経験を有する者
採 用 理 由	日本トランスオーシャン航空株式会社（以下「ＪＴＡ」という）とは、文部科学省補助事業 COC＋を契機に、旧観光産業科学部と締結していた連携協定を発展させ、新たに日本航空株式会社及び琉球エアコミューター株式会社も加えた 3 者との間で全学的な包括連携協定を締結し、島嶼県における産業振興、地域振興に関して学ぶ教育プログラムを展開してきている。地域連携推進機構では、ＪＴＡの協力のもと共通教育において２科目を開講している。 本プロジェクトは、ＪＴＡとのこれまでの連携事業を継続するとともに、魅力ある地方大学の実現に向けた他大学との差別化や、本学のプレゼンスを発揮する特長的なプログラムとして、島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発・実施を行い、地域への貢献を果たしていく取組みである。そのため、非常勤講師として本学等において航空事業に関する授業の実施経験を有する者を令和３年度よりクロスアポイントメント

	による特命教員として採用し、島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発を実施している。 　なお、日本トランスオーシャン航空株式会社の伊礼恭氏は、琉球エアコミューター株式会社の社長として、本学との連携協定や、崇城大学と運航乗務員養成に関する協定を実現する等の実績があるほか、本プロジェクトの以前には委託非常勤講師として本学での講義実績があるだけでなく、令和３年度にはクロスアポイントメントによる特命教員として新たに学内外との連絡調整にも積極的に関与し、本プロジェクトの他の党としての役割を果たしている。今般、期間を延長することにより副専攻等、本学での教育プログラムの開発・実施が加速することが期待される。

事業の概要

プログラム名称	島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発
事　業　名　称	島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発
事業推進責任者	牛窪　潔（地域連携推進機構長）
令 和 4 年 度	1，500 千円（クロスアポイントメントによる採用とし、本学負担は従事割合より１２％）
次年度以降の予定額	延長する場合は、令和４年度まで各年 1，500 千円（同上）

事業の目的

１．事業の概要

本学は Land Grant University として創設当初より地域貢献を使命とし、琉球大学の目指すビジョンの一つとして「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を掲げており、地域連携推進機構が地域とのコーディネート役やパイロット的な事業に当たっている。

沖縄県では新たな振興計画の策定に向けた作業が進められているが、そのなかの克服すべき沖縄の固有課題として、離島の条件不利益性克服と持続可能なコミュニティ及び力強い島嶼地域の形成、陸・海・空を紡ぐ「美ら島交通ネットワーク」の構築などが示され、これらを担う人材育成が重要な地域課題となっている。

沖縄の特殊事情である本土からの遠隔性、島嶼地域であるという普遍的な地理的要因に着目し、多くの島々から構成される沖縄地域における地方創生・地域振興に必要となる、島嶼地域の交通ネットワーク（ライフライン）の維持や、交通ネットワークを利用して地域振興・事業化を担い臨空・臨港型産業を通じてアジアのダイナミズムを取り込むための人材の育成について、ともに地域振興をミッションとする琉球大学と日本トランスオーシャン航空株式会社（ＪＴＡ）が協働で取組み、地域の国立大学に求められている地域ニーズに応える人材育成のための教育プログラムを開発・実施する。本事業を地域の人材育成の核となる高等教育機関と事業協働機関が協働で実施することは、地域との連携による更なる地域振興への貢献及び国が進める「地域創生の推進」にも資する取り組みとなるものである。

本学とＪＴＡとのこれまでの人材育成分野での連携事業をベースに、共通教育等における科目提供の取組みを継続するとともに、魅力ある地方大学の実現に向けた他大学との差別化や、本学のプレゼンスを発揮する特長的なプログラムとして、地域ニーズに対応した教育プログラムである島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発・実施として、関連する副専攻等の設置に向けた検討を連携して取組む。

そのため、本事業では非常勤講師として本学等において航空事業に関する授業の実施経験を有する者をクロスアポイントメントにより採用し、航空事業についての実務者としての業務を継続しつつ、あわせて大学において教育プログラムの開発・実施を行うことで、より実践的な教育プログラムとすることを目指す。（本学での業務への従事割合は１２％を想定）

２．事業の全体計画

（１）教育プログラムの実施（本学における産学連携による教育活動）

地域連携推進機構では、ＣＯＣ＋を契機に地域を担う人材の育成に向けて、企業等と連携した教育プログラムの開発・実施を行っており、本事業のテーマである島嶼地域における航空産業による地域振興に関しても、共通教育での授業を開講しているところであり、これを継続する。

（２）副専攻等の設置に向けた検討

島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発を一層強化するため、新たに必要となる科目群の開発や副専攻等体系的な教育カリキュラムの構築に向けた検討及び、学内外の関係機関との連絡調整を担当する。

担当教員は、非常勤講師として本学等において航空事業に関する授業の実施経験を有する者をクロスアポイントメントにより採用する。本学での業務への従事割合は１２％（前学期及び後学期の週１回の授業実施日として年間３０日程度）を想定し、本学負担分は地域連携に係る寄付金より支出する。

予算内訳

項目	支出額（税込み）（千円）	支出内訳（千円）
地域連携推進機構寄附金	1，500	①人件費　1，300 ・特命教授 ②消耗品費　200
合計	1，500	

別紙様式第１号

学 内 地 連 第　　号
令和４年　　月　　日

学　　長　　殿

地域連携推進機構長

クロスアポイントメント制度実施に係る申出書

このことについて，国立大学法人琉球大学クロスアポイントメント制度に関する規程第３条第１項の規定により，下記のとおり申し出いたします。

記

１．　　他機関（相手方機関）	
機関の名称 （外国の場合は，国名も記入のこと）	日本トランスオーシャン航空株式会社
機関の設置形態	□　国立大学法人・大学共同利用機関法人 □　独立行政法人（行政執行法人を除く。） □　外国の教育研究機関 ■　その他（　株式会社　　） ＊　その他の場合，（　　）欄に当該機関の設置形態を記載するとともに，「８．特記事項」欄に当該機関をクロスアポイントメント先とする理由（必要性等）を記載すること。
２．適用教職員	
原籍機関	□　本学 ■　他機関（相手方機関）
所属・職名	日本トランスオーシャン航空株式会社　価値創造本部付琉球大学派遣（社長特命） ＊　適用教員が特任教員就業規則第３条第１号または第４号に該当する特任教員である場合は，「８．特記事項」欄に理由（必要性等）を記載すること。

氏名（ふりがな）	いれい　たかし 伊礼　恭
生年月日（年齢）	[redacted]　（５９歳）
給与	※あらかじめ給与について協議した内容について記載してください。 勤務割合１２％にあたる給与 （地域連携事業に係る寄付金を活用する）

３．クロスアポイントメントの目的等

＊　クロスアポイントメントの適用を希望する経緯，目的及び教育研究面への期待される効果等を記載してください。

本学とＪＴＡとのこれまでの連携事業を継続するとともに、魅力ある地方大学の実現に向けた他大学との差別化や、本学のプレゼンスを発揮する特長的なプログラムとして、地域ニースに対応した教育プログラムである島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発・実施を地域の企業と連携して取組む。

そのため、非常勤講師として本学等において航空事業に関する授業の実施経験を有する者を採用し、教育プログラムの開発・実施を行う。

４．クロスアポイントメント適用に係る身分等

本学	所　属：国立大学法人琉球大学地域連携推進機構 勤務場所（住所）：沖縄県中頭郡西原町字千原１番地 職　名：特命教授 業務内容：島嶼地域における航空産業による地域振興に向けた教育プログラムの開発
他機関（相手方機関）	所　属：日本トランスオーシャン航空株式会社 勤務場所（住所）：那覇市泉崎1-20-1 カフーナ旭橋A街区3階 職　名：嘱託社員 業務内容：人財育成

５．クロスアポイントメント適用期間

令和　４年　４月　１日　～　令和　５年　３月３１日（　１年　　月）

＊　適用期間が６月以上の連続する期間（３年以内）以外の期間となる場合は，「８．特記事項」欄に理由（必要性等）を記載すること。

６．勤務割合（エフォート）及び勤務日

本学：（勤務割合：１２％　勤務日：木　前学期及び後学期の授業実施日）

他機関（相手方期間）：（勤務割合：８８％　勤務日：上記以外）

７．クロスアポイントメント適用条件
①　　本学の利益との相反の有無
□　有　（相反の程度：　　）
■　無
②　　本学教職員としての職務遂行への支障の有無
□　有　（支障の程度：　　）
■　無
③　　その他職務の公正性，透明性及び信頼性の確保への支障の有無
□　有　（支障の程度：　　）
■　無
８．特記事項
＊　以下に該当する場合は，その理由（必要性等）を記載すること。 ①　他機関（相手方機関）の設置形態が「その他」の場合 ②　適用期間が６月以上の連続する期間（３年以内）以外の期間となる場合 ＊　適用教員の労働条件の設定に当たって，個別の事情等がある場合は，当該事情等を記載してください。 本プログラムの開発・実施にあたっては航空事業に関する知識・経験が必要であるほか、沖縄地域の地域特性についても十分な知識が必要であるため、地域の航空会社における実務経験者を充てることが必要となるため、民間企業から採用する。 なお、対象者の採択以降、当該企業との取引が発生する際には、利益相反マネジメント上の問題が生じないよう適宜確認を行うものとする。 なお、本申出は令和４年２月１７日開催の地域連携推進機構運営会議において審議・了承済みである。

＊　適用教職員の原籍が他機関（相手方機関）の場合，履歴書を添付すること。

＊　必要に応じ，参考資料を添付すること。

令和4年度　公開講座一覧

●一般向け講座

連番	新規・継続	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	無料の理由	材料費等	遠隔可否	修了証発行の有無	対象者	開催期間	会場	SDGs	備考
1	継続	国際地域創造学部	大島　順子（国際地域創造学部　准教授）	やんばる山学校：世界事前遺産登録地の今を体験し、学びを深めよう	20人	¥4,280		¥0	否	要	一般市民（高校生以上）、教育関係者及び観光関連事業者	9月17日（土）・10月1日（土）・10月15日（土） 9：30～16：30	琉球大学「与那フィールド」及び国頭村内の森林やダム周辺	4,8,9,11,12,13,14,15,17	
2	新規	国際地域創造学部	大島　順子（国際地域創造学部　准教授）	観光基礎人材育成とその指導法を学ぶ体験的講座	30人	¥3,240		¥0	否	要	市民一般 ※観光基礎人材育成のための教育に関心を持つ市民、又は観光を題材とした学びや指導法獲得したい教員	3月4日（土） 9：30～16：30	琉球大学	4,8,9,11,12,14,15,17	
3	新規	国際地域創造学部	荒川 雅志 （琉球大学国際地域創造学部 教授）	健康経営、SDGsにおける HRM アプローチの重要性	20人	¥0	エ	¥0	サテライトキャンパス可	要	社会人全般	5月13日（金）・5月14日（土） 18：00～19：30	地域国際学習センター301講義室	3,4,5,8,17	
4	新規	国際地域創造学部	多賀　寿史（国際地域創造学部　准教授）	会社の決算書の読み方を教えます	10人	¥3,240		¥0	可	要	ビジネスマン	①7月土曜日13：00～16：00 ②7月土曜日13：00～16：00	文系講義棟	4,8	
5	継続	教育学研究科	下地敏洋 （琉球大学大学院教育学研究科・教授）	老年学への招待－健康長寿をめざして－	25人	無料	ア	¥0	否	不要	一般	6月18日（土）10：30－12：00 6月25日（土）10：30－12：00	教育学部棟103号室	3,4,11	
6	継続	医学部	照屋　典子（医学部成人・ガン看護額教授）	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	50人	無料	ア	¥0	否	不要	一般・患者家族	9月17日 13：00～16：00	国立病院機構沖縄病院　会議室	3,4	
7	継続	医学部	大湾知子 （医学部保健学科成人・ガン看護学　准教授）	生活文化のなかにおける沖縄伝統空手と健康～尿失禁対策の骨盤底筋体操～	対面：50人 遠隔：100名程度	無料	ア	¥0	可	不要	一般市民	9月11日（日） 13：30～15：30	沖縄空手会館　研修会場	3,4,5,6,10,11,12,16,17	
8	新規	医学研究科	黒柳秀人（医学研究科　教授）	mRNAワクチンってどんなもの	20人	無料	エ	¥0	可・サテライト	不要	一般	9月～10月	地域国際学習センター301講義室	3,4	
9	新規	医学研究科	黒柳秀人（医学研究科　教授）	ゲノム編集ってどんなもの	20人	無料	エ	¥0	可・サテライト	不要	一般	9月～10月	地域国際学習センター301講義室	3,4	
10	継続	工学部	渡嘉敷健（工学部工学科建築学コース）	音の体験教室	50人程度	¥2720 （高校生以下無料）	オ	¥0	可	要	一般	6月4日（土） 13：00～15：00	琉球大学工学部1号館222教室	4	無料の理由：子どもたちの化学に対する探求心を育てるため
11	継続	工学部	渡嘉敷健（工学部工学科建築学コース）	沖縄の公害問題で考える平和学習	50人程度	¥2,720		¥0	可	要	一般市民	6月18日（土） 13：00～17：00	琉球大学工学部1号館222教室	3,4,16	
12	継続	工学部	姜 東植（工学部工学科 准教授）	シニアのための健康サッカー講座	20人	無料	ア	¥1,000	否	不要	40才以上の方	2022/8/1～9/31毎週水・金1900～2100 2022/8/1～9/31毎週水・金1900～2100 上記以外の水・金1930～2100	学内（琉球大学千原キャンパスのサッカーグラウンド）	3,4	
13	継続	農学部	井口　直子 （農学部亜熱帯生物資源科学科　准教授）	大学生のためのCOOKING	10人	¥4,280		¥2,700	否	不要	大学生1年次	6月10日（金）7月8日（金） 10月14日（金） 11月11日（金）12月9日（金） 13：00　～　16：00	琉球大学教育学部　306教室	3,4	

一般向けコース：13講座

●子ども向けコース

連番	新規・継続	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	無料の理由	材料費等	遠隔可否	修了証発行の有無	対象者	開催期間	会場	SDGs	備考
1	新規	国際地域創造学部	井川　浩輔（国際地域創造学部国際地域創造学科・准教授	リーダーのためのチーム・ビルディング	12人	¥0	ウ	¥0	否	要	中学1～高校3年生	8月23日(火) 13:00～15:00	文講114教室	4	
2	継続	教育学部	岡本牧子（教育学部技術教育専修　准教授）	新聞記者体験 エネルギーってなんだろう？ －全国かべ新聞コンテストへの道－	20人	¥0	ウ	¥0	否	要	小学4～6年生と その保護者	7月23日(土) 13:00～16:00	教育学部本館101号室, 学外	4,7,13	
3	継続	教育学部	琉球大学教育学部　准教授　笹澤　吉明	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	100人	¥3,000		¥0	否	不要	小学生	調整中 5月開始予定 基本的に毎週日曜日	琉球大学サッカー場（雨天時第一体育館）及び 講義室（夏季は西原きらきらビーチの時もある）	3,4,10,14,15,16	
4	継続	教育学部	濱田 栄作（琉球大学教育学部 教授）	クリスマス サイエンス レクチャー	12人	¥0	ウ	¥0	否	要	小学4～6年生 および中学生	12月17日（土） 13:00～17:00	教育学部棟 4階 422室	4	
5	継続	教育学部	杉尾幸司（大学院教育学研究科　教授）	昆虫の行動をコントロールしてみよう　－昆虫行動学入門－	16人	¥0	ウ	¥0	否	要	中高校生	7月31日（日） 10:00～12:00	教育学部本館　422教室	4,15	
6	継続	教育学部	三輪一義（琉球大学教育学部保健体育専修　教授）	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室	２００人	¥0	ウ	¥0	否	不要	ハンドボール愛好者	4月9日(土)～3月12日(日) 土曜日13:00～17:00 日曜日10:00～16:00	琉球大学第一体育館	3,4	
7	継続	理学部	前野昌弘（理学部物質地球科学科准教授）	～物理の魅力を教えます2022～	50人	¥0	ウ	¥0	可	不要	小中高校生・一般	８月７日（日） 13:00～17:00	琉球大学理系複合棟	4,9	
8	継続	理学部	前野昌弘（理学部物質地球科学科准教授）	琉大生による理科実験教室	100人	¥0	ウ	¥0	可	不要	小中高校生・一般	１２月２４日（土） 13:00～17:00	琉球大学理系複合棟	4,9	
9	継続	理学部	中川鉄水（理学部　・助教）	身近な化学「リサイクルの化学」	30人	¥0	ウ	¥0	可	不要	高校生以下	２月予定	地域国際学習センター301講義室 ３０１講義室	4,7,9,11,12,13	
10	継続	理学部	中川鉄水（理学部　・助教）	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～	30人	¥0	ウ	¥0	可	不要	市民一般・学生	７月 ＠琉球大学千原キャンパス ２月 離島（未定）	琉球大学及びサテライトキャンパスのうち1~2ヵ所を予定	4,7,8,9,11,12,13	
11	継続	工学部	大城　諒士（工学部技術部・技術専門職員	夏休み工作教室－ホバークラフト	10人	¥0	ウ	¥600	否	要	小学1～３年生 （保護者同伴のこと）	8月6日（土） 9:30～11:30	琉球大学工学部4号館211室	4	
12	継続	工学部	與那覇　敏明（工学部技術部　技術専門職員）	夏休み工作教室　－　合金を溶かして風鈴づくり	8人	¥0	ウ	¥1,000	否	要	小学校5・6年生	7月30日（土） 13:00～17:00	琉球大学工学部　付属工作工場 鋳物室	4	
13	継続	工学部	山里 將史 （工学部技術部　技術職員）	夏休み体験教室－エンジンの中をのぞいてみよう！～分解と組み立て～－	4人	¥0	ウ	¥500	否	要	中学生　以上	8月6日（土） 13:00～17:00	琉球大学工学部附属工作工場	4	
14	継続	工学部	宮城　紀良（工学部技術部　技術専門職員）	夏休み工作教室　－　固形燃料で走る船	10	¥0	ウ	¥500	否	要	小学校5・6年生	8月6日（土）	琉球大学工学部　工1-122	4,12	
15	継続	工学部	渡慶次　高也 （工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室－電気工事を体験しよう（小学生対象コース）	5人	¥0	ウ	¥1,000	否	要	小学生4-6年	7月30日(土) 9:30～12:00	工学部4号館111室	4,8	

連番	新規・継続	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	無料の理由	材料費等	遠隔可否	修了証発行の有無	対象者	開催期間	会場	SDGs	備考
16	継続	工学部	渡慶次　高也 （工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室ー電気工事を体験しよう（中学生対象コース）	5人	¥0	ウ	¥1,000	否	要	中学生	7月30日(土) 13:00～17:00	工学部4号館111室	4,8	
17	継続	工学部	翁長　竜盛 （琉球大学工学部技術部　技術職員）	夏休み工作教室ーデスクトップPC組み立て・LANケーブル制作体験	4人	¥0	ウ	¥0	否	要	中学生　以上	7月30日(土) 13:00～17:00	地域創生総合研究棟5階 508室	4	
18	継続	工学部	仲宗根宏貴(工学部技術部・技術職員）	夏休み工作教室(ミラクル万華鏡）	10人	¥0	ウ	¥400	否	要	一般市民(小学1～3年生） ※保護者同伴のこと	7月30日(土) 9:30～11:30	琉球大学工学部4号館211室(工4-211）	4,9	
19	継続	工学部	山下　大輔（工学部技術部・技術職員）	夏休み工作教室　ー　電子回路の製作	10人	¥0	ウ	¥1,000	否	要	小学4-6年	8月6日（土） 13:00～17:00	工学部4号館111室または工学部2号館102室	4	
20	継続	工学部	淵脇秀晃（琉球大学工学部技術部 技術専門職員）	夏休み工作教室　ー　折り紙建築	8人	¥0	ウ	¥300	否	要	小学校5，6年生	8月6日（土） 13:00～17:00	工学部2号館2階217-2室　ラーニングコモンズ	4,9	
21	新規	農学部	宮城一菜（農学部亜熱帯生物資源科学科健康栄養科学コース　准教授）	島ヤサイをおいしく楽しく学ぼう♪	12人	¥0	ウ	¥300	否	要	小学1～6年生	9月3日（土） 10:00～12:00	農学部別棟1の多目的室1	3,4	

子ども向けコース：21講座

●専門職向けコース

連番	新規・継続	提供学部	主任担当教員 ※青いセルは新規教員	講座名	募集人数	受講料 ※料金規程によらない金額は赤字（無料は除く）	無料の理由	材料費等	遠隔可否	修了証発行の有無	対象者	開催期間	会場	SDGs	備考
1	継続	工学部	渡嘉敷健（工学部工学科建築学コース）	ホールマネジメント	10人	¥2,720		¥0	可	要	ホール技術者及び一般	6月25日（土） 13：00～15：00	琉球大学工学部1号館222教室	4	
2	継続	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授	第二種電気工事士試験対策講習（筆記・上期）	20人	3760 （琉大生1880円）		¥0	可	不要	市民一般並びに大学生	4月23日（土）4月30日（土）5月7日（土）5月14日（土）5月21日（土） 9:00～12:00	琉球大学工学部4号館111室	4,8	
3	継続	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授	第二種電気工事士試験対策講習（筆記・下期）	20人	3760 （琉大生1880円）		¥0	可	不要	市民一般並びに大学生	9月24日（土）10月1日（土）10月8日（土）10月15日（土）10月22日（土） 9:00～12:00	琉球大学工学部4号館111室	4,8	
4	継続	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授	第二種電気工事士試験対策講習（技能・上期）	20人	4800 （琉大生2400円）		¥6,500	否	不要	市民一般並びに大学生	6月4日（土）～7月16日（土）＊6/18（土）は午前・午後で2回分の講義を行います 午前：9:00～12:00 午後：13:00～16:00 9:00～12:00	琉球大学工学部2号館226室（電気基礎実験室）	4,8	
5	継続	工学部	比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授	第二種電気工事士試験対策講習（技能・下期）	20人	￥4800 （琉大生2400円）		¥6,500	否	不要	市民一般並びに大学生	11月5日（土）～12月17日（土） 9:00～12:00 ＊11/19（土）は午前・午後で2回分の講義を行います 午前：9:00～12:00 午後：13:00～16:00	琉球大学工学部4号館111室	4,8	
6	継続	グローバル教育支援機構	古川　卓（グローバル教育支援機構保健管理部門）	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	30人	¥0	ア	¥0	可	不要	教育・福祉・医療従事者	4月23日（土） 9：30～16：30	琉球大学保健管理センター	4	
7	継続	グローバル教育支援機構	古川　卓（グローバル教育支援機構保健管理部門）	心理リハビリテーションキャンプin宮古島	24人	¥4,280	ア	¥0	否	要	有料：教育・福祉・医療従事者 無料：障がい者とその家族	8月24日（水）10：00～17：00 8月25日（木）9：00～17：00 8月26日（金）9：00～15：00	沖縄権利宮古島特別支援学校	4	

専門職向けコース：7講座

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名

① 講座名	やんばる山学校：世界自然遺産登録地の今を体感し、学びを深めよう						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	一般市民（高校生以上）、教育関係者及び観光関連事業者	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など	【開催協力】琉球大学農学部付属亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド（講義室提供）、国頭村森林組合（視察協力）、（一社）やんばるビジョン（講師担当、現地案内）						
⑦ 会場	琉球大学「与那フィールド」及び国頭村内の森林やダム周辺			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用（Zoom等を用いた遠隔講座）	□Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入） 4,280 円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑪ 材料費等の有無	有・(無)	⑫ 材料費等の金額	0円	⑬ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄島北部やんばるの山は、琉球弧の地史を背景に独自の進化をとげた多種多様な野生動植物が生息・生育し、昨年7月に登録された世界自然遺産の中核をなす地域です。登録こそされたものの、世界自然遺産への正しい理解や適正な活用のあり方を学ぶ機会が少ないのが現状です。世界自然遺産登録地をいかに守り、未来へと継承していくのか、現地での様々なフィールドワークを通してやんばるの森林と人の暮らしのつながり、オーバーツーリズムなど観光による人間活動により惹起する影響を自らの目で確認します。そして、生物多様性豊かなやんばるの森の価値について、世界自然遺産登録を機に活用の可能性や発生が予見される問題点を多様なアプローチから3回連続講座で学びます。やんばるの生物多様性が地球科学の観点からみた多様性（ジオダイバーシティ）に支えられていることを学ぶ、辺戸岬周辺のフィールドワークも組まれています。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4):質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8):働きがいも経済成長も
	(9):産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	(11):住み続けられるまちづくりを	(12):つくる責任つかう責任
	(13):気候変動に具体的な対策を	(14):海の豊かさを守ろう	(15):陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	(17):パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）	
	○ 大島 順子 （国際地域創造学部准教授）	尾方 隆幸（琉球大学教育学部准教授）
	久高 将和 （一般社団法人やんばるビジョン代表理事）	

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
9月17日（土）	9:30～16:30	世界自然登録地の今：イメージと現実	大島・久高
10月 1日（土）	9:30～16:30	ジオダイバーシティの観点からみたやんばる	大島・尾方・久高
10月15日（土）	9:30～16:30	世界自然遺産地域でのオーバーツーリズムを回避するには：観光振興と保全のバランスの取り方	大島・久高

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	①学生アルバイト（1名）：単価（820円/時間）×8時間×3日間＝19,680円、旅費（最新の規程に準拠） ※会場準備、受付、現場視察や体験プログラムの運営補助を行う。 ②講師謝金：現地視察の案内及び話題提供（1.5時間）、総括におけるコメンテーター（0.5時間）としてご担当頂きます。（合計2時間：規程によりご準備頂きますようお願いします） 2時間×3回 6230×2時間×3回＝37,380円	
	合 計	57,060円
⑳ 備 考	備考／会場周辺の森林や林道で観察を行うので、歩きやすい靴・服装で参加してください当日は現地集合・解散です。少雨決行ですが、天候の状況をみて内容を変更する場合があります。万一の事故に備えて各自で任意の保険に加入してください。 ※申込者には、別途詳細の案内をお送りします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　国際地域創造学部

① 講座名	観光基礎人材育成とその指導法を学ぶ体験的講座						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	市民一般※	④ 募集人数	30　人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など	特に無し						
⑦ 会場	琉球大学			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入) 3,240 円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑪ 材料費等の有無	有・(無)	⑫ 材料費等の金額	0円	⑬ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	観光を基幹産業とする沖縄において、インバウンド(訪日客)やイントラバウンド(国内からの客)の急増に対応した宿泊施設や交通機関に勤務する人材育成は急務となっています。従来、様々な場において実務的な対応力研修は実施されてきましたが、本講座は実務家研修というよりも、一般市民も獲得しておくべき観光基礎人材としての資質・能力に関わる内容を軸としています。広く観光現象や地域の価値を理解し、その対応力やマインドを育成するためのプログラムを体験的に受けて頂くものです。小中高等学校段階における観光の学びを推進するためのスキルも磨きます。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4):質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8):働きがいも経済成長も			
	(9):産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	(11):住み続けられるまちづくりを	(12):つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	(14):海の豊かさを守ろう	(15):陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	(17):パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○　大島　順子　(国際地域創造学部准教授)		寺本　潔　(玉川大学教育学部　教授)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
3月4日(土)	9:30～16:30	講義及び実習	大島・寺本

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	・講師謝金:寺本先生には、講座全体6時間(昼食の1時間を除く)間)のうち、5時間をご担当して頂きます。(規程により謝金をご準備頂きますようお願い申し上げます。)なお、自費で来沖されるため、旅費及び宿泊費は発生いたしません。 6600(講師謝金上限額で設定)×5時間＝33,000円	
	合　　計	33,000円
⑳ 備　　考	※対象とする主な受講者は、観光基礎人材育成のための教育に関心を持つ市民、または観光を題材とした学びや指導法を獲得したい教員とします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　国際地域創造学部

① 講座名	健康経営、SDGsにおける HRM アプローチの重要性						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	社会人全般	④ 募集人数	20　人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	共催：株式会社 SSK コミュニケイションズ						
⑦ 会場	地域国際学習センター301講義室			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　☑サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
	宮古島、石垣島、本島内のサテライトキャンパスへの配信予定						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入）				
	0円	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	エ）サテライトキャンパスを活用した講座			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑬ 材料費等の金額		⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	日本の労働市場の中で、また学問領域の中で体系化されていない「HRM」及び「人事」領域の理解を深め、欧米のケーススタディを通して日本の「人事制度」を歴史的に俯瞰する。また、近年パンデミックの流行と共に叫ばれている、「健康経営」や「持続可能な開発目標SDGs/組織開発」の中で果たすべき HR/人事の役割や欧米におけるベストプラクティスの分析を通して、日本における進むべき HR の在り方や Human Capital（人的資本）の重要性について沖縄で初開催、日本初の英国式HR資格保有者により解説する。 ▶（期待される成果）①HR の略史や学問的なフレームワークとケーススタディに触れることでプラグマティックな視点を身に着けることができる。②社会学、心理学、経営学、経済学、人類学など学際的な視点で諸課題にアプローチすることができる。③「パンデミック/グローバル金融危機」や「健康経営」、「持続可能な開発目標SDGs」など我々を取り巻く「学問領域」を超えた諸問題、課題と、各々の専門分野を学際的に連携させることができる。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○荒川 雅志（琉球大学国際地域創造学部 教授）						
	杉本 大樹（株式会社 SSK コミュニケイションズHR推進部長						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
5月13日	18時～19時30分	第一講: HRM 概要と誕生背景及び日本の労働市場のコンテキストにおける HR	杉本、荒川
5月14日	18時～19時30分	第二講: 健康経営の枠組みにおける HRM アプローチの重要性	杉本、荒川

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	オリジナルテキスト代（本講義用オリジナル教材制作のため） カラー印刷20枚程度×20名	
	合　　計	3,000 円
⑳ 備　　考		

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名 国際地域創造学部

① 講座名	会社の決算書の読み方を教えます						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	ビジネスマン	④ 募集人数	10 人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	文系講義棟のどこか			⑧ 遠隔実施	(可)・否	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り(下記に金額記入) 2. 表によらない(金額及び理由を記入) 3,240円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由(単価表によらない場合のみ記入) 理由(全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	本講義は、企業の決算書を読んだことがない社会人の方に、短期間で会社の決算書の読み方と経営分析の仕方の基礎を学んでもらう目的で開設をするものである。会社の経営成績をイメージではなくデータに基づいて読めるようになる足がかりとなる講義を考えている。会社をみるうえで、会社の安全性(倒産しそうかどうか)、収益性(利益をしっかり稼いでいるか)、成長性(今後も成長し続けるか)という点が重要となってくるので、この点に絞って基本的なところを学んでもらいたいと考えている。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:働きがいも経済成長も)			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○ 多賀 寿史(国際地域創造学部 准教授)						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月のどこかの土曜日	13:00～16:00	決算書の仕組みと読み方	多賀 寿史
7月のどこかの土曜日	13:00～16:00	決算書を実際に分析してみよう・まとめ	多賀 寿史

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	合　計	円
⑳ 備　考		

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　教育学研究科

① 講座名	老年学への招待－健康長寿をめざして－						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	一般	④ 募集人数	25人	⑤ 修了証の発行	要・(不要)
⑥ 共催など							
⑦ 会場	教育学部棟103号室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2.(表によらない) (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0 円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ア)福祉・健康に関する講座			
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	超高齢社会が進展する中、高齢者及び高齢期の現状と課題及び老化のプロセスを理解することの必要性は、人生を理解し健康長寿を目指す上で、ますます重要となっている。 本講座では、老年学の研究成果を通して社会学的、生物学的、及び心理学的な領域から正しい老化のプロセスを学ぶ機会により、加齢に伴う心身の変化及び主観的幸福感について、講義と話し合いを通して理解を深めることを目的としている。 講義の内容は、理論と実践の融合を目指し、「生涯発達」をコンセプトとして、正しい老化のプロセスに対して理解を深め、健康長寿及び主観的幸福感の要因を共有することを目的としている。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	(3:)すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:(住)み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)	
	下地敏洋(琉球大学大学院教育学研究科・教授)	

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
6月18日(土)	10:30－12:00	老化のプロセスと健康長寿者の特徴について	琉大・下地
6月25日(土)	10:30－12:00	主観的幸福感の要因と生きがいについて	琉大・下地

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	ふせん(75×75)、型番6541SS(854-429)、1束、2750円 模造紙エコノミープルタイプ(両面無地:20枚入)、型番830－352、1束、794円 サインペン黒(10本入)、型番S520XAD、10本、1000円	
	合　　計	4,544円
⑳ 備　　考	教室が変更になることがあります。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　保健学科　成人・がん看護学分野

① 講座名	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際						
② 講座の種類	一般　・　専門	③ 受講対象者	一般・患者家族	④ 募集人数	50人	⑤ 修了証の発行	要　・　不要
⑥ 共催など	国立病院機構沖縄病院						
⑦ 会場	国立病院機構沖縄病院　会議室			⑧ 遠隔実施	否	⑨ サテライト配信	否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入）				
	無料	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ア）福祉・健康に関する講座			
⑫ 材料費等の有無	無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄県におけるがんによる死亡数は毎年約2800人で、全死亡の1/3を占めています。 がんと診断され、治療やケアを受ける過程において、患者・家族が抱える身体的・心理社会的苦痛を理解し、患者本人をサポートする上で、ご家族や重要他者の果たす役割は大きいと考えます。 このような視点より、本公開講座では、がん患者のQOL(Qualitiy of Life:　生命の質／生活の質）の向上に寄与する緩和ケアについて、広くご理解いただくことを目的にプログラムを構成しました。 一般市民の皆様とともにがん患者の緩和ケアについての知識を共有できる場として、本公開講座を提供したいと思います。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○照屋　典子（琉球大学医学部成人・がん看護学・教授）	久志　一朗（国立病院機構　沖縄病院　医師）					
	奥間めぐみ（国立病院機構　沖縄病院　公認心理士）	世嘉良和希（国立病院機構　沖縄病院　緩和ケア病棟　副看護師長） 富川浩蔵（国立病院機構　沖縄病院　緩和ケアチーム担当看護師）					
	赤坂さつき（国立病院機構　沖縄病院　管理栄養士）	大湾　勤子（国立病院機構　沖縄病院　医師）					

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
	13:00～13:30(30分)	緩和ケア概論	照屋　典子
9月17日（土）	13:30～14:20(50分)	がんの痛みを癒す疼痛コントロールの実際	久志　一朗
13:00～16:00	14:30～15:00(30分)	がんと心のケア	奥間めぐみ
	15:00～15:20(20分)	沖縄病院緩和ケア病棟／緩和ケアチーム活動の紹介	世嘉良・富川
	15:20～15:40(20分)	がん治療中の食事と栄養について	赤坂　さつき
	15:40～16:00(20分)	総合討論／質疑応答	大湾　勤子

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	・講師謝金：@6,230円×50分×1名＝5,191円(久志) ・講師謝金：@6,230円×30分×1名＝3,115円(奥間) ・講師謝金：@6,230円×20分×4名＝8,306円（世嘉良・富川・赤坂・大湾） ・ 学生雇上げ(3名)・・・単価　820円×8時間（冊子資料作成3時間+当日会場設営・運営5時間）×3名（小計　19680円） ・ A4コピー用紙（1箱5㎡入り）単価1800円×1箱・・・　（小計 1800円） ・ 製本ファイル（5冊入り／袋　単価500円）×10袋・・・(小計5000円） ・フラットファイル（A4タテ単価50円）×20冊・・・（小計1000円）	
	合　　計	44,092円
⑳ 備　　考		

令和4年度公開講座実施計画書

部局名

① 講座名	生活文化のなかにおける沖縄伝統空手と健康 ～尿失禁対策の骨盤底筋体操～						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	一般市民	④ 募集人数	50 人	⑤ 修了証の発行	要・(不要)
⑥ 共催など	一般社団法人　沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ登録推進協会						
⑦ 会場	沖縄空手会館 研修会場			⑧ 遠隔実施	(可)・否	⑨ サテライト配信	(可)・否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入） 0円	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ア)福祉・健康に関する講座			
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	空手の発祥の地である沖縄県から空手の重要性を発信して地域社会へ貢献したいと願う空手家と看護師との連携による健康技をご紹介します。今回は、小林流・少林流・上地流・剛柔流の空手家による基本型の実践、高齢者の健康法としての空手、空手型の理論と実践哲学、空手の基本技である型、その重要性を「なるほど！」と実感できます。さらに泌尿器科分野で健康を守るコンチネンスリーダー看護師により泌尿器科受診への勧め、排尿自立にむけた対応、尿失禁対策としての骨盤底筋訓練の実演について学べます。 沖縄の未来に夢を託して沖縄伝統空手が国指定無形文化財、さらにはユネスコ世界遺産として登録されることを願っています。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	(3:)すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに
	(5:)ジェンダー平等を実現しよう	(6:)安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:)働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	(10:)人や国の不平等をなくそう	(11:)住み続けられるまちづくりを	(12:)つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	(16:)平和と公正をすべての人に
	(17:)パートナーシップで目標を達成しよう			

	氏名(所属・職名)	
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	○大湾　知子	琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学　准教授・コンチネンスリーダー
	當山　悦子	琉球大学医学部附属病院 副看護師長・コンチネンスリーダー
	大湾　朝成	あさひ訪問看護ステーション　理学療法士
	比嘉 稔	沖縄小林流空手道究道館連合会　館長
	比嘉 康雄	沖縄小林流空手道究道館連合会　会長
	島袋 善俊	国際沖縄少林流聖武館空手道協会　館長
	島袋　善保	国際沖縄少林流聖武館空手道協会　会長
	城間　孝雄	沖縄空手道協会上地流　六段
	仲程　力	沖縄空手道協会上地流　範士十段　/　沖縄県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」保持者
	上原　米和	国際沖縄剛柔流空手道連盟 八段
	蔵元　雅一	国際沖縄剛柔流空手道連盟 八段
	東恩納盛男	国際沖縄剛柔流空手道連盟 最高顧問　/ 沖縄県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」保持者 一般社団法人　沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ登録推進協会　理事

⑱ プログラム				
実施日	時間	講座内容	担当講師	
9月11日（日）	13:30-13:35	一般社団法人　沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ登録推進協会についての紹介・挨拶	島袋　善保	
	13:35-13:45	尿失禁の予防と対策としての骨盤底筋訓練	大湾　知子	
	13:45-13:55	病院における排尿自立のための骨盤底筋訓練	當山　悦子	
	13:55-14:05	在宅における排尿自立の基本動作	大湾　朝成	
	14:05-14:15	小林流による伝統空手の型	比嘉　稔	比嘉　康雄
	14:15-14:25	少林流による伝統空手の型	島袋　善保	島袋　善俊
	14:25-14:35	健康に良い！上地流空手道の鍛錬型三戦	仲程　力	城間　孝雄
	14:35-14:40	心身に役立つ沖縄伝統空手剛柔流の基本型三戦	上原　米和	蔵元　雅一
	14:40-15:30	一般社団法人　沖縄伝統空手国指定無形文化財・ユネスコ登録推進協会からの発信	東恩納　盛男、仲程　力、島袋　善保、　比嘉　稔	
⑲ 必要経費希望額の積算内訳	会場費/zoom配信費　約35000円(※詳細には、1月20日に空手会館にて打ち合わせします)			
		35000円		
⑳ 備　　考				

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　大学院医学研究科

① 講座名	mRNAワクチンってどんなもの						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	不要
⑥ 共催など	特になし						
⑦ 会場	地域国際学習センター301講義室または共通教育棟118教室			⑧ 遠隔実施	可	⑨ サテライト配信	可
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　☑サテライトキャンパス　☐　動画配信　☐その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入）				
	無料	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	エ）サテライトキャンパスを活用した講座			
⑫ 材料費等の有無	無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	2020年に新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大してから、「mRNAワクチン」が初めて実用化され、日本でも新型コロナウイルスのワクチンとして多くの人に接種されています。mRNAワクチンはどのようなしくみではたらくのでしょうか。DNAからRNAを経てタンパク質へ至る遺伝情報の流れを概説した上で、他のワクチンと比較しながら解説します。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に〇をつける）	氏名（所属・職名）						
	〇黒柳秀人（医学研究科・教授）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022年9～10月ごろ	60～90分	新型コロナウイルスのワクチンとして実用化された「mRNAワクチン」のしくみと工夫について概説	黒柳

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	短期雇用職員3名（820円×5時間×3名＝12,300円）	
	合　　計	12,300円
⑳ 備　　考	プロジェクターのある施設またはオンラインで実施可能	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　大学院医学研究科

① 講座名	ゲノム編集ってどんなもの						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	不要
⑥ 共催など	特になし						
⑦ 会場	地域国際学習センター301講義室または共通教育棟118教室			⑧ 遠隔実施	可	⑨ サテライト配信	可
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　☑サテライトキャンパス　☐　動画配信　☐その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入）				
	無料	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	エ）サテライトキャンパスを活用した講座			
⑫ 材料費等の有無	無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	2020年のノーベル化学賞は、ゲノム編集を高効率で行う手法を開発した欧米の2人の女性科学者に贈られました。ゲノム編集とはどんなものでしょうか。DNAからRNAを経てタンパク質へ至る遺伝情報の流れを概説した上で、生命科学研究に広く利用され、日本でも食用として販売が始まっているゲノム編集生物の作製方法について解説します。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に〇をつける）	氏名（所属・職名）						
	〇黒柳秀人（医学研究科・教授）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022年9～10月ごろ	60～90分	2人の女性研究者が2020年のノーベル化学賞を受賞したことで一般にも知られるようになったゲノム編集について概説	黒柳

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	短期雇用職員3名（820円×5時間×3名＝12,300円）	
	合　　計	12,300円
⑳ 備　　考	プロジェクターのある施設またはオンラインで実施可能	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　建築学コース

① 講座名	音の体験教室						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	民一般（高校生以下無料	④ 募集人数	50人程度	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部1号館222教室			⑧ 遠隔実施	可 ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ 否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入）	高校生以下無料			
	2,720円 （高校生以下無料）	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	団）その他（備考に理由を記述）			
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	音響学の体験教室：非日常の音空間の体験・無響室残教室 気体であるヘリウムガス内の音波の伝搬は空気内の音波の伝搬より2倍ほど早くなるとの実験結果があります。そのことを実験で示すためにヘリウム入り風船と空気入り風船を用意してそれぞれに音の振動を与えて音の大きさに変化があることを確認して頂く実験を行う。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○渡嘉敷健（工学部工学科建築学コース）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022/6/4	13:00-15:00	音響学の体験教室：非日常の音空間の体験・無響室残教室	代表：渡嘉敷健

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	騒音計ﾌﾟﾘﾝﾀｰﾛｰﾙ紙P-112-30　12,420円　ヘリウム缶1，398円×2＝2，796円　風船1，198円×2＝2，396円	
	合　　計	17,612円
⑳ 備　　考	台風及び自然災害での日程変更 オ）その他（備考に理由を記述）子供たちの科学に対する探究心を育てる目的のために、受講料は無料にしたいと考えています。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　建築学コース

① 講座名	沖縄の公害問題で考える平和学習						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	市民一般	④ 募集人数	50人程度	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部1号館222教室			⑧ 遠隔実施	可 ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ 否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入） 2,720円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入） 理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄県内にある米軍専用施設は日本全国の70%で集中しています。米軍基地から派生する公害には、「典型七公害」と呼ばれる大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下の問題が少なからず見られ、住民に影響があります。 そのため、本講座では、米軍航空機の騒音問題及び、基地から派生すると思われる有害物質による土壌汚染、水質汚染の現状の問題について調査結果を解説し、70年以上前に行われた沖縄での地上戦争における平和学習を環境面で考えるための講話を行います。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○渡嘉敷健（工学部工学科建築学コース）		河村雅美（沖縄国際大学非常勤講師）				
	田代　豊（名桜大学教授）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022/6/18	13:00-14:10	沖縄の米軍基地から発生する航空機騒音に関する調査研究	代表：渡嘉敷健
	14:20-15:30	沖縄本島中部地域を中心とする環境汚染	田代　豊
	15:30-16:40	基地からの汚染による、わたしたちの水の危機	河村雅美
	16:40-17:00	質疑応答	

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	外部講師謝金：1.5h×＠6,230×2名＝¥18,690 学生アルバイト（3名）：単価820円（1時間）×3時間×3名分＝7,380円 その他消耗品（印刷用紙代・USBフラッシュメモリ（3個）：2G等）：5，000円	
	合　　計	31,070円
⑳ 備　　考	台風及び自然災害での日程変更	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　知能情報コース

① 講座名	シニアのための健康サッカー講座						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	40歳以上の方	④ 募集人数	20人	⑤ 修了証の発行	要・(不要)
⑥ 共催など	琉球大学（共催:琉大女子サッカー部、沖縄県シニアサッカー連盟）						
⑦ 会場	学内（琉球大学千原キャンパスのサッカーグラウンド）			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） (2. 表によらない)（金額及び理由を記入） 円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ア）福祉・健康に関する講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	1000円	⑭ 材料費等の内訳	ビブス等 計20000円×1セット÷20人＝1,000円		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	中高年の健康づくりの一環として40歳以上のサッカー愛好者をつどい、生涯スポーツの習慣化を図る。毎週2回(水、金)グランドにてサッカーの仲間と ゲームを楽しみ、語り合う機会を提供し健康づくりを第一義とする。交流のためのケーム設営および運営は自主的に行うこととする。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）				
	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	(3:)すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）	
	○　姜 東植（工学部工学科 准教授）	
	笹澤 吉明（教育学部生涯教育課程 准教授）	

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022/8/1～9/31 毎週水・金	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営	姜 東植 笹澤 吉明
2023/2/1～3/31 毎週水・金	19:00-21:00	交流試合およびケーム運営	姜 東植 笹澤 吉明
上記以外の水・金	19:30-21:00	琉大女子サッカー部と共同トレーニング	姜 東植 笹澤 吉明

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	特になし	
	合　　計	円

⑳ 備　　考	■注意／万一の事故に備えて各自で任意の傷害保険等に加入してください。(必須)

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名 農学部

① 講座名	大学生のためのCOOKING						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	大学生1年次	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	要・(不要)
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学教育学部 306教室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他(　　)						
⑪ 受講料	(1.)単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入) 4280 円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	2700 円	⑭ 材料費等の内訳	食材料費		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:自分自身の食生活に関心をもち, 食の自己管理能力や調理の基礎基本を学ぶ 内容:料理の形態, 調理に関する講義・調理の基礎基本の習得及び調理実習						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	(3:)すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師(代表者に〇をつける)	氏名(所属・職名)	
	井口 直子	農学部亜熱帯生物資源科学科 准教授

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
6月10日(金)	13:00 ～ 16:00	・講義:健康と食事(朝食), 調理の基本調理実習 ・献立:しらすトースト, 野菜スープ, ヨーグルトあえ	井口
7月8日(金)	13:00 ～ 16:00	・講義:野菜の種類,洗い方,茹で方 ・調理実習:ゆかりごはん, 豚汁, 和え物	井口
10月14日(金)	13:00 ～ 16:00	・講義:主菜・副菜について ・調理実習:ごはん,豚肉のしょうが焼き,おひたし,すまし汁	井口
11月11日(金)	13:00 ～ 16:00	・講義:季節の料理・調理実習:お弁当(きのこごはん,サケのホイル焼き,おひたし,さつまいものコマバタ者)	井口
12月9日(金)	13:00 ～ 16:00	・講義:沖縄の郷土料理 ・調理実習:トゥンジージューシー,スヌイの和え物,イナムドゥチ, アガラサー	井口

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト(5名):単価820円(1時間)×6時間×5名分=24,600円 ※短期雇用職員(学生アルバイト)を供する場合、雇用手続が発生するため開講日の1か月半前までに連絡ください。 その他消耗品(印刷用紙代,USBフラッシュメモリ等):5,000円	
	合　計	29,600円
⑳ 備　考	万一の事故に備えて、各自で任意の保険に必ず加入してください。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　国際地域創造学部

① 講座名	リーダーのためのチーム・ビルディング						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	中学1～高校3年生	④ 募集人数	12人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	文講114教室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ア)福祉・健康に関する講座 イ)福祉的配慮が必要な方を対象とする講座 (ウ)児童・生徒を対象とする講座) エ)サテライトキャンパスを活用した講座 オ)その他(備考に理由を記述)			
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	0円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:部長や生徒会長など学校でリーダーとして孤軍奮闘している学生をサポートすることを目的としています。 内容:コーチングやファシリテーションというチーム・ビルディングに関連するスキルについて学習します。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○　井川　浩輔(国際地域創造学部国際地域創造学科・准教授)						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
8月23日(火)	13:00-15:00	コーチング・スキルとファシリテーション・スキルの習得	井川浩輔

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	なし	
	合　　計	0円
⑳ 備　　考	万が一の事故に備えて，各自で任意の保険に必ず加入してください。 実施日や教室が変更になる場合があります。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　教育学部

① 講座名	新聞記者体験 エネルギーってなんだろう？　−全国かべ新聞コンテストへの道−						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	小学4～6年生と その保護者	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	沖縄エネルギー環境教育研究会						
⑦ 会場	教育学部本館101号室, 学外			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた 遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入） 0 円	単価表によらない場合 （増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入） 理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ウ）児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑬ 材料費等の金額	0円	⑭ 材料費等の内訳	特になし		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	「エネルギーを大切に！」「省エネ！」など、エネルギーという言葉をよく耳にしますが、そもそもエネルギーとは何なのでしょうか？この講座では、県内のエネルギー関連施設を自分で取材し、新聞作りにチャレンジします。身近なエネルギーについて、自分で集めたインタビュー記事や写真を使ってエネルギー新聞を作ってみよう！作成した新聞は、かべ新聞コンテスト(全国版)に応募できます(フォームを用意しています)。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○　岡本牧子（教育学部技術教育専修　准教授）		濱田栄作（教育学部理科教育専修　教授）				
	清水洋一（教育学部　名誉教授）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月23日(土)	13:00-14:30	近隣のエネルギー施設へ取材体験(現地集合)	岡本・清水・濱田
	14:30-16:00	資料・記事整理と新聞制作	濱田・清水・岡本

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト(2名)：単価820(1時間) x 6時間 x 2名分 = ¥9,840 消耗品¥5,000程度：(A3用紙(ケント紙、生協にて販売)20枚: 2枚 x 10名分、写真用紙(L版120枚):コクヨKJ-D12L-120(同等品可)、プリンターインク(HP62))	
	合　　計	14,840 円
⑳ 備　　考	新型コロナウイルスの影響により、実施時期が変更となる場合があります。 取材先の条件によって、500円程度の保険料をお願いする場合があります。 対象学年以外のご兄弟の同伴も可能ですが、エネルギー関連施設への見学名簿作成のため、お申し込みの際は参加される方すべて(保護者等も含む)のご記入をお願い致します。 取材では写真撮影をしますので、可能な方はデジタルカメラをお持ちください(SDカードはこちらで用意します)。プリントは講座中に行います。 取材先は全て屋外で行われることが想定されますので、帽子・飲み物を持参して暑さ対策をして参加してください。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　教育学部

① 講座名	琉大生がサッカーと勉強を教えます！						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	小学生	④ 募集人数	100人	⑤ 修了証の発行	要・(不要)
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学サッカー場(雨天時第一体育館)及び 講義室(夏季は西原きらきらビーチの時もある)			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)	受講料は地域推進連携との話し合いの中で決まった金額。従来は小学生ということで受講料を無償にしたり、多くても2千円であったり、兄弟2人目からは半額であったりした。無料にするなら、ウ)児童・生徒を対象とする講座、がはまる。			
	3000円(年間)	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	0円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	本講座は、昨今課題である児童・生徒の学力や体力の低下の問題に立ち向かうものである。対象は小学生男女であり、低～高学年まで全てである。琉球大学サッカー部を中心とする学生が、サッカー教室を通じて体を動かす楽しさを伝えた後、宿題の援助や苦手科目の克服などを目指した学習教室を展開し、「文武両道」の精神を身につけさせる。本講座は学生の若いエネルギーを子ども達にぶつけ、体当たり指導することによって、子ども達の「やる気」を育てる一助となることも目指し、若い先生が少なくなった学校現場の補足的な役割も期待できる。さらに学生諸君は教えることを通じて自らを成長させる良い機会となる。また、講座終盤では親子による親睦試合を行い、カレーパーティーを開き親子の絆を図る。さらに、夏期はビーチサッカー(親子大会、スイカ割り含)も経験し、サッカーの楽しさを広げる。日曜の朝から活動することよって生活習慣を整え、月曜からの学校の学習活動にスムーズに入れるようにする。例年約100名の参加者がある人気講座であり、NHKの「あさイチ」でも取材され全国から注目されている。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	(3:)すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそして クリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	(10:)人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	(14:)海の豊かさを守ろう	(15:)陸の豊かさも守ろう	(16:)平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を 達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○琉球大学教育学部　准教授　笹澤　吉明		琉球大学工学部　准教授　姜　東植				
	琉球大学サッカー部学生						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
調整中 5月開始予定 基本的に毎週日曜日	8:30～10:00	サッカー教室	笹澤(姜)学生
	10:00～11:00	学習教室	笹澤(姜)学生
	11:00～14:00	試合応援(自由参加)	

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品(122,900) ペレーダ274　3,360×10個＝33,600円 ゲームベスト　17850×2色＝35,700円 ゲームベスト(ジュニア)16800×2色＝33,600円 ネームプリント(ジュニアのみ)20,000円	学生謝金 20回×9,500＝190,000円 【実質】 (40回×2.5時間×760円×20名＝1520000円)
	合　計	312,900円
⑳ 備　考	学生の遠征や大会等で都合がつかない場合は休講となることもあります。将来プロを目指す子から女子や初心者まで大歓迎です。子ども達の生活習慣を整えることを目的の一つとするため、運動、栄養、休養などのアドバイスを御父兄に行うこともあります。期間は5月から翌年3月までので30回開講しています。スクールお揃いの琉大ユニフォームTシャツを安価で販売しています。希望される方はスクールが始まってから担当学生に申し出てください。雨天時は、体育館にて行うことや、スケジュールの都合から土曜開校になることもあります。土曜日開校はは8:00から始まりますのでご注意ください。変更のある場合は、琉大サッカー部のHPや事務からのメール連絡によって連絡します。なおこの取り組みは、平成14年3月にNHKの番組「あさイチ」にて報道され、全国に紹介され注目されています。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名. 教育学部

① 講座名	クリスマス サイエンス レクチャー						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	小学4～6年生 および中学生	④ 募集人数	12 人	⑤ 修了証の発行	要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	教育学部棟 4階 422室			⑧ 遠隔実施	否	⑨ サテライト配信	否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた 遠隔講座)	□Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合 (増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0 円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	科学のクリスマスプレゼントを皆さんに贈ります。 大学生のお兄さんやお姉さんと一緒に，ワクワクするような実験や観察を体験して，今まで見過ごしていた，いろいろな不思議にせまります。きっと，もっと，科学が好きになりますよ!						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	**4:質の高い教育をみんなに**
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)	
	○濱田 栄作(琉球大学教育学部 教授)	

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
12月17日	13:00～17:00	実験や観察を通して自然や科学を楽しみながら学びます。□	濱田栄作

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	実験用消耗品15,000円	
	合　　計	15,000 円
⑳ 備　　考		

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　教育学研究科

① 講座名	昆虫の行動をコントロールしてみよう　－昆虫行動学入門－						
② 講座の種類	一般	③ 受講対象者	中高校生	④ 募集人数	16　人	⑤ 修了証の発行	要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	教育学部本館　422教室			⑧ 遠隔実施	否	⑨ サテライト配信	否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入）	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:　昆虫の不思議な行動を通して、自然科学への興味・関心を高めてもらう事を目的に実施します。 内容:　身近な昆虫の不思議な性質を利用した実験を通して、昆虫行動の興味深い仕組みについて学びます。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名(所属・職名)	
	○　杉尾幸司(大学院教育学研究科　教授)	
	宮國泰史(グローバル教育支援機構　特命講師)	

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月31日	10:00～12:00	昆虫行動に関する講義と実験	杉尾幸司 宮國泰史

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	合　　計	円
⑳ 備　　考	万一の事故に備えて、各自で任意の保険に必ず加入してください。 日程については、新型コロナウイルスの感染状況等に応じて変更する可能性があります。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　教育学部

① 講座名	児童・生徒・指導者のためのハンドボール教室						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	ハンドボール愛好者	④ 募集人数	200　人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	琉球大学男女ハンドボール部・教育学部保健体育専修・沖縄県ハンドボール協会						
⑦ 会場	琉球大学第一体育館			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0 円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	沖縄県内の小学生・中学生・高校生およびその指導者に対し、ハンドボール競技の技術・戦術・指導法を伝えることを基本とします。 対象のレベルに応じた技術・戦術・指導法について、より的確に対象者が身につけることを目的とします。 原則として、受講生を限定せず、学校の部活動単位での集合型公開講座を主たる形態とします。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	三輪一義(琉球大学教育学部保健体育専修　教授)						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
4月9日(土)	土曜日:		
～	13:00～17:00	ハンドボールの技術・戦術・指導法とその理論	
3月12日(日)	日曜日:		
	10:00～16:00		
＜別紙参照＞	(休憩を除く)		

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	ハンドボール3号球　2個　(モルテン　品名:ヌエバX5000　品番:H3X5001-BW　単価:¥8,400) ハンドボール2号球　2個　(モルテン　品名:ヌエバX5000　品番:H2X5001-BW　単価:¥8,200) (主に児童生徒を対象とした講座のため、ガイダンスに従い受講料を無料にしておりますので、 必要経費の要求は気が引けますが、希望額を提示します。 配分可能な範囲で購入して頂けると助かります。)	
	合　　計	33,200円
⑳ 備　　考	集合型公開講座のスタイルは実質的に8年前より実施しており、令和2,3年度はコロナ禍により通年実施は出来ませんでしたが、 令和元年12月末時点の実績において、参加者は延べ人数で、児童生徒856人、指導者59人に及びます。 実技指導の補助員に、琉球大学男女ハンドボール部員および教育学部保健体育科有志学生を充てて、これまで8年間の指導経験を踏まえて、指導内容を充実させる予定です。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　理学部

① 講座名	～物理の魅力を教えます2022～						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	小中高校生・一般	④ 募集人数	50人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	琉球大学理系複合棟			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　) 対面実施が難しい場合は講演部分のみzoom配信とする						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円		理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑫ 材料費等の金額	円	⑬ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	琉球大学理学部物理系では毎年夏に、中高生以上を中心とした理科好きの一般の皆様に、様々な物理の魅力を伝える講座を開いています。講座の前半は最新の物理関係のトピックスや琉球大学で研究されている最先端の物理についての講演を行います。後半は物理の魅力の詰まった各種実験実演など自由に参加できるプログラムになっています(参加申込不要、途中入退場自由です)。 生き生きとした最先端物理学の世界に触れる機会を提供したいと思いますので、物理が好きな人も得意でない人も、是非不思議体験をしにきてください。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	前野昌弘(理学部物質地球科学科准教授)○	瓜生康史(理学部物質地球科学科教授)					
	眞榮平孝裕(理学部物質地球科学科教授)	與儀護(理学部物質地球科学科准教授)					
	辺土正人(理学部物質地球科学科教授)	田原周太(理学部物質地球科学科准教授)					
	阿曽尚文(理学部物質地球科学科教授)	小林理気(理学部物質地球科学科助教)					

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
8月7日	13:00～17:00	講演＆実験体験	全員

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	受講者に体験してもらう実験の消耗品(5万円) 学生アルバイト20名(単価820円×3時間×20＝49200円) (遠隔実施の場合、雇用は発生しない)	
	合　　計	99,200円
⑳ 備　　考	講座内容などは、ホームページ “http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/koza2022/” にて情報発信します。状況によっては、ネットワークによる遠隔講演のみを実施します。 事前申込不要で当日参加可能です。途中入場・途中退場も可能です。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　理学部

① 講座名	琉大生による理科実験教室						
② 講座の種類	一般　・　専門	③ 受講対象者	小中高校生・一般	④ 募集人数	100人	⑤ 修了証の発行	要　・(不要)
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	琉球大学理系複合棟			⑧ 遠隔実施	(可)・否	⑨ サテライト配信	可　・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　☑ 動画配信　□その他(　　) 対面実施が難しい場合は実験の動画配信とする。						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. (表によらない) (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有　・(無)	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	琉球大学理学部物質地球科学科の教員を志望している大学4年生が中心となって、小中高校生向けの実験教室を開催します。物質地球科学科は物理と地学を勉強する学科です。この教室では物理・地学に関する楽しい実験などを見たり体験したりできるほか、工作なども楽しめるようになっています。 小中高校生向けですが、理科に興味の全ての方が参加可能です。 理科の不思議を見て聞いて、触りにそして作りに来てください						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	(9:)産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	前野昌弘(理学部物質地球科学科准教授)○						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
12月24日	13:00～17:00	実験体験	全員

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	受講者に体験してもらう実験・工作の消耗品(2万円)	
	合　　計	20,000円
⑳ 備　　考	講座内容などは、ホームページ "http://www.phys.u-ryukyu.ac.jp/jikken2022/" にて情報発信します。状況によっては、講座を理科実験のビデオの公開として実施します。 事前申込不要で当日参加可能です。途中入場・途中退場も可能です。□	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　　理学部

① 講座名	身近な化学「リサイクルの化学」						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	高校生以下	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要・(不要)
⑥ 共催など							
⑦ 会場	地域国際学習教育センター301講義室			⑧ 遠隔実施	(可)・否	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有・(無)	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	現代では多くの科学技術を用いた製品が日常にあふれている。しかしながら現代はその構造が複雑化・高度化しているため、学校で習ったことと関連性を見出すことができない。さらに近年、初等教育・中等教育において実験授業が減少しつつあるため、子供たちから一層理科の有益性と興味を感じづらくなりつつある。本授業は、化学を中心として、身の回りにある自然・製品のしくみの中にどのように化学が使われているかを、高校生以下の学生に向けて、現役大学生が中心となって実験講座を行う。今年度は1回とし、リサイクルに関わる化学現象・物質をテーマに解説・実験を行う。なお、遠隔になった場合は各自で道具・材料を揃えてもらう可能性がある。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質)の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	(7:エ)ネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	(9:産)業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	(11:住)み続けられるまちづくりを	(12:つ)くる責任つかう責任			
	(13:気)候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○中川鉄水(理学部・助教)		福本晃造(琉球大学教育学部・准教授)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2月予定	2時間	身近な化学「リサイクルの化学」	中川・福本

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト:820円×10時間(準備・片付け含む)×5人＝41000円 実験器具10000円	
	合　計	51000円
⑳ 備　考		

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　　理学部

① 講座名	水素のチカラ ～水素を作る、貯める、使うを体験しよう～						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	市民一般・学生	④ 募集人数	30 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学内およびサテライトキャンパスのうち1～2か所を予定			⑧ 遠隔実施	可 ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ 否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入） 0円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入） 理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ウ）児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	水素エネルギー社会到来が間近に迫っているが、沖縄では未だ水素ステーションや水素燃料電池自動車などの導入例がほとんどなく、沖縄県民にはなじみの薄いものとなっている。しかしながら水素エネルギーは地産地消可能なエネルギー資源であるため、沖縄のような島嶼地域こそ国内に先駆けて水素社会になるべきだと考えている。本講座は、こういった状況を踏まえ、沖縄県民に水素を認知し、正しい知識を持ってもらい、水素エネルギー社会へスムーズに移行するための草の根活動として、子供から大人まで幅広い年齢層に「水素教育」なるものを提供することを趣旨とする。具体的な内容としては、来るべき水素社会の形、基本的な水素の性質、水素製造、貯蔵、利用の講義を行いつつ、関連した実験（電気分解による水素発生、水素貯蔵材料アンモニアボランを用いた水素放出反応、水素燃料電池ラジコン）を体験してもらう。ただし、遠隔実施になった場合は実験は行わず、実験の動画等を配信する予定である。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○中川鉄水（理学部・助教）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月	2時間	水素のチカラ@琉球大学千原キャンパス	中川 鉄水
2月	2時間	水素のチカラ@離島（未定）	中川 鉄水

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト:820円(1時間)×6時間（準備・片付け含む）×1名分×2回＝9840円 離島への旅費（交通費・宿泊費のみ）:30,000円×2人×1回＝60,000円 実験器具:アンモニアボラン水素発生装置制作費1,000円×5台＝5,000円 燃料電池自動車修理・改造費（1台）:10,000円	
	合　　計	84840円
⑳ 備　　考	リモートの場合はアルバイト・旅費不要です。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	夏休み工作教室－ホバークラフト						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	小学1～3年生 (保護者同伴のこと)	④ 募集人数	10　人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部4号館211室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	600 円	⑭ 材料費等の内訳	容器など本体使用品150円/人、電子部品類200円/人、装飾品費150円/人、ホットボンド等接着剤50円/人、電池50円/人		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや，不思議さ等の体験を通して，子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:モーターを用いてホバークラフトを作ります。「気圧」って何だろう？を遊びながら勉強しましょう。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質)の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○　大城　諒士(工学部技術部・技術専門職員)		玉那覇　厚雄(工学部技術部・技術専門職員)				
	名嘉　秀和(工学部技術部・技術専門職員)		渡慶次　高也(工学部技術部・技術職員)				
	山下　大輔(工学部技術部・技術職員)		東舟道　裕亮(工学部技術部・技術職員)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
8/6(土)	9:30-11:30	ホバークラフトの製作	大城　諒士 玉那覇　厚雄 名嘉　秀和 渡慶次　高也 山下　大輔 東舟道　裕亮

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導に必要な経費):10,000円 グルーガン:￥800円10＝￥8,000 カッター:￥200×10＝￥2,000	
	合　　計	10,000円
⑳ 備　　考	・万一の事故に備えて、各自で任意の保険に加入してください。 ・講座中に写真撮影をおこない、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。 ・当日は必ず保護者同伴でお願いします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	夏休み工作教室 ― 合金を溶かして風鈴づくり						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	小学校5･6年生	④ 募集人数	8人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部 付属工作工場 鋳物室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom･Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ア)福祉･健康に関する講座 イ)福祉的配慮が必要な方を対象とする講座 (ウ)児童･生徒を対象とする講座 エ)サテライトキャンパスを活用した講座 オ)その他(備考に理由を記述)			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	1，000 円	⑭ 材料費等の内訳	･ホワイトメタル 8，000円÷8人＝1,000		
⑮ 講座の開設趣旨･内容等	趣旨 ： もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容 ： 鋳物砂で作った型の中に、溶けた合金(比較的低融点の金属)を流し込み風鈴を作る。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4)質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に〇をつける)	氏名(所属･職名)						
	○與那覇 敏明(工学部技術部 技術専門職員)		大城 成栄(工学部技術部 技術専門職員)				
	宮城 紀良(工学部技術部 技術専門職員)		山里 將史(工学部技術部 技術職員)				
	我如古 将斗(工学部技術部 技術職員)		安江 洋人(工学部技術部 技術職員)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月30日(土)	13:00～17:00	合金を溶かして風鈴づくり	與那覇敏明 大城成栄 宮城紀良 山里將史 我如古将斗 安江洋人

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材) ： 5，000円 内訳　ハンドソー替え刃 ¥1，865　組ヤスリ半丸形 ¥1，790　センタードリル ¥1，290	
	合　計	5，000円
⑳ 備　考	万が一の事故に備えて、各自で任意の障害保険等に加入して下さい。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてWeb等に公開する場合があります。予めご了承の上お申し込み下さい。また、当日は保護者の皆様は作業場外の窓からの見学となります。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	夏休み体験教室－エンジンの中をのぞいてみよう！～分解と組み立て～－						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	中学生 以上	④ 募集人数	4 人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部附属工作工場			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない (金額及び理由を記入))	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	500 円	⑭ 材料費等の内訳	エンジンヘッドガスケット一式 2,000円 (品名:KITACO パッキンセットA、品番:960-1016050)		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	(趣旨)身の回りにあるが、普段は中々触れることの無い自動車のエンジンについて、その仕組みを学ぶ機会を設けることで、受講者が機械工学分野に興味を持ってもらうことを目的としています。 (内容)はじめに、エンジンが始動することを確認し、冷却している間に内部の構造や燃焼の仕組みを学びます。その後、実際にエンジンを分解し、各部品の役割等を確認しながら、正確に組立てを行います。最後に、エンジンが始動することを確認し、終了となります。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○山里 將史 (工学部技術部 技術職員)		大城 成栄 (工学部技術部 先任技術専門職員)				
	勢理客 勝則 (工学部技術部 技術専門職員)		佐久本 華乃 (工学部技術部 技術職員)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022/8/6(土)	13:00～17:00	エンジンの仕組みについて(座学)、エンジンの分解及び組み立て(実技)	全員

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	合　計	円
⑳ 備　考	・万一の事故に備えて、各自で任意の保険に加入して下さい。 ・作業中にオイルやグリス等の油脂類を取り扱います。靴履き、汚れても問題ない服装での参加をお願いいたします。 ・講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　技術部

① 講座名	夏休み工作教室　－　固形燃料で走る船						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	小学校5･6年生	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部　工1-122			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom･Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (2.) 表によらない (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童･生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	500　円	⑭ 材料費等の内訳	銅パイプ、発泡スチロール、その他		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨　：　もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容　：熱機関を利用したポンポン船を製作しながら、作動原理や金属加工などを学びます。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	(12:)つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属･職名)	
	○　宮城　紀良(工学部技術部　技術専門職員) 與那覇　敏明(工学部技術部　技術専門職員)	照屋泰彦(工学部技術部　技術専門職員) 名嘉海人(工学部技術部　技術専門職員)
	安江　洋人(工学部技術部　技術職員) 野原　幸則(工学部技術部　再雇用職員)	

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
			與那覇敏明 名嘉海人
8月6日(土)		固形燃料で走る船作り	宮城紀良
			野原　幸則
			照屋泰彦 安江洋人

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(固形燃料，カッターナイフ替刃、接着剤、その他指導するために必要な資材)　：　5，000円	
	合　　計	円
⑳ 備　　考	万が一の事故に備えて、各自で任意の障害保険等に加入して下さい。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてWeb等に公開する場合があります、予めご了承の上お申し込み下さい。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	夏休み工作教室－電気工事を体験しよう(小学生対象コース)						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	小学生4-6年	④ 募集人数	5 人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部4号館111室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	1,000円	⑭ 材料費等の内訳	スイッチ、照明器具、LED、抵抗、単3乾電池他		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや，不思議さ等の体験を通して，子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:電気工事用工具を使用して，7色に光るLEDを点灯させる回路を作ります。電気工事の体験を通して電気の流れる仕組みを学びます。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:働きがいも経済成長も)			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○渡慶次　高也 (工学部技術部　技術職員)			大城　諒士 (工学部技術部　技術専門職員)			
	勢理客　勝則 (工学部技術部　技術専門職員)						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月30日(土)	9:30-12:00	電気工事作業を体験するとともに、LEDを点滅させる回路を製作	全講師

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材-ケーブル類8,000円，筆記用具など2,000円):10,000円	
	合　計	10,000円
⑳ 備　考	万一の事故に備えて各自で任意の保険に必ず加入してください(必須)。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。 予めご了承の上、お申し込みください。また、当日は必ず保護者同伴でお願いします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　技術部

① 講座名	夏休み工作教室－電気工事を体験しよう(中学生対象コース)						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	中学生	④ 募集人数	5 人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部4号館111室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	1,000円	⑭ 材料費等の内訳	スイッチ、照明器具、LED、抵抗、単3乾電池他		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:ものづくりの楽しさや，不思議さ等の体験を通して，子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:電気工事用工具を使用して，7色に光るLEDを点灯させる回路を作ります。電気工事の体験を通して電気の流れる仕組みを学びます。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:働きがいも経済成長も)			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○渡慶次　高也　(工学部技術部　技術職員)		仲宗根　宏貴　(工学部技術部　技術職員)				
	玉那覇　厚雄　(工学部技術部　技術専門職員)						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7月30日(土)	13:00-17:00	電気工事作業を体験するとともに、LEDを点滅させる回路を製作	全講師

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品費(指導するために必要な資材-ケーブル類8,000円，筆記用具など2,000円):10,000円	
	合　計	10,000円
⑳ 備　考	万一の事故に備えて各自で任意の保険に必ず加入してください(必須)。 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。 予めご了承の上、お申し込みください。また、当日は保護者同伴可能です。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　技術部

① 講座名	夏休み工作教室ーデスクトップPC組み立て・LANケーブル制作体験						
② 講座の種類	一般　専門	③ 受講対象者	中学生 以上	④ 募集人数	4　人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など	なし						
⑦ 会場	地域創生総合研究棟5階 508室			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入） 0円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ウ）児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨：既に普及しているPCについて、パーツからの組み立て体験・周辺機器（LANケーブル）の作製・それらの説明を聞いてもらうことで、より身近な技術に興味を持ってもらうことを目的としています。 内容：デスクトップPCのパーツを自分で組み上げる「自作PC」の体験と、フリーOSのインストール体験、LANケーブルの作製体験をしてもらいます。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	○翁長　竜盛　（琉球大学工学部技術部　技術職員）		名嘉　秀和　（琉球大学工学部技術部　技術専門職員）				
	小林　夏樹　（琉球大学工学部技術部　技術職員）						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7/30(土)	13:00 ～ 17:00	自作PCの組み立て・OSのインストール・LANケーブル自作作業	

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	インストールメディア用DVD＋ケース 10枚分 1,200円 インストールメディア書き込み用DVDドライブ 3,000円 9V電池x10 5,000円 LANケーブル等の消耗品はまだ余裕があるが、インストールメディアに関して、昨年まで部署で持っていた在庫のディスク、DVDドライブを使用していたが、在庫がなくなり、ドライブも古くなって破損してしまった為、購入したい。	
	合　計	9,200　円
⑳ 備　考	・万一の事故に備えて、各自で任意の保険に加入してください。 ・講座中に写真撮影をおこない、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。 ・当日は必ず保護者同伴でお願いします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　技術部

① 講座名	夏休み工作教室(ミラクル万華鏡)						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	一般市民(小学1～3年生) ※保護者同伴のこと	④ 募集人数	10　人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部4号館211室(工4-211)			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない (金額及び理由を記入))	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	400円	⑭ 材料費等の内訳	偏光フィルム：3,520円 紙コップ　：　110円 テープ　：　110円 計　3,740円÷10人=374円/1人		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	【趣旨】体験を通して、ものづくりの楽しさや不思議さを感じてもらい、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的としています。 【内容】偏光板を用いて万華鏡を作ります。「ひかり(光)はなみ(波)である」ことを遊びながら勉強しましょう。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質)の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	(9:産)業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○仲宗根宏貴(工学部技術部・技術職員)		山下大輔(工学部技術部・技術職員)				
	廣瀬孝三郎(工学部技術部・技術職員)		宮里信寿(工学部技術部・技術職員)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
7/30(土)	9:30-11:30	ミラクル万華鏡の作成	仲宗根宏貴 山下大輔 廣瀬孝三郎 宮里信寿

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	消耗品類3,000円 ・ハサミクリーナー　：1,000円 ・色鉛筆　：1,000円 ・カッターの替刃，ハサミ　：1,000円	
	合　計	3,000円
⑳ 備　考	・万一の事故に備え、各自で任意の保険に加入してください。 ・熱中症対策として、各自で飲み物をお持ちください。 ・講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてWeb等に公開する場合があります。予めご了承の上、お申し込みください。 ・当日は必ず保護者同伴でお願いいたします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　技術部

① 講座名	夏休み工作教室　－　電子回路の製作						
② 講座の種類	(一般)・専門	③ 受講対象者	小学4-6年	④ 募集人数	10人	⑤ 修了証の発行	(要)・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部4号館111室または工学部2号館102室			⑧ 遠隔実施	可・(否)	⑨ サテライト配信	可・(否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入)	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入)				
	0円	又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ウ)児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	(有)・無	⑬ 材料費等の金額	1,000円	⑭ 材料費等の内訳	電子部品，電池，ケース他 計10,600円÷10人=1,060円		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨:もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしています。 内容:ブレッドボードという配線器具もしくは，基板を使って電子回路の実験装置を作ります。 装置はマイクロコンピュータを使用したテレビゲームまたはラジオ等を予定しています。詳しい内容は技術部webページの夏休み工作教室(https://www.tec.u-ryukyu.ac.jp/Engineering-Division/)をご覧ください。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○　山下　大輔(工学部技術部・技術職員)			我如古　将斗(工学部技術部・技術職員)			
	大城　諒士(工学部技術部・技術専門職員)			仲宗根　宏貴(工学部技術部・技術職員)			

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
8月6日	13:00-17:00	電子回路の製作	山下　大輔 我如古　将斗 大城　諒士 仲宗根　宏貴

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	合　　計	0円
⑳ 備　　考	万が一の事故に備えて，各自で任意の傷害保険等に加入してください(必須)。 講座中に写真撮影を行い，工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。予めご了承の上，お申し込みください。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	夏休み工作教室 － 折り紙建築						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	小学校5，6年生	④ 募集人数	8 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	工学部2号館2階217-2室 ラーニングコモンズ			⑧ 遠隔実施	可 否	⑨ サテライト配信	可 否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入） 0円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入） 理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ウ）児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	300 円	⑭ 材料費等の内訳	北雪ケント紙 1〆(100枚) B4(180k)＝2,200円 (10枚×8名＋予備20枚＝100枚) (¥2,200÷8名＝¥275≒¥300)		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	趣旨：もの作りの楽しさや、不思議さ等の体験を通して、子供たちが科学技術に親しみを持つことを目的にしている。 内容：ケント紙を使って、飛び出す絵本の様な「折り紙建築」（世界遺産を中心に）を製作する。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）				
	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に〇をつける）	氏名（所属・職名）	
	〇淵脇秀晃（琉球大学工学部技術部 技術専門職員）	廣瀬孝三郎（琉球大学工学部技術部 技術職員）
	東舟道裕亮（琉球大学工学部技術部 技術職員）	宮里信寿（琉球大学工学部技術部 技術職員）

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022/8/6	13:00～17:00	ケント紙を使った「折り紙建築	淵脇 秀晃 廣瀬 孝三郎 東舟道 裕亮 宮里 信寿

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	合　計	円

⑳ 備　考	
	1. 当日、材料費として300円をご負担いただきます。 2. 万が一の事故に備えて、各自で任意の傷害保険等に加入してください（必須）。 3. 講座中に写真撮影を行い、工学部技術部の活動報告の一環としてweb等に公開する場合があります。 4. 熱中症対策で、各自飲み物をご持参ください。 5. 当日は、必ず保護者同伴でお願いします。

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　農学部

① 講座名	島ヤサイをおいしく楽しく学ぼう♪						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	小学1～6年生	④ 募集人数	12 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	農学部別棟1の多目的室1			⑧ 遠隔実施	可 ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ 否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り （下記に金額記入） 2. 表によらない （金額及び理由を記入） 0円	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由 （単価表によらない場合のみ記入） 理由 （全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	ウ）児童・生徒を対象とする講座			
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	300円	⑭ 材料費等の内訳	小麦粉、卵、砂糖、島ヤサイ等 ＊島ヤサイの値段は時期により変動あり		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	日本で唯一亜熱帯地域に属している沖縄には、他ではみられない特徴をもった伝統的農産物（島ヤサイ）が多く存在しています。沖縄ではこれらの島ヤサイを汁物、チャンプルー（炒め物）、スーネー（和え物）、ンブシー（煮物）などにたっぷりといれて食すという文化が古くから根付いています。これらの島ヤサイは沖縄の強い日差しを受けながらも、たくさんの栄養を蓄えて育ち、また健康効果にも優れており、日々の食生活に取り入れることで生活習慣病の予防にもつながります。本講座では、島ヤサイに含まれる健康効果をクッキングを通しておいしく！楽しく！学んでいきます。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）						
	宮城一菜（農学部亜熱帯生物資源科学科健康栄養科学コース　准教授）						

⑱ プ ロ グ ラ ム

実施日	時間	講座内容	担当講師
9月3日	10:00～12:00	クッキング（メニュー：フーチバーと島カボチャのマフィン）、島ヤサイのミニ講義	宮城一菜

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト(3名)：単価820円(1時間)×6時間×3名分＝14,760円	
	合　　計	14,760円
⑳ 備　　考	万一の事故に備えて、各自で任意の保険に必ず加入してください。 島ヤサイの入荷状況によってメニューが変更になる場合があります。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部　建築学コース

① 講座名	ホールマネジメント						
② 講座の種類	一般 ・ (専門)	③ 受講対象者	ホール技術者及び一般	④ 募集人数	10人程度	⑤ 修了証の発行	(要) ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部1号館222教室			⑧ 遠隔実施	(可) ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ (否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	(1. 単価表の通り) (下記に金額記入) 2. 表によらない (金額及び理由を記入) 2,720円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)				
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	ホールマネージメントでは、文化施設や文化芸術振興分野で働く社会人及び興味を抱く人を対象として，芸術・マネジメント・工学を三本の柱に据え，総合的かつ実践的な知識の習得を提供したいと考えています。今回の講座では、音響学、音響設計、音空間の体験・無響室残響室内実験や沖縄県内劇場の指定管理や自主企画や貸館業務について及びオーケストラ楽団員の練習から演奏会までの体験談について実演を行いながら解説いたします。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○渡嘉敷健(工学部工学科建築学コース)						

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
2022/6/25	13:00-14:10	音響学、音響設計、音空間の体験・無響室残教室内実験	代表:渡嘉敷健
2022/6/25	14:20-15:30	劇場の指定管理制度。県内劇場の自主企画及び貸し館業務について	代表:渡嘉敷健
2022/6/25	14:30-15:00	質疑応答・まとめ	代表:渡嘉敷健

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	学生アルバイト(3名):単価820円(1時間)×3時間×2名分＝4,920円 その他消耗品(印刷用紙代USBフラッシュメモリ(2個):2G等):5,000円	
	合　　計	9,920円
⑳ 備　　考	台風及び自然災害での日程変更	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習（筆記・上期）						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部4号館111室			⑧ 遠隔実施	可 ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ 否
⑩ICT利用（Zoom等を用いた遠隔講座）	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
	（備考）　対面が困難である場合はzoomによる遠隔授業へ変更できます。						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入）	大学生の受講料は半額を希望します。			
	3,760円（大学生は1,880円）	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は，一般住宅，小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり，合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では電気工事士施行令第8条にある7つの試験範囲（基礎理論，配電理論など）をわかりやすく解説し，過去問題を盛り込んで計算問題や配線図問題の解き方などが学べます。この講座は初心者の方やしっかり理論を学んで資格を取りたい方にお勧めします。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）	
	○ 比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授）	大城　諒士（工学部技術部　技術専門職員）
	勢理客　勝則（工学部技術部　技術専門職員）	山下　大輔（工学部技術部　技術職員）
	渡慶次　高也（工学部技術部　技術職員）	仲宗根　宏貴（工学部技術部　技術職員）

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
4月23日（土）	9:00～12:00	「基礎理論」	比嘉　晃 勢理客　勝則 大城　諒士 渡慶次　高也 山下　大輔 仲宗根　宏貴
4月30日（土）		「配電理論及び配線設計」	
5月7日（土）		「電気機器，配線器具並びに電気工事用の材料及び工具」，「一般用電気工作物の検査方法」，「一般用電気工作物の保安に関する法令」	
5月14日（土）		「電気工事の施工方法」	
5月21日（土）		「配線図」	

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	その他消耗品（印刷用紙代等）：10，000円	復習問題P10×4講座×人数分 過去問題（P40）×5年分（一部カラーあり）×人数分 解答解説（P40）×5年分（一部カラーあり）×人数分 みなし1人500円として，合計500円×20名＝10,000円
	合　　計	10,000円

⑳ 備　　考	本講座ではオーム社の「第二種電気工事士筆記完全マスター第2版」（ISBN:978-4-274-50716-8）を使用します。各自持参するようにしてください。 ＊第二種電気工事士試験の詳細は（財）電気技術者試験センターホームページにてご確認ください。 ＊お問合せは勢理客勝則（E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp，Tel:098-895-8644，Fax:098-895-8708）にお願いします。

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習（筆記・下期）						
② 講座の種類	一般 ・ 専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20 人	⑤ 修了証の発行	要 ・ 不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部4号館111室			⑧ 遠隔実施	可 ・ 否	⑨ サテライト配信	可 ・ 否
⑩ICT利用（Zoom等を用いた遠隔講座）	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
	（備考）　対面が困難である場合はzoomによる遠隔授業へ変更できます。						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入）	大学生の受講料は半額を希望します。			
	3,760円（大学生は1,880円）	又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）				
⑫ 材料費等の有無	有 ・ 無	⑬ 材料費等の金額	円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は，一般住宅，小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり，合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では電気工事士施行令第8条にある7つの試験範囲（基礎理論，配電理論など）をわかりやすく解説し，過去問題を盛り込んで計算問題や配線図問題の解き方などが学べます。この講座は初心者の方やしっかり理論を学んで資格を取りたい方にお勧めします。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）	
	○ 比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授）	大城　諒士（工学部技術部　技術専門職員）
	勢理客　勝則（工学部技術部　技術専門職員）	山下　大輔（工学部技術部　技術職員）
	渡慶次　高也（工学部技術部　技術職員）	仲宗根　宏貴（工学部技術部　技術職員）

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
9月24日（土）	9:00～12:00	「基礎理論」	比嘉　晃 勢理客　勝則 大城　諒士 渡慶次　高也 山下　大輔 仲宗根　宏貴
10月1日（土）		「配電理論及び配線設計」	
10月8日（土）		「電気機器，配線器具並びに電気工事用の材料及び工具」，「一般用電気工作物の検査方法」，「一般用電気工作物の保安に関する法令」	
10月15日（土）		「電気工事の施工方法」	
10月22日（土）		「配線図」	

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	その他消耗品（印刷用紙代等）：10，000円	復習問題P10×4講座×人数分 過去問題（P40）×5年分（一部カラーあり）×人数分 解答解説（P40）×5年分（一部カラーあり）×人数分 みなし1人500円として，合計500円×20名＝10,000円	
	合　　計	10,000円	

⑳ 備　　考

本講座ではオーム社の「第二種電気工事士筆記完全マスター第2版」（ISBN:978-4-274-50716-8）を使用します。各自持参するようにしてください。
＊第二種電気工事士試験の詳細は（財）電気技術者試験センターホームページにてご確認ください。
＊お問合せは勢理客勝則（E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp，Tel:098-895-8644，Fax:098-895-8708）にお願いします。

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習（技能・上期）						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20　人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部2号館226室（電気基礎実験室）			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用（Zoom等を用いた遠隔講座）	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入） 4,800円（大学生は2,400円）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	大学生の受講料は半額を希望します。			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑬ 材料費等の金額	6,500 円	⑭ 材料費等の内訳	VVF1.6-2C，IV1.6など各種電線5,000円/人 スイッチ，リングスリーブなど電材1,500円/人 全8回分合計の材料費となります。		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は，一般住宅，小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり，合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では（財）電気技術者試験センターから公表された候補問題13問題を実際に作り，合格するために必要な基礎的技術を学ぶことができます。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）	
	○ 比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授）	大城　諒士（工学部技術部　技術専門職員）
	勢理客　勝則（工学部技術部　技術専門職員）	山下　大輔（工学部技術部　技術職員）
	渡慶次　高也（工学部技術部　技術職員）	仲宗根　宏貴（工学部技術部　技術職員）

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
6月4日（土） ～ 7月16日（土） 毎週土曜日 全8回実施	9:00～12:00 ＊6/18（土）は午前・午後で2回分の講義を行います 午前：9:00～12:00 午後：13:00～16:00	基本作業，安全注意並びに候補問題への取り組み	比嘉　晃 勢理客　勝則 大城　諒士 渡慶次　高也 山下　大輔 仲宗根　宏貴

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	・消耗品費（指導するために必要な資材）：40，000円 経年劣化する工具のメンテナンス代（補修，維持），代替え品購入代（工具は消耗します）が必要となります。 また，工具メンテナンスで不定期に物品を購入する場合があります（除湿剤，パーツクリーナーなど）。 ・その他消耗品（印刷用紙代等）：5，000円	
	合　　計	45,000円
⑳ 備　　考	作業に必要な工具はこちらで準備いたします（貸出可）。講習は筆記試験合否発表前から行いますので，筆記試験の自己採点が合格ラインを突破していることをご確認後お申込みください。全8回実施するため2回分を行う日があります。各自で任意の保険にご加入ください（必須）。 ＊第二種電気工事士の詳細は（財）電気技術者試験センターにお問い合わせください。 ＊お問合わせは勢理客勝則（E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp，Tel:098-895-8644，Fax:098-895-8708）にお願いします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　工学部 技術部

① 講座名	第二種電気工事士試験対策講習（技能・下期）						
② 講座の種類	一般・専門	③ 受講対象者	市民一般並びに大学生	④ 募集人数	20　人	⑤ 修了証の発行	要・不要
⑥ 共催など							
⑦ 会場	琉球大学工学部4号館111室			⑧ 遠隔実施	可・否	⑨ サテライト配信	可・否
⑩ICT利用（Zoom等を用いた遠隔講座）	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り（下記に金額記入） 2. 表によらない（金額及び理由を記入） 4,800円（大学生は2,400円）	単価表によらない場合（増額、減額）の理由→ 又は 全学免除（無料）を希望する場合の理由→	理由（単価表によらない場合のみ記入） 理由（全学免除（無料）を希望する場合、理由を選択）	大学生の受講料は半額を希望します。			
⑫ 材料費等の有無	有・無	⑬ 材料費等の金額	6,500 円	⑭ 材料費等の内訳	VVF1.6-2C，IV1.6など各種電線5,000円/人 スイッチ，リングスリーブなど電材1,500円/人 全8回分合計の材料費となります。		
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	第二種電気工事士は，一般住宅，小規模な店舗などの電気設備に対して電気工事の作業に従事するために必要な資格です。この資格は国家資格であり，合格するためには電気の基礎的知識および技術を要します。本講座では（財）電気技術者試験センターから公表された候補問題13問題を実際に作り，合格するために必要な基礎的技術を学ぶことができます。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs（複数選択可）	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師（代表者に○をつける）	氏名（所属・職名）	
	○ 比嘉　晃（工学部工学科電子情報通信コース　教授）	大城　諒士（工学部技術部　技術専門職員）
	勢理客　勝則（工学部技術部　技術専門職員）	山下　大輔（工学部技術部　技術職員）
	渡慶次　高也（工学部技術部　技術職員）	仲宗根　宏貴（工学部技術部　技術職員）

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
11月5日（土） ～ 12月17日（土） 毎週土曜日 全8回実施	9:00～12:00 ＊11/19（土）は午前・午後で2回分の講義を行います 午前：9:00～12:00 午後：13:00～16:00	基本作業，安全注意並びに候補問題への取り組み	比嘉　晃 勢理客　勝則 大城　諒士 渡慶次　高也 山下　大輔 仲宗根　宏貴

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	・消耗品費（指導するために必要な資材）：40，000円 経年劣化する工具のメンテナンス代（補修，維持），代替え品購入代（工具は消耗します）が必要となります。 また，工具メンテナンスで不定期に物品を購入する場合があります（除湿剤，パーツクリーナーなど）。 ・その他消耗品（印刷用紙代等）：5，000円	
	合　　計	45,000円
⑳ 備　　考	作業に必要な工具はこちらで準備いたします（貸出可）。講習は筆記試験合否発表前から行いますので，筆記試験の自己採点が合格ラインを突破していることをご確認後お申込みください。全8回実施するため2回分を行う日があります。各自で任意の保険にご加入ください（必須）。 ＊第二種電気工事士の詳細は（財）電気技術者試験センターにお問い合わせください。 ＊お問合わせは勢理客勝則（E-Mail: seri@eee.u-ryukyu.ac.jp，Tel:098-895-8644，Fax:098-895-8708）にお願いします。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　グローバル教育支援機構　保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテイション・ボランティア養成講座						
② 講座の種類	一般　・　(専門)	③ 受講対象者	教育・福祉，医療従事者	④ 募集人数	30人	⑤ 修了証の発行	要　・　(不要)
⑥ 共催など							
⑦ 会場				⑧ 遠隔実施	(可)　・　否	⑨ サテライト配信	(可)　・　否
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	☑Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　☑動画配信　□その他（　　）						
⑪ 受講料	1. 単価表の通り (下記に金額記入) (2. 表によらない) (金額及び理由を記入) 0円	単価表によらない場合(増額、減額)の理由→ 又は 全学免除(無料)を希望する場合の理由→	理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	要な方を対象とする講座㋐) 児童・生徒を対象とする講座㋑) サテライトキャンパ			
⑫ 材料費等の有無	有　・　(無)	⑬ 材料費等の金額	0円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	心理学で「からだ」というとき、それは肉体ばかりでなく、同時に「わたし(自我)」という「こころ」の存在を意味します。心理リハビリテイションは、障がいのある人の心身の成長・健康を支援する方法として開発されましたが、現在は障がいのある・なしに関わりなく、心身のコンディションを高め・維持する方法として日本全国で活用されています。沖縄県では、心身に障がいのある人とその家族が、心理リハビリテイション(動作法)を学ぶ勉強会を沖縄本島(西原町、名護市)、石垣市、宮古島市などで開催しています。本講座では、このような活動をサポートする専門家の方、当事者のご家族のための入門講座です。						
⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs (複数選択可)	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)			
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も			
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任			
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に			
	17:パートナーシップで目標を達成しよう						
⑰ 担当講師 (代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)						
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門)、金城昇(琉球大学名誉教授)、金城志麻(琉球大学障がい学生支援室)		平山篤史・宮里新之介(沖縄国際大学)、与那嶺司(沖縄統合医療学院)、				
	鳥養広(沖縄県立大平特別支援学校)、上原均(元八重山特別支援学校)		伊志嶺ユカリ(宮古島徳洲会病院)、我喜屋良行・高江洲慶(国立病院機構琉球病院)				

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
4月23日(土)	9:30～10:15	講義Ⅰ	古川卓
	10:30～11:30	講義Ⅱ	金城昇
	9:30～11:30	家族のためのセミナー	金城志麻
	11:30～13:00	(昼休憩)	
	13:00～16:30	実技講習(バズ・セッション)	全講師

⑲ 必要経費希望額の積算内訳	・講師謝金　10名分 ※講師謝金 講義：(6230÷2)×3時間＝9,345円 実技：(5,780÷2)3.5時間×10名＝101,150円	
	合　　計	109,620円
⑳ 備　　考	4月23日(土)はZoomを用いてオンラインで実施します。Zoomが使用できるパソコンやスマホなどをご準備ください。午前の部は，心理リハビリテイション研修と，家族のためのセミナーを並行して行います．午後のバズセッションでは、5名程度で小グループを作り、動作法の実習(ロールプレイ)を行います。仰臥位、側臥位で行う課題もありますので、実習に適した動きやすい服装でご参加ください。また、原則としてカメラをオンにしていただきますので、背景などはあらかじめご準備ください。なお、午前の講義ⅠとⅡは講座終了後1週間の予定でYouTubeで視聴できるようにします。いずれも事前にお申し込みいただいた方に参加できる・視聴できるURLをメールでお知らせしますので、お申し込みの際にはメールアドレスをお知らせください。	

令和4年度琉球大学公開講座実施計画書

部局名　グローバル教育支援機構　保健管理部門

① 講座名	心理リハビリテイションキャンプin宮古島						
② 講座の種類	一般 ・ (専門)	③ 受講対象者	(有料)教育・福祉，医療従事者， (無料)障がい児(者)の家族，学生等	④ 募集人数	24人	⑤ 修了証の発行	(要) ・ 不要
⑥ 共催など	沖縄県教育委員会						
⑦ 会場	沖縄県立宮古島特別支援学校			⑧ 遠隔実施	可 ・ (否)	⑨ サテライト配信	可 ・ (否)
⑩ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔講座)	□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□動画配信　□その他(　　)						
⑪ 受講料	(1.) 単価表の通り (下記に金額記入) (2.) 表によらない (金額及び理由を記入) 4280円 (障がい児とその家族は無料)		理由 (単価表によらない場合のみ記入) 理由 (全学免除(無料)を希望する場合、理由を選択)	ア)福祉・健康に関する講座 イ)福祉的配慮が必要な方を対象とする講座 ウ)リ			
⑫ 材料費等の有無	有 ・ (無)	⑬ 材料費等の金額	0円	⑭ 材料費等の内訳			
⑮ 講座の開設趣旨・内容等	心理学で「からだ」というとき、それは肉体ばかりでなく、同時に「わたし(自我)」という「こころ」の存在を意味します。心理リハビリテイションは、障がいのある人の心身の成長・健康を支援する方法として開発されましたが、現在は障がいのある・なしに関わりなく、心身のコンディションを高め・維持する方法として日本全国・海外で活用されています。本講座では、このような活動をサポートする特別支援教育あるいは障がいのある人の支援に関わる専門家の方と当事者(児童生徒など)とご家族が一緒に学ぶ講座です。						

⑯ 講座の趣旨に対応するSDGs(複数選択可)				
	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質)の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

⑰ 担当講師(代表者に○をつける)	氏名(所属・職名)	
	○古川卓(グローバル教育支援機構保健管理部門)	伊志嶺ユカリ(宮古島徳洲会病院)

⑱ プログラム

実施日	時間	講座内容	担当講師
8月24日(水)	10:00～17:00	午前:トレーナー研修(教員等専門家対象)，午後:実技研修(児童生徒・保護者と専門家対象)	全講師
8月25日(木)	9:00～17:00	実技研修(児童生徒・保護者と専門家対象)	全講師
8月26日(金)	9:00～15:00	午前:実技研修(児童生徒・保護者と専門家対象)，午後:トレーナー研修(教員等専門家対象)	全講師

⑲ 必要経費希望額の積算内訳		
	・旅費(ホテルパック2白3日35,000円×1名)35,000円 ・講師謝金 (5730÷2)×18時間＝51,570	
	合　　計	86,570円

⑳ 備　　考	実技研修中心となりますので，動きやすい服装でご参加ください．保険料，昼食代は各自でご負担ください．

令 和 4 年 度 公 開 授 業 一 覧

No	科目種別	学部	教員名	科目名	学期	初回講義	曜日	WebClass	ICT利用	募集人数	SDGs	受講料
1	共通教育科目	人文社会学部	久高將晃	人間と哲学の知	前学期	4月12日	火	不要	否	5	1,10	4800
2	共通教育科目	人文社会学部	寺石悦章	人間観と教育	前学期	4月18日	月	要	動画配信	5	4,16	4800
3	共通教育科目	国際地域創造学部	デルバール・フランク	フランス語会話入門 Ⅰ	前学期	4月12日	火	不要	Zoom・Teams	5	4	4800
4	共通教育科目	国際地域創造学部	デルバール・フランク	フランス語会話入門 Ⅱ	後学期	10月4日	火	不要	Zoom・Teams	5	4	4800
5	共通教育科目	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里厚子	インテンシブフランス語Ⅰ	前学期	4月12日	火、金	不要	Zoom・Teams	5	4	6880
6	共通教育科目	国際地域創造学部	デルバール・フランク、宮里厚子	インテンシブフランス語Ⅱ	後学期	10月4日	火、金	不要	Zoom・Teams	5	4	6880
7	共通教育科目	国際地域創造学部	鈴木正士	スペイン語入門Ⅰ		未定	水	要	否	5	3,4	4800
8	共通教育科目	国際地域創造学部	鈴木正士	スペイン語入門Ⅱ		未定	水	要	否	5	3,4	4800
9	共通教育科目	国際地域創造学部	福地恭子	インテンシブスペイン語Ⅱ		未定	火、金	不要	否	5	4	6800
10	共通教育科目	国際地域創造学部	井川浩輔	現代経営のしくみ	後学期	10月7日	金	要	Zoom・Teams	5	4	4800
11	共通教育科目	国際地域創造学部	髙良宣孝	異文化コミュニケーション入門	前学期	4月13日	水	要	Zoom・Teams	5	4	4800
12	共通教育科目	教育学部	北上田 源	沖縄の基地と戦跡Ⅰ	前学期	4月14日	木	不要	Zoom・Teams、動画配信	5	16	4800
13	共通教育科目	理学部	與儀　護	人間と物理学	後学期	10月5日	水	要	否		4,7,9,12,13	4800
14	共通教育科目	理学部	安田　千寿	物理学入門I	前学期	4月12日	火	要	Zoom・Teams	5	7,9	4800
15	共通教育科目	理学部	安田　千寿	物理学入門Ⅱ	後学期	10月4日	火	要	Zoom・Teams	5	7,9	4800
16	共通教育科目	地域連携推進機構	柴田　聡史	教育政策史	後学期	10月4日	火	要	動画配信	5	4	4800
17	共通教育科目	グローバル教育支援機構	天野智水	大学教育論	後学期	10月4日	火	要	Zoom・Teams	5	4	4800
18	共通教育科目	グローバル教育支援機構	名嶋義直	日本語教育各論Ⅰ	前学期	4月14日	木	不要	Zoom・Teams、動画配信	5	4,10	4800
19	共通教育科目	グローバル教育支援機構	名嶋義直	日本語教育各論Ⅱ	後学期	10月6日	木	不要	Zoom・Teams、動画配信	5	4,5,10,16	4800
20	共通教育科目	グローバル教育支援機構	名嶋義直	日本語教材研究Ⅰ	前学期	4月12日	火	不要	Zoom・Teams、動画配信	5	4,10	4800
21	共通教育科目	グローバル教育支援機構	名嶋義直	日本語教材研究Ⅱ	後学期	10月4日	火	不要	Zoom・Teams、動画配信	5	4,10	4800
22	専門科目	人文社会学部	寺石悦章	人間の探究	後学期	10月4日	火	要	動画配信	5	1,3,4,10,16	4800

令 和 4 年 度 公 開 授 業 一 覧

No	科目種別	学部	教員名	科目名	学期	初回講義	曜日	WebClass	ICT利用	募集人数	SDGs	受講料
23	専門科目	国際地域創造学部	豊島　麗子	異文化理解	後学期	10月5日	水	要	Zoom・Teams	5	5,10	4800
24	専門科目	国際地域創造学部	喜納 育江、長堂 まどか	英米文化入門	前学期	4月14日	木	要	Zoom・Teams	5	4	4800
25	専門科目	国際地域創造学部	加瀬　保子	英米文学概論	後学期	10月6日	木	要	Zoom・Teams	5	4	4800
26	専門科目	国際地域創造学部	加瀬　保子	アメリカ文学研究Ⅰ	前学期	4月14日	木	要	Zoom・Teams	5	4	4800
27	専門科目	国際地域創造学部	吉本　靖	英語の文構造	後学期	未定	未定	要	Zoom・Teams	5	4	4800
28	専門科目	国際地域創造学部	王　怡人	マーケティング実践研究	前学期	4月5日	火	要	否	5	8,12,17	4800
29	専門科目	国際地域創造学部	王　怡人	広告論	前学期	4月7日	木	要	否	5	8,17	4800
30	専門科目	国際地域創造学部	王　怡人	マーケティング入門	後学期	10月4日	火	要	否	5	8, 12, 17	4800
31	専門科目	国際地域創造学部	星野　高徳	経済史入門	後学期	10月7日	金	要	否	5	6,7,11,12	4800
32	専門科目	教育学部	吉田　安規良	理科教育法A			木	不要	否	3	4	4800
33	専門科目	教育学部	吉田　安規良　他	授業技術			月	不要	否	3	4	4800
34	専門科目	理学部	古川　雅英	海洋地質学	前学期	4月16日	月	要	Zoom・Teams	10	4,13,14,15	4800
35	専門科目	理学部	前野　昌弘	物理学概論	前学期	4月14日	木	要	Zoom・Teams	10	4,9	4800
36	専門科目	理学部	前野　昌弘	物理数学Ⅰ	前学期	4月14日	木	要	Zoom・Teams	10	9	4800
37	専門科目	理学部	玉城 喜章	化学統計熱力学	後学期	10月4日	火	不要	否	5	4	4800
38	専門科目	理学部	中村　崇	熱帯生物科学概論	前学期	4月12日	火	要	Zoom・Teams	5	4,15	4800
39	専門科目	理学部	REIMER JAMES DAVIS	熱帯生物生産学概論	後学期	10月4日	火	要	Zoom・Teams	5	4,14	4800
40	専門科目	工学部	長山　格	数理計画とアルゴリズム	前学期	4月13日	水	要	Zoom・Teams	5	4	4800
41	専門科目	工学部	小野　尋子	確率及び統計	後学期	10月5日	水	要	Zoom・Teams	5～10	4	4800
42	専門科目	農学部	亀山　統一	森林微生物学	前学期	4月13日	水	不要	否	7	2,11,13,15	4800
43	専門科目	農学部	亀山　統一	森林保護学	後学期	10月6日	木	不要	否	7	2,11,13,15	4800
44	専門科目	農学部	金城　和俊	土壌環境科学	前学期	4月15日	金	要	Zoom・Teams	10	15	4800

令 和 4 年 度 公 開 授 業 一 覧

No	科目種別	学部	教員名	科目名	学期	初回講義	曜日	WebClass	ICT利用	募集人数	SDGs	受講料
45	専門科目	農学部	金城　和俊	環境土壌学	後学期	10月7日	金	要	Zoom・Teams	10	15	4800
46	専門科目	農学部	諏訪　竜一	作物学	前学期	4月13日	水	要	Zoom・Teams	10	2,15	4800
47	専門科目	農学部	諏訪　竜一	熱帯エネルギー作物学	後学期	10月6日	木	要	Zoom・Teams	10	7,8	4800
48	専門科目	地域連携推進機構	背戸　博史	教育の社会史	後学期	10月4日	火	要	Zoom・Teams	5人（遠隔の場合は10名）	4	4800
49	日本語学習科	グローバル教育支援機構	MAJIMA Tomohide, 他	Japanese A1	後学期	10月3日	月、火、水、木	不要	後日連絡	数名	4	6880
50	日本語学習科	グローバル教育支援機構	MAJIMA Tomohide, 他	Japanese A	前学期	4月12日	月、火、木、金	不要	後日連絡	数名	4	6880
51	日本語学習科	グローバル教育支援機構	MAJIMA Tomohide, 他	Japanese A	後学期	10月3日	月、火、木、金	不要	後日連絡	数名	4	6880
52	日本語学習科	グローバル教育支援機構	MAJIMA Tomohide, 他	Japanese A2	前学期	4月12日	月1、火3、木3、金2	不要	後日連絡	数名	4	6880
53	日本語学習科	グローバル教育支援機構	MAJIMA Tomohide, 他	Japanese A2	後学期	10月3日	月1、火3、木3、金2	不要	後日連絡	数名	4	6880
54	日本語学習科	グローバル教育支援機構	YAMAMOTO Yoshino	Japanese Grammar A	前学期	4月12日	火	不要	後日連絡	数名	4	4800
55	日本語学習科	グローバル教育支援機構	YAMAMOTO Yoshino	Japanese Grammar A	後学期	10月4日	火	不要	後日連絡	数名	4	4800
56	日本語学習科	グローバル教育支援機構	YAMAMOTO Yoshino	Japanese Grammar A2	第1クォー	4月12日	火2、木4	不要	後日連絡	数名	4	6800
57	日本語学習科	グローバル教育支援機構	YAMAMOTO Yoshino	Japanese Grammar A2	第3クォー	10月4日	火2、木4	不要	後日連絡	数名	4	6800
58	日本語学習科	グローバル教育支援機構	渡真利　聖子、元山　由美子、真島　知秀	日本語B1S	前学期	4月12日	月、火、水、木	不要	Zoom・Teams、Microsoft OneNote	5	4,10,16	6800
59	日本語学習科	グローバル教育支援機構	渡真利　聖子、元山　由美子、真島　知秀	日本語B1F	後学期	10月3日	月、火、水、木	不要	Zoom・Teams、Microsoft OneNote	5	4,10,16	6800
60	日本語学習科	グローバル教育支援機構	真島　知秀	読解B1S	前学期	4月12日	火		Zoom・Teams	10	4	4800
61	日本語学習科	グローバル教育支援機構	真島　知秀	読解B1F	後学期	10月4日	火		Zoom・Teams	10	4	4800
62	大学院科目	医学研究科	斉藤　美加	亜熱帯医学概論	未定	未定	未定	不要	可	10	3,10,11,16,17	4800
63	大学院科目	保健学研究科	照屋　典子	緩和ケア特論	後学期	10月13日	木	不要	否	5	3,4,8	4800
64	大学院科目	保健学研究科	照屋　典子	緩和ケア特別演習	後学期	10月13日	木	不要	否	5	3,4,8	4800

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	人文社会学部・人間社会学科		
授業科目名 （科目番号）	人間と哲学の知（人０１）		
単位数	２単位		
担当教員名 （職名）	久高將晃（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月12日 （　火曜日・２時限目）		
授業時間	１０：２０～１１：５０		
開催会場 （教室）	共２－２０５	**受講者のWebClass登録**	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 **□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

本講義では、正義論について学びます。福祉の最大化、自由の尊重、美徳の涵養という正義への三つのアプローチを紹介・検討し、正義論について理解を深めます。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、公開授業は行いません。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	人文社会学部・人間社会学科		
授業科目名 （科目番号）	人間観と教育（人20）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	寺石悦章（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月18日 （月曜日・3時限目）		
授業時間	12：50～14：20		
開催会場 （教室）	共通2-305	**受講者のWebClass登録**	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	(可)・否 **☐Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☑ 動画配信　☐その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	5人		

授業内容

この授業では、今、世界中で注目されているシュタイナー教育を、その基盤にある人間観と関連づけながら紹介します。

シュタイナー教育は20世紀の初め、第一次世界大戦後のドイツで誕生しました。やがてナチスの妨害を受けるなど困難な時期が続きましたが、第二次世界大戦は急速に世界各地に広まっています。現在、シュタイナー教育を実践する学校は世界中で1000校を超え、世界各地で非常に高い評価を受けています。

ドイツ生まれの教育ですが、地域や文化を越えて広範な支持を獲得しており、また親子3世代、4世代にわたってシュタイナー教育を受けているという人たちもいます。現代社会におけるさまざまな教育問題を解決するヒントが、たくさん隠されている教育です。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4):質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	(16):平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	対面授業が困難な場合、教科書、WebClassに掲載する動画や資料、およびネット上に公開されている動画なども利用しながら学ぶ形になります。 動画の長さはさまざまです。（毎回90分というわけではありません。）あらかじめご了承ください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際言語文化プログラム		
授業科目名 （科目番号）	フランス語会話入門I		
単位数	単位		
担当教員名 （職名）	デルバール（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月12日 （　火曜日・４時限目）		
授業時間	１４時４０～１６時１０		
開催会場 （教室）	3-101	受講者のWebClass 登録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５名		

授業内容

この授業はフランス語会話と文法の基本を身につけることを目的とします。教科書：En scene II（大学キャンパスの生協で購入できます）

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法				
備考	オンライン授業になる可能性あり。Microsoft Teams使用			

令 和 4 年 度　　琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学　部　・　学　科	国際地域創造学部・国際言語文化プログラム		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	フランス語会話入門II		
単　位　数	単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	デルバール（准教授）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	10月4日 （　火曜日・４時限目）		
授　業　時　間	１４時４０～１６時１０		
開　催　会　場 （教　室）	3-101	**受講者のWebClass 登　録**	**不要**
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	**可** **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	５名		

授　業　内　容

この授業はフランス語会話と文法の基本を身につけることを目的とします。教科書： En scene II(大学キャンパスの生協で購入できます)

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで 目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	
備　考	オンライン授業になる可能性あり。Microsoft Teams使用

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際言語文化プログラム		
授業科目名 （科目番号）	インテンシブフランス語I		
単位数	単位		
担当教員名 （職名）	デルバール（准教授）と宮里（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月12日 （火・金曜日・２時限目）		
授業時間	１０時２０～１１時５０		
開催会場 （教室）	３－４０５	**受講者のWebClass登録**	**不要**
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	**可** **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５名		

授業内容

この授業は初級レベルのフランス語会話と文法を身につけることを目的とします。フランス語を学んだことのないか改めて最初から学びたい人向けの授業です。教科書：Flash（大学キャンパスの生協で購入可）

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法				
備考	オンライン授業の可能性あり。（microsoft Teams使用）			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際言語文化プログラム		
授業科目名 （科目番号）	インテンシブフランス語II		
単位数	単位		
担当教員名 （職名）	デルバール（准教授）と宮里（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月4日 （火・金曜日・２時限目）		
授業時間	１０時２０～１１時５０		
開催会場 （教室）	３－４０５	**受講者のWebClass登録**	**不要**
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５名		

授業内容

この授業は初級レベルのフランス語会話と文法を身につけることを目的とします。フランス語を学んだことのないか改めて最初から学びたい人向けの授業です。教科書：Flash（大学キャンパスの生協で購入可）

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	
備考	オンライン授業の可能性あり。（microsoft Teams使用）

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部　国際言語文化プログラム		
授業科目名 （科目番号）	スペイン語入門Ⅰ（外４０１）		
単位数	２　単位		
担当教員名 （職名）	鈴木正士（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	月　　日（未定） （水曜日・２時限目）		
授業時間	10：20～11：50		
開催会場 （教室）	共３－２０４	**受講者のWebClass登録**	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 **□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

基礎スペイン語文法の初歩と簡単な会話を学ぶ。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	webclassで行う
備考	対面授業で行なう予定で、ハイブリッド（対面＋遠隔）は行ないません。新型コロナウィルスの関係で対面での講義が難しくなった場合はTeamsで授業を行なう予定です。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部　国際言語文化プログラム		
授業科目名 （科目番号）	スペイン語入門Ⅱ（外402）		
単位数	２　単位		
担当教員名 （職名）	鈴木正士（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	月　　日（未定） （水曜日・２時限目）		
授業時間	10：20～11：50		
開催会場 （教室）	共３－２０５	**受講者のWebClass登録**	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 **□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

スペイン語入門Ⅰのつづきをおこなう。スペイン語基礎文法を学ぶ。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	webclassで行う。			
備考	本クラスはスペイン語入門Ⅰを履修した者のみ受講を認める。 対面授業で行なう予定で、ハイブリッド（対面＋遠隔）は行ないません。新型コロナウィルスの関係で対面での講義が難しくなった場合はTeamsで授業を行なう予定です。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	共通教育等科目		
授業科目名 （科目番号）	インテンシブスペイン語Ⅱ（　外408　）		
単位数	４単位		
担当教員名 （職名）	福地恭子（国際地域創造学部　准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	月　　日（未定） （火曜日・金曜日　２時限目）		
授業時間	10：20～11：50		
開催会場 （教室）	共通教育棟3号館305教室	**受講者のWebClass登録**	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 **□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

スペイン語の初級レベルの「読み・書き・聞き・話す」能力を身につけることを目的とします。週２回のクラスで、火曜日は文法、金曜日は会話や発音が中心となります。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4):質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	Eメールにて行う。			
備考	週２回の講義です。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際地域創造学科		
授業科目名 （科目番号）	現代経営のしくみ		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	井川浩輔（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月7日 （　金曜日・5時限目）		
授業時間	16:20-17:50		
開催会場 （教室）	文講114教室	**受講者のWebClass登録**	要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	5人		

授業内容

企業は様々な活動を行うために，ヒトを採用して，育成して，評価して，報酬を与えています。そこで本授業では，このような人材マネジメントのあり方について，採用や育成，評価，報酬等の切り口から理論的・実践的に議論します。

まず，担当教員が人材マネジメントに関する理論や概念を説明します。次に，受講生が理論や概念を基礎とした実践的なアイディアを考えて，学習課題やレポートを作成します。最後に，受講生が考案したアイディアを発表して，受講生全員でそのアイディアについて議論します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はメールにて行います。
備考	感染拡大防止措置を実施した上で，対面講義を実施します。 対面講義が困難な場合，ZOOMを用いた遠隔講義を実施します。 実施方法を学期途中で変更する可能性があります。メールの連絡事項を確認してください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際地域創造学科		
授業科目名 （科目番号）	異文化コミュニケーション入門（総65／B総65）		
単位数	２単位		
担当教員名 （職名）	髙良　宣孝（準教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月13日 （水曜日・7時限目）		
授業時間	１９：４０～２１：１０		
開催会場 （教室）	共通教育棟2-205教室（予定）	**受講者のWebClass登録**	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人程度		

授業内容

この授業では、異文化コミュニケーションに関して、言語的・文化的側面から学び、異文化とは何か、異文化理解とは何か、異文化間でのコミュニケーションを行なう際に重要なことは何か、を学びます。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	EメールまたはWebClass（登録可能なら）で行なう。
備考	対面授業で行なう予定で、ハイブリッド（対面＋遠隔）は行ないません。新型コロナウィルスの関係で対面での講義が難しくなった場合はZoomで授業を行なう予定です。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	グローバル教育支援機構		
授業科目名 （科目番号）	沖縄の基地と戦跡Ⅰ 琉05		
単位数	２ 単位		
担当教員名 （職名）	北上田 源(教育学部准教授)		
初回開講日 （曜日・時限）	4月14日 （ 木曜日・5時限目）		
授業時間	16:20-17:50		
開催会場 （教室）	共通教育棟2-205	受講者のWebClass登録	要 ・ 不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 ・ 否 ☑Zoom・Teams ☐サテライトキャンパス ☑ 動画配信 ☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5人(教室に余裕があれば可)		

授業内容

沖縄戦や沖縄の基地問題について、具体的なテーマに焦点を当てて学び、議論を深めることを通して、戦争・平和・軍隊などの諸問題に関して考えていくための「自分なりの視点」を見つけることを目指す授業です。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	kitaueda@edu.u-ryukyu.ac.jp
備考	

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部　物質地球科学科　物理系		
授業科目名 （科目番号）	人間と物理学（自22）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	與儀　護（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月　5日（予定） （水曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	共通教育棟 2-201教室	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可・(否) □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	人		

授業内容

この講義では物理学の発展の歴史と現代社会の関わり合いについて講義を行う。それに加えて、様々な電磁波（電波、可視光線、X線など）の性質とその応用例について、物理学と現代エレクトロニクスの関連などについても概説する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	(7:)エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	(9:)産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	(12:)つくる責任つかう責任
	(13:)気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はWebClassやEメールにて行う。
備考	WebClassを通じて講義資料の配付を行うので、登録を要としています。 基本対面講義のため、ICT利用を否としています。正規の学生へのICT利用に準拠します。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部　物質地球科学科（物理系）		
授業科目名 （科目番号）	物理学入門I（転11）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	安田　千寿（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月12日 （　火曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	共通教育棟　2ー101教室	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐　動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

「物はどのように落下するのか」、「ボールをより遠くに投げる方法とは」、「磁石は何故落ちないのか」、「バスの急停車でバランスを崩すのはなぜか」、「月はどうして地球のまわりをまわっているのか」、「フィギュアスケートでは運動量保存則を利用している」など、身の回りでふつうに起こっている現象を力学の法則から論理的に理解する方法を解説します。受講者が高校の物理を履修していないことを考慮に入れ、グラフや図を多用して力学の基礎的事項から解説します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	(7):エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	(9):産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	・対面講義が困難な場合、WebClass と Zoom を用いた遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部　物質地球科学科（物理系）		
授業科目名 （科目番号）	物理学入門Ⅱ（転12）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	安田　千寿（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月4日 （火曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	共通教育棟　2ー101教室	受講者のWebClass 登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐　動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

「熱と温度は違う？」、「冷蔵庫やエアコンの原理は？」、「エントロピーって何？」、「ドップラー効果とは？」、「蜃気楼とは？」、「電流と磁場の関係は？電流も磁場を作る？」、「直流モーターや発電機の原理とは？」など、熱、波、電気、磁気に関する疑問を論理的に理解する方法を解説します。受講者が高校の物理を履修していないことを考慮に入れ、グラフや図を多用して、熱、波、電磁気学の基礎的事項から解説します。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	(7:)エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	(9:)産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップ で目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	・対面講義が困難な場合、WebClass と Zoom を用いた遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	地域連携推進機構		
授業科目名 （科目番号）	教育政策史（社31）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	柴田聡史（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月　4日 （火曜日・2時限目）□		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	共通教育棟2-100	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	(可)・否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　■　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5人		

授業内容

現在日本で進む様々な教育改革は、米国で先行する教育政策の影響を受けている。そこで、本講義では、日米の教育政策の歴史的な展開を検討し、現代の教育政策上の課題について理解を深めることを目的とする。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講等についての連絡はメールにて行う。			
備考	・授業の実施方法（対面or遠隔）については今後の感染状況等により後日決定します。 ・対面授業の場合、遠隔授業（動画配信等）は実施しない可能性もあります。 ・実施方法の決定、変更についてはWebClassやメールにてお知らせします。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	グローバル教育支援機構		
授業科目名 （科目番号）	大学教育論（社30）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	天野智水（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月　4日 （火曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	共3-103	受講者のWebClass登録	要 ・ 不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 ・ 否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5人		

授業内容

大学ではあらゆることが考察の対象となり得ます．そして「大学」自体もその一つです．
「大学」はなぜ誕生し，どのような役割を果たしてきているのか．それらは日本と諸外国で，そして時代によってどのように異なるのか．大学はどのような制度によって支えられているのか．その組織は小中高校，役所，あるいは企業と何が異なるのか．自明なことのようでも，改めて考えてみると疑問に思うことは少なくありません．そして，これらを考えることは，皆さんの今後の学生生活，さらには卒業後の学習を考えることにもつながります．
本講義では，「大学」とは何かを知ることを通じて，大学でどのような学習経験をするべきか，という課題を皆さんに考えてもらいます．
なお，この授業は担当教員によるショートレクチャーのほか，小グループに分かれた受講者同士のディスカッションに多くの時間を割いて授業を行います．

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	WebClass
備考	新型コロナ感染状況によっては，WEB会議システム「ZOOM」を用いて遠隔で実施します

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	グローバル教育支援機構　国際教育センター		
授業科目名 （科目番号）	日本語教育各論Ⅰ（　総107　）		
単位数	２単位		
担当教員名 （職名）	名嶋義直（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	４月　１４日 （　木曜日・1時限目）		
授業時間	8:30～10:00		
開催会場 （教室）	地域国際学習センター203教室	受講者のWebClass登録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　■　動画配信　□その他（　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

会話分析の観点から人間の会話行動について学ぶ授業です。日本語教育副専攻の選択必修科目であり，留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	●10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備考	授業形態は対面／zoom同時配信／オンデマンド録画視聴か選べます（学期中に変更可能）。琉球大学の決定により全授業がオンラインとなった場合にはZoomかオンデマンドかの2つから選んで受講となります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学　部　・　学　科	グローバル教育支援機構　国際教育センター		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	日本語教育各論Ⅱ（総108）		
単　位　数	２単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	名嶋義直（教授）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	１０月　６日 （　木曜日・1時限目）		
授　業　時　間	8:30～10:00		
開　催　会　場 （教　室）	地域国際学習センター203教室	受講者の WebClass 登　録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　■　動画配信　□その他（　）		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	５人		

授　業　内　容

新聞などを読む実践を通して批判的リテラシーを高める授業です。日本語教育副専攻の選択必修科目であり，留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	●4:質の高い教育を みんなに
	●5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	●10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	●16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。			
備　考	授業形態は対面／zoom同時配信／オンデマンド録画視聴か選べます（学期中に変更可能）。琉球大学の決定により全授業がオンラインとなった場合にはZoomかオンデマンドかの2つから選んで受講となります。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学　部　・　学　科	グローバル教育支援機構　国際教育センター		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	日本語教材研究Ⅰ（総109）		
単　位　数	2単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	名嶋義直（教授）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	4月　12日 （　火曜日・1時限目）		
授　業　時　間	8:30-10:00		
開　催　会　場 （教　室）	地域国際教育センター203	受講者のWebClass 登　録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　■　動画配信　□その他（　）		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	5人		

授　業　内　容

日本語文法について自分で考え自分で規則を見出していく能力を高める授業です。日本語教育副専攻の必修科目であり，また留学生との共修授業にもなっています。以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	●4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	●10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備　考	授業形態は対面／zoom同時配信／オンデマンド録画視聴か選べます（学期中に変更可能）。琉球大学の決定により全授業がオンラインとなった場合にはZoomかオンデマンドかの2つから選んで受講となります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	グローバル教育支援機構　国際教育センター		
授業科目名 （科目番号）	日本語教材研究Ⅱ（総110）		
単位数	２単位		
担当教員名 （職名）	名嶋義直（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月　4日 （　火曜日・1時限目）		
授業時間	8:30−10:00		
開催会場 （教室）	地域国際教育センター203	受講者のWebClass 登録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　■　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

日本語文法について自分で考え自分で規則を見出していく能力を高める授業です。
日本語教育副専攻の必修科目であり，また留学生との共修授業にもなっています。
以上の理由から日本語教育に興味のある方に限定します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	●10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡は授業時に行います。欠席時は自分からEメールで問い合わせてください。
備考	授業形態は対面／zoom同時配信／オンデマンド録画視聴か選べます（学期中に変更可能）。琉球大学の決定により全授業がオンラインとなった場合にはZoomかオンデマンドかの２つから選んで受講となります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	人文社会学部・人間社会学科		
授業科目名 （科目番号）	人間の探究（P&P112）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	寺石悦章（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月4日 （火曜日・4時限目）		
授業時間	14：40～16：10		
開催会場 （教室）	文系講義棟 新215	受講者のWebClass登録	要　不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可・否 ☐Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☑ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5人		

授業内容

確固たる人間観に根ざし、世界中で高い評価を受けているシュタイナー教育。このシュタイナー教育の創始者として知られるルドルフ・シュタイナーという思想家がいます。20世紀初頭にドイツ語圏を中心に、驚くほど多様な分野で活躍した思想家です。

授業では、このルドルフ・シュタイナーの思想を手がかりに、哲学的観点から「人間とはどのような存在か」という問題について探究します。これは同時に、シュタイナー教育の基盤になっている人間観でもあります。

深遠なテーマではありますが、一般に想像されるほど難しい内容ではありません。できるだけやさしく解説します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	教室定員の半分以下の人数で、可能であれば対面授業を行います。対面授業が困難な場合、教科書、WebClassに掲載する動画や資料などを使って学ぶ形になります。 動画の長さはさまざまです。（毎回90分というわけではありません。）あらかじめご了承

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部		
授業科目名 （科目番号）	異文化理解　B英言２０１		
単位数	２単位		
担当教員名 （職名）	豊島麗子（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月5日 （水曜日・７時限目）		
授業時間	９０分		
開催会場 （教室）	共４－３０５	**受講者のWebClass登録**	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

グローバル化が加速度的に進むなか、異なる文化的背景を持つ人々との平和的共存は誰にとっても重要な課題である。また、私たちはさまざまな文化に所属する個人であり、異文化接触を日常的に経験しているといえる。この授業では、文化的事象を人種・民族、階級、ジェンダー・セクシュアリティ、帝国主義・グローバリズムといった多様な視点から考察し、異文化理解を深める。さらに異文化接触ゾーンで起こる問題の原因を探り、その解決法についても議論する。教材は英語・日本語の異文化に関する資料、文学作品、映画、動画、テレビ、新聞・インターネットの記事である。授業は講義、ディスカッション及びプレゼンテーションで構成される。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	(5:)ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	(10:)人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	課題はウェブクラスにアップロードする。休講等の連絡はEメールで行う。			
備考	**・コロナ禍により対面授業が難しい場合は、Zoom・Teamsを用いた遠隔授業を行います。 ・コロナ禍の状況によって授業の実施方法を学期途中で変更する場合があります。**			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部　国際地域創造学科		
授業科目名 （科目番号）	英米文化入門		
単位数	２単位		
担当教員名 （職名）	喜納 育江（教授）、長堂 まどか（講師）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月14日 （木曜日・３時限目）		
授業時間	12：50～14：20		
開催会場 （教室）	人文社会学部　文講103 教室	**受講者のWebClass 登録**	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

本講義では、イギリス、アメリカ文化の諸相について理解を深めることを目的とする。特に、歴史、宗教、政治、教育などについての基本的な知識を習得し、イギリスとアメリカの文化についての理解を深める。また、その事項に関する英語資料を読むことで英語力を身につける。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。			
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。			

令 和 4 年 度　　琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学　部　・　学　科	国際地域創造学部・国際地域創造学科		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	英米文学概論		
単　位　数	2　単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	加瀬保子　（准教授）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	10月6日 （　木曜日・３時限目）		
授　業　時　間	90分		
開　催　会　場 （教　室）	共通教育棟２号館100版教室	**受講者のWebClass 登　録**	要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	5人		

授　業　内　容

■講義内容／英米のフィクション、詩、ドラマ、自伝、グラフィックノベルなど様々なジャンルの作品を、用いられている技巧や作家の時代背景などに着目しながら味わい、文学分析方法の基礎を学びます。講義は英語と日本語で行います。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目 標を達成しよう			

受講者への連絡方法	授業開始前まではe-mail（ykase@eve.u-ryukyu.ac.jp）で授業開始後はWebClass を用いて連絡します。
備　考	授業資料は英語と日本語の資料を用意します。大人数のクラスです。遠隔になる場合はZoomを使用します。

令 和 4 年 度　　琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学　部　・　学　科	国際地域創造学部・国際地域創造学科		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	アメリカ文学研究I		
単　位　数	２単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	加瀬保子　（准教授）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	月　日（前期または後期に開講予定） （　曜日・時限目）		
授　業　時　間	90分		
開　催　会　場 （教　室）	共通教育棟３号館　教室	**受講者のWebClass 登　録**	要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 **■ZOOM・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	5人		

授　業　内　容

アメリカ文学の作品を読みながら、文学作品の解釈を学びます。また読んだ作品について英語で自分の考えや感想を述べたり、エッセイを書くことを学びます。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目 標を達成しよう			
受講者への連絡方法	授業開始前まではe-mail（ykase@eve.u-ryukyu.ac.jp）で授業開始後はWebClass を用いて連絡します。			
備　考	テキスト以外の授業資料はWebClassに掲載します。少人数のクラスです。遠隔になる場合はZoomを使用します。			

令 和 4 年 度　　琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学　部　・　学　科	国際地域創造学部　国際地域創造学科		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	英語の文構造（英言３７９）		
単　位　数	２単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	吉本　靖　（教授）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	10月　　日　（詳細は未定） （　未定　）		
授　業　時　間	未定		
開　催　会　場 （教　室）	未定	**受講者のWebClass 登　録**	要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 **■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	5人		

授　業　内　容

人は誰でも母語の文構造について暗黙の知識を持っています。その知識はどのようなものでしょうか。この問いに答えるために生み出された理論として生成文法理論があります。この授業では生成文法理論の基礎を講義し、英語を母語とする人のもつ文構造に関する知識を科学的に分析する方法を学びます。

生成文法による英語の分析は、英語運用能力の向上を目的とした高校までの英文法とはかなり異なります。最初は戸惑いを感じるかもしれませんが、言語学的に英語の文法を分析するとこのようになるのだということが次第に分かってくるはずです。授業では、その日の内容をハンドアウトをもとに（対面またはZoomで）説明し、適宜質疑応答を行います。その後、事後学習として練習問題をやってもらいそれを（直接またはWebClassで）提出してもらい理解を確認する、ということを繰り返します。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目 標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備　考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際地域学科		
授業科目名 （科目番号）	マーケティング実践研究（B経営218）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	王　怡人(教授)		
初回開講日 （曜日・時限）	4月　5日 （火曜日・6時限目）		
授業時間	18:00-19:30		
開催会場 （教室）	文講112？	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可・(否) □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5名		

授業内容

この講義では、ケーススタディを通じて、デジタル時代における企業のマーケティング戦略について勉強します。
企業のデジタル・マーケティング戦略を検討する際、マーケティング活動の基本概念（4P's mixes）、ビジネスモデルやマネジメントといったものと関連しますので、他の授業で学んだ知識がここで融合されます。
受講者は教科書に記載されている事例を予習した上、ディスカッションポイントについて講義のディスカッション時間内で議論し、自分なりの結論を見出すことを目指します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:)働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	(12:)つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	(17:)パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、公開授業は中止になります。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際地域学科		
授業科目名 （科目番号）	広告論（B経営304）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	王　怡人(教授)		
初回開講日 （曜日・時限）	4月　7日 （木曜日・7時限目）		
授業時間	19:40-21:00		
開催会場 （教室）	文講112？	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可・(否) □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5名		

授業内容

この講義の主題は、広告宣伝に関連する諸概念の紹介と企画・制作の体験です。
企業が製品やサービスを円滑に市場で展開していくために、まず商品の存在や提供する便益を広く消費者に知らせなければなりません。それらの情報を消費者に提供するのは広告宣伝の主な内容です。
しかし、ストレートな情報内容は、場合によって消費者に説得力を持たないかもしれません。それは競合企業が発信した情報と相殺したり、商品に対する消費者「関与度」が低かったりすることと関係するからです。この講義の前半では、広告宣伝に関する理論的側面を順次に取り上げて解説していきます。そして、広告宣伝に対する理解を踏まえて、講義の後半では実際の提案練習を行ってもらいます。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:)働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	(17:)パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。			
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、公開授業は中止になります。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部・国際地域学科		
授業科目名 （科目番号）	マーケティング入門（B学共112）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	王　怡人(教授)		
初回開講日 （曜日・時限）	10月　4日 （火曜日・6時限目）		
授業時間	18:00-19:30		
開催会場 （教室）	文講112？	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可・(否) □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5名		

授業内容

この講義の主題は、企業のマーケティング活動に関連する諸概念の紹介です。企業は自社の利益を上げるために、消費者の需要を満足させなければなりません。この目的を達成するために、どのように工夫し展開していくのか、それを考えるのがマーケティング担当者の主な仕事です。
その内容を大きく分ければ、「製品」、「価格」、「販売ルート」、「販売促進」といった4つの部分があります。この講義では、この4つのテーマに沿って、事例を取り上げながら、わかりやすく解説します。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	(8:)働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	(12:)つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	(17:)パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。			
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、公開授業は中止になります。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	国際地域創造学部		
授業科目名 （科目番号）	経済史入門（B経済207）		
単位数	2　単位		
担当教員名 （職名）	星野　高徳　（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月7日 （　金曜日・６時限目）		
授業時間	18：00～19：30		
開催会場 （教室）	文講201	**受講者のWebClass登録**	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 **□Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）**		
受講人員 （５～１０名以内）	5名以内		

授業内容

本講義では、近代から高度経済成長期、安定成長期における経済政策、諸産業の発展過程を見ていくことにより、近代以降、日本経済がいかに発展したのかを説明する。その際、経済発展によってもたらされた消費生活の変化、衛生環境の悪化をはじめとした都市問題、公害問題、環境問題についても詳細に言及する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	Webclass、メール			
備考				

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	教育学部		
授業科目名 （科目番号）	理科教育法A（理391）		
単位数	２ 単位		
担当教員名 （職名）	吉田　安規良（教育学研究科　教職実践講座　教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	月　日 （木曜日・6時限目）		
授業時間	18時00分～19時30分		
開催会場 （教室）	教106（予定）	受講者のWebClass登録	要 ・ ○不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・ ○否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	３名　程度		

授業内容

中学校ならびに高等学校の理科授業の目的、目標、指導法と評価法ならびにそれに関連する他の事項（例：幼稚園や小学校の理科教育、自然環境教育とのつながり、社会教育、生涯教育）について概説する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	○4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	講義に関連する諸連絡（課題、休講）については、原則講義中に連絡します。
備考	正規履修学生への授業提供が遠隔になった場合は、遠隔で対応します。 本学側の都合、ゲストティーチャーの都合により、一部の授業を別の曜日時限に振り替えて実施することがあります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	教育学部		
授業科目名 （科目番号）	授業技術（教職134））		
単位数	２ 単位		
担当教員名 （職名）	吉田　安規良（教育学研究科　教職実践講座　教授）・森　力（教職センター　准教授）・上原正人（教職センター　准教授）ほか		
初回開講日 （曜日・時限）	月　日（※時間割変更の可能性あり） （月曜日・5時限目）		
授業時間	18時00分～19時30分		
開催会場 （教室）	教105（予定）	受講者のWebClass 登録	要 ・ ○不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・ ○否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	3名　程度		

授業内容

内容と方法：教師として授業を担当するときに必要な技能や知識を講述する。
達成目標：教師として子どもの前に立ったとき、最低限の技能（板書、所作、指示）ついて理解し、それが授業の形でできるようになる。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	○4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	講義に関連する諸連絡（課題、休講）については、原則講義中に連絡します。
備考	正規履修学生への授業提供が遠隔になった場合は、遠隔で対応します。 本学側の都合、ゲストティーチャーの都合により、一部の授業を別の曜日時限に振り替えて実施することがあります。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部・物質地球科学科		
授業科目名 （科目番号）	海洋地質学（物地373）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	古川　雅英（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月 16日 （月曜日・3時限）		
授業時間	12:50～14:20		
開催会場 （教室）	理学部C114教室	受講者のWebClass登録	要・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	10人		

授業内容

地球科学や環境科学の全般を理解する上で、海域における地質の知識は不可欠である。この講義では、プレートテクトニクスの基礎を含め、海域の地質全般を理解する上で必要となる基礎的事項を解説する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	授業時間内もしくは直前・当日の場合はEメールにて行う。
備考	

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部・物質地球科学科		
授業科目名 （科目番号）	物理学概論（物共101）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	前野　昌弘（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月　14日 （木曜日・5時限目）		
授業時間	16:20～17:50		
開催会場 （教室）	理学部本館 C114教室	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	10人		

授業内容

物理学全般について概説し、物理を教えるための知識と技術を習得するための授業である。
他人に教えるためには、まず自分が物理学の概念をしっかり理解しておかなくてはいけない。
物理法則の意味と内容をちゃんと説明できるように理解していく。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	(9:産業と技術革新の基盤を作ろう)	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。☐			
備考	URL:http://irobutsu.a.la9.jp/kougi/physgairon2022/index.html			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部・物質地球科学科		
授業科目名 （科目番号）	物理数学Ⅰ（物物203）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	前野　昌弘（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月　14日 （木曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	理学部本館 C114教室	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	10人		

授業内容

線形代数の基礎として、ベクトルと行列の演算、行列式および固有値と固有ベクトルの関係などについて説明する。さらに座標変換や行列を使った各種方程式の解法など、物理学や工学への応用についても講義する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	(9):産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。☐
備考	URL:http://irobutsu.a.la9.jp/kougi/linalg2022/index.html

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部 海洋自然科学科 化学系		
授業科目名 （科目番号）	化学統計熱力学（海化319）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	玉城 喜章（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月 4日 （火曜日・2時限目）		
授業時間	10:20 ～ 11:50		
開催会場 （教室）	理学部本館 B135教室	受講者のWebClass登録	要 ・ 不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 ・ 否 □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

化学熱力学では、物質を構成している分子の存在を仮定する必要なく、エンタルピーやエントロピー、ギブズエネルギー等の熱力学関数を用いて、化学反応の自発性や化学平衡を解釈します。このことを学習した人の中には、熱力学関数に個々の分子の振る舞いがどう反映されるのか知りたい、と自然に考えた人も少なくないだろうと思います。化学統計熱力学では、物質を構成する個々の分子がとりうる状態を考察してゆき、分子の振る舞いに基づいて熱力学関数を導出していきます。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	通常の連絡は講義の際に行い、休講等の臨時の連絡はeメールで行う。
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、授業は公開しません。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部・海洋自然科学科		
授業科目名 （科目番号）	熱帯生物科学概論（理共205）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	中村 崇 （准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月 12日 （火曜日・5時限目）		
授業時間	16:20-17:50		
開催会場 （教室）	理系複合棟 102室（定員127名）	受講者のWebClass登録	(要)・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☑ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

琉球列島は我が国で唯一の亜熱帯域に位置し、本地域特有の多様な生物相を有することが特徴である。本講義では琉球列島の動植物を対象に分類学、形態学、生態学、生理学、遺伝学等様々なアプローチで研究を行っている教員がそれぞれの研究成果をふまえて熱帯・亜熱帯地域の生物相の特徴について解説する。学内では1、2年次を対象としており、これから熱帯・亜熱帯域に関する専門の学習や研究を行う上での基礎知識を修得してもらうことと、本学科生物系で行われている研究内容を紹介することも目的としている。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質)の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	(15:陸)の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はWebClassでの掲示・Eメールにて行う。
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	理学部・海洋自然科学科		
授業科目名 （科目番号）	熱帯生物生産学概論（理共206）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	REIMER JAMES DAVIS （准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月 4日 （火曜日・5時限目）		
授業時間	16:20-17:50		
開催会場 （教室）	理系複合棟 102室（定員127名）	受講者のWebClass 登録	(要)・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☑ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

琉球列島は我が国で唯一の亜熱帯域に位置し、本地域特有の多様な生物相を有することが特徴である。本講義では琉球列島の水生生物（主として海産生物）に関する最新の多様な研究を紹介し、生物学における位置づけと他の応用分野との関連等について概説する。講義は海洋自然科学科生物系教員がリレー形式で担当する。学内では1、2年次を対象としており、これから熱帯・亜熱帯域に関する専門の学習や研究を行う上での基礎知識を修得してもらうことと、本学科生物系で行われている研究内容を紹介することも目的としている。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:質の高い教育をみんなに)
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	(14:海の豊かさを守ろう)	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はWebClassでの掲示・Eメールにて行う。
備考	・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。WebClassをよく確認してください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	工学部　工学科		
授業科目名 （科目番号）	数理計画とアルゴリズム （知能351）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	長山　格 （准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月13日 （　水曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	工学部1号館321教室、 またはZOOMで遠隔実施	受講者のWebClass 登録	(要)・不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	(可)・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

本講義では，数理計画と最適化における基本的手法・理論について線形計画法，最適化理論など様々な問題を例に取りながら解説する．適宜，課題練習を実施し，数値計算パッケージを用いて実践的な問題解決能力を学ぶ．

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	(4:)質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	掲示または電子メールによる
備考	受講希望者は必ず連絡のための電子メールアドレスを届け出ること。 ZOOMで遠隔実施する可能性が高いので十分な通信環境を準備すること。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	工学部・工学科		
授業科目名 （科目番号）	確率及び統計 （工共213）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	小野尋子 （教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月5日 （水曜日・1時限目）		
授業時間	演習分を補講として30分追加し、8:00～10:00の開講となります。		
開催会場 （教室）	共通教育棟4－505	受講者のWebClass登録	要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可 ・ 否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐ 動画配信　☐その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5－10名以内		

授業内容

講義は平均や分散など、初歩的なところから始まり、修了時には統計検定2級～準1級受験レベルになります。1）ニュースなどのデータを独自に検証したい人、2）多変量解析ソフトは使うが基礎的な理論を学びなおしたい人、等

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	webclass を通じたメール連絡、講義用のデータの提供			
備考				

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	農学部・亜熱帯農林環境科学科		
授業科目名 （科目番号）	森林微生物学（環353）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	亀山　統一（助教）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月13日 （水曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	農西（W）－105	受講者のWebClass登録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	7人		

授業内容

極力対面授業を行う予定なのでICT利用は難しいが、学期当初から遠隔事業にすると決まった場合、zoomでの配信とするので、それを公開授業とすることは可能である。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	(2):飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	(11):住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	(13):気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	(15):陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	メール、webclassによる			
備考				

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	農学部・亜熱帯農林環境科学科		
授業科目名 （科目番号）	森林保護学（環258）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	亀山　統一（助教）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月6日 （木曜日・3時限目）		
授業時間	12:50～14:20		
開催会場 （教室）	農西（W）－202	受講者のWebClass登録	不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	7人		

授業内容

極力対面授業を行う予定なのでICT利用は難しいが、学期当初から遠隔事業にすると決まった場合、zoomでの配信とするので、それを公開授業とすることは可能である。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	(2:)飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	(11:)住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	(13:)気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	(15:)陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	メール、webclassによる			
備考				

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	農学部　亜熱帯農林環境科学科		
授業科目名 （科目番号）	土壌環境科学（　環378　）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	金城　和俊（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月15日 （ 金曜日・3時限目）		
授業時間	12:50～14:20		
開催会場 （教室）	農西（W）－104	受講者のWebClass登録	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　）		
受講人員 （５～１０名以内）	10人		

授業内容

農業および環境分野における土壌の役割、さらに酸性土壌や赤土流出など、沖縄に分布する土壌の問題点なども紹介・解説する予定である。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	(15:)陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	金城和俊 ： wa614@agr.u-ryukyu.ac.jp
備考	基本的に対面授業を行いますが、遠隔授業にも対応できるようにパソコンやタブレットを必ず用意し、通信環境を整えてください。また、授業は専門用語などを使いながら進めますので、その際にもパソコンやタブレットを使用します。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	農学部　亜熱帯農林環境科学科		
授業科目名 （科目番号）	環境土壌学（　　環274　　）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	金城　和俊（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月7日 （ 金曜日・1時限目）		
授業時間	8:30～10:00		
開催会場 （教室）	農西（W）－104	受講者のWebClass登録	要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	10人		

授業内容

基礎的な土壌学について解説し、農業分野および環境分野における土壌の役割についても解説する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	金城和俊 ： wa614@agr.u-ryukyu.ac.jp			
備考	基本的に対面授業を行いますが、遠隔授業にも対応できるようにパソコンやタブレットを必ず用意し、通信環境を整えてください。また、授業は専門用語などを使いながら進めますので、その際にもパソコンやタブレットを使用します。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	農学部・亜熱帯農林環境科学科		
授業科目名 （科目番号）	作物学（環212）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	諏訪竜一（准教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	4月13日 （ 水曜日・2時限目）		
授業時間	10:20～11:50		
開催会場 （教室）	農西（W）-206	受講者のWebClass登録	要・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可・否 ■Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	10人		

授業内容

作物生産に関する技術や学術的な知見から、収量を高めるための要因を考える。また、各種の環境要因と作物の成長や応答について学ぶ。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	農学部・亜熱帯農林環境科学科			
授業科目名 （科目番号）	熱帯エネルギー作物学（環317）			
単位数	2単位			
担当教員名 （職名）	諏訪竜一（准教授）			
初回開講日 （曜日・時限）	10月6日 （ 木曜日・2時限目）			
授業時間	10:20～11:50			
開催会場 （教室）	農西（W）-104	受講者のWebClass登録	(要)・不要	
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	(可)・否 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□ 動画配信　□その他（　　）			
受講人員 （５～１０名以内）	10人			
授業内容	エネルギー作物の利用や社会的な背景、このエネルギー化（バイオエタノール、セルロースのエタノール化、バイオディーゼル、直接燃焼および原料の改質、他技術等）の原理、原料となる植物についての講義を行う。			
授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	(7:エネルギーを皆に そしてクリーンに)	(8:働きがいも経済成長も)
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。			
備考				

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	地域連携推進機構		
授業科目名 （科目番号）	教育の社会史（教社211）		
単位数	単位		
担当教員名 （職名）	背戸博史（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10月　4日（予定） （　火曜日・4時限目）		
授業時間	14:40　～　16:10		
開催会場 （教室）	文講114	受講者のWebClass 登録	要・不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可・否 ■Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	5人（遠隔の場合は10名）		

授業内容

本講義は社会史の成果をもとに、近代以前から営まれてきた次世代育成の多様な展開を確認することで、当然視されている現行の”教育”を相対化するとともに、”日本の教育”に伏在する特異な”日本性”を抽出する。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	課題や休講等についての連絡はメールにて行う。
備考	

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese A1（国セ001）		
単位数	4 単位		
担当教員名 （職名）	MAJIMA Tomohide, 他		
初回開講日 （曜日・時限）	10 月 3 日 （ Mon. Tue. Wed. Thu・2nd ）		
授業時間	10:20-11:50		
開催会場 （教室）	International Student Center 107	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

This is the 4 times a week Japanese class to study four skills synthetically: speaking, listening, reading, and writing, of elementary level.
Check hiragana and katakana, and memorize sentence pattern. And then study following a textbook.
Basically reading and writing practice will be done at home, and oral sentence pattern practice will be done in class.
Each lesson give students a homework.

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese A（国セ002）		
単位数	8 単位		
担当教員名 （職名）	MAJIMA Tomohide, 他		
初回開講日 （曜日・時限）	4 月 12 日 （ Mon. Tue. Thu. Fri. ・ 1st & 2nd ）		
授業時間	8:30-11:50		
開催会場 （教室）	International Student Center 101	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

・Intensive Japanese language course for beginners (8 classes per week) .
・Students will acquire four skills (listening, speaking, reading, writing) of Japanese learning.
・Students will start learning with Hiragana and Katakana but it is recommended to learn them by yourself beforehand.
・Reading and writing will be homework.
・Class activity will be mainly oral.
・Students must submit composition assignments after each lesson.

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese A（国セ002）		
単位数	8 単位		
担当教員名 （職名）	MAJIMA Tomohide, 他		
初回開講日 （曜日・時限）	10 月 3 日 （ Mon. Tue. Thu. Fri. ・ 1st & 2nd ）		
授業時間	8:30-11:50		
開催会場 （教室）	International Student Center 101	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

・Intensive Japanese language course for beginners (8 classes per week) .
・Students will acquire four skills (listening, speaking, reading, writing) of Japanese learning.
・Students will start learning with Hiragana and Katakana but it is recommended to learn them by yourself beforehand.
・Reading and writing will be homework.
・Class activity will be mainly oral.
・Students must submit composition assignments after each lesson.

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese A2（国セ004）		
単位数	8 単位		
担当教員名 （職名）	MAJIMA Tomohide, 他		
初回開講日 （曜日・時限）	4 月 12 日 （ Mon. 1st, Tue. 3rd, Thu. 3rd, Fri. 2nd ）		
授業時間	1st 8:30-10:00, 2nd 10:20-11:50, 3rd 12:50-14:20		
開催会場 （教室）	International Student Center 101	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

This is a 4 period per week class which students will study elementary four skills generally. Basically practicing reading and writing are required to study at home, in class oral practice with using sentence patterns will be a main practice.

Preparation requirement is to prepare for important words, the words list will be handed. Review is important.

As a composition will not be able to be checked in a class time, students will be expected to find someone, who is Japanese, to check your composition. Therefore, if you cannot find somebody, you may visit teacher's office for help.

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese A2（国セ004）		
単位数	8 単位		
担当教員名 （職名）	MAJIMA Tomohide, 他		
初回開講日 （曜日・時限）	10 月 3 日 （ Mon. 1st, Tue. 3rd, Thu. 3rd, Fri. 2nd ）		
授業時間	1st 8:30-10:00, 2nd 10:20-11:50, 3rd 12:50-14:20		
開催会場 （教室）	International Student Center 101	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

This is a 4 period per week class which students will study elementary four skills generally. Basically practicing reading and writing are required to study at home, in class oral practice with using sentence patterns will be a main practice.

Preparation requirement is to prepare for important words, the words list will be handed. Review is important.

As a composition will not be able to be checked in a class time, students will be expected to find someone, who is Japanese, to check your composition. Therefore, if you cannot find somebody, you may visit teacher's office for help.

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese Grammar A（国セ003）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	YAMAMOTO Yoshino		
初回開講日 （曜日・時限）	4 月 12 日 （ Tue.・3rd ）		
授業時間	12:50-14:20		
開催会場 （教室）	International Student Center 203	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

Grammar Exercise and Explanation in Japanese and English in Group

Students are expected to be able to
1. correctly understand Basic Japanese grammar to use in daily life【communication skill】
2. autonomously learn Japanese grammar【autonomous learning】
3. deepen the cross cultural understanding through the cooperative learning with international students who have different cultural background.【local and international outlook】

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese Grammar A（国セ003）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	YAMAMOTO Yoshino		
初回開講日 （曜日・時限）	10 月 4 日 （ Tue.・3rd ）		
授業時間	12:50-14:20		
開催会場 （教室）	International Student Center 203	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

Grammar Exercise and Explanation in Japanese and English in Group

Students are expected to be able to
1. correctly understand Basic Japanese grammar to use in daily life【communication skill】
2. autonomously learn Japanese grammar【autonomous learning】
3. deepen the cross cultural understanding through the cooperative learning with international students who have different cultural background.【local and international outlook】

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese Grammar A2（国セ005）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	YAMAMOTO Yoshino		
初回開講日 （曜日・時限）	4 月 12 日 （ Tue. 2nd・Thu. 4th （1st quarter））		
授業時間	2nd 10:20-11:50, 4th 14:40-1610		
開催会場 （教室）	International Student Center 203	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（ ）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

Students review the basic grammar of Japanese language and gain a basic ability to learn grammar autonomously after intermediate level. Students teach each other In groups in order to organize the basice grammar knowledge from new perspectives.

Students are expected to be able to
1. understand the Japanese basic grammar systematically and explain it to others【local and international outlook】
2. talk accurately using repertoires of frequently used routines and patterns associated with daily situations【communication skill】
3. get information from internet or dictionary and autonomously learn Japanese grammar【autonomous learning】【information literacy】

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	International Student Center		
授業科目名 （科目番号）	Japanese Grammar A2（国セ005）		
単位数	2 単位		
担当教員名 （職名）	YAMAMOTO Yoshino		
初回開講日 （曜日・時限）	10 月 4 日 （ Tue. 2nd・Thu. 4th （3rd quarter））		
授業時間	2nd 10:20-11:50, 4th 14:40-1610		
開催会場 （教室）	International Student Center 203	受講者のWebClass登録	NO
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可 ・否 It will be announced at later date. □Zoom・Teams □サテライトキャンパス □ 動画配信 □その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	a few		

授業内容

Students review the basic grammar of Japanese language and gain a basic ability to learn grammar autonomously after intermediate level. Students teach each other In groups in order to organize the basice grammar knowledge from new perspectives.

Students are expected to be able to
1. understand the Japanese basic grammar systematically and explain it to others【local and international outlook】
2. talk accurately using repertoires of frequently used routines and patterns associated with daily situations【communication skill】
3. get information from internet or dictionary and autonomously learn Japanese grammar【autonomous learning】【information literacy】

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	email / LINE
備考	In the case there are a large amount of applicants, we will carefully select applicants while taking various areas of balance into consideration

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	グローバル教育支援機構　国際教育センター			
授業科目名 （科目番号）	日本語B1S（国セ006）			
単位数	８単位			
担当教員名 （職名）	渡真利　聖子（講師）・ 元山　由美子（非常勤講師）・真島　知秀（非常勤講師）			
初回開講日 （曜日・時限）	４月　12日 （月曜日・1時限目、火曜日・1時限目、 水曜日・1時限目、木曜日・1時限目）			
授業時間	８:30～10:00			
開催会場 （教室）	地域国際学習センター　107教室	受講者の WebClass 登録	要　・　不要	
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可　・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐　動画配信 ☑その他（Microsoft OneNote）			
受講人員 （５～１０名以内）	５人			
授業内容	主に聞く・話す活動を通して、CEFR B1レベルの基礎的な日本語力を養成する。中級前半～中級中盤レベルの日本語教科書や生の教材を使い、学んだ語彙・表現を使い自分の考えをまとめることを目標とする。			
授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	●10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	●16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時の連絡はTeamsチャットにて行う。 課題等の連絡はTeams内Microsoft OneNoteにて行う。			
備考	・日本語非母語話者対象の日本語学習コース ・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。Teams投稿やチャットをよく確認してください。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学　部　・　学　科	グローバル教育支援機構　国際教育センター			
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	日本語B1F（国セ007）			
単　位　数	8単位			
担　当　教　員　名 （職　名）	渡真利　聖子（講師）・ 元山　由美子（非常勤講師）・真島　知秀（非常勤講師）			
初　回　開　講　日 (曜　日　・　時　限)	10月　3日 （月曜日・1時限目、火曜日・1時限目、 水曜日・1時限目、木曜日・1時限目）			
授　業　時　間	8:30～10:00			
開　催　会　場 （教　室）	地域国際学習センター　107教室	受講者のWebClass 登　録	要　・　不要	
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可　・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐　動画配信　☑その他（Microsoft OneNote）			
受　講　人　員 （５～１０名以内）	５人			
授　業　内　容	主に聞く・書く活動を通して、CEFR B1レベルの基礎的な日本語力を養成する。中級前半～中級中盤レベルの日本語教科書や生の教材を使い、学んだ語彙・表現を使い自分の考えをまとめることを目標とする。			
授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	●4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	●10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	●16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目標を 達成しよう			
受講者への連絡方法	休講時の連絡はTeamsチャットにて行う。 課題等の連絡はTeams内Microsoft OneNoteにて行う。			
備　考	・日本語非母語話者対象の日本語学習コース ・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。Teams投稿やチャットをよく確認してください。			

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学　部　・　学　科	グローバル教育支援機構　国際教育センター		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	読解B1S（国セ012）		
単　位　数	２単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	真島　知秀（非常勤講師）		
初　回　開　講　日 (曜　日　・　時　限)	4月　12日 （火曜日・4時限目）		
授　業　時　間	14:40～16:10		
開　催　会　場 （教　室）	地域国際学習センター　107教室	受講者のWebClass 登　録	要　・　不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可　・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐　動画配信　☐その他（　　）		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	１０人		

授　業　内　容

中級レベルの読解で必要な表現および文型を確認しながら、なるべく多くの文を読みます。
少し難しい表現があっても読み進めることのできる読解力を身につけます。
以下の２点の方法で読解に必要なスキルをつけます。
　１．予めテキストを与えて課題として精読してきた後、時間内に読解問題を解きます（論理的思考力の向上）。
　２．比較的短いテキストを使って授業内で初めて見る内容を速読した後、時間内に読解問題を解きます（スキミング〔skimming：全体の大意を理解する〕・スキャニング〔scanning：特定の情報を探し出す〕）。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	●4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備　考	・日本語非母語話者対象 ・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。Eメールをよく確認してください。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学　部　・　学　科	グローバル教育支援機構　国際教育センター		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	読解B1F（国セ013）		
単　位　数	２単位		
担　当　教　員　名 （職　名）	真島　知秀（非常勤講師）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	10月　4日 （火曜日・4時限目）		
授　業　時　間	１４：４０～１６：１０		
開　催　会　場 （教　室）	地域国際学習センター　１０７教室	受講者の WebClass 登　録	要　・　不要
ICT利用 (Zoom等を用いた遠隔授業)	可　・否 ☑Zoom・Teams　☐サテライトキャンパス　☐　動画配信　☐その他（　）		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	１０人		

授　業　内　容

中級レベルの読解で必要な表現および文型を確認しながら、なるべく多くの文を読みます。
少し難しい表現があっても読み進めることのできる読解力を身につけます。
以下の２点の方法で読解に必要なスキルをつけます。
　１．予めテキストを与えて課題として精読してきた後、時間内に読解問題を解きます（論理的思考力の向上）。
　２．比較的短いテキストを使って授業内で初めて見る内容を速読した後、時間内に読解問題を解きます（スキミング〔skimming：全体の大意を理解する〕・スキャニング〔scanning：特定の情報を探し出す〕）。

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	●4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長 も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責 任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や課題等の連絡はEメールにて行う。
備　考	・日本語非母語話者対象 ・感染拡大防止措置を実施した上で、対面講義を実施します。 ・対面講義が困難な場合、ZOOMを用いた遠隔講義またはオンデマンド型の遠隔講義を実施します。 ・実施方法を学期途中で変更する可能性があります。Eメールをよく確認してください。

令 和 4 年 度　　琉 球 大 学 公 開 授 業 計 画 書

学　部　・　学　科	医学研究科		
授　業　科　目　名 （科　目　番　号）	亜熱帯医学概論（　　）		
単　位　数	単位　未定		
担　当　教　員　名 （職　名）	斉藤美加（　　助教　　）		
初　回　開　講　日 （曜　日　・　時　限）	未定　　月　　日 未定（　曜日・時限目）		
授　業　時　間	90分		
開　催　会　場 （教　室）	未定	受講者のWebClass 登　録	要　・　不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可・否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受　講　人　員 （５～１０名以内）	10人		

授　業　内　容

〃

21世紀は感染症の時代である。八重山では米軍統治下、行政と住民の連携により、1962年マラリアは排除された。
授業では、八重山のマラリア対策の歴史を概観し、感染症時代を生き抜くための教訓を考察する。〃

授業の趣旨に 対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に 健康と福祉を	4:質の高い教育を みんなに
	5:ジェンダー平等を 実現しよう	6:安全な水とトイレを 世界中に	7:エネルギーを皆に そしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の 基盤を作ろう	10:人や国の不平等を なくそう	11:住み続けられる まちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に 具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正を すべての人に
	17:パートナーシップ で目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	教務と相談
備　考	令和3年の授業公開に関して、本部と上原キャンパスの連絡不足があったようで、学外周知がうまくいかなかったと聞いております。なお一層のご協力をお願いいたします。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	保健学研究科		
授業科目名 （科目番号）	緩和ケア特論（　　）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	照屋　典子　（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10　月　13日 （木曜日・時限目）		
授業時間	17:10～18:40（受講生の都合により17:30～となることもある）		
開催会場 （教室）	医学部保健学科棟　5F　517室	受講者のWebClass登録	要　・　不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可　・　否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

この講義では、エンド・オブ・ライフの医療に携わる看護師に必須とされる知識習得のために提供している教育プログラムの日本語版（ELNEC-J）を活用し、患者、家族のトータルペイン（身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛）及び様々な苦痛症状の緩和や倫理的問題の解決を目的とした看護援助方法について、教授する。また、緩和ケアが治療の初期段階から在宅医療など様々な場面において切れ目なく提供されるための知識の強化を図る。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や講義日程の変更、課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	※本講義の受講者は、臨床経験3年以上の看護師に限る。履修は、「緩和ケア特別演習Ⅰ」と合わせて受講すること。 ※講義日程の詳細については、受講者と調整を行う。

令和４年度　琉球大学公開授業計画書

学部・学科	保健学研究科		
授業科目名 （科目番号）	緩和ケア特別演習Ⅰ（　　）		
単位数	2単位		
担当教員名 （職名）	照屋　典子　（教授）		
初回開講日 （曜日・時限）	10　月　13 （木曜日・時限目）		
授業時間	19:00～20:30		
開催会場 （教室）	医学部保健学科棟　5F　517室	受講者のWebClass登録	要　・　不要
ICT利用 （Zoom等を用いた遠隔授業）	可　・　否 □Zoom・Teams　□サテライトキャンパス　□　動画配信　□その他（　　）		
受講人員 （５～１０名以内）	５人		

授業内容

この講義は、「緩和ケア特論」同様、エンド・オブ・ライフの医療に携わる看護師に必須とされる知識習得のために提供している教育プログラムの日本語版（ELNEC-J）を活用し、患者、家族のトータルペイン（身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛）及び様々な苦痛症状の緩和や倫理的問題の解決を目的とした看護援助方法について、具体的な演習や事例検討、グループ討議、ロールプレイ等を取り入れながら、看護実践力の強化を図る。

授業の趣旨に対応するSDGｓ	1:貧困をなくそう	2:飢餓をゼロに	3:すべての人に健康と福祉を	4:質の高い教育をみんなに
	5:ジェンダー平等を実現しよう	6:安全な水とトイレを世界中に	7:エネルギーを皆にそしてクリーンに	8:働きがいも経済成長も
	9:産業と技術革新の基盤を作ろう	10:人や国の不平等をなくそう	11:住み続けられるまちづくりを	12:つくる責任つかう責任
	13:気候変動に具体的な対策を	14:海の豊かさを守ろう	15:陸の豊かさも守ろう	16:平和と公正をすべての人に
	17:パートナーシップで目標を達成しよう			

受講者への連絡方法	休講時や講義日程の変更、課題等の連絡はEメールにて行う。
備考	※本講義の受講者は、臨床経験3年以上の看護師に限る。履修は、「緩和ケア特論」と合わせて受講すること。 ※講義日程の詳細については、受講者と調整を行う。

（様式7）

職業実践力育成プログラム（BP）として認定されたプログラムの廃止について

令和4年　月　日

文部科学大臣殿

国立大学法人琉球大学長
西田　睦　　印

職業実践力育成プログラムとして認定されたプログラムについて、下記のとおり廃止します。

記

①学校名：	国立大学法人琉球大学	②所在地：	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
③プログラム名：	観光産業科学部経営分析・ファイナンス・マクロ環境分析養成プログラム	④正規課程／履修証明プログラム：	履修証明プログラム
⑤認定年月日：	平成27年12月15日	⑥廃止予定年月日：	令和4年3月31日
⑦廃止理由：	科目を担当していた教員が退職したことに伴い、一部提供できない科目があり、履修証明プログラムの総時間数の要件を満たすことができないため。		

（様式7）

職業実践力育成プログラム（BP）として認定されたプログラムの廃止について

令和4年　月　日

文部科学大臣殿

国立大学法人琉球大学長
西田　睦　　印

職業実践力育成プログラムとして認定されたプログラムについて、下記のとおり廃止します。

記

①学校名：	国立大学法人琉球大学	②所在地：	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
③プログラム名：	観光産業科学部実践的マーケティング・課題解決技法養成プログラム	④正規課程／履修証明プログラム：	履修証明プログラム
⑤認定年月日：	平成27年12月15日	⑥廃止予定年月日：	令和4年3月31日
⑦廃止理由：	科目を担当していた教員が退職したことに伴い、一部提供できない科目があり、履修証明プログラムの総時間数の要件を満たすことができないため。		

（様式7）

職業実践力育成プログラム（BP）として認定されたプログラムの廃止について

令和4年　月　日

文部科学大臣殿

国立大学法人琉球大学長
西田　睦　　印

職業実践力育成プログラムとして認定されたプログラムについて、下記のとおり廃止します。

記

①学校名：	国立大学法人琉球大学	②所在地：	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
③プログラム名：	観光産業科学部人のマネジメント・リーダーシップ養成プログラム	④正規課程／履修証明プログラム：	履修証明プログラム
⑤認定年月日：	平成27年12月15日	⑥廃止予定年月日：	令和4年3月31日
⑦廃止理由：	科目を担当していた教員が退職したことに伴い、一部提供できない科目があり、履修証明プログラムの総時間数の要件を満たすことができないため。		

文部科学省

「職業実践力育成プログラム」（BP）認定制度について（概要）

― Brush up Program for professional ―

Brush up Program for professional

平成２７年３月　教育再生実行会議提言（第６次提言）
「「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について」

有識者会議において、認定要件等を検討

平成27年度から**社会人や企業等のニーズに応じて大学等が行う実践的・専門的なプログラム**を「職業実践力育成プログラム」（ＢＰ）として文部科学大臣が認定

【目的】

プログラムの受講を通じて社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を拡大

【認定要件】

- ○ 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の**正規課程及び履修証明プログラム**
- ○ **対象とする職業の種類及び修得可能な能力を具体的かつ明確に設定し、公表**
- ○ 対象とする職業に必要な実務に関する知識、技術及び技能を修得できる教育課程
- ○ 総授業時数の一定以上（５割以上を目安）を、以下の２つ以上の教育方法による授業で実施

①実務家教員や実務家による授業 （専攻分野における概ね５年以上の実務経験有）	**②双方向若しくは多方向に行われる討論** （課題発見・解決型学修、ワークショップ等）
③実地での体験活動 （インターンシップ、留学や現地調査等）	**④企業等と連携した授業** （企業等とのフィールドワーク等）

- ○ 受講者の成績評価を実施　○ 自己点検・評価を実施し、結果を公表（修了者の就職状況や修得した能力等）
- ○ **教育課程の編成及び自己点検・評価において、組織的に関連分野の企業等の意見を取り入れる仕組みを構築**
- ○ **社会人が受講しやすい工夫**の整備（週末開講・夜間開講、集中開講、オンライン授業、遠隔授業、ＩＴ活用等）

認定により、**①社会人の学び直す選択肢の可視化、②大学等におけるプログラムの魅力向上、③企業等の理解増進を図り、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しを推進**

※認定課程数（令和３年１０月現在）：**３１４課程**

（令和４年４月以降の認定課程数（予定）：**３５７課程**）

大学等における履修証明（certificate）制度の概要

（趣　　旨）

教育基本法第７条及び学校教育法第83条の規定により、教育研究成果の社会への提供が大学の基本的役割として位置づけられたことや、中教審答申の提言等を踏まえ、平成19年の学校教育法改正により、履修証明の制度上の位置付けを明確化。

これにより、各大学等（大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校）における社会人等に対する多様なニーズに応じた体系的な教育、学習機会の提供を促進。

（制度の概要）※　具体的要件については学校教育法施行規則（省令）において規定

以下の要件を満たす履修証明プログラムを大学等が提供できることとした。

○対象者：社会人（当該大学の学生等の履修を排除するものではない）

○内　容：大学等の教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラム

○期　間：目的・内容に応じ、総時間数１２０時間以上で各大学等において設定

○証明書：プログラムの修了者には、各大学等により、学校教育法の規定に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書を交付

○質保証：プログラムの内容等を公表するとともに、各大学等においてその質を保証するための仕組みを確保

※学生を対象とした学位プログラムとは異なり、単位や学位が授与されるものではない。

（基本的考え方）

○　プログラムの目的・内容として、多様かつ高度な、職業上に必要な専門的知識・技術取得のニーズに応じたもの、資格制度等とリンクしたもののほか、生涯学習ニーズへの対応など多様な目的・内容のプログラムを想定。

○　プログラムの目的・内容に応じて、職能団体や地方公共団体、企業等との連携を推奨。

○　履修証明のプログラムの研究開発、利活用促進のため、「大学・専修学校等における再チャレンジ支援推進プラン」（平成20年度予定額26億8,760万円）等により、各大学等における主体的取組を財政支援。

審議5

法人番号 82

第３期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書

令和４年６月

国立大学法人
琉　球　大　学

○　大学の概要

（１）現況（令和３年度末現在）

① 大学名
国立大学法人琉球大学

② 所在地
千原キャンパス（本部）：沖縄県中頭郡西原町
上原キャンパス：沖縄県中頭郡西原町

③ 役員の状況
学　長　西田　睦（平成 31 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）
理事数　6 人（うち、非常勤 1 人）
監事数　2 人（うち、非常勤 1 人）

④ 学部等の構成
学　部：人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、理学部、医学部、工学部、農学部
大学院：人文社会科学研究科、観光科学研究科、教育学研究科、医学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農学研究科、法務研究科
附置研究所：熱帯生物圏研究センター※
※は、共同利用・共同研究拠点又は教育関係共同拠点に認定された施設を示す。

⑤ 学生数及び教職員数（令和 3 年 5 月 1 日現在）
学 生 数：学　部　7,096 人（75 人）
大学院　880 人（122 人）　※（　）は留学生数で内数
教職員数：教　員　815 人（53 人）
職　員　1,478 人　※（　）は附属学校の教員数で外数

（２）大学の基本的な目標

１．琉球大学の目指すところ－Vision－

本学は、“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である Tropical Marine, Medical, and Island Sciences（TIMES：熱帯島嶼・海洋・医学研究）の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指す。

２．長期ビジョンの実現に向けて－Mission－

本学は、草創期からの理念を生かし、沖縄や日本、世界に貢献できる教育研究拠点を形成する。

① 新たな「地（知）の拠点」として、沖縄や日本、世界に貢献できる人材を育成し輩出する。
② 「知の津梁（架け橋）」として、Tropical Marine, Medical, and Island Sciences の一大拠点となり、その成果を沖縄や日本、世界に還元し、平和的な多文化共生社会の実現に貢献する。

３．第３期中期目標・中期計画の方針－Action－

本学は、第 3 期中期目標期間において、地域活性化の中核的拠点となるべく社会変革にしなやかに対応できるイノベーティブな大学としての歩みを加速する。

① 異なるものとの協働により、創造活動を生み出し続けるキャンパスを創出する。
② 「創造的な発想力」と、地域や地球規模での新たな課題に対して「果敢に挑戦する力」を持った人材を育成する。
③ 産学官連携と国際連携による組織的な連携を通じて多様な力を結集し、大学資源を有効に活用して、教育研究力をグローバルに展開する。

４．地域社会・国際社会への貢献－Outcome－

【教育を通した貢献】
国際的に通用する教育の質および学位の質を確保しつつ、諸学を往還する幅広い教養を基礎とし、高度な専門知識と課題探求能力を糧に世界で活躍・貢献できる人材を育成する。

【研究を通した貢献】
地域社会の持続的発展に必要な基礎的・基盤的研究を推進しつつ、地域特性を踏まえた研究に基づく独創的な研究成果と新たな価値の創出、地域社会の発展に資する異分野融合や学際的な研究の推進を通じて、アジア・太平洋地域における中核的な学術研究拠点の形成を目指す。

【社会・国際連携を通した貢献】
「ウチナーンチュ・ネットワーク」をはじめとするグローバル・ネットワークを活用し、産業界、行政機関ならびに国内外の大学・研究機関との連携を強化して、地域の活性化および国際化に貢献する。

【大学ガバナンス】
社会のニーズに対応するため、組織編成や財政基盤の強化、教育研究力の向上に資する取組を戦略的・機動的に展開し、自己点検・評価と外部評価を反映した大学運営を行う。

（３）大学の機構図

2～3 ページの機構図を参照

○　全体的な状況

法人の業務の実施状況について、大学の基本的な目標等を踏まえ、学長のリーダーシップの下、各法人の目指す方向性の実現に向けた取組や成果を学長が総括して記載してください。なお、記載分量は１～２枚程度とします。

※令和２及び令和３事業年度の取組について記載してください。

◎産学官連携の取組状況について【研究推進課】

◎大学入学者選抜の実施体制の強化に関する取組について【学生部】

◎新型コロナウイルス感染症への対応
学生関係【学生部】

3 / 33

研究関係【研究推進課】
情報基盤関係【情報企画課】
労務関係【職員課】
予算・施設設備関係【財務部】【施設運営部】
病院（診療）【上原キャンパス事務部企画課】
その他【総務部】【各部署】

※上記の【担当部署】は一例です。各部署で令和２及び３年度にコロナ対応の取組がありましたら、ご記入ください。

【地域連携推進課】
【中期計画２６】
・令和２年度は新型コロナウイルス感染症により、琉大生が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこでの課題の発見・解決等に取り組む「ちゅらプロ」の実施はできなかったが、これまでの「ちゅらプロ」の活動をまとめたアーカイブを作成した。

【中期計画２７】
・新型コロナウイルス感染症の影響で、令和２年度前学期には公開授業・公開講座が実施できなかったが、後学期以降は、オンラインでの開講や感染対策を講じた上での対面開講により、公開授業・公開講座を実施した。

・令和２年度は、新型コロナウイルス感染症対策として離島への渡航が制限されたことにより、現地での活動はできなかったが、伊江中学校と伊江島出身の琉大生とをオンラインでつなぎ、大学や進路、学習等に関する情報提供や対話を通して、交流を図った。

【中期計画２８】
・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年度前学期は目的別人材育成プログラムを実施できなかったが、後学期以降は、オンラインを中心に講義を実施した。

【中期計画２９】
・地域共創人材バンクに登録されている首里城再興学術ネットワークについて、令和２年１０月開催のシンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、会場と Youtube によるライブ配信によるハイブリッド方式により実施した。
・令和３年１０月に実施したシンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、Zoom ウェビナーによる完全オンラインにより実施した。

○　項目別の状況

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(1)　業務運営の改善及び効率化に関する目標
①　組織運営の改善に関する目標

中期目標	・学長のリーダーシップの下、大学資源の効果的な配分を行い、学内外の意見を積極的に取り入れ、戦略的かつ機動的な大学運営を推進する。 ・人材の多様性や流動性を高めて、教育研究の活性化を図る。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【47】学長のリーダーシップの下、大学情報の集約・分析等を担う大学評価IRマネジメントセンターと連携し、財務諸表等の基礎データに基づく経営分析や各部局の取組実績の評価等を通して、大学資源を戦略的・機動的に配分する。		（令和２及び３事業年度の実施状況） ※　令和２及び３事業年度の実施状況を記載してください。（以下同様）
【48】社会からの要請を大学運営に的確に反映し、戦略的かつ機動的な大学運営を行うため、経営協議会の他、顧問で構成されるアドバイザリー会議での意見を積極的に活用する。また、大学運営が適切に行われるよう、監事に対し教育研究や社会貢献の状況、大学のガバナンス体制等に関する情報を継続的に提供する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

【49】適切な業績評価体制による年俸制の適用教員比率を 12%以上に拡大するとともに、混合給与制度の併用によって、教育・研究・管理運営等において優れた業績を有する多様な 人材を確保する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【50】高い専門性を必要とする業務に携わる職員（リサーチ・アドミニストレーターなど）のキャリアパスを含めた研究推進機構等の組織・運営体制を平成 31 年度までに整備する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【51】ダイバーシティを推進し、多様な人材が活躍できる環境を整備するとともに、支援体制の充実・強化に向けて取り組む。また、女性管理職の割合を 20%以上に高める。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

○　中期目標欄は、「①組織運営の改善に関する目標」について、１枚に全て記載してください（以下同様）。
○　「進捗状況」の欄は、中期計画の記載事項ごとに、以下の４種類から該当するローマ数字を記載してください。また、「判断理由（計画の実施状況等）」の欄は、そのように判断した理由（実施状況等）を簡潔に記載してください。
・「中期計画を上回って実施している」（Ⅳ）
・「中期計画を十分に実施している」（Ⅲ）
・「中期計画を十分には実施していない」（Ⅱ）
・「中期計画を実施していない」（Ⅰ）
○　中期計画には、それぞれ整理番号を付し、対応関係が分かるようにしてください。
○　「判断理由（計画の実施状況等）」欄（令和２及び３事業年度の実施状況）には、当該計画について「令和元事業年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間（平成 28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する報告書」における「判断理由（計画の実施状況等）」の欄中、「令和２及び３事業年度の実施予定」欄に記載した内容の実施状況について記載してください。
○　「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている中期計画は、中期計画の文末に【◆】を付してください。

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(1)　業務運営の改善及び効率化に関する目標
②　教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標	・本学の有する強み、特色及び地域ニーズを踏まえ、豊かな未来社会を地域と共に実現していく大学に相応しい教育研究組織づくりを推進する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【52】地域活性化に資する人材育成機能の強化やグローバル化に対応するため、教員養成系学部・大学院、人文社会科学系及び学際系学部・大学院、理工系学部・大学院の組織の再編・整備を行う。その際、教育学部生涯教育課程を廃止し、教員養成系修士課程の一部は教職大学院に、一部は再編した大学院にすみやかに統廃合する。また、法科大学院やその他の教育研究組織についても、社会情勢を踏まえて必要な見直しを行う。さらに、共同利用・共同研究拠点においては、研究者コミュニティのニーズ等を調査し、その結果を踏まえて機能を強化する。【◆】		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【53】本学の教育研究及び社会貢献機能の強化に向けて、全学的な重点施策を牽引させるため、グローバル教育支援機構、研究推進機構及び地域連携推進機構等において学内外の人材が協働するプラットホームを整備する。【◆】		（令和２及び３事業年度の実施状況）

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(1)　業務運営の改善及び効率化に関する目標
③　事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	・職員の能力向上を図るとともに、事務業務の効率化、省力化、組織編成の見直し等の改善を行う。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【54】事務系職員の外国語能力や大学運営を支える企画力、コミュニケーション力などを育成するための研修プログラムを整備するとともに、外部研修への経費支援や派遣枠の拡大等により参加支援を強化する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【55】新たな機構等（大学運営推進組織）の設置に伴い、人材の有効活用を図り、効率的で合理的な事務組織の改編を行う。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

（１）　業務運営の改善及び効率化に関する特記事項等

１．特記事項

①中期計画を上回って実施した計画（自己評価を「Ⅳ」とした計画）の取組内容や成果、及び上回ったと考える根拠、②その他に特記すべき事項、③第３期中期目標期間４年目終了時及び令和２事業年度の評価結果において課題として指摘された事項があった場合、その対応状況を記載してください。各事項について、関連計画番号を付記してください。また、重要と考えるポイントに下線を引いてください。

なお、②の記載に当たっては、取組内容の記載だけではなく、取り組んだことによる成果や効果等（前年度との比較、数値の増減や、取組による改善事例など）があれば、併せて記載してください。

２．共通の観点に係る取組状況

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第３期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）別添１に掲げる観点に関係する取組の状況について観点ごとに令和２及び３事業年度の状況について総括的に記載してください。

（ガバナンス改革の観点）

・戦略的・効果的な法人運営・資源配分の仕組みとその効果

・内部監査や監事監査結果の法人運営への反映状況

※　記載分量については、２～３枚程度を目安として、法人の実情に応じて適宜調整してください。

※令和２及び令和３事業年度の取組について記載してください。

◎ガバナンスの強化に関する取組【総務部・財務部・監査室】

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(2)　財務内容の改善に関する目標
①　外部研究資金、寄附金、その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	・大型競争的資金及びその他外部資金を戦略的に獲得する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【56】URA（リサーチ・アドミニストレーター）による外部資金の情報収集や応募企画の立案など、外部資金獲得支援機能を強化し、大型競争的資金を獲得する。また、基金創設の一環として、ステークホルダーに対応した広報活動を行い、寄附金等の外部資金を獲得する。		（令和２及び３事業年度の実施状況） ※　令和２及び３事業年度の実施状況を記載してください。（以下同様）

○　中期目標欄は、「①組織運営の改善に関する目標」について、１枚に全て記載してください（以下同様）。
○　「進捗状況」の欄は、中期計画の記載事項ごとに、以下の４種類から該当するローマ数字を記載してください。また、「判断理由（計画の実施状況等）」の欄は、そのように判断した理由（実施状況等）を簡潔に記載してください。
・「中期計画を上回って実施している」（Ⅳ）
・「中期計画を十分に実施している」（Ⅲ）
・「中期計画を十分には実施していない」（Ⅱ）
・「中期計画を実施していない」（Ⅰ）
○　中期計画には、それぞれ整理番号を付し、対応関係が分かるようにしてください。
○　「判断理由（計画の実施状況等）」欄（令和２及び３事業年度の実施状況）には、当該計画について「令和元事業年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間（平成 28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する報告書」における「判断理由（計画の実施状況等）」の欄中、「令和２及び３事業年度の実施予定」欄に記載した内容の実施状況について記載してください。
○　「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている中期計画は、中期計画の文末に【◆】を付してください。

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(2)　財務内容の改善に関する目標
②　経費の抑制に関する目標

中期目標	・効率的な組織運営に資するため人件費を適正に管理するとともに、管理的経費を抑制する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【57】総人件費を抑制するため、平成28年度に策定する人件費の長期的な管理計画（人件費管理計画）に沿って人件費を適正に管理するとともに、随時、人件費管理計画の見直しを行う。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【58】教職員のコスト意識を啓発するとともに、管理的経費の状況の検証を行い、一般管理費比率を3.5%以内に抑制する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(2)　財務内容の改善に関する目標
③　資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	・大学経営の安定化に資するため、資金を効果的に運用・管理する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【59】寄附金や大学運営費の収支状況に基づき、余裕金の運用計画を策定し、流動性、安全性を確保した資金の運用管理を行い、効果的に運用収入を確保する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

（２）　財務内容の改善に関する特記事項等

１．特記事項

①中期計画を上回って実施した計画（自己評価を「Ⅳ」とした計画）の取組内容や成果、及び上回ったと考える根拠、②その他に特記すべき事項、③第３期中期目標期間４年目終了時及び令和２事業年度の評価結果において課題として指摘された事項があった場合、その対応状況を記載してください。各事項について、関連計画番号を付記してください。また、重要と考えるポイントに下線を引いてください。

なお、②の記載に当たっては、取組内容の記載だけではなく、取り組んだことによる成果や効果等（前年度との比較、数値の増減や、取組による改善事例など）があれば、併せて記載してください。

２．共通の観点に係る取組状況

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第３期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）別添１に掲げる観点に関係する取組の状況について観点ごとに令和２及び３事業年度の状況について総括的に記載してください。

（財務内容の改善の観点）
・既定収入の見直しや新たな収入源の確保に向けた取組
・財務情報に基づく財務分析結果の活用状況

※　記載分量については、２～３枚程度を目安として、法人の実情に応じて適宜調整してください。

※令和２及び令和３事業年度の取組について記載してください。

◎財務基盤の強化に関する取組【財務部・基金室】

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(3)　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
①　評価の充実に関する目標

中期目標	・大学の教育研究及び組織運営の改革と改善に繋がる客観的かつ効果的な自己点検・評価活動を行う。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【60】教育･研究等に関する大学活動状況について外部評価結果等を活用した分析に基づき、自己点検・評価を実施する。		（令和２及び３事業年度の実施状況） ※　令和２及び３事業年度の実施状況を記載してください。（以下同様）
【61】教育研究組織の改革を含めた組織運営活動等の改善を支援するため、客観性を有するデータを活用した自己点検・評価を行う体制を構築する。		

○　中期目標欄は、「①組織運営の改善に関する目標」について、１枚に全て記載してください（以下同様）。
○　「進捗状況」の欄は、中期計画の記載事項ごとに、以下の４種類から該当するローマ数字を記載してください。また、「判断理由（計画の実施状況等）」の欄は、そのように判断した理由（実施状況等）を簡潔に記載してください。
・「中期計画を上回って実施している」（Ⅳ）
・「中期計画を十分に実施している」（Ⅲ）
・「中期計画を十分には実施していない」（Ⅱ）
・「中期計画を実施していない」（Ⅰ）
○　中期計画には、それぞれ整理番号を付し、対応関係が分かるようにしてください。
○　「判断理由（計画の実施状況等）」欄（「令和２及び３事業年度の実施状況）には、当該計画について「令和元事業年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間（平成 28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する報告書」における「判断理由（計画の実施状況等）」の欄中、「令和２及び３事業年度の実施予定」欄に記載した内容の実施状況について記載してください。
○　「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている中期計画は、中期計画の文末に【◆】を付してください。

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(3)　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
②　情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標	・戦略的広報を強化し、ステークホルダーを視野に入れて大学情報を積極的に発信する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【62】平成 27 年度に策定した広報戦略及びアクションプランを随時見直し、ステークホルダーに向けた広報活動を強化するとともに、大学情報について、各種の広報媒体を活用して国内外に発信する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

（３）　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する特記事項等

１．特記事項

①中期計画を上回って実施した計画（自己評価を「Ⅳ」とした計画）の取組内容や成果、及び上回ったと考える根拠、②その他に特記すべき事項、③第３期中期目標期間４年目終了時及び令和２事業年度の評価結果において課題として指摘された事項があった場合、その対応状況を記載してください。各事項について、関連計画番号を付記してください。また、重要と考えるポイントに下線を引いてください。

なお、②の記載に当たっては、取組内容の記載だけではなく、取り組んだことによる成果や効果等（前年度との比較、数値の増減や、取組による改善事例など）があれば、併せて記載してください。

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(4)　その他業務運営に関する重要目標
①　施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標	・教育・研究を活性化するため、既存施設設備の有効活用を促進するとともに、教育研究に即した環境を創出する。 ・地球環境への配慮や施設運営の効率化のために省エネルギーマネジメントを行う。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【63】施設スペースの調査及び設備の利用状況調査を行い、既存施設設備の活用状況を把握して有効活用を促進するとともに、国の財政状況を踏まえ教育研究に則した施設設備の整備を行う。		（令和２及び３事業年度の実施状況） ※　令和２及び３事業年度の実施状況を記載してください。（以下同様）
【64】亜熱帯気候特有の環境に配慮した地球温暖化対策及び施設の省エネルギー改修を国の財政状況を踏まえ計画的に実施し、効果を検証してその結果を省エネルギー改修計画に反映させる。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

○　中期目標欄は、「①組織運営の改善に関する目標」について、１枚に全て記載してください（以下同様）。
○　「進捗状況」の欄は、中期計画の記載事項ごとに、以下の４種類から該当するローマ数字を記載してください。また、「判断理由（計画の実施状況等）」の欄は、そのように判断した理由（実施状況等）を簡潔に記載してください。
・「中期計画を上回って実施している」（Ⅳ）
・「中期計画を十分に実施している」（Ⅲ）
・「中期計画を十分には実施していない」（Ⅱ）
・「中期計画を実施していない」（Ⅰ）
○　中期計画には、それぞれ整理番号を付し、対応関係が分かるようにしてください。
○　「判断理由（計画の実施状況等）」欄（令和２及び３事業年度の実施状況）には、当該計画について「令和元事業年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間（平成 28～令和元事業年度）に係る業務の実績に関する報告書」における「判断理由（計画の実施状況等）」の欄中、「令和２及び３事業年度の実施予定」欄に記載した内容の実施状況について記載してください。
○　「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている中期計画は、中期計画の文末に【◆】を付してください。

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(4)　その他業務運営に関する重要目標
②　安全管理に関する目標

中期目標	・大学運営に関し、安全を確保するための措置を行い、労働安全衛生法を踏まえた安全管理体制を堅持する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【65】災害発生等に対応した安全管理体制を整備するとともに、学生及び教職員に対し健康で安全な教育・職場環境の保持・改善に取り組む。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(4)　その他業務運営に関する重要目標
③　法令遵守等に関する目標

中期目標	・大学情報資産等の管理徹底を図るための管理体制を再構築し、情報セキュリティ対策を強化する。 ・適正な大学運営及び本学の社会的信頼の向上を図るため、コンプライアンス体制を整備する。 ・研究における不正行為及び研究費の不正使用の防止に関し、ガイドラインに基づく適正な管理体制を確立する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【66】情報セキュリティポリシーに関する規定等を見直すとともに学内の情報基盤整備・管理及び総合情報処理センターで取得したISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の教育水準でセキュリティ教育を充実する。また、学内で端末等を利用する全教職員・学生に対し、検疫システムの機能を利用し、効果的なユーザ教育・啓発を行い、セキュリティ意識の改革を促す。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【67】総合情報処理センターで取得したISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）制度に基づいた運用を行うとともに、情報基盤統括センターとして全学的な組織に見直し、情報セキュリティの管理体制の整備・信頼性の向上等の取組を強化する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

【68】コンプライアンス・危機管理室を設置して、内部統制を強化するとともに、教職員のコンプライアンス意識を高めるため、コンプライアンス研修等の具体的な諸施策を立案して実施するとともに、業務方法書に基づくモニタリング（点検・評価）を恒常的に実施する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【69】研究における不正行為及び研究費の不正使用の防止に関し、各種規程、規範及び方針の周知を徹底するとともに、e ラーニングやセミナー等による倫理教育を行う。さらに不正防止の意識を高める取組を点検し、改善を行う。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

Ⅰ　業務運営・財務内容等の状況
(4)　その他業務運営に関する重要目標
④　上原キャンパス移転に関する目標

中期目標	・教育・研究を活性化するため、既存施設設備の有効活用を促進するとともに、教育研究に即した環境を創出する。 ・地球環境への配慮や施設運営の効率化のために省エネルギーマネジメントを行う。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【70】医学部及び附属病院の移転基本構想に基づき、基本計画及び基本設計を作成し、国の財政状況を踏まえ移転に向けた作業を進める。		（令和２及び３事業年度の実施状況） ※　令和２及び３事業年度の実施状況を記載してください。（以下同様）

（４）　その他業務運営に関する特記事項等

１．特記事項

①中期計画を上回って実施した計画（自己評価を「Ⅳ」とした計画）の取組内容や成果、及び上回ったと考える根拠、②その他に特記すべき事項、③第３期中期目標期間４年目終了時及び令和２事業年度の評価結果において課題として指摘された事項があった場合、その対応状況を記載してください。各事項について、関連計画番号を付記してください。また、重要と考えるポイントに下線を引いてください。

なお、②の記載に当たっては、取組内容の記載だけではなく、取り組んだことによる成果や効果等（前年度との比較、数値の増減や、取組による改善事例など）があれば、併せて記載してください。

２．共通の観点に係る取組状況

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第３期中期目標期間の業務実績評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）別添１に掲げる観点に関係する取組の状況について観点ごとに令和２及び３事業年度の状況について総括的に記載してください。

（法令遵守及び研究の健全化の観点）
・法令遵守（コンプライアンス）に関する体制及び規程等の整備・運用状況
・災害、事件・事故等の危機管理に関する体制及び規定等の整備・運用状況
・研究者及び学生に対する研究倫理教育の実施状況

※　記載分量については、２～３枚程度を目安として、法人の実情に応じて適宜調整してください。

※令和２及び令和３事業年度の取組について記載してください。

◎法令遵守（コンプライアンス）に関する取組【総務部・研究推進課】

・「サイバーセキュリティ対策等基本計画」に基づく取組

・法令遵守違反の未然防止に向けた取組

◎施設マネジメントに関する取組について【施設運営部】

①施設の有効利用や維持管理（予防保全を含む）に関する事項
②キャンパスマスタープラン等に基づく施設整備に関する事項
③多様な財源を活用した整備手法による整備に関する事項
④環境保全対策や積極的なエネルギーマネジメントの推進に関する事項

◎その他に特記すべき事項【キャンパス移転推進室】

Ⅱ　大学の教育研究等の質の向上
(4)　その他の目標
③ 附属病院に関する目標

中期目標	・沖縄県地域医療構想における高度急性期医療を担いつつ、地域完結型医療の中核となる。 ・県民の期待に応えることのできる安心・安全な診療体制を築く。 ・医療の質の確保及び向上のため、医師主導型臨床研究等質の高い研究を推進する。 ・沖縄県の地域特性を踏まえ、地域医療を支える多様な医療人を養成する。 ・継続可能で安定した病院運営のための経営に取り組む。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【36】医療機関の機能分化に向け地域連携部門及び救急部の機能を強化し、紹介・逆紹介の推進等、地域医療機関との連携推進や重症患者の受入等高度な医療を提供する診療体制を構築する。【◆】		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【37】シミュレーションセンターを活用し、医療安全に係る訓練や医療事故防止のための研修の実施等を通して継続的に医療の質の向上を図り、安全管理体制及び感染制御体制を強化する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

【38】質の高い臨床研究を実施するためのマネジメント体制を構築するとともに､OJT を踏まえた魅力ある教育プログラムの提供や研究に対するメンタリングの実施等により、医師主導型臨床研究を実施できるスキルを持った医療人（医師、看護師、薬剤師等）を養成する。【◆】		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【39】. 患者本位の質の高い医療を提供できる医療人（専門医や認定看護師等）を養成するため、資格取得研修への参加を支援する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【40】地域枠学生をはじめとする医学生の臨床実習・臨床研修を県内外の離島・へき地の診療所で実施し、地域の実情を踏まえた研修内容を充実させ、高度な医療と地域医療を担う優れた医療人を養成して、医師の地域偏在の解消や医師不足病院の支援に取り組む。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

【41】女性医師等の復職支援プログラムの実施等、ライフステージに応じたキャリアの維持・発展を支援する体制を構築し、地域で活躍する医療人材を確保する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【42】客観的な指標に基づいた経営分析を行い、他の国立大学病院や県内医療機関との比較を通じて本院の「強み、弱み」を明らかにし、目標項目（新入院患者数の増や入院期間の適正化等）の設定を通して経営改善に取り組む。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

Ⅱ　大学の教育研究等の質の向上
(4)　その他の目標
④ 附属学校に関する目標

中期目標	・学部・大学院並びに地域の教育機関等と連携協力し、教育に関する先導的・実践的研究及び教育実習等を充実させ、地域の学校教育の質の向上に貢献する。

中期計画	進捗状況	判断理由（計画の実施状況等）
【43】学部及び大学院との学力向上等の地域課題に関する共同研究や地域の学校及び教育機関との連携による授業改善の実践を通して、学力向上等の授業モデルを公立学校に提供する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【44】教職を目指す学生の意欲や実践的能力を涵養するため、教員養成カリキュラム（教育実習・教育実地研究、児童生徒と関わる体験活動）や附属学校でのキャリア教育（ジョブシャドウ）において、教育学部と連携して学生を受け入れ、学生が児童生徒と直接的に交流できる現場を広く提供する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

【45】地域における学校教育の推進方策に資するため、組織マネジメント、カリキュラム開発及び児童生徒の多様な学びを実現する授業環境整備の在り方等に関する調査研究を行い、小中一貫教育推進モデルを提供する。		（令和２及び３事業年度の実施状況）
【46】学校教育のグローバル化に向けて、国際教育センターや独立行政法人国際協力機構（JICA）、外国人子弟との積極的な交流学習を通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を促進するためのカリキュラム開発を行う。		（令和２及び３事業年度の実施状況）

○　中期目標欄は、「③附属病院に関する目標」及び「④附属学校に関する目標」について、それぞれ１枚に全て記載してください。
○　「進捗状況」の欄は、中期計画の記載事項ごとに、以下の４種類から該当するローマ数字を記載してください。また、「判断理由（計画の実施状況等）」の欄は、そのように判断した理由（実施状況等）を簡潔に記載してください。
・「中期計画を上回って実施している」（Ⅳ）
・「中期計画を十分に実施している」（Ⅲ）
・「中期計画を十分には実施していない」（Ⅱ）
・「中期計画を実施していない」（Ⅰ）
○　中期計画には、それぞれ整理番号を付してください。
○　「判断理由（計画の実施状況等）」欄には、当該計画について「令和元年度に係る業務の実績及び第３期中期目標期間（平成 28～令和元年度）に係る業務の実績に関する報告書」における「判断理由（計画の実施状況等）」の欄中、「令和２及び３事業年度の実施予定」欄に記載した内容の実施状況について記載してください。
○　「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている中期計画は、中期計画の文末に【◆】を付してください。

Ⅱ　教育研究等の質の向上の状況に関する特記事項

「産業競争力強化法の規定による出資等」、「附属病院」、「附属学校」の令和２及び３年度の取組等について、各項目の注釈に従って記載してください。

○附属病院について【上原キャンパス事務部企画課】

「国立大学法人の第３期中期目標期間に係る業務の実績における附属病院の評価について」を参考に、以下の点について、大学病院（医学部附属病院・歯学部附属病院・研究所附属病院）の認識、取組状況及びその成果、また、それらに係る具体的指標を示し、明確に分かりやすく記載してください。

１．評価の共通観点に係る取組状況

（１）質の高い医療人育成や臨床研究の推進等、教育・研究機能の向上のために必要な取組が行われているか。（教育・研究面の観点）

（２）大学病院として、質の高い医療の提供のために必要な取組が行われているか。（診療面の観点）

（３）継続的・安定的な病院運営のために必要な取組が行われているか。（運営面の観点）

２．その他

その他、大学病院を取り巻く諸事情（当該大学固有の問題）への対応状況等

※　複数の附属病院を有する法人については、どの附属病院に関する記述かがわかるように記載してください。

○附属学校について【教育学部附属学校】

「国立大学法人の第３期中期目標期間に係る業務の実績における附属学校の評価について」を参考に、以下の点について、特に改善された事項や特色ある取組を明確に分かりやすく記載してください。

１．特記事項

重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項を記載してください。

なお、記載に当たっては、取組内容の記載だけではなく、取り組んだことによる成果や効果等があれば、併せて記載してください。

２．評価の共通観点に係る取組状況

（１）教育課題への対応について

○　学校現場が抱える教育課題について、実験的、先導的に取り組んでいるか。

○　審議会答申などにより明確となる新たな教育課題や国の方策について、率先して取り組んでいるか。

○　地域における指導的あるいはモデル的な学校となるように、多様な子供たちを受け入れながら、様々な教育課題の研究開発の成果公表等に取り組んでいるか。

（２）大学・学部との連携

○　附属学校の運営等について、大学・学部側との間で協議機関等が設置され十分に機能しているか。

○　大学・学部の教員が、学校現場での指導を経験する意義を踏まえ、一定期間附属学校での授業の担当や、行事への参加などについてのシステムが構築されているか。

○　附属学校が大学・学部におけるＦＤの実践の場として活用されているか。

○　大学・学部のリソースを生かしながら、質の高い教育課程や教育方法の開発に取り組んでいるか。

○　附属学校での実践研究の成果が大学・学部の教員養成カリキュラムに反映されるシステムが構築されているか。

①大学・学部における研究への協力について

○　大学・学部の教育に関する研究に組織的に協力する体制の確立及び協力の実践が行われているか。

○　大学・学部と附属学校が連携して、附属学校を活用する具体的な研究計画の立案・実践が行われているか。

○大学・学部との連携により、学校における実践的課題解決に資するための研究活動が行われているか。

②教育実習について

○　質の高い教育実習を提供する実践的な学修の場としての実習生の受入を進めているか。

○　大学・学部の教育実習計画は、附属学校を十分活用したものとなっているか。（附属学校と公立学校での教育実習の有機的な関連づけについて検討が進められているか。）

○　大学・学部の教育実習の実施への協力を行うために適切な組織体制となっているか。

○　大学・学部と遠隔地にある附属学校については、教育実習の実施に支障が生じていないか。

（３）地域との連携

○　教育委員会と附属学校との間で組織的な連携体制が構築されているか。

○　地域の学校が抱える教育課題の解決に教育委員会と連携して取り組んでいるか。

○教育委員会と連携し、広く県内から計画的に教員の派遣・研修が行われているか。また研修後に各地域に研修成果を生かした貢献ができているか。

（４）附属学校の役割・機能の見直し

○　附属学校の使命・役割を踏まえた附属学校の在り方やその改善・見直しについて十分な検討や取組が行われているか。

○　附属学校として求められる機能の強化を図る観点から、その規模も含めた存在意義の明確化や大学の持つリソースの一層の活用がなされているか。

※　記載分量については、２～３枚程度を目安として、法人の実情に応じて適宜調整してください。

参　考

学内戦略第１１７号
令和４年１月２１日

各　理　事　　殿

副理事（評価・ＩＲ担当）
越 野 泰 成
（公印省略）

「第３期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書」の作成等について（依頼）

国立大学法人等は、中期目標期間における業務の実績について、文部科学省の国立大学法人評価委員会の評価を受けることになっております（国立大学法人法第31条の２第１項）。

第３期中期目標期間（2016（平成28）年度～2021（令和３）年度）においては、４年目終了時及び中期目標期間終了時に中期目標の達成状況についての評価が実施されることとなっており、必要書類の提出が求められております。

ついては、各理事において、下記のとおり「第３期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書」を作成いただき、提出願います。

記

１．提出書類の作成方法及び提出期限：
別添参考資料１及び２をご参照の上、令和４年２月２５日（金）までにご提出ください。

２．提出先及び提出方法：経営戦略課評価・ＩＲ係宛てメールで提出願います。

【本件に関する照会先】
総合企画戦略部経営戦略課　東
評価・ＩＲ係　喜舎場・菊澤・玉城
内　線：8109、8011
E-mail：kshyouka@acs.u-ryukyu.ac.jp

令和４年２月１７日

委託非常勤講師の変更について

１．委託非常勤講師採用予定者

株式会社シーエー・アドバンス　執行役員　　崎浜（さきはま） 優耶（ゆうや）

２．変更理由

平成２７年度から実施しているＣＯＣ＋「**新たな地域社会を創造する『未来叶い(ミライカナイ』プロジェクト**」では事業協働機関の協力による寄附講座を開講し、それらの科目はＣＯＣ＋終了後も本学の共通教育科目として継続している。このうち、平成２９年度の後学期から開講している**共通教育等科目**の**琉大特色・地域創生特別講義Ⅵ「地域創生のためのデジタルマーケティング実践」**は、沖縄県が主要産業として位置づける情報通信産業に関して、沖縄でインターネットサービス業を展開する株式会社シーエー・アドバンスの協力を得て実施している。１５回の授業の前半でインターネットによるデジタルマーケティングの手法を講義により学び、後半では実在の地元企業を事例として、Ｆａｃｅｂｏｏｋ上に実際に学生が考えたオンライン広告を配信する実習を行い、結果の考察や広告主企業への配信レポートを行うなど実践的な内容となっている。講師の謝金・旅費等は株式会社シーエー・アドバンスの負担により実施しており、本学の負担はオンライン広告を配信する実習における実費のみとなっている。（Ｆａｃｅｂｏｏｋ社に支払う広告費を本学と株式会社シーエー・アドバンス及び商材を扱う地元企業の３者で按分）

対象科目開講当初より株式会社シーエー・アドバンス代表取締役社長の**平川（ひらかわ） 義修（よしのぶ）**氏を委託非常勤講師として採用し授業を担当して頂いてきているが、今般同社での担当の変更にともない、対象科目の担当も変更することとし、同社執行役員の**崎浜（さきはま） 優耶（ゆうや）**氏を新たに委託非常勤講師として採用することと致したい。なお、費用負担については、今後もこれまで通り継続することで調整している。

３．採用期間　　令和４年１０月１日～令和５年３月３１日（更新可能）

４．略歴書　　別紙のとおり

社名	株式会社シーエー・アドバンス CA ADvance, Inc.
設立	2008 年 6 月 2 日
資本金	20 百万円
業種	インターネットサービス業
事業内容	インターネット広告事業 メディア事業 ゲーム事業 クリエイティブ事業 ライティング事業
従業員数	900 名
役員	【シーエー・アドバンス】 代表取締役 内藤 貴仁 取締役 中村 広毅 取締役 小池 政秀 取締役 蜷川 親将 取締役 毛利 真崇 取締役 平川 義修 執行役員 崎浜 優耶 執行役員 洲鎌 未寿
主要株主	株式会社サイバーエージェント 100%（4751：東証一部上場）

（案）

女子中高生の理系進路選択支援プログラム
企画提案書

【１】応募概要

企画名		島をつなぐ美ら夢サイエンスプロジェクト『琉球リケジョ』	一方を○で囲んでください 新規 ・ 再応募
実施機関	ふりがな	こくりつだいがくほうじん　りゅうきゅうだいがく	
	名称	国立大学法人　琉球大学	
	ふりがな	がくちょう　にしだ　むつみ	
	実施責任者名（役職、氏名）	学長　西田　睦	
	ふりがな	りゅうきゅうだいがく　ちいきれんけいすいしんきこう	
	実施主体となる部局	琉球大学　地域連携推進機構	
	所在地	〒903-0213　沖縄県中頭郡西原町字千原１番地	
	連絡先	電話　098-895-8997　　E-Mail　chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp FAX　098-895-8185	
	ふりがな	りゅうきゅうだいがく　りじ・ふくがくちょう（ちいきこうけん・こくさいこうりゅう・こうほうたんとう）／ちいきれんけいすいしんきこうちょう　うしくぼ　きよし	
	実施主担当者名（所属、役職、氏名）	琉球大学　理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報担当）/地域連携推進機構長 牛窪　潔	
	応募資格	☑有 女性研究者・技術者または女子学生を所属させ、科学技術に関する研究・開発、教育を行っている機関、またはそれらの機関を取りまとめることのできる機関である。	
共同機関名称		沖縄県教育委員会	
実施協定を締結する共同機関		無 ・ 有 （機関名称:　　）	
連携機関名称		沖縄科学技術大学院大学、日本トランスオーシャン航空株式会社、一般財団法人沖縄美ら島財団、沖縄県水産海洋技術センター、株式会社国際システム、有限会社共栄コントロールズ	
企画対象地域	沖縄県および奄美地域	所要経費総額	1年目（JST支援分）3,000,000円 1年目（自己財源）1,100,000円 2年目（JST支援分）3,000,000円 2年目（自己財源）1,100,000円
教育委員会の参加状況		☑ 提案書提出時に参加が確定　・　☐ 令和4年9月末までに参加を想定	
企画概要		沖縄・奄美地域の女子中学生及び高校１年生を主な対象に、生徒の理系進路に対する意識段階に応じたプログラムを行う。学校への出前授業や地域イベントでの出展を通して、理系分野への気づきを引き出し、実験やフィールドワークなどの主体的活動を伴う企画を通して、より確かな理系進路へ繋げる。さらに、県教育委員会との連携のもと、教員を対象とした研修会や保護者対象のイベントを開催し、進路選択から大学進学、就職までを見通せる説明会を実施する。また、島嶼地域の女子中高生に対して、市町村教育委員会の協力のもと、出前授業やオンライン型イベントを開催し、地域全体における理系進路選択の環境醸成を目指す。	

【２】実施機関の概要

実施機関である琉球大学は、地域との共生・協働によって「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指している。特に、沖縄県に立地する唯一の総合大学として、多様な人材育成と科学技術の振興に貢献する責務を負っており、県の『沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（平成 29 年改定)』でも、「人材育成、研究機能及び地域貢献活動の強化」を本学に求めている。

平成 24 年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」、27 年度に「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型)」、令和元年度には「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型)」に採択され、女性研究者の研究環境整備や育成、女性研究者在職比率増加への取組など、男女共同参画に関して全学的に取組んでいる。

次世代層の育成については、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受け、平成 29 年度より小中学生を対象としたジュニアドクター育成塾、30 年度より高校生を対象としたグローバルサイエンスキャンパスを実施し、卓越した意欲や非凡な才能を持つ小中高生に、科学者として必要な基盤的能力を育成するプログラムを提供してきた。

女子中高生については、平成 27 年度に沖縄科学技術大学院大学と連携した理系進路支援事業を立ち上げ、30 年度からは JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラムとして、県全体での活動を展開してきた（第一期・二期)。

今回の応募では、本学が蓄積してきた科学教育プログラムの知見を最大限に活用し、女子中高生（特に中学生)・教員・保護者に重点を置いたプログラムを、離島を含む対象地域全体で実施し、地域全体における理系進路選択の環境の醸成を目指す。

【３】類似事業の実績などに関する事項

（１）過去における類似事業に関する事項など

（１）過去における類似事業の活動実績

本学は、平成 30 年度から国立研究開発法人科学技術振興機構（JST)「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の支援を受け、沖縄県教育委員会や県内企業・団体と連携し、沖縄本島を中心に支援プログラムを展開してきた。令和 2 年度からは、第一期で課題とされていた、島嶼地域及び女子中学生への対策強化を目指した事業を展開した。新型コロナウイルス感染症対策の一環で、イベントの開催形式を「対面参加型」「オンライン参加型」「対面・オンライン併用型」、「オンデマンド型」の 4 つの形態に分け、状況に応じて開催した。その結果、もとより対面での参加が困難であった島嶼地域の女子生徒も参加しやすくなり、島嶼地域からの参加者比率は、第一期の 2%か 6%に増加した。女子中学生への対策についても、県教育委員会の協力により、県内中学校に本事業が広く周知されたことで、多くの学校から出前授業や理系進路相談会等の依頼があり、第二期（令和 3 年度）の中学生の参加比率は 40%となり、第一期の 8%から大幅に改善した。

（２）今回の応募内容との相違点や発展性

第三期となる本応募では、これまでに得られた知見やノウハウをもとに、理系分野への気づきから、確かな理系選択に繋がる段階的な支援を女子中高生に提供する。

理系進路への意識を高めるには、理系科目への苦手意識が芽生える前段階での働きかけが重要である。本事業では、中学生の参加比率の目標を 50%に設定する。そこで、県教育委員会との連携のもと、市町村教育委員会にも協力を要請し、学校訪問型の出前授業等を充実させることで、理系進路希望者の裾野の拡大を目指す。また、ICT を活用したオンライン参加型の企画により、離島からの参加者比率の増加を目指す。これらの企画で理系分野に関心を持った女子中高生に対しては、実験やフィールドワークなどの主体的活動を伴う企画への参加を促し、より確かな理系進路へ繋げる。企画の周知には、これまでに整備してきたメーリングリストや SNS（Instagram、Twitter)、ホームページを利用する。また、メーリングリストを活用した追跡調査も行い、理系進路選択の効果的な企画について検証を行い、企画に反映させる。

さらに、教員や保護者を対象にした企画の充実を図る。進路選択から大学進学、就職までを見通せるイベントを通して、理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上を狙う。

以上の事業を実施するためには、地域との連携の強化が重要となる。令和 4 年度からは、事業実施運営組織を、地域連携のノウハウを有する学内の地域連携推進機構に移し、効果的な活動を展開する。

（２）女性科学者などに関する補助金などについて
「応募中の企画」もしくは「受入予定の企画」の有無

㊙ ・ 有　（㊒の場合には次の表に記載をお願いします。）

①応募中の企画				
資金制度・補助金名など（研究期間・配分機関など名）	課題名など（代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和３年度の補助金などの額	内容の相違点および他の補助金などに加えて本プログラムに応募する理由
②受入予定の企画				
資金制度・補助金名など（研究期間・配分機関など名）	課題名など（代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和３年度の補助金などの額	内容の相違点および他の補助金などに加えて本プログラムに応募する理由

【４】企画の内容

（１）企画全体の目的、達成目標

企画全体の目的、達成目標とその検証方法を記述してください。

◆企画全体の目的

製造業など理工系分野の職種が少ない沖縄県及び奄美地域の女子中高生に対し、理系の知識や経験をいかした仕事内容や働き方、キャリア形成に関するロールモデルを学校訪問型の出前授業や、地域のイベントでの出展を通して、理系分野へ気づきを引き出す。理系分野に関心を持った生徒に対しては、実験やフィールドワークなどの主体的活動を伴う体験プログラムを提供し、より確かな理系進路へ繋げる。このような段階的なプログラムを提供することで、理系進路を志す女子中高生の裾野拡大を目指す。生徒の進路に影響を与える教員や保護者に対しては、文理選択から大学進学、そして就職まで、理系進路に関するライフプランの情報を提供し、理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上を狙う。また、ICT を活用した島嶼地域での支援も充実し、対象地域全体の理系進路選択支援に係る環境醸成を目指す。

◆企画の対象となる地域

沖縄県全域と奄美地域

◆企画の達成目標

新型コロナウイルス感染症対策や、島嶼地域からの参加者を増やすために、従来の「対面参加型」だけではなく、ICT を活用した「オンライン参加型」「対面・オンライン併用型」、「オンデマンド型」など、状況に応じた形態により開催する。また、メーリングリストや SNS（Instagram、Twitter）、ホームページを用いて、広報活動を広く行い、多くの参加者を募る。

- 女子中高生延べ 1,090 名以上
  うち女子中学生延べ 560 名以上
  うち女子高校生延べ 530 名以上
- 教員 120 名以上
- 保護者 100 名以上
- プログラムに対する理解度を高める
  「取組に対する満足度 90%以上」
- 理系進学に対する意識を向上させる
  「企画に参加する前後での参加者の進路意識の変化 70%以上の増加」
  「企画に参加する前後で娘や生徒に対する理系進路選択支援の教員・保護者の意識変化 60%以上の増加」

◆達成目標に対する検証方法

本企画の参加者にアンケートを実施する。また、メーリングリストを活用した追跡調査も行い、理系進路選択の効果的な企画について検証しながら事業を進める。

（２）企画の必要性、問題意識

企画を着想するに至った背景（企画の必要性、問題意識）を記述してください。

◆全国的な課題と沖縄県で深刻化する問題

第 5 次男女共同参画基本計画（令和 2 年 12 月 25 日閣議決定）では、科学技術、学術活動に従事する女性の活躍を加速するため、大学の理工系の教員や研究者採用に占める女性の割合を高めるための登用推進や支援環境の整備を進めるとともに、研究職・技術職に進む女性を増やすべく、女子中高生、保護者、教員等における科学技術系の進路への興味関心や理解を向上させ、次代を担う女性の科学技術人材を育成することとなっている。

沖縄県においても、女性の活躍に関する取組が優良であると厚生労働省が認定する「えるぼし認定」や、子育て支援など一定の基準を満たした企業等が認定を受ける「くるみん認定」の企業・団体が増え、女性の活躍推進や待遇改善の機運は高まりつつある。しかしながら、男女間の労働格差は依然として存在し、沖縄県の女性の非正規労働者の割合は 5 割を超え、全国に比べて高い値となっている。さらに、沖縄県は宿泊・飲食サービス業をはじめとする第 3 次産業の割合が高く、その一方で製造業や情報通信業の割合が極めて低い。そのため、今回の新型コロナウイルス感染症がもたらした観光業の衰退など、外部環境の影響を受けやすい脆弱な産業構造となっている。さらに、沖縄の子どもの相対的貧困率は約 3 割で、深刻な状況にある。この貧困問題と教育はともに連動しており、貧困を断ち切るためにも、早期に将来のロールモデルと出会い、将来を見据えたライフプランの意識づけが肝要である。

◆島嶼地域におけるアンコンシャス・バイアスの懸念

内閣府男女共同参画局の「令和 3 年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」でも、2 割弱の女性が「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない」といった、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験が間接的にあると回答している。製造業が少ない沖縄県においては、女子中高生が理系のロールモデルに遭遇する機会は極めて少ないため、職業に対する性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が発生しやすいと考えられ、島嶼地域においては、さらに深刻だと考える。

このようなアンコンシャス・バイアスを排除するには、女子中高生に直接的に働きかける支援も重要であるが、アンコンシャス・バイアスの一因ともなる保護者や教員に対する意識変化も必要となり、そのための戦略的なアプローチが重要である。

◆積極的な取組が必要な支援

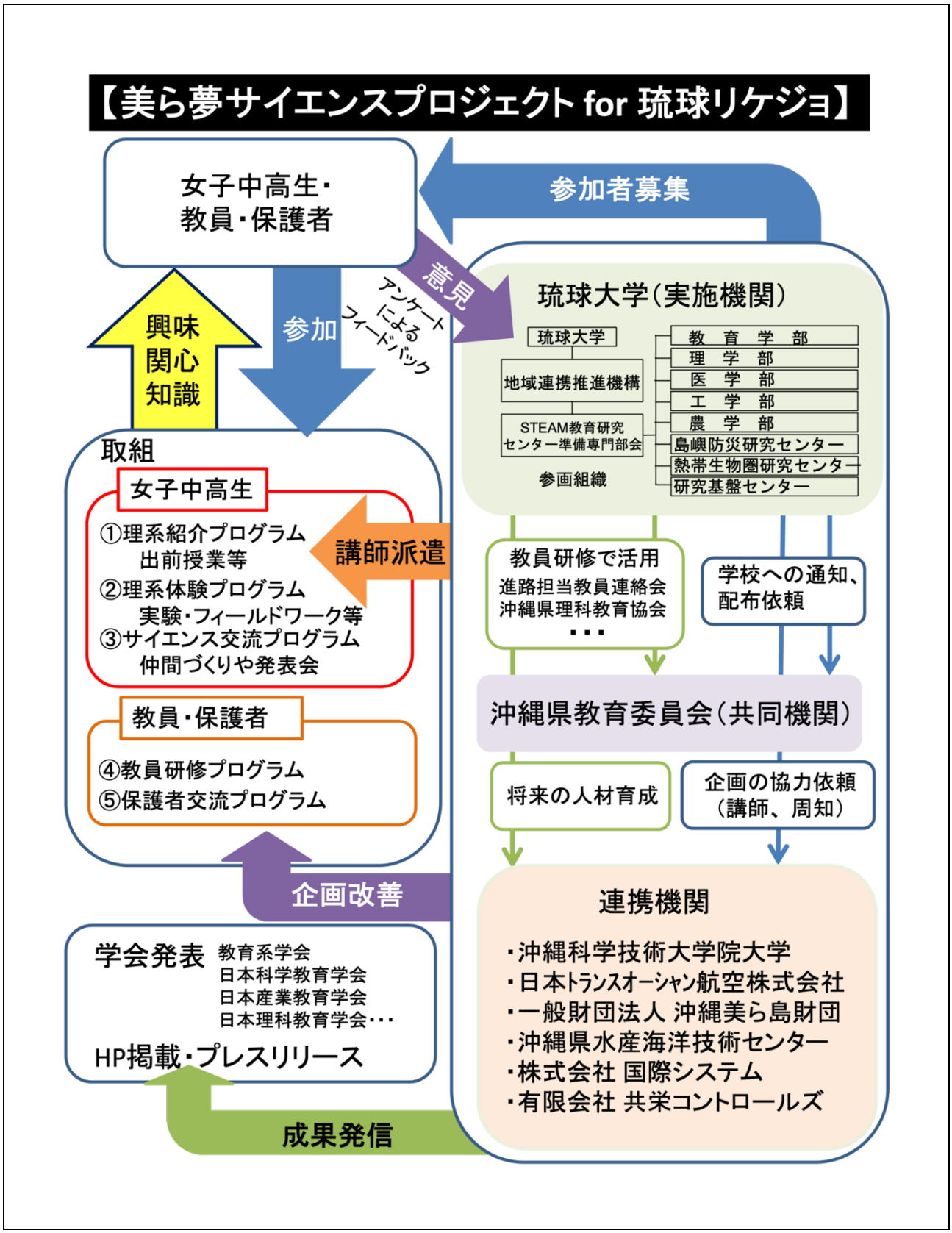
女性の理系人材不足に危機感を持った本学は、平成 30 年度から国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の支援を受け、県教育委員会や県内企業・団体と連携し、支援プログラムを展開し、成果を挙げてきた。一方で、「女子中学生への対策強化」と「島嶼地域への対策強化」が課題として挙げられてきた。

女子中学生への対策については、県教育委員会の協力により、県内中学校に本事業が広く周知されたことで、多くの学校から出前授業や理系進路相談会等の依頼があり、第二期（令和 3 年度）の中学生の参加比率は 40%となった（第一期は 8%）。また、島嶼地域への対策については、開催形式を「対面参加型」「オンライン参加型」「対面・オンライン併用型」、「オンデマンド型」の 4 つの形態に分け、状況に応じて開催することで、島嶼地域の女子生徒も参加が可能になり、島嶼地域からの参加者比率が第一期では僅か 2%だったのに対し、第二期の最終年度には、6%まで増やすことができた。しかしながら、これらの数値は十分とは言い難く、さらなる働きかけが必要である。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、教員対象の研修会や、PTA 行事等での保護者対象のイベントの開催が困難であったため、十分な成果は得られなかった。

沖縄本島を含む島嶼地域では、理系のロールモデルに出会う機会は稀で、女子中高生に対する直接的な理系支援の働きかけや、教員や保護者の理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上が急務である。

（３）全体概要図

２年間にわたる企画内容について、全体概要のイメージ図を作成してください。
女子中高生などへの取組を行う実施体制の構築を中心として、参加者募集・取組・成果発信・企画改善などがどのように実施されるのかがわかるように記述してください。



（4）企画の概要　（1年目・2年目を分けて記載）

主に自己財源などによって実施する部分は、灰色の網掛けを行い分かるように記載してください。

【1年目】

一年目の実施項目及び取組概要	実施項目		取組概要 （開催時期・概要は必ず記載してください）	対象者別延べ人数 女子中学生	女子高校生	保護者教員
	①	理系紹介プログラム	開催時期：6月-2月 概　　要：大学教員や連携機関の職員による研究・業務紹介／本学の女子大学生・院生、教員による理系学部紹介（学校訪問型、イベント展示）	150名	130名	教員10名
	②	理系体験プログラム	開催時期：7月-3月 概　　要：本学、沖縄科学技術大学院大学のラボツアー、研究体験、実験・観察、フィールドワーク体験	40名	60名	
	③	サイエンス交流プログラム	開催時期：8月・11月・12月・3月 概　　要:理系進学への意識が高まりつつある女子中高生を対象に、同世代の仲間づくりや情報交換を行う発表会（シンポジウム）や交流イベント	80名	80名	保護者10名 教員10名
	④	教員研修プログラム	開催時期：8月・11月・ 概　　要：進路担当教員や教科（理科、数学、技術家庭）研究会で、理系選択後のキャリア紹介やプログラムで得られた成果の発信を行う	–	–	教員40名
	⑤	保護者交流プログラム	開催時期：8月・2月 概　　要:保護者会や進学相談会などの保護者が集まる機会に、理系選択後のキャリア紹介やプログラムで得られた成果の発信を行う	–	-	保護者40名
	⑥	全体会議	開催時期：6月・3月 概　　要：実施体制に参加する機関が集まる会議。支援終了後も継続的に取組を実施していくための調整を行う	–	-	-
合　計　人　数				270名	270名	110名

一年目実施項目および実施計画	実施項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	①	理系紹介プログラム			1	1		2	2		1	1	1	
	②	理系体験プログラム				1	1		1	1				1
	③	サイエンス交流プログラム					1			1	1			1
	④	教員研修プログラム					1			1				
	⑤	保護者交流プログラム						1					1	
	⑥	全体会議			1									1

オープンキャンパスと併せて開催する場合には、その理由を記述してください。

オープンキャンパスと併せて開催する取組はありません。

【２年目】

二年目実施項目及び取組概要	実施項目		取組概要 （開催時期・概要は必ず記載してください）	対象者別延べ人数 女子中学生	女子高校生	保護者教員
	①	理系紹介プログラム	開催時期：5 月-2 月 概　　要：大学教員や連携機関の職員による研究・業務紹介／本学の女子大学生・院生、教員による理系学部紹介（学校訪問型、イベント展示）	160 名	120 名	教員 10 名
	②	理系体験プログラム	開催時期：6 月-3 月 概　　要：本学、沖縄科学技術大学院大学のラボツアー、研究体験、実験・観察、フィールドワーク体験	50 名	60 名	
	③	サイエンス交流プログラム	開催時期：5 月・8 月・10 月・12 月・3 月 概　　要：理系進学への意識が高まりつつある女子中高生を対象に、同世代の仲間づくりや情報交換を行う発表会や交流イベント	80 名	80 名	保護者 10 名 教員 10 名
	④	教員研修プログラム	開催時期：8 月・11 月・ 概　　要：進路担当教員や教科（理科、数学、技術家庭）研究会で、理系選択後のキャリア紹介やプログラムで得られた成果の発信を行う	－	－	教員 40 名
	⑤	保護者交流プログラム	開催時期：７月・8 月 概　　要：保護者会や進学相談会などの保護者が集まる機会に、理系選択後のキャリア紹介やプログラムで得られた成果の発信を行う	－	-	保護者 40 名
	⑥	全体会議	開催時期：6 月・3 月 概　　要：実施体制に参加する機関が集まる会議。支援終了後も継続的に取組を実施していくための調整を行う	－	-	-
合　計　人　数				290 名	260 名	110 名

二年目実施項目及び取組概要	実施項目		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	①	理系紹介プログラム		1	1	1		2	2		1	1	1	
	②	理系体験プログラム				1	1		1	1				1
	③	サイエンス・コミュニケーション					1			1	1			1
	④	教員研修プログラム					1			1				
	⑤	保護者交流プログラム						1					1	
	⑥	全体会議			1									1

オープンキャンパスと併せて開催する場合には、その理由を記述してください。

オープンキャンパスと併せて開催する取組はありません。

（5）企画の詳細　（1年目・2年目を分けて記述）

主に自己財源などによって実施する部分は、灰色の網掛けを行い分かるように記述してください。
①女子中高生の理系分野への興味・関心を喚起し、理系進路意識を醸成させる内容とその実施方法について説明してください。

＜1年目＞

① 理系紹介プログラム

女子中学生や、高校進学を終えたばかりで文理選択に関する情報が不足している高校 1 年生を主な対象として取組を行う。県教育委員会との連携のもと、中学校を管轄する市町村教育委員会にも協力を要請し、出前授業等などの学校訪問型の企画を実施し、理系進路を志す女子中高生の裾野拡大を目指す。特に、理系科目への苦手意識が芽生える前段階の女子中学生を対象にした企画を強化する。

内容としては、本学の理工系学部に所属する女子学生や教員、卒業後の進路に詳しいアドミッション部門の教職員などによる進路講演や進路相談会を実施する。また、連携機関から研究者や職員を派遣してもらい、理系進路選択と実務を絡めた講演を行うことで、より具体的なキャリアイメージを提供する。

実施形態については、理系への関心が薄い女子中高生を対象とするため、学校訪問型の取組や地域イベントのブース出展等も実施する。また、気軽に参加できるオンライン参加型も併用し、島嶼地域の女子中高生の参加を促す。

取組実施後のアンケートで、理系進路に興味を持った女子中高生には、メーリングリスト登録フォームの案内や、各 SNS のアドレスを案内し、②理系体験プログラムや③サイエンス交流プログラムを案内することで、より確かな理系進路選択へ繋げる。

② 理系体験プログラム

本学の理工系学部や連携機関の協力のもと、大学や施設を訪問し、研究活動を体験する。主なターゲットは、科学や実験に興味を持ちつつある女子中学生や、大学選びや学部選びに関心はあるものの具体的な進路決定にまで至っていない女子高校生であり、主体的な活動を体験することで、確かな理系進路選択へ繋げる。なお、実施形態は、対面のみでなく、県内の新型コロナウイルス感染症の状況や参加者のニーズに合わせて、オンライン参加型も選択肢とする。また、中学校の「総合的な学習の時間」や高校の「総合的な探究の時間」での探究的な学びで取組んだ研究成果を発表する場に、本学の教員や女子学生を派遣し、発表に対する意見や助言など交流の場を設けることで、生徒の理系分野への意識を高める。

③ サイエンス交流プログラム

生徒同士の交流、生徒と研究者、市民（保護者や教員、学生など）の交流を通して、科学への理解を深め、興味・関心を高める。

本学では、自然科学に関する夏休みの自由研究や科学部等で普段から取組んでいる科学研究の成果を発表する「沖縄科学技術教育シンポジウム」と、SDGs の各ゴールに関する探究の成果を発表する「沖縄未来社会創生シンポジウム」を開催し、学校を超えた生徒交流の場を設けている。発表者は大学教員やロールモデルとなる女子学生と活発な議論を通して、理系分野への関心を高めることが期待される。また、発表者以外の参加生徒にとっては、同世代の姿を見ることで理系分野への興味・関心を喚起することを狙う。教員や保護者についても、同様の効果が期待できる。

理系を志す女子生徒にとって、大学の理系学部に女子学生が少ないことは、大きな不安要素である。そこで、学校を超えて、理系の道を志す女子中高生の仲間づくりの場を提供する。取組の性質上、参加者を女子生徒に限定し、オンライン参加型の交流の場を定期的に設定し、参加者のニーズに合わせたプログラム（女性研究者との交流、メンバーによる科学体験プログラムの立案・実施）を実施する。また、メンターとして、理工系学部に所属する女子学生も参加し、大学生活や研究、キャリアプランについて、学生と生徒が自由に討論できる空間を提供する。

④ 教員研修プログラム

中学・高校の教職員を対象にしたキャリア講演会や談話会、進学相談会、実験講習会、研修会を開催する。理工系学部の学生の卒業後の進路に詳しいアドミッション部門の教員と、高校の進路指導に携わる教員が、それぞれ情報を持ち寄って意見交換を行うことで、女子中高生の理系進路選択を支援する上で活用できる情報のアップデートを行う。また、多くの学校教員が所属する各教科の教育研究団体（沖縄県理科教育協会や沖縄生物教育研究会など）と連携して、講習や分析機器の研修を開催し、理数教育と関連した最先端の科学情報を紹介することで、理工系分野に対する教員の関心をさらに高め、本プログラムの認知度向上と活動の普及に取組む。

⑤ 保護者交流プログラム

令和 2 年度に県内中高生 539 名に実施した、進路の相談相手に関するアンケート調査では、415 名（77%）の生徒が「母親」、230 名（43%）の生徒が「父親」と回答しており、生徒の進路決定に与える保護者の関与は極めて大きい。そこで、小中学生から高校 1 年生の子どもを持つ保護者を主な対象として、進路選択講演会やキャリア相談会を開催し、保護者の理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上を狙う。本学では、親子参加型のシンポジウムを継続して開催しており、対面・オンライン合わせて 200 名以上のエントリーがある人気企画となっている。こうした企画を継続しつつ、今後は各校の保護者が参加する行事に積極的に働きかけを行い、家庭から女子生徒の理系進路選択を後押ししていく環境づくりを目指す。

＜2 年目＞

1 年目との取組の企画に変更はないが、各企画でのアンケートや、メーリングリストを活用した追跡調査も行い、理系進路選択の効果的な企画について検証しながら事業を進める。

女子中高生への取組が理系進路選択に関心が薄い、または文理選択に迷っている女子中高生を中心とした取組に加えて、具体的な理系学部の選択に迷っているといった、それ以外の参加者も視野に入れた、幅広い視点からの取組を実施するための工夫点を記述してください。

◆関心が薄い女子中高生・文理選択に迷っている女子中高生への働きかけ

本事業では、理系科目への苦手意識が芽生える前段階で、理系進路支援を効果的に実施するために、女子中学生を対象にした企画を強化する。そのため、県教育委員会との連携のもと、中学校を管轄する市町村教育委員会にも協力を要請し、出前授業等などの学校訪問型の企画を積極的に実施する。また、気軽に参加できるオンライン参加型の企画により、理系進路を志す女子中高生の裾野拡大目指すとともに、対面での参加が困難な島嶼地域の女子生徒の参加を促す。このような女子中高生への直接的な働きかけに加え、教員・保護者を対象にした企画を実施することで、女子生徒の理系進路選択を後押しする環境づくりを目指す。

◆確かな理系進路選択に繋がる働きかけ

理系分野に関心を持った女子中高生に対しては、実験やフィールドワークなどの主体的活動を伴う企画を実施し、より確かな理系進路へ繋げる。また、これまでに整備してきた SNS（Instagram、Twitter）をさらに更新・充実していき、ホームページと連携させながら、理系進路選択に関する情報発信に努める。

男子生徒が参加する場合は、その理由を記述してください。

①理系紹介プログラム、②理系体験プログラム、③サイエンス交流プログラムは、学校訪問型や一般公開型のプログラムであり、LGBT の観点からも男子生徒のみを排除することは難しく、男子生徒も同席して開催することとなる。特に島嶼地域においては、性別に関わらず、理系進路選択について考える機会を提供することが学校現場から望まれているため、男女の別無く参加できるようにする。なお、男子生徒参加による追加経費は発生しない。

②教員と保護者に対して、女子の理系進路選択に対する理解を促す内容やその実施方法について、特に教員については、どのようにして参加を促すのかについて説明してください。
なお、【再応募機関（平成28年度以降の支援期間が通算で6年に達する）】は「（５） ⅱ拠点の拡大と取組の浸透にかかる展開項目（キ）」に関する提案についてもこの枠内に記載してください。

＜1年目＞

◆教員

本事業では、④教員研修プログラムにより、教員を対象にした支援を実施する。

実施に際しては、共同機関である沖縄県教育委員会と綿密な連携をとり、公務として参加できる研修会の開催を目指す。

進路担当教員を対象にした研修会では、理工系学部の学生の卒業後の進路に詳しいアドミッション部門の教員と、進路指導に携わる学校教員が、それぞれ情報を持ち寄って意見交換を行う場も設定し、女子中高生の理系進路選択を支援する上で活用できる情報のアップデートを行う。

数学や理科、技術・家庭科の学校教員に対しては、各教科の教育研究団体（沖縄県理科教育協会や沖縄生物教育研究会など）と連携して、講習や分析機器の研修を開催し、理数教育と関連した最先端の科学情報を紹介することで、理工系分野に対する教員自身の関心をさらに高め、本プログラムの認知度向上と活動の普及に取組む。

◆保護者

小中学生から高校 1 年生の子どもを持つ保護者を主な対象として、進路選択講演会やキャリア相談会を開催し、保護者の理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上を狙い、家庭から女子生徒の理系進路選択を後押しする環境づくりを目指す。

本学では、親子参加型のシンポジウムを継続的に開催している。シンポジウムに参加した親子は、理系進路に関する情報を親子で共有することで、理系分野に関する家庭での話題が活発になり、確かな理系進路選択に繋がることが期待できる。また、オンラインで参加する中学生の中には、保護者のデバイスを利用して親子で参加する生徒も多く見かけられるので、中学生を対象にしたオンラインイベントを企画することで、保護者への効果も期待できる。

理系分野に関心のない保護者に対して、女子の理系進路選択に対する理解を促すためには、各学校の保護者が参加する行事等に、積極的に関与することが重要である。そのためにも、学年主任の教員との連携が重要である。また、内容については、進路選択から大学進学、就職までを見通せる内容の情報を提供することで、理系選択への関心を高める。

＜2年目＞

1年目との取組の企画に変更はないが、各企画でのアンケートや、メーリングリストを活用した追跡調査も行い、理系進路選択の効果的な企画について検証しながら事業を進める。

【５】実施体制

（１）体制図

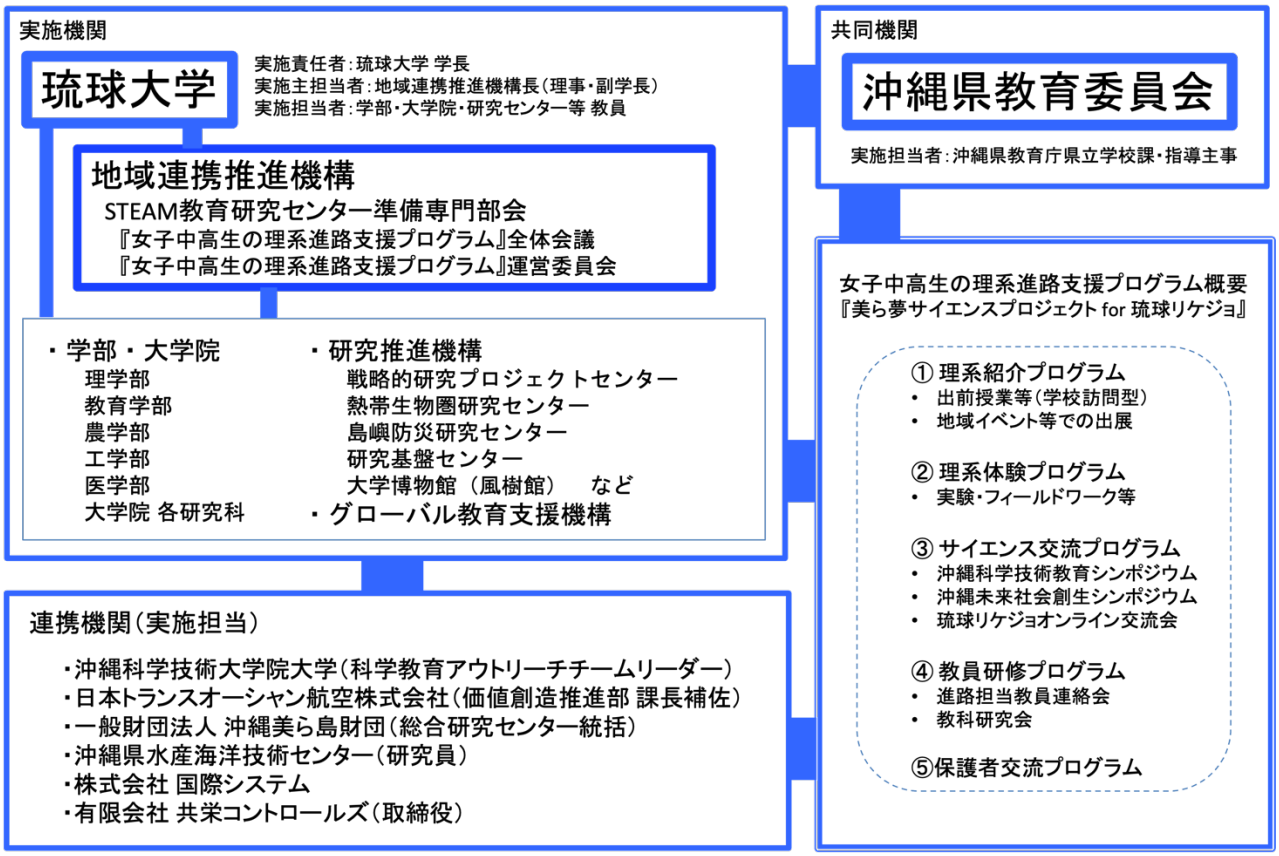
全体的な実施体制について、下記のことがわかるように図を用いて説明してください。

・実施機関、共同機関、連携機関
・実施機関において主体となる組織及び参画する組織、共同機関において主体となる組織および参画する組織（ここでいう「組織」とは、学部などを指します。）
・実施責任者、実施主担当者、実施担当者など

本事業は、実施機関として琉球大学、共同機関として沖縄県教育委員会、連携機関に多業種の企業・団体が加わり、全機関が一体となって女子中高生の理系進路選択の支援を行う。

沖縄県教育委員会が共同機関として参画することで、各地域の学校における活動を円滑に進めることが可能になる。また、連携機関には、県内の社会教育施設を管理する一般財団法人沖縄美ら島財団や、県全域で広く活動を展開している日本トランスオーシャン航空株式会社が参画している。その他の連携機関も沖縄に本社や研究所が所在しており、沖縄県内での理系進路選択後の就職先として大きな候補となりうる企業、機関である。

なお、これらの機関との協力体制はすでに整っている。



（２）実施体制の説明

上図のうち、構成機関の役割、ならびに実施体制を構築、維持、展開していく運営計画について記述してください。

なお、【再応募機関（平成 28 年度以降の支援期間が通算で 6 年に達する）】は「（５） ⅱ拠点の拡大と取組の浸透にかかる展開項目（ク）」に関する提案についても、この枠内に記載してください。

◆実施責任者がリーダーシップ等を発揮する体制や取組

実施責任者である本学学長の指導・監督のもと、『女子中高生の理系進路支援プログラム』運営委員会を設置し、企画・運営等を担当する。学内には、既に運営委員会の受け皿となる組織として『STEAM 教育研究センター準備専門部会』が地域連携推進機構内に設置されており、大学本部、各学部・研究科との調整を担当し、プログラムの実施にあたり協力研究者を派遣する体制が整っている。各連携機関には、本企画の担当として「企画協力者」をおき、企画への協力体制を構築し、企画を効果的に運営・実行していくための組織体制を構築する。

◆連携機関

１）沖縄科学技術大学院大学の役割

沖縄科学技術大学院大学は、国際的に卓越した科学技術に関する教育及び研究を実施することにより、沖縄の自立的発展と、世界の科学技術の向上に寄与することを目的に設立された。7 つの研究分野（物理学、化学、神経科学、海洋科学、環境・生態学、数学・計算科学、分子・細胞・発生生物学）を取り扱っており、教員 80 名、学生 200 名を抱えている。講演会への講師派遣など人的リソースの提供に加え、②理系体験プログラムで予定しているラボツアーも担当する予定である。

２）一般財団法人沖縄美ら島財団の役割

美ら島財団は、美ら海水族館等を擁する国営沖縄記念公園の管理運営を行っており、亜熱帯性動植物・海洋文化・首里城等に関する調査研究・普及啓発、公園管理等を事業の柱としている。自然科学に関係する取組としては、沖縄の海の生き物に関する事業と亜熱帯性植物に関する事業を展開しており、沖縄在来植物の保全・活用や、亜熱帯性植物に関する知識の普及啓発の一環として、講演・講習会等も精力的に実施している。さらに、社会教育施設である「沖縄県立博物館・美術館」「沖縄県立名護青少年の家」やウミガメの調査研究施設である「美ら島自然学校」の管理運営を行っており、生徒に対する教育啓蒙活動の実績も十分に有している。このように、海洋生物・亜熱帯植物研究に関する研究実績と魅力的な施設、子どもを対象とした啓蒙活動についての豊富なノウハウを有しているため、募集対象者への周知協力や、講師と施設紹介などの協力が期待できる。

３）沖縄県水産海洋技術センター、日本トランスオーシャン航空株式会社、株式会社国際システム、有限会社共栄コントロールズの役割

いずれも沖縄に本社や研究所が所在しており、沖縄県内での理系進路選択後の就職先として大きな候補となりうる企業、機関である。研究者や技術者、職員の仕事内容や研究内容を知ることは女子中高生にとって、理系キャリアパスをより具体的に描くために必要である。各機関に所属する研究者による研究紹介や職員による業務紹介、ロールモデルの提示、施設見学などの協力を得る予定である。

教育委員会の参加が想定段階であり、令和４年９月末までに実現予定である場合は、JST との実施協定成立後どのようにして協力関係を構築していくのかを記述してください。

沖縄県教育委員会は、本企画参加について了解済みである。

【６】効果的な活動（幅広い参加者募集、成果の普及など）

本プログラムの目的を効果的・効率的に達成するために実施することを記述してください。

＜1 年目＞

◆募集対象者への周知の方法

各企画の募集にあたり、チラシや要項等を、沖縄県教育委員会を通して、県内の各中学校および高校に配布する。また、校長会や教員研修を執り行う教育研究団体を活用して、情報の浸透に努める。さらに、科学賞作品展や科学オリンピックへの出品・参加が多い学校や、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）とその併設中学校、大学附属学校など、科学教育を標榜する中学、高校に対しては、個別に学校訪問を行い、本企画の説明と募集の呼びかけを行い、より確かな理系選択に繋げる。島嶼地域については、地域の市町村教育委員会や中学校を直接訪問し、プログラムの周知と募集の告知活動に取組む。

また、連携機関である一般財団法人沖縄美ら島財団の協力を得て、財団が管理する「沖縄美ら海水族館」や「沖縄県立博物館・美術館」等、多くの中高生や保護者が集まる場所で、本事業の企画を周知する。

琉球大学公式ホームページ内に開設している本事業のホームページに、企画内容の案内や募集要項等の必要情報が閲覧、ダウンロードできる環境を構築する。また、メーリングリストやSNS（Instagram、Twitter）を用いた、広報活動を積極的に行う。

◆成果の普及

本企画における各取組内容については、琉球大学や協力機関のホームページや広報誌を用いて、広く紹介する。また、月例で開催されている学長と記者懇談会での場における情報提供や、イベントへの取材依頼を積極的に行い、メディア等を通じて、本事業の成果を周知する。

アンケートで得られたデータの分析結果を含む取組の成果や、事業推進のノウハウ等について、教育系学会で発表するとともに、県教育委員会や市町村教育委員会が主催する教員研修で活用できるようにまとめ、教員の指導力向上に役立てる。

＜２年目＞

1 年目との取組の企画に変更はないが、各企画でのアンケートや、メーリングリストを活用した追跡調査も行い、理系進路選択の効果的な企画について検証しながら事業を進める。

【７】事業の継続性

主に自己財源などによって実施する部分は、灰色の網掛けを行い分かるように記述してください。

①実施体制に参加する機関が集まって進める取組

支援終了後も継続的に事業を実施する基盤を形成するために、JST 支援期間中の１年目、２年目に複数機関が集まって進める取組について、以下の項目を満たす取組の計画を記述してください。

・実施体制に参画する機関が集まる定期的な全体会議

・関係機関相互の連携を強めるため、実施体制に参画する機関全体による取組（毎年継続して地域に対して働きかけを行うなど、取組が女子生徒の理系進路選択支援に係る環境醸成へとつなげるように努めてください。）

＜1 年目＞

実施機関終了後についても、本企画で得られた成果を継承し、発展させるため、琉球大学を中心とした地域連携型の理系人材育成コンソーシアムの基礎を構築し、継続した取組の実施を目指すとともに、以下のプログラムにおいて連携機関の協力を得る。

◆各プログラムにおける連携機関との取組

①理系紹介プログラム ／ ②理系体験プログラム ／ ③サイエンス交流プログラム ／ ④教員研修プログラム ／ ⑤保護者交流プログラムは、女子中高生のニーズに対応する様々なプログラムを提供するもので、連携機関の企業・団体からの協力が必須である。講師の派遣や施設見学の受入、女子中高生や教員と交流することで、女子中高生の理系支援事業の意義を共有することで、事業終了後においても協力体制を維持できるようにする。

琉球大学と沖縄県教育委員会が共催する「沖縄科学技術教育シンポジウム」（平成 27 年度～）と「沖縄未来社会創生シンポジウム」（令和元年度～）は、中高生、大学生、中高教員、大学教員や研究者が一同に集まり自由に意見交換できる場となっている。特に、「沖縄未来社会創生シンポジウム」は SDGs に関連したテーマが多く発表され、SDGs に注力する企業・団体（おきなわ SDGs パートナー）にとっても関心のある発表会である。両シンポジウムの参加者は、理系分野のロールモデルとなる様々な大人との活発な交流を通して、理系分野への進路選択をより確かなものにすることが期待される。本企画終了後も、大学、教育行政、学校、企業・団体との連携を担保する取組の一つとして、改善を重ねながら継続する。

◆全体会議

実施機関である琉球大学は、沖縄県教育委員会、一般財団法人沖縄美ら島財団とは、それぞれ高大連携事業協定、包括連携協定を締結しており、本学が実施機関としてこれまで実施してきた JST 委託事業「ジュニアドクター育成塾」「グローバルサイエンスキャンパス」の運営にあたっても連携し、沖縄県における理系人材育成を牽引してきた。

この連携を核として、沖縄県内の研究機関や企業、団体が連携し参画する全体会議を年間 2 回程度の開催し、情報の共有と議論を行い、必要な取組の方針を決める。また、取組内容の成果を共有し、本事業の意義と重要性について理解を深めることで、終了後も継続した事業の維持、運営に努める。また、人材育成には関心はあるが、生徒や学校へどのようにアプローチすれば良いのか苦慮している企業・団体については、本企画で得られた成果をもとに、生徒への効果的なアプローチについて啓蒙活動を行い、企業・団体が協力しやすい環境づくりに尽力する。これら一連の発信活動を継続的に推進することで、地域全体の理系進路選択支援に係る環境醸成を目指す。

＜2 年目＞

1 年目との変更点なし

②予算計画

支援期間終了後、事業を具体的にどのようにして継続させるのかについて、以下の項目を満たす計画を記述してください。

・継続性を考慮した事業内容、規模などについての説明

・当該事業の財源をどこから用意するか、財源を獲得するために、支援期間中に何を実施予定か

◆財源の確保について

実施体制及び連携機関との協力体制については、そのままの体制を維持し、継続した取組を実施したい。事業継続に必要な資金については、他の外部資金や学内の競争的資金を積極的に活用する。特に、学内の競争的資金である「戦略的重点配分経費」は地域社会の発展を担う人材育成等、地域との連携、地域の活性化機能の強化に取組むための経費が含まれており、③サイエンス交流プログラムで実施するシンポジウムの一部は当該経費から支援を既に受けている。また、プログラムの一部には、沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議からの支援を受けた企画もあるため、沖縄科学技術大学院大学との連携をもとに、県民会議に対し継続した資金援助の働きかけを行う。

◆発展的なコンソーシアムの構成・運営

本学と沖縄県教育委員会、一般財団法人沖縄美ら島財団を中心としたコンソーシアムの構成・運営に尽力する。また、連携機関以外の県内の企業・団体にも協力関係を働きかけ、コンソーシアムの拡大を進めていく。さらに、沖縄の産業が求める人材像について連携を強化することで、本企画終了後の資金提供を視野に入れた協力を依頼する。また、企業の意見を反映させた教育プログラム、人材評価システムを開発することで、産学双方にとって有用な事業への発展を目指す。

◆既存の施設やICTを活用した効率的な運営

県内 5 カ所に置かれているサテライトキャンパス（那覇市、宮古島、石垣島、久米島、国頭村､）をベースにしたプログラム展開や、ICT を活用した新たな取組を導入することによって、企画の運営コストを低減できる可能性もあり、プログラムの継続実施は可能であると考えている。

【８】新展開項目　※再応募機関のみ、記述してください

①これまでの企画に関する内容

これまで「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の支援期間に実施した企画について、記述してください。

〈これまでの企画で達成できたこと〉

平成 27 年度に、本学のジェンダー推進室と沖縄科学技術大学院大学との連携により「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」を立ち上げ、理系進学を目指す女子高生の育成に着手した。企画に関して好評を得たが、定員が 30 名と少なく、対象も高校生に限定されていたため、効果は限定的であった。

平成 30 年度より JST 委託事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」（第一期）として、規模を拡大し、プログラムの提供を行った。講演会や研究室訪問・施設見学・企業訪問、サイエンスキャンプ、教員研修等のプログラムを年間を通して提供し（平成 30 年度：12 回、令和元年度：17 回）、参加者を大幅に増やすことができた（平成 30 年度：371 名、令和元年度：966 名）。参加者の満足度も高く（平成 30 年度：93%、令和元年度：78%）、理系進路への前向きな意識変化（平成 30 年度：88%、令和元年度：66%）があったと認識している。一方で、対象とした女子中高生の内、82%が女子高生であり、島嶼地域からの参加者の比率は僅か 2%であった。

令和 2 年度（第二期）からは、第一期で課題とされた「島嶼地域への対策強化」と「女子中学生への対策強化」を目指した。新型コロナウイルス感染症対策の一環で、イベントの開催方法を「対面参加型」「オンライン参加型」「対面・オンライン併用型」、「オンデマンド型」の 4 つの形態に分け、状況に応じて開催した。その結果、対面での参加が困難であった島嶼地域の女子生徒の参加が可能になり、島嶼地域からの参加者比率を 6%まで増やすことができた。女子中学生への対策についても、県教育委員会の協力により、県内中学校に本事業が広く周知されたことで、多くの学校から出前授業や理系進路相談会等の依頼があり、第二期（令和 3 年度）の中学生の参加比率は 40%となり、大幅に改善した。

運営についても、地域の科学教育事業を効果的に運営するために、他の JST 委託事業「ジュニアドクター育成塾」や「グローバルサイエンスキャンパス」と連携する全学的な体制を構築した。外部機関との連携についても、沖縄科学技術大学院大学、沖縄県教育委員会、一般財団法人沖縄美ら島財団、沖縄県水産海洋技術センターが立ち上げメンバーとして参加し、平成 30 年度には株式会社国際システム、令和元年度には日本トランスオーシャン航空株式会社が連携機関として加わり、多様な視点を取り入れることで柔軟性を持ったプログラムを提供してきた。

〈これまでの企画の中で見えてきた課題〉

- 女子中学生への早期段階からのアプローチ
- 根強いアンコンシャス・バイアスの排除

〈課題が生じた原因と、課題への対応〉

これまでの参加者のアンケート結果によると、女子中高生の理系分野への興味・関心を効果的に促すためには、理系科目への苦手意識が芽生える前段階での働きかけが重要である。つまり、女子中学生を主な対象にした学校訪問型のプログラムや、地域イベント等での出展等が効果的なプログラムとなる。また、上のプログラムにより理系分野に関心を持った生徒には、実験やフィールドワーク等の主体的な活動を伴う企画への参加を促し、より確かな理系進路へ繋げる。このような、段階的なプログラムを実施することで、女子中学生の本事業への参加比率を更に高めることが期待される。実施に際しては、沖縄県教育委員会との連携のもと、市町村教育委員会にも協力を要請し、理系進路希望者の裾野の拡大を目指す。島嶼地域からの参加者の増加も依然として課題であるが、ICT を活用したプログラム展開や、離島の教育委員会や学校との連携により、改善が期待できる。

製造業が少ない沖縄県においては、女子中高生が理系のロールモデルに遭遇する機会は極めて少ないため、職業に対して性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が根強く、特に、島嶼地域では深刻である。このようなアンコンシャス・バイアスを排除するには、女子中高生に直接的に働きかける支援だけではなく、アンコンシャス・バイアスの一因ともなる保護者や教員の理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上を狙うことが重要である。

②新たな展開内容とそのねらい

今回申請する企画における、新たな展開内容について、以下の項目を満たす計画を記述してください。

・支援期間終了後における企画実施の継続性に留意した実施体制の改善と再構築についての説明

・成果の最大化に資する企画の深化についての説明

従来の事業で見えてきた課題に対応するために、理系分野への気づきの段階から、より確かな理系進路へ繋がる段階的プログラムや、教員・保護者を対象にした戦略的なプログラムを実施する。

① 理系紹介プログラム

理系進路希望者の裾野の拡大を図るために、沖縄県教育委員会との連携のもと、市町村教育委員会にも協力を要請し、中学校への出前授業等の学校訪問型のプログラムや地域イベントでの出展に注力する。また、島嶼地域での開催も強化するとともに、ICT を利用したオンライン参加型のイベントも企画し、島嶼地域の女子生徒の参加を促す。これらのプログラムにより理系分野への気づきを引き出し、理系進路希望者の裾野を拡大する。実施に際しては、中高生のニーズに合わせて、連携企業に講師等での協力を要請し、継続的な支援の体制づくりを強化する。

② 理系体験プログラム

実験やフィールドワークなどの主体的活動を伴う企画を通して、より確かな理系進路へ繋げる。施設見学に際しては、連携機関の協力を要請し、継続的な支援の体制づくりを強化する。また、自然体験を伴うプログラムについては、類似イベントを多数開催し、ノウハウを有する一般財団法人沖縄美ら島財団などと連携してプログラムを行う。また、沖縄科学技術大学院大学が独自に開催するイベントに、プログラムを併設し、機関連携による効果的な理系進路支援を実現する。

③ サイエンス交流プログラム

中高生、大学生、中高教員、大学教員や研究者が一同に集まり自由に意見交換ができる場となっている「沖縄科学技術教育シンポジウム」や「沖縄未来社会創生シンポジウム」には、連携機関はもちろん、SDGs に注力する企業・団体（おきなわ SDGs パートナー）にも積極的に参加を促す。理系分野のロールモデルとなる多様な大人との活発な議論・交流を通して、理系分野への関心と進路を確かなものにする。また、企業・団体が本事業の意義を認識し、事業継続の必要性を共有することで、継続的な開催に繋げる。

④ 教員研修プログラム

共同機関である沖縄県教育委員会と綿密な連携をとり、公務として参加できる研修会の開催を目指す。特に、進路担当教員を対象にした研修会には、理工系学部学生の卒業後の進路に詳しいアドミッション部門の教員と、進路指導に携わる教員が、それぞれ情報を持ち寄って意見交換を行う交流の場を設定し、女子中高生の理系進路選択を支援する上で活用できる情報のアップデートを行う。

さらに、理系教科の教育研究団体（沖縄県理科教育協会や沖縄生物教育研究会等）と連携して、講習や分析機器の研修を開催し、理数教育と関連した最先端の科学情報を紹介することで、理工系分野に対する教員自身の関心を高め、本プログラムの認知度向上と活動の普及に取組む。また、参加教員のニーズに合わせて、連携企業に講師等での協力を要請し、継続的な支援の体制づくりを強化する。

⑤ 保護者交流プログラム

進路選択講演会やキャリア相談会を開催し、保護者の理工系分野に対する先入観の払拭やイメージ向上を狙い、家庭から女子生徒の理系進路選択を後押しする環境づくりを目指す。学年主任の教員と連携し、保護者が参加する行事等に、積極的に関与することで、理系分野に関心のない保護者に対して、女子生徒の理系進路選択に対する理解を促す。また、内容については、進路選択から大学進学、就職までを見通せる内容の情報を提供し、必要に応じて、連携企業に講師派遣の協力を要請し、継続的な支援の体制づくりを強化する。

③支援終了後に向けた具体的な活動内容

支援終了後を見据えて、企画を継続的に実施するための、支援期間中の具体的な活動内容について、計画を記述してください。

◆支援終了後の継続的な事業を進めるための体制とプログラムの工夫

本学では、産業界及び自治体との連携を強化し、地域との教育・研究画面における本格的な協働による社会のイノベーションを先導する「琉球大学イノベーションイニシアティブ：URI²」を学長の下に設置している。本事業の実施主体である地域連携推進機構も、URI²の主たる役割を担っており、継続的な事業の実現が可能である。

共同及び連携機関との協力体制については、事業終了後も体制を維持し、継続した取組を実施する。事業継続に必要な資金については、他の外部資金や学内の競争的資金を積極的に活用する。特に、学内の競争的資金である「戦略的重点配分経費」には、地域社会の発展を担う人材育成等、地域との連携、地域の活性化機能の強化に取組むための経費が含まれており、③サイエンス交流プログラムで実施するシンポジウムの一部は当該経費から支援を受けている。また、②理系体験プログラムには、沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議からの支援を受けて実施した企画もあり、事業終了後も沖縄科学技術大学院大学との連携を維持することで、活動に必要な資金を得ることも可能である。

講演を中心としたプログラムについては、オープンコースウェアのようなインターネット上に講義内容を保存・公開する仕組みの構築を検討している。内容に知財等が含まれるコンテンツについては十分な配慮が必要であるが、本事業に関する大学のホームページにコンテンツを整備することができれば、会場に来ることが難しい島嶼地域の生徒や教員、保護者にとっても、有用なコンテンツとなる。

県内 6 カ所に置かれているサテライトキャンパス（那覇市、宮古島、石垣島、久米島、国頭村、大宜見村）をベースにしたプログラム展開や、ICT を活用した新たな取組を導入することによって、企画の運営コストを低減できる可能性もあり、プログラムの継続実施は可能であると考えている。

◆外部機関との連携（コンソーシアムの構成・運営）

本学と沖縄県教育委員会、一般財団法人沖縄美ら島財団を中心としたコンソーシアムの構成・運営に尽力する。また、連携機関以外の県内の企業・団体にも協力関係を働きかけ、コンソーシアムの拡大を進めていく。さらに、沖縄の産業が求める人材育成と教育の連携を強化することで、本企画終了後の資金提供を視野に入れた協力を依頼する。また、企業の意見を反映させた教育プログラム、人材評価システムを開発することで、産学双方にとって有用な事業への発展を目指す。

◆追跡調査

本事業終了後も、参加生徒の追跡調査（大学進学状況、活躍状況等）をメーリングリスト等も用いて実施し、各企画の効果について検証する。

【９】所要経費見込み

＜1 年目＞

支　援　金　額				
	費　目	種　別	主な内訳・使途	予定合計金額（円）
①直接経費	物品費	設備備品費		０
		消耗品費	試薬、実験器具、撮影機材、配信機材等	６６３，０００
	人件費･謝金	人件費	事務補佐	９００，０００
		謝金	講師謝金、メンター謝金	２００，０００
	旅費	旅費	離島等への移動費、講師招聘の旅費等	４２０，０００
	その他	外注費（雑役務費）	バスの借り上げ	２００，０００
		印刷製本費	広報用リーフレット	１５０，０００
		会議費		０
		通信運搬費	公募チラシの送付、アンケートの送付等	３０，０００
		その他（諸経費）	傷害保険	５０，０００
		消費税相当額		１１５，０００
②一般管理費（①直接経費の１０％以内）				２７２，０００
③合　計（①直接経費＋②一般管理費）				３，０００，０００
④その他自己財源 （JST の支援を希望しない自己財源負担部分があればお書きください。）				１，１００，０００
⑤総合計（③合計＋④その他自己財源）				４，１００，０００

設備・備品費（取得価格２０万円（税込）以上かつ使用可能期間が１年以上）を計上する場合には、
その理由を記述してください。

該当なし

人件費を計上する場合には、その理由を記述してください。

実施するイベントの回数が年間 24 回、月に平均すると 1 か月に 2 回を予定している。各イベントにおいて関係機関とのやり取りや、広報活動（HP、SNS（Instagram、Twitter）更新作業を含む）、アンケートの集計等、多量の事務作業が発生することから、事務を統括する担当課の現状の人員に加えて、事務作業を遂行するための事務補佐員の人件費を計上した。なお、事務補佐員の年間人件費としては 180 万円を見込んでいるが、そのうち半分の 90 万円は自己資金より支出する。

＜２年目＞

支　援　金　額				
	費　目	種　別	主な内訳・使途	予定合計金額（円）
①直接経費	物品費	設備備品費		０
		消耗品費	試薬、実験器具、撮影機材、配信機材等	６６３，０００
	人件費･謝金	人件費	事務補佐	９００，０００
		謝金	講師謝金、メンター謝金	２００，０００
	旅費	旅費	離島等への移動費、講師招聘の旅費等	４２０，０００
	その他	外注費（雑役務費）	バスの借り上げ	２００，０００
		印刷製本費	広報用リーフレット	１５０，０００
		会議費		０
		通信運搬費	公募チラシの送付、アンケートの送付等	３０，０００
		その他（諸経費）	傷害保険	５０，０００
		消費税相当額		１１５，０００
②一般管理費（①直接経費の１０％以内）				２７２，０００
③合　計（①直接経費＋②一般管理費）				３，０００，０００
④その他自己財源 （JST の支援を希望しない自己財源負担部分があればお書きください。）				１，１００，０００
⑤総合計（③合計＋④その他自己財源）				４，１００，０００

設備・備品費（取得価格２０万円（税込）以上かつ使用可能期間が１年以上）を計上する場合には、その理由を記述してください。

該当なし

人件費を計上する場合には、その理由を記述してください。

実施するイベントの回数が年間 25 回、月に平均すると１か月に 2.1 回を予定している。各イベントにおいて関係機関とのやり取りや、広報活動（HP、SNS（Instagram、Twitter）更新作業を含む）、アンケートの集計等、多量の事務作業が発生することから、事務を統括する担当課の現状の人員に加えて、事務作業を遂行するための事務補佐員の人件費を計上した。なお、事務補佐員の年間人件費としては 180 万円を見込んでいるが、そのうち半分の 90 万円は自己資金より支出する。

女子中高生の理系進路選択支援プログラム
令和４年度企画募集の概要

１　趣旨

女子中高生の理工系分野に対する興味・関心を高めるとともに、教員及び保護者等を含め理工系分野への進路選択に関する理解を促進し、文理選択や将来の進路に迷っている女子中高生を支援する企画が継続して展開される実施拠点の構築を推進する。

２　応募できる機関

科学技術に関する研究・開発または教育を行っている大学院大学、大学、短期大学、高等専門学校、民間企業、独立行政法人、公設試験研究機関、大学共同利用機関、公益法人、一般社団法人、一般財団法人、NPO 法人、科学館、科学系博物館、地方公共団体、教育委員会

３　支援期間等

（１）実施期間：令和 6 年 3 月 31 日までの最大２年間（年度毎の契約）
（２）支援金額：1 企画あたり上限 300 万円／年
（複数の周辺市区町村規模のみで実施する場合）１企画あたり 150 万円前後／年
（３）支援件数：概ね 10～15 件程度

４　募集する企画の内容

（１）取組

①女子中高生に理工系分野への興味･関心を高め､理系選択の場合の具体的な将来像を想起させ、女子中高生の進路意識の醸成を図る。(理系進路選択に関心が薄い、または文理選択に迷っている女子中高生を中心とした取組の実施を必須とする。)

②女子中高生の進路選択に大きな影響を与えうる教員と保護者に対し、理工系分野での多様な学びや科学技術に関係する職業や幅広い進路を紹介するなど、女子の理工系分野への進学・就職やその後の人生設計に関する理解を深め、その普及を図る。

（２）実施体制

複数の機関が実施機関と共同して企画を立案・実施し、継続的に取組が行える体制を整える。民間企業と教育委員会の参加が必要となる。

（３）効果的な活動と、事業の継続性

効果的な活動（幅広い参加者募集、成果の普及など）を通じ、多くの女子中高生・保護者・教員に参加の機会を与える。また、JST からの支援終了後の継続性に留意する。

５　募集・選定スケジュール

（１）募　集　期　間：令和 4 年 1 月 24 日（月）～令和 4 年 2 月 25 日(金)正午（厳守）
（２）選定結果の通知：令和 4 年 4 月中旬～下旬頃（予定）

６　公募の詳細等

（１）公募の詳細：以下の URL からご覧下さい。
募集要項：　https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/oubo/bosyu.html

（２）お問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構　理数学習推進部（能力伸長グループ）
TEL.048-226-5671、FAX.048-226-5684 メールアドレス：jyoshi-koubo@jst.go.jp

注）本募集は令和４年度政府予算の成立を前提としており、予算の成立状況によっては実施スケジュール、実施内容等で変更・調整が必要となる場合があります。

（案）

グローバルサイエンスキャンパス（ＧＳＣ）
令和４年度 企画提案書

機密3

・作成にあたっては、特に指定がない限り、適宜図表等を用いて構いません。
・この冒頭部分を含む青字は記入にあたっての補足事項です。応募時には青字を削除してください。
・記入枠は、特に指定がない箇所については、必要に応じて拡縮して構いません。
・文字化けを避けるため、MS 明朝体、MS ゴシック体、Century、Arial フォントの使用を推奨します。
・ファイルサイズは 10 MB を上限とします。
・提出時のファイル名は【応募機関名】としてください。
・PDF ファイルで提出する場合は、テキスト情報が埋め込まれているものとしてください。

【１】応募概要

企画名（和文）		津梁と創造の科学人材育成プログラム「琉大カガク院」（仮）
企画名（英文）		Science Education Academy of the Ryukyus（仮）
実施機関	ふりがな	こくりつだいがくほうじんりゅうきゅうだいがく
	名称	国立大学法人琉球大学
	ふりがな	がくちょう　にしだ　むつみ
	実施責任者名（役職、氏名）	学長　西田　睦
	ふりがな	りゅきゅうだいがく　ちいきれんけいすいしんきこう
	実施主体となる学内組織	琉球大学 地域連携推進機構
	所在地	〒903-0213　沖縄県中頭郡西原町字千原１番地
	連絡先	電話 098-895-8997　E-Mail　chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
	ふりがな	りゅうきゅうだいがく　りじ・ふくがくちょう(ちいきこうけん・こくさいこうりゅう・こうほうたんとう)/ちいきれんけいすいしんきこうちょう　うしくぼ　きよし
	実施主担当者名（所属、役職、氏名）	琉球大学　理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報担当）/地域連携推進機構長　牛窪　潔
共同機関の名称		
連携機関の名称		・沖縄県教育委員会 ・一般財団法人沖縄美ら島財団 ・日本トランスオーシャン航空株式会社
企画概要		「【3】企画内容」の記述を、下記の項目順に、300 字程度でまとめてください。※項目名、図表は不要です。 ◆　事業に取り組む目的・人材育成上の達成したい目標 ◆　提案企画の概要、特色・アピールポイント 卓越した意欲や能力および強い自立心を持つ高校生を募集･選抜し､個々の才能や意欲とのバランスに配慮しながら、研究者的素養をもち，イノベーション精神を持つ次世代人材として必要な基盤的能力を幅広く育成するプログラムや、国際的な活動を含む高度で体系的なプログラムを実施することを通して、受講生が積極的な自己実現活動に取り組み、国際学会等での研究発表や外国語論文発表，国際科学技術コンテスト出場，起業プレゼンを行うなど、各方面で活躍する次世代活躍人材の育成を目標とする。また、様々な分野で将来国際的に活躍しうる傑出した人材を育成するための教育方法や教育評価等を明らかにし、次世代活躍人材育成のための効果的な教育プログラムの開発と実践を行う。

【２】実施機関の概要

実施機関の設置目的、経緯、特色等について、概要がわかるように１ページ以内で記述してください。特に、教育・研究活動等に関して特筆すべきことがあれば、記述してください（項目の羅列ではなく、組織全体としてどのような方針のもとに、活動等が位置づけられ行われてきたかがわかる記述としてください）。

本学は、地域との共生・協働によって「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、太平洋島嶼地域を含めた地域の資源を活用し地域づくりを支える「アジア・太平洋地域の活性化に貢献する中核的な教育研究拠点」となることを目指すことをビジョンとして掲げている。これは、本学が戦後，高等教育機関の設置を望む県民運動によって設立に至ったことや、1950年の開学から18年間，米国の Land Grant University であるミシガン州立大学から派遣された教師陣の指導を受けて根付いた「研究成果を地域に還元し、普及させ、地域に貢献する大学」となることの精神がいまでも継承されていることによるものである。

また、本学は、沖縄県に立地する唯一の総合大学として、さらに附属小学校・中学校を有する大学として、沖縄県における多様な人材育成と科学技術の振興に貢献する責務を負っている。このことは、沖縄振興のための『沖縄21世紀ビジョン基本計画（平成24年策定）』においても、「本県唯一の総合大学である琉球大学においては、教育研究施設や地域貢献拠点施設等の整備充実を図り、人材育成、研究機能及び地域貢献活動の強化を促進する」ことが記されているところである。特に、亜熱帯島嶼地域に位置する特性を活かし、本学の強み･特色である亜熱帯、島嶼、海洋といった分野、さらに長寿県の変容を踏まえた健康･長寿といった分野での研究を推進するとともに、今後より一層、地域に根ざした教育研究活動を活性化させ、成果を地域に還元することを目指している。これらにより、広くアジア・太平洋地域に貢献する中核的な教育研究拠点となるべく、社会変革にしなやかに対応できるイノベーティブな大学としての歩みを加速しつつある。

以上の背景を踏まえ、主に教育・人材育成の観点からは、現在6カ所に置かれているサテライトキャンパス（那覇市、宮古島、石垣島、久米島、国頭村、大宜見村）を活用した学習コミュニティづくりを強化し、多様な学習ニーズや学び直しの学習機会の充実を図り、地域で暮らし、地域の活性化を担う多様な人材の質の向上に貢献している。また、地域産業の振興を担うグローカルな人材を育成するため、沖縄産学官協働人財育成円卓会議と連携して、地域社会を支える人材の高度化プログラム、産学官コーディネーター等の産業振興を担っている。さらに、国際的な島嶼型高等教育システムの構築を目指し、他の大学に先駆けて太平洋島嶼地域を対象とする総合的な編入学プログラムを開発・実施している。受入留学生と本学学生との同時履修を促進することなどにより、「教育のグローバル化」と「太平洋島嶼地域の中核人材の高度化」の取組を同時に推進している。この取組を基盤として、島嶼・海洋性等の共通する地域特性や社会経済等の課題に焦点を当てた科目群の編成，英語による授業の拡充、アクティブ・ラーニングを中心とした授業の提供、産学官と連携したインターンシップ及び就職支援などの取組を展開するとともに，我が国にとって重要なパートナーとなる太平洋島嶼地域の国々との良好な人的ネットワークの拡充に寄与する計画である。

これらの取り組みの中核となる組織として、平成27年度から本学に「グローバル教育支援機構」を設置し、グローカル教育を推進するとともに、学内外の人材が地域・国際的な観点からの教育について協働するプラットフォームを整備しつつある。特に理系分野では、理学部、教育学部理科教育部門、医学部、およびこれらに接続する大学院や研究施設・センター等が中核となって研究教育を推進している。

また、平成 29 年度より、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受けて、小中学生を対象とした科学系人材育成事業・ジュニアドクター育成塾「美ら海・美ら島の未来を担う科学者養成プログラム」を実施している。現在この事業を中核として、附属小学校・中学校における教育や、沖縄県内のスーパーサイエンスハイスクールへの運営支援などを実施しているが、高校生を対象とする本申請企画を加えることにより、小学校から高等学校までの幅広い学年の児童・生徒に対しての体系的で継続的な科学系人材育成の実施を目指す。

また、「地域競争企画室」は，琉球大学が令和3年3月に第Ⅱ期機関といて応募予定である小中学生を対象とした科学技術人材育成プログラム「琉球大学ジュニアドクター育成塾」についても，担当調整部局となることから，本事業とも密に連携することで、得られる知見を相互活用し、本事業の効率的運用に取り組む。

なお，琉球大学は 2018 年度～2022 年度において，グローバルサイエンスキャンパス（ＧＳＣ）事業に採択され，本企画の応募時においてはⅡ期目応募機関に該当する．第Ⅰ期採択・実施においては「津梁と創造の科学人材育成プログラム」という企画名であるが，企画の実施の際は，愛称として「琉大カガク院」をいうプログラム名を設定し，ロゴマークとともに広報等に用いた．同愛称は，現在では，地域内の市町村・学校・教育関係者・中高校生・大学生・保護者・企業等にも広く認知されている．Ⅱ期目応募に当たる本企画提案は，Ⅰ期とは別企画として，これまでの経験や実績を生かしたより発展的なものであるが，企画実施時の愛称（およびロゴマーク）としては「琉大カガク院」を引き続き使用し，受講生の募集やコンソーシアム形成に活用する．また，Ⅱ期目応募である本企画提案書内においても，

本企画での実施内容・組織・活動のこと指して「本企画」や「琉大カガク院」という用語を用い，Ⅰ期実施時の企画内容や実施組織・活動のことを指す場合は「第Ⅰ期企画」や「第Ⅰ期琉大カガク院」として，区別する.

【３】企画内容

（１）全体の目的、目標

企画の目的と達成目標（企画実施期間終了時）を、以下の観点を含めて１ページ以内で記述してください。

◆将来グローバルに活躍し得る次世代の傑出した科学技術人材育成の企画を行う目的、背景となる問題意識

◆人材育成上の目標（受け入れたい受講生の人材像と育成プログラムを通して育てたい人材像）

○目的・目標

◆4 年間を想定した計画においての目標および実現すべき結果について、具体的に記述してください。
※「育てたい人材像」の詳細については、【3】（4）で記述してください。

「科学技術イノベーション立国」を標榜する我が国にとって、科学技術分野における卓越した人材の確保は、国の将来を左右する重要な課題の一つである。そのため、自然科学分野において高い興味・関心を持ち、非凡な才能を有する高校生を早い段階で見いだして個々の能力を最大限に伸長させる機会を与えることは、傑出した科学技術系人材の育成に向けて非常に重要であると考えられる。

そのため本企画は、科学技術イノベーションを牽引し、将来国際的に活躍しうる傑出した人材を育成することを目的にしている。科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材には、研究者として，卓越した才能を早期に開花させる早熟型の人材もいれば、子どもの時に興味を持った研究に継続して長い期間取り組むことによって画期的な成果を生み出す大器晩成型の人材もいる。また，研究者的素養を持つ者の中には，物事の原因や要因を追及するなど，より物事を深く探究することに興味・関心を持つ者や，既知の知識や技術を組み合わせて新しい技術や製品を開発することに興味・関心を持つ者，様々な社会的課題を見つけ，その問題の解決を目指すことに興味・関心を持つ者が存在する人材，また、科学技術に広く精通し，それらと社会をつなぐことに興味・資質を持つ者など，様々なタイプが存在すると思われる。

そのため、本企画では、科学者として必要な基盤的能力を幅広く育成する体系的な教育プログラムと、各受講生の発達段階と個々の才能や意欲とのバランスに配慮した、コーディネータや研究指導教員等の手厚いサポート体制によって、人の潜在能力を最大限に引き出せるような取り組みを行う。

実施にあたっては、開発した教育プログラムの成果や効果の継続的な検証を通して、成果等を広く発信する。そのために、沖縄県教育委員会と連携したコンソーシアムを組織し、県内の自然と科学技術系リソースを効果的に活用した地域連携型のネットワークを構築する。

本企画では、卓越した意欲や能力および強い自立心を持つ高校生を募集・選抜し、各受講生の個々の才能や意欲とのバランスに配慮しながら、科学者およびイノベーション精神を持つ次世代人材として必要な基盤的能力を幅広く育成するプログラムや、国際的な活動を含む高度で体系的なプログラムを実施することによって、受講生が自主的に自己実現活動に取り組み、その成果について、国際学会等での研究発表や外国語論文発表，国際科学技術コンテスト出場，起業プレゼンを行うなど、各方面で活躍する次世代活躍人材の育成を目標とする。また、本企画で開発された教育プログラムの効果については、受講期間中のみならず受講終了後も継続して調査することにより、様々な分野で将来国際的に活躍しうる傑出した人材を育成するための教育方法や教育評価等を明らかにし、次世代活躍人材育成のための効果的な教育プログラムの開発と実践に貢献する事を目標としている。

○背景

◆本企画を着想するに至った背景（企画の必要性、実施機関の地域性、研究分野の特性や教育課題、社会的課題、過去の類似活動を踏まえた問題意識）をできるだけ具体的に記述してください。

令和3年3月26日に閣議決定された、「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」では、Society 5.0 実現に向けた科学技術・イノベーション政策の方向性として、「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の好循環が示されている。これは、科学技術・イノベーション政策が、科学技術の振興のみならず、社会的価値を生み出す人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する政策となったことを意味するものである。また、社会の再設計を進め、まだ見ぬ社会での価値創造を次々と起こしていくためには、これを担う人材が鍵であるため、初等中等教育段階から問題発見・課題解決的な学びの充実を図る必要があり、大学や企業を含め、社会全体が学びを支える環境を整備する必要性について述べられている。

本学においても、平成27年度から沖縄県教育委員会（以下、県教委）と共催で「沖縄科学技術教育シンポジウム」を実施している。この事業は、理科や科学技術に興味・関心がある生徒に対して、研究内容の発表の場

を提供し、科学を楽しみ、学校の枠を超えた交流を推進する事を目的に「課題（自由）研究発表会」・「実験教室」・「研究者との交流会」、科学クラブ等の指導教諭を交えた「意見交換会」・「指導者研修会」等のプログラムで構成されており、中高生が自由研究や、科学部の研究成果を発表するポスター発表会では、中高生、大学生、中高教諭、研究者が自由に意見交換できる場を提供し、研究内容の進め方やまとめ方、新たな研究のヒントなどの、多面的な情報交換を実施している。そのため、研究意欲のある生徒にとって貴重な機会になっている。その後、2018 年度～2022 年度において，グローバルサイエンスキャンパス（GSC）事業に採択され、科学者として必要な基盤的能力を幅広く育成する教育プログラムを通して、科学系人材の育成を行ってきた(第Ⅰ期企画)。この第Ⅰ期企画では、科学者として必要な基盤的能力を育成する教育プログラムを開発するとともに、配属研究室での手厚いサポートを通して、各人の潜在能力を最大限に引き出せるような研究活動支援態勢を構築すると共に、沖縄県教育委員会の協力を得ながら、未来の科学者を見いだし支援するための地域連携体制を構築する事によって、科学系人材の育成において直実に成果を積み重ねてきた。そのため、本企画では、これまで効果が得られた内容については、継続・発展させて取り組むと共に、これまでの取り組みではあまり意識してこなかった、「総合知」による人間や社会の総合的理解につながる分野横断的な研究や、社会課題の解決や社会実装を目指す研究等についても研究対象に含むと共に、デザイン思考やアントレプレナーシップ教育などの STEAM 教育的手法を組み込むことによって、教育プログラムの改良を行い、自然科学の知見を生かして人文・社会科学分野の問題解決に取り組むような視野の広い人材育成に努め、Society 5.0 時代の価値創造を実現できる、次世代の傑出した科学技術人材を行う。

（２－１）人材育成事業および高大連携事業一覧

実施機関で過去 5 年間に実施した、もしくは企画提案時も実施している、中高生を対象とする人材育成事業および高大連携事業について 1 ページ以内で記述してください。
本提案企画と関連している場合には、どのように関わっているのか具体的に記述してください。
なお、本項について補足すべき事項がある場合には、次のページで補足してください。
※学内事業・外部資金による事業どちらについても記述してください。記述は最大 10 件までとしてください。
※過去に実施した GSC の企画は除きます。

事業名	企画名	事業所管機関	事業内容 ※人数規模・育成対象を含む。	予算総額 （単位：100 万）	実施部局・ 実施担当者名	実施期間 （　年　月　日 ～　年　月 日）	本企画との関連
例）〇〇事業	未来の〇〇	〇〇〇	高校生を対象として・・・を目的に・・・が・・・を行う。年間・・・人を育成する。	年間　〇百万	〇〇部　△△△	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日	当該事業の・・・が・・・であるため、本企画の・・・・に・・・のように生かしている。
ジュニアドクター育成塾事業	美ら海・美ら島の未来を担う科学者養成プログラム	JST	将来の科学イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて，年間４０名程度の，事前選抜を経た，科学に対して高い意欲や突出した能力を持つ小中学生に対し，理数・情報分野の学習などを通じて，その能力を伸長させる体系的な取り組み	年間　1000 万	理学部・教授／戦略的研究プロジェクトセンター・センター長　古川 雅英	2017 年７月１日～2022 年３月 31 日	
女子中高生の理系進路選択支援プログラム	美ら夢サイエンスプロジェクト for　琉球リケジョ	JST	年間約 500 名程度の女子中高生を対象に，理系進路や理系分野の面白さを伝えることを目的として，女性研究者による研究紹介やキャリアプラン，進路相談会も開催する．	年間　300 万	琉球大学　理事・副学長（教育・学生支援担当）／グローバル教育支援機構長　井上　章二	2020 年７月１日～2022 年３月 31 日	
女子中高生の理系進路選択支援プログラム	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	JST	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	年間　300 万	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	2018 年７月１日～2020 年３月 31 日	

（２－２）人材育成事業および高大連携事業一覧　補足事項

前ページで記載した中高生を対象とする人材育成事業および高大連携事業について、本企画との関連に対する補足説明がある場合は１ページ以内で記述してください。

（３）全体概要

4 年間にわたる企画の実施内容について、研究活動を通した育成プログラムの展開を中心として、受講生の募集から目標達成までの全体の概要のイメージ図（全体俯瞰図）を含めて１ページ以内で記述してください。

※提案企画で主に行う、基礎研究や国際共同研究等、研究の多様性を含めてください。

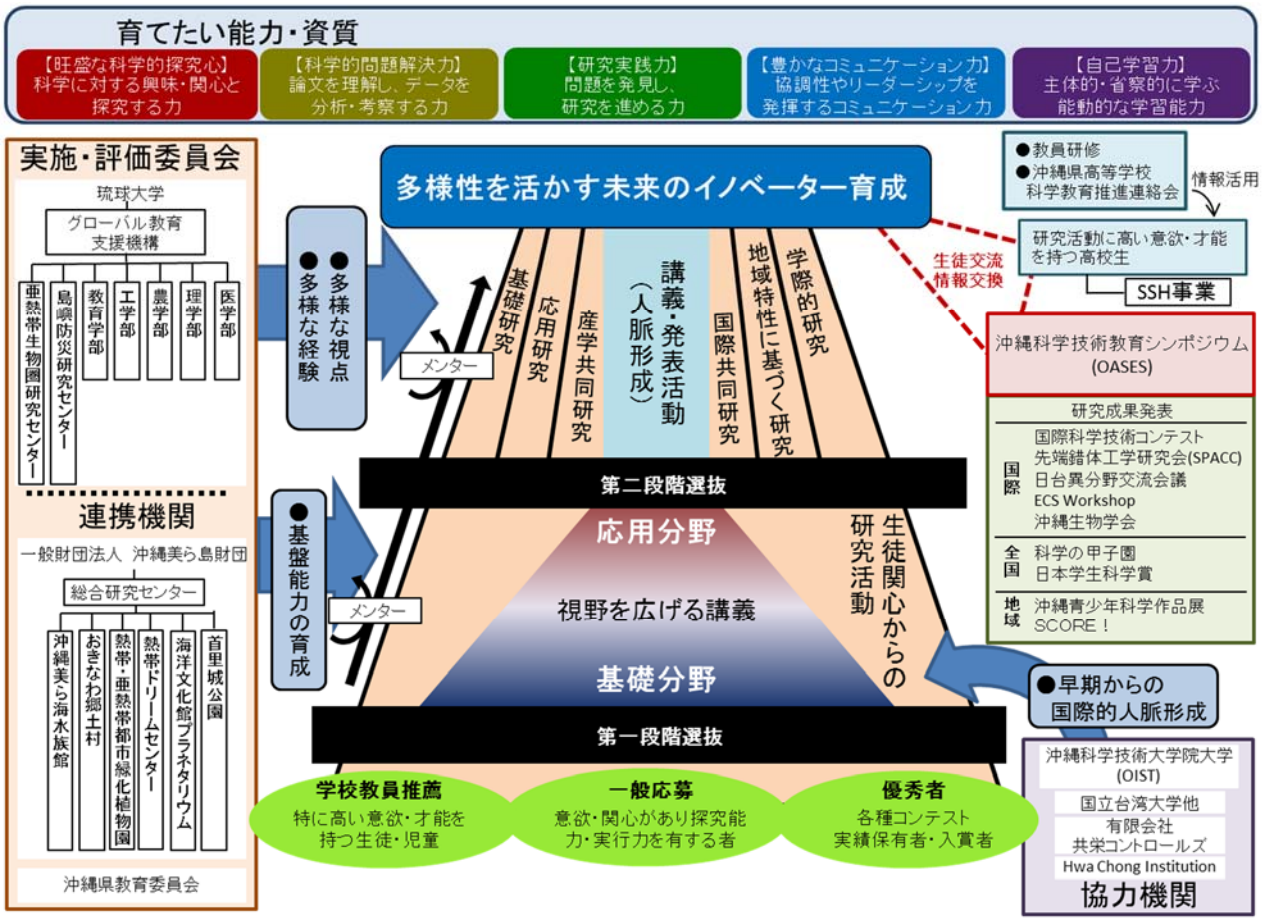


図1. 事業全体の概要

表1. 事業関係者一覧

所　　属	職　名	氏　　名	本事業に於ける役割
グローバル教育支援機構	理事・副学長	渡名喜　庸安	実施主担当者
戦略的研究プロジェクトセンター	教授	古川　雅英	実施担当者
医学研究科	教授	高山　千利	実施担当者
理学部	教授	竹村　明洋	実施担当者
農学部	准教授	鹿内　健志	実施担当者
工学部	准教授	末吉　敏恭	実施担当者
教育学部	准教授	福本　晃造	実施担当者
教職大学院	教授	杉尾　幸司	実施担当者
沖縄県教育委員会	指導主事	上間　勉	連携機関
一般財団法人沖縄美ら島財団	統括	野中　正法	連携機関
沖縄科学技術大学院大学	准教授	Alexander Mikheyev	協力機関
国立台湾大学	研究助理	西川　由香	協力機関
Hwa Chong Institution	講師	Tan Yong Leng Kelvin	協力機関
有限会社共栄コントロールズ	室長	米倉　勲	協力機関

（4）育てたい人材像の育成要件と取組との関係

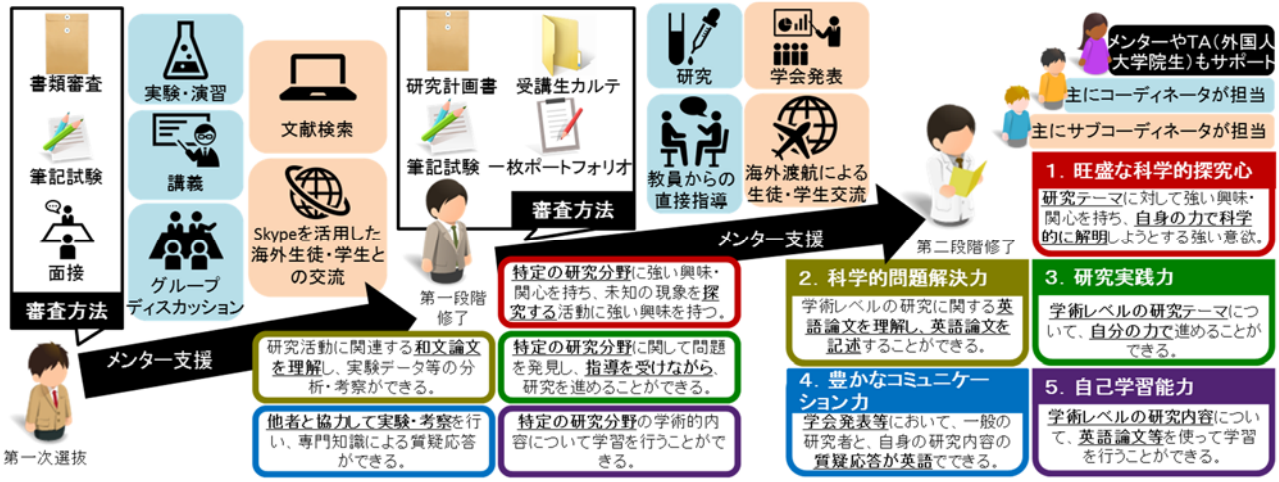
（1）の目的・目標で記述した「育てたい人材像」について、必要な能力・資質を具体的に記述してください。また、育てたい能力や資質と取組の対応関係についても併せて 3 ページ以内で記述してください。

※育てたい能力や資質の設定方法は任意です。
（例として「知識面」「能力・スキル面」「意識・情意面」それぞれについて設定することが考えられます。）

①人材育成上の達成成果の具体的なイメージ図

※目的・目標と研究活動等の育成プログラムの方針の関連が分かるように図の補足を記述してください。

※育成プログラムの方針と研究、講義、実習等の取組、事務局・研究室・メンター・チューター等実施体制の関係も含めてください。



目標とする5つの能力・資質に向けて、段階的な能力伸長をねらう。コーディネータとサブコーディネータが分担して活動の場の提供を行い、彼らの指導の下、メンターは受講生の相談を受けながら支援に取り組む。

②「育てたい人材像」に照らして、具体的に育てたい能力や資質

※第二段階を修了した受講生が習得している能力・資質を想定してください。

将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な基盤的能力として、以下の五つの能力を想定している。

育てたい能力・資質	具体的な内容
旺盛な科学的探究心	研究を進める原動力となる、未知の事物・現象について深く知りたいと思う好奇心や、その原因や本質を調べてみたいと思う探究心。身の回りの不思議な現象を発見する観察力や、問題の解決を試みるチャレンジ精神。また，幅広い事象の最新の情報を知りたい・試したいと思う気持ちや，まだ存在しない新しいものを作り出したいという探究心．違う分野や用途のもの同士を組み合わせて新しい別のものを生み出す創造力など． （関心、意欲、好奇心、探究心等）
科学的問題解決力	科学的な探究活動を行うために必要な、専門的知識・技能（英語の論文を読み書きできる能力等も含む）、理解力、結果について推論を行う論理的思考力、必要なデータ・資料を収集する情報収集力など、未知の問題を科学的に検証する能力。また，現実の課題を的確に把握したり，探究活動で得られた結果が社会でどのように利用されるかを具体的に想像する能力． （知識、技能、思考力、判断力，理解力，想像力等）
研究実践力	実際に研究を進めて行くために必要な実践力や行動力。問題を発見し，研究を逆算的にデザインする発想力や構想力、研究実行上に生じた様々な問題や課題について，試行錯誤しながら粘り強く解決を進める忍耐力，アイディアを発想してから時間を開けずに実際の行動に移す実行力など、研究を着実に実行・遂行するために必要な様々な能力。 （発想力、創造力、計画力、忍耐力、実行力等）

豊かなコミュニケーション力	他者と協力して研究を進めるために必要な協調性やリーダーシップ、研究内容を他者が正確に理解できる説明したり，その面白さや意義を幅広い分野の人に伝えるために必要なプレゼンテーション力，自身の研究分野と異なる分野の研究者と積極的に交流できる力など、科学研究の分野で活躍するために必要となるコミュニケーション能力（英語での発表や質疑応答が可能となる語学的能力等も含む）。 （表現力、協調力，英語力等）
自己学習能力	与えられたカリキュラムを消化するだけの受け身的な学習ではなく、自己の意欲、興味に基づき、主体的・省察的に学ぶ能動的な学習能力。（継続力・省察力等）

③「育てたい能力や資質」の具体的な目標水準

※学会発表での一般の研究者との専門知識による質疑応答等、可能な限り具体的に記述してください。　※受講開始時（受け入れたい人材像）との違いが分かるように記述してください。

能力・資質	具体的な内容目標水準				
	受講開始時	第一段階修了時（二次選抜合格レベル）		第二段階修了時（学部卒業研究レベル）（修士課程レベル）	
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
旺盛な科学的探究心	科学への高い興味・関心と、未知の現象や新しいものに対する好奇心・探究心を持っている。	科学への高い興味・関心を持ち、未知の現象を探究する活動や新しいものを創造する活動にも興味を持っている。	特定の研究分野に強い興味・関心を持ち、未知の現象を探究する活動や新しいものを創造する活動に強い意欲を持つ。	特定の研究分野についての十分な知識を持ち，未解決の現象を発見し，その本質を科学的に捉えたり，課題解決のために新しいものを自ら作り出したいという意欲を持つ.	自身の研究分野について深い知識を持つだけでなく，他の研究分野にも興味を示し，より本質的な課題や根本原理を科学的に捉えたり，課題解決のために新しいものを自ら作り出したいという強い意欲を持つ.
科学的問題解決力	自然科学や応用科学に関する基本的な知識・技能を有し、高校レベルの研究課題について情報を収集・分析・推論する事ができる。	自然科学や応用科学に関する知識・技能を有し、高校レベル以上の研究課題について情報を収集・分析・推論する事ができる。	研究活動を開始するために必要な専門的な知識・技能を有する。研究に関連する和文論文を理解し、実験データ等の分析・考察を行ったり，自己の研究に有用な情報を抽出することができる。	学術レベルの研究活動を行える知識・技能を有し，英和問わず自己の研究に関連する論文を理解し、その内容や課題，問題点を他者に説明することができる. また，自己の研究内容を，和文論文として記述することができるできる.	学術レベルの研究活動を行える知識・技能を有し，英和問わず自己の研究に関連する論文を理解し、その内容や課題・問題点を，解決につながる案とともに，他者に説明することができる. また，自己の研究内容を，英文論文として記述することができるできる.
研究実践力	自然科学や応用科学に関する高校レベルの問題について、具体的な研究計画を立案することが出来る。	自然科学や応用科学に関する高校レベル以上の問題について、研究計画を立案し、指導を受けながら研究を進めることが出来る。	特定の研究分野に関して課題を発見し、研究計画や研究活動についての指導を受けながら、研究を進めることが出来る。	学術論文としてまとめる事が可能なレベルの研究テーマについて，計画を立案し，研究者の指導のもと，研究上の課題を解決したり，アイディアを実際に実行するなど，着実に計画を進めることが出来る。	学術論文としてまとめる事が可能なレベルの研究テーマについて，目的や課題を明確にしたうえで逆説的に計画を立案し，研究上の課題を自力で解決したり，アイディアを実際に実行するなど，着実に計画を進めることが出来る。

豊かなコミュニケーション力	他者と協力して実験等を行ったり、実験結果について円滑にディスカッションを行える。	他者と協力して実験等を行い、実験結果について考察し、わかりやすく他者に伝えることができる。	特定の研究分野に関して、他者と協力して実験・考察を行い、専門知識による質疑応答ができる。また，自己の考えをレポートやポスター等に表現することができる.	他者と協力して研究を進めることができ、学会発表等において、自身の研究内容について、一般の研究者と日本語で質疑応答ができる。また，レポートやポスター等の作成において，自分の考えが他者に伝わりやすいようなデザインでつくることができる.	他者と協力して研究を進めることができ、学会発表等において、自身の研究内容について、他分野を含めた一般の研究者と英語で質疑応答ができる。また，レポートやポスター等の作成において，他者に伝わりやすいようなデザインを考え，社会における自己の研究内容の魅力を説明することができる.
自己学習能力	自己の意欲、興味に基づき、高校レベルの学習内容について、継続的、能動的に学習を行うことができる。	自己の意欲、興味に基づき、大学基礎レベル以上の学習内容について、継続的、能動的に学習を行うことができる。	自己の意欲、興味に基づき、特定の研究分野の学術的内容について、継続的、能動的に学習を行うことができる。	自己の意欲、興味に基づき、学術レベルの研究内容について、和文文献等を使って、継続的、能動的に学習を行うことができる。	自己の意欲、興味に基づき、学術レベルの研究内容について、英語文献等を使って、継続的、能動的に学習を行うことができる。

各能力・資質を具体的に表現する受講生のパフォーマンス（動作，言動，記述，制作物のクオリティなど，他者が認識・検出できる現実の事象）については，教育プログラム内容や評価方法毎にルーブリック等を作成して対応する。

④　③で記述した目標水準に達する受講生の割合

一次選抜合格者は、目標基準のレベル1に到達している事を前提としている。その内、40%程度の受講生がレベル3に到達（二次選抜合格）し、第二段階修了時には、20%程度の受講生がレベル4、10%程度の受講生がレベル5に到達すると想定している。

能力・資質	目標水準				
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
旺盛な科学的探究心	100%	70%程度	40%程度	20%程度	10%程度
科学的問題解決力	100%	70%程度	40%程度	20%程度	10%程度
研究実践力	100%	70%程度	40%程度	20%程度	10%程度
豊かなコミュニケーション力	100%	70%程度	40%程度	20%程度	10%程度
自己学習能力	100%	70%程度	40%程度	20%程度	10%程度

⑤「育てたい能力や資質」と取組との関係

※③の目標水準に達する受講生を育成するために、具体的にどのような取組が必要・有効であると考えるかを簡潔に記述してください。

※取組の詳細については、後項「（７）計画」で記述してください。

本企画では、将来、科学技術分野の研究者として活躍するための基盤的能力について育成する事を目標にし，その達成のため，受講者の意欲・能力を見出す際の具体的観点として、「旺盛な科学的探究心」、「科学的問題解決力」、「研究実践力」、「豊かなコミュニケーション力」、「自己学習能力」を想定している。未知の事物・現象について知りたいと思う好奇心や、その原因を調べてみたいと思う探究心は、研究を進めるための原動力になる（旺盛な科学的探究心）。しかし、強い思いだけでは、科学的な結果は得られない。実際に探究活動を行うためには、調査対象・現象に関する専門的知識や実験や調査に必要な技能、得られたデータを分析し推論する論理的思考力等の能力が必要になる（科学的問題解決力）。また、構想した研究を実現するには、問題を発見し研究をデザインする発想力や構想力、試行錯誤しながら問題解決を進める忍耐力や実行力などの能力も必要である（研究実践力）。それに加えて、他者と協力して研究を進めるためには、コミュニケーション力やリーダーシップが、自身の研究の面白さを他者に伝えるためには、プレゼンテーション力が必要となる（豊かなコミュニケーション力）。さらに、自立した研究活動を続けるためには、与えられたカリキュラムを消化するといった受け身的な学習だけではなく、自己の意欲・興味に基づき、主体的・省察的に学ぶ能動的な学習能力が必要になる（自

己学習能力）。本企画における受講生の学習内容は、高校の教育課程レベルを凌駕するため、配布資料の予習や復習は必須であり、紹介された書籍や文献等について、主体的に学んで行く積極性がなければ、レベルの高い探究活動を行うことはできないであろう。また、本企画では、国際的に活躍できる人材の育成を目指しているため、英語の語学力（聞く・読む・話す・書く）や大学レベルの専門知識等も必要となると思われる。そのため、以下の教育プログラムを実施する。

＜第一段階の教育プログラム＞

【基礎プログラム】（必修）

一次選抜に合格した受講生は、自然科学に対して高い興味・関心を持っている事は疑いないと思われるが、学校や学年が異なるため、各人の習得している知識や技能については、均質ではないと考えられる。そのため、研究活動を行うために必須となる各能力の成長を促す実践的な取り組みを全般的に行う。基礎プログラムは，自ら主体的に研究活動を実施するために必須となる基礎科学（自然科学）および応用科学分野の幅広い知識・技能を習得する「知識・技能習得プログラム」と，これまでに習得した知識技能を総合的に活用し，研究活動に必要な能力（英語を含む）を実践的に習得する「探究実践プログラム」とで構成される．プログラムの詳細は，「（７）計画」にて記載する．

【応用プログラム】（選択履修）

受講生にとって興味がある分野の発見や学習内容の深化を促す契機となるように、先端的科学研究や科学技術を活かした新規産業など，様々な内容（アントレプレナーシップ教育を含む）について紹介・学習する。第二段階の教育プログラムにおいて、受講生の受け入れを行う研究室の研究者が各々の研究内容を紹介する講義や、関連する分野の外部講師による先端分野・先端産業の研究紹介等を行い、受講生が第二段階教育プログラムで取り組む研究内容について理解を深め、興味・関心を高められる内容とする。また，沖縄県出身の博士学位取得者で，地元でベンチャー企業等を起業し，県外に販路を拡大するなど活躍している研究者の講演なども行い，研究者的素養を持った人材の多様な生き方や社会とのかかわり方についても理解を深められる内容とする．受講生個別の興味・関心に応じて受講できるように選択履修とする。

【探究プログラム】

二次選抜を合格した受講生は、各研究室に１～２名配属され，研究室の一員として研究・探究活動を行う。同プログラムでは、コーディネータ（サブコーディネータ）と配属研究室の指導教員が協力して作成した研究・探究活動支援プログラムにしたがって、配属研究室において活動を実施する。受講生は、各自のスケジュールを調整して研究室を訪問し、研究内容についてのアドバイスを受けるとともに、大学や研究機関，協力企業の機材・設備を活用して自宅や学校では実施できない実験，調査，開発等を行う。プログラム期間には，学会やシンポジウム等において，受講生が研究成果を積極に発表できるよう促す．また，これらの発表の機会においては，自己の研究成果について，受講生が地元ベンチャー企業関係者等からもアドバイスやコメントをもらえる機会を設け，自己の研究内容と社会との接続や社会的応用の可能性について，発想を拡張できるよう努める．プログラムには、英語論文を紹介する研究室ゼミへの参加や、英語での研究成果発表支援（発表原稿作成支援、口頭発表練習など）を含んでおり、オンライン教育・コミュニケーションツール等を活用して、時間的、距離的制約をカバーする教育体制で取り組む。

⑥国際性付与に関する方針や展開

※③の目標水準に達する受講生を育成するために、国際性付与に関して、具体的にどのような取組が必要・有効であると考えるかを、国内の取組と海外の取組に分けて簡潔に記述してください。

※海外での取組については、研究活動に基づく海外渡航としてください。

【国内の取組】

一段階教育プログラムでは、必修科目において，「科学英語の基礎と実践」（90 分×４回を予定）として，自身で設定した特定の研究分野・テーマについて，英語での情報検索方法および英文資料の読み込みを体験する．また，自分の研究データを国際大会等で発表をする場面を想定した演習を行い、資料を英語表見する際の工夫等について，グループ内およびグループ間で討論および相互実践を行う．これらを通して，科学分野に関する英語の読み、書き、聞き、話す能力を高める。

第二階教育プログラムでは，英語にて学術論文を読解、執筆し、英語にて議論が行える能力が重要となる。サブコーディネータが、第二段階受講生全員を対象とした少人数セミナーを開催する。論文サマリーを題材として、科学英語の読解、分析を行い受講生間で議論を行う。また、論文執筆に向けた記述訓練も行う。この活動を通して、受講生の論文読解、執筆能力を向上させ、自身が関心を持つ国際誌の研究論文を円滑に理解できるようになることで、受講生の国際的視野の拡大を目指す。

【海外の取組】

第二段階生は，海外の高校生・大学生も参加し，オンラインで開催される国際シンポジウムにおいて，英語による研究発表を行い，海外の高校生との研究交流を行うことで，国際的な状況の中における自己の研究の評価や役割について理解を深めるとともに，異なる国のそれぞれの社会が共通・非共通して抱える課題についても理解を深め，その解決のために自己の研究がどのように応用可能であるかを考察することを促す．また，同シンポジウムは第一段階受講生も参加可能とし，海外の高校生とも議論することで，国際的な感覚を育む．また，研究成果が得られた受講生は、地域にとらわれず国際会議での成果発表にも積極的に行ったり，理工系分野で将来が期待される高校生との研究成果発表参加や、起業プレゼン，国際共同研究のために議論が必要と認められたもの等についても、受講生も海外渡航を行う。

さらに，米国ユタ州Dixie State Universityや教育先進国であるフィンランドや、台湾やシンガポール、ミャンマーなどのアジア圏での科学才能教育に取り組む教育・研究機関など，琉球大学が本事業の第Ⅰ期採択および実施時に構築した，海外の教育・研究機関との連携を強める．

＊上記③～⑥については、第一段階と第二段階の違いがわかるように記述してください。
＊「育てたい能力や資質」の具体的な評価の方法や、取組の効果検証については、後項「（7）計画」で記述してください。

（５）各年度の重点目標

1ページ以内で記述してください。

初年度	※各年度における定性的な目標を記述してください。 ※当該年度において特に重点とする目標に「◎（二重丸）」を先頭に付してください。「重点とする目標」が複数ある場合も可。 〇沖縄県教育委員会や民間非営利団体等との連携体制の確立 〇企画推進のための学内協力体制の充実 ◎第一段階教育プログラムの開発と受講生への教育効果の検証 〇第一段階受講生の評価に基づく第一次選抜方法、評価内容の検討 〇第二段階に選抜されなかった受講生へのフォロー指導の実施 〇第一段階の受講生の評価と検証 〇国際性を付与する国内での取り組みについて実施
2年度目	※年度により重点の置き方を変えて記述してください。 ※当該年度において特に重点とする目標に「◎（二重丸）」を先頭に付してください。 〇第二段階教育プログラムの本格実施に伴う連携協力体制の改善・充実 〇前年度の取り組み内容の反省を活かした第一段階教育プログラムの改善 ◎第二段階教育プログラムの本格実施と受講生への教育効果の検証 〇第二段階教育プログラムに携わる協力研究者、メンター等への研修会の実施 〇前年度の取り組み内容の反省を活かした第一段階教育プログラムの改善 〇第二段階教育プログラム修了生へのフォロー指導の実施 〇第二段階教育プログラム修了生の評価 〇国際性を付与する国外での取り組みについて実施
3年度目	※年度により重点の置き方を変えて記述してください。 ※当該年度において特に重点とする目標に「◎（二重丸）」を先頭に付してください。 〇企画推進のための連携協力体制の確立と機能強化 ◎前年度の取り組み内容の反省を活かした第一段階教育プログラムの改善 ◎前年度の取り組み内容の反省を活かした第二段階教育プログラムの改善 〇第二段階教育プログラム修了生への教育効果の検証 〇メンターを含む企画実施関係者の教育プログラム全体に関する役割と効果の検証 〇修了生の大学進学等の活動状況の把握と教育効果の検証
4年度目	※とりまとめの年度としての目標を記述してください。 ※当該年度において特に重点とする目標に「◎（二重丸）」を先頭に付してください。 ◎企画修了後を見据えた、地域連携型の人的・機関的ネットワークの構築 〇追跡調査の結果を踏まえた教育プログラムの検証と内容の確立 〇期間全体の教育効果の把握と検証 〇地域連携ネットワークを活用した成果の公開や普及

（６）数値目標

各数値目標について、人数・件数等を以下に1ページ以内で記述してください。

■新規に第二段階で研究活動を行う受講生数

※研究室等において研究テーマを実施する受講生の目標数を記述してください。

実施年度	初年度	第2年度	第3年度	第4年度
目標数(人)	15～17人	15～17人	15～17人	15～17人

■受講生が創出する成果

※4年間の累計数を記述してください。

	項目	目標数	備考欄
1)	国際学会等での外国語による研究発表件数	4～8件	※外国語で行う学会・ワークショップ・シンポジウム等における研究発表などを含みます
2)	1）に含まれない研究発表件数	20～40件	※国内学会での発表、公開発表会、学会での高校生セッションなど ※ＧＳＣ全国受講生研究発表会での発表は含みません
3)	外国語論文発表件数	4～8件	※日本の学術雑誌に発表する外国語論文を含みます
4)	3)に含まれない論文発表件数	8～16件	※海外の学術雑誌に発表する日本語論文、学内紀要や複数の機関が関与した雑誌投稿、高校生を対象とした雑誌投稿など
5)	日本学生科学賞 （ISEF予選）	6～12件	※日本国内予選等への参加数
6)	高校生科学技術チャレンジ （ISEF予選）	6～12件	※日本国内予選等への参加数
7)	科学オリンピック （物理・化学・生物等）	8～16人	※日本国内予選等への参加数
8)	科学の甲子園	8～16人	※都道府県代表選考会への参加数
9)	高校化学グランドコンテスト	6～12件	その他研究発表会やコンテスト等を予定している場合は、本欄に記述してください。
10)	受講生によるクラウドファンディング	２～４件	※修了生による実施を含む
11)	受講生による起業	１～２件	※修了生による起業を含む

※科学技術コンテストについては、受講生の所属する高校等による推薦で出場者を決める場合があることを考慮し、目標を設定してください。

（７）計画

前項「（4）育てたい人材像の育成要件と取組との関係」や「（5）各年度の重点目標」に基づき企画の具体的な計画を、年度ごとに欄内の注記を踏まえて10ページ以内で記述してください。

なお、自己財源等によって実施する部分や、連携する活動がある場合は、その旨が分かるように記述してください。

○初年度

①コンソーシアムの設立計画と構成メンバー、役割

琉球大学では，第Ⅰ期企画において，国立大学法人琉球大学、沖縄県教育委員会、一般財団法人沖縄美ら島財団，日本トランスオーシャン航空株式会社を構成メンバーとするコンソーシアム「ＧＳＣ連絡協議会」を設置し，各機関に配置された業務協力者が中心となって連携し，プログラムに取り組んでいる。本企画においても，すでに構築されたこのコンソーシアムを中核として，活動を開始する.

琉球大学は引き続き，実施機関として、本企画の運営、実施、各所との調整等を担当し、中心となって教育プログラムの開発、受講生への教育効果検証に取り組む。沖縄県教育委員会は、県内高校への情報提供および受講生が本企画に円滑に参加できるよう、学校への協力要請を担当する。沖縄美ら島財団は、所属する研究者による生物等の講義・観察実習や施設見学，二段階教育プログラムでの研究での解析用のサンプルとして，所蔵する文化財の提供協力等を担当する。日本トランスオーシャン航空株式会社は，離島等の遠隔地から参加する受講生の渡航にあたっての協力や，施設見学・講義の実施などの取り組みを担当する.

本企画では，すで構築されているメンバー以外に，地元ベンチャー企業などを含めた地元商工会や市町村担当部署等を構成メンバーに加えるなど，随時，コンソーシアムを拡張すること検討している.

②募集（広報含む）

全国の高校生・中等教育学校4～6年生・高等専門学校1～3年生（以下、高校生等）に広く周知し、応募者を公平に受け入れ、選抜する体制を構築する※。具体的には，以下の対応を行う.

【都道府県，学校，中高校生等への周知活動】

全都道府県及び政令指定都市等の教育委員会宛に，募集への協力依頼及び募集案内等を送付し、管下の高校生に対して本企画の周知を依頼する。県内の全高校には、沖縄県教育委員会から協力依頼の文書を送付するとともに、大学から募集要項やリーフレット等の案内等の文書を直接送付する。SSH校や科学作品展等への出品数が多い高校等については，個別に学校訪問を行って、本企画の説明と応募の呼びかけを行う．また，県内離島等の遠隔地の高校等についても個別に学校訪問や出前授業で応募の呼びかけを行い，地域で卓越した意欲・能力を持つ高校生の随時発掘に努める．加えて，第Ⅰ期企画と同様，琉球大学がJSTから委託を受けて実施する小中学生向けの科学教育プログラム「琉球大学ジュニアドクター育成塾（愛称：琉大ハカセ塾）」とも連携し，同企画の修了生で，高校に進学するものに対し，琉大カガク院の内容を周知し，応募を積極的にすすめる.

※「琉球大学ジュニアドクター育成塾」については，現在，Ⅱ期目応募機関として，JSTに提案書を提出している．ただし，その採択に関わらず，令和４年度においては大学の自己資金で実施することから，連携に支障はない.

【広報活動】

県内新聞各紙（沖縄タイムス、琉球新報）へ企画内容や募集案内等の紹介記事を掲載する．琉球大学で募集説明会（オンライン開催を含む）を開催し、希望者に対して直接説明をする機会も設ける。科学作品展や科学の甲子園予選などに本企画のブース出展を行い，能力の高い高校生に情報が伝わるよう努める．ブース出展については，当該年度の募集期間後であっても，次年度に向けた，広報活動として継続して実施する.

【オンラインでの広報活動】

本企画説明や活動紹介の映像を作成し、大学のHP上で配信する．また，本企画公式Twitter，Facebook等のSNSやメタバース空間上でも情報を配信し，インターネット上で拡散されやすい取り組みを行う．また，第Ⅰ期企画において蓄積された講義データや活動写真・動画，受講生の発表資料等を閲覧できる「琉大カガク院アーカイブ」を構築したり，一次選抜前であっても，応募者や本企画に興味を持つ高校生等が自由に参加し，本企画の一部（第一段階教育プログラムの一部）を体験できる「プレ・琉大カガク院講義（60分×２回程度）」をオンラインで実施し，本企画内容の周知と，地域で卓越した意欲・能力を持つ高校生の随時発掘に努める．これらの取り組みについては，保護者や学校教員等が参加できるよう努める．また，これらオンラインでの取り組みについては，メタバース空間上に仮想の琉大カガク院の空間を構築して実施することを検討し，応募者の個別の事情に応じて，時間的、距離的制約をカバーするよう努める.

※中学校段階の生徒においても、受講にあたって育成プログラムの改変や補習等を行う必要の無い極めて卓越した能力を有する場合は、対象として含めることを検討する.

③一次選抜計画

【選抜の観点】

本企画では、将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な基盤的能力として、「旺盛な科学的探究心」、「科学的問題解決力」、「研究実践力」、「豊かなコミュニケーション力」、「自己学習能力」の育成を目指している。そのため、一次選抜にあたっては、上記の五つの能力の基盤となっている以下の各観点について、「書類審査」、「小論課題審査」，「研究計画書課題審査」の３つを通して評価する。審査方法と評価の観点、評価方法は以下の通りである。

審査方法	評価の観点	評価内容
書類審査	意欲、関心、探究能力、実行力、技能、実績	志願書および推薦書の記述内容から、意欲・関心、探究能力、実行力等の観点から評価する。志願書には、「科学作品展や科学オリンピック等の受賞実績」や「志願理由（興味関心がある内容や数検等の実績等も含めて記述）」等の欄を設ける。推薦書の添付は、必須としない。
小論文課題審査	創造力、独創力、好奇心，知識、理解力、読解力、発想力、論理的思考力、表現力	課題文を読んで論点についてまとめたり，問題解決のための意見や考えを記述するなど，論述形式の課題に解答させる。出題内容は、実生活や実社会に関連した理科・数学に関する題材を中心とするが、英語の読解力等に関して計れる内容も出題する。
研究計画書課題審査	創造力、独創力、好奇心，知識、発想力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力，デザイン思考・逆向き設計力	自分のやりたい研究について，図表を含めて自由記述形式で書いてもらう「研究計画書」の提出を求める。計画書は「研究タイトル」，「背景・目的」，「具体的方法」，「遂行によって得られると予想する結果」からなり，発想力，知識・情報収集力，論理的思考力，目標に対する逆向き設計力など，応募者の総合的な研究者的思考能力を評価する.

応募者が選抜に合格して受講生として活動する場合，これら課題の評価結果は，　本企画応募時点での受講生の能力評価（診断的評価）にも有効であることから，受講生カルテに記載する.

【選抜基準】

（1）「書類審査」 配点（100 点）:

志願理由書および推薦書の記述内容について、意欲・関心、探究能力、実行力、技能、実績の観点から評価する。各志願者の評価は、各評価基準の得点を合計して算定する。

観点	評価内容	評価段階および点数			
意欲・関心	応募の動機等に関する記述内容	内容を適切に述べていない（0点）	内容を最低限述べている(2点)	内容に意欲・関心が感じられる(4点)	内容に強い意欲・関心が感じられる(6点)
	興味ある分野等に関する記述内容	内容を適切に述べていない（0点）	内容を最低限述べている(2点)	内容に意欲・関心が感じられる(4点)	内容に強い意欲・関心が感じられる(6点)
	理数系の部活動・イベント等への参加状況	・受賞等の評価に関係なく参加件数に対して 1 点 （科学の甲子園、科学オリンピック、各科学イベント等）			
	数学検定、理科検定、英語検定等の評価※1	3 級以下（1 点）、準 2 級（3 点）、2 級（8 点）、 準1級（10 点），1 級（15 点）			
	学校推薦書による理数系分野へ意欲等の評価内容	学校を代表するレベル（5 点）	地区を代表するレベル（8 点）	県を代表するレベル（10 点）	
探究能力 実行力 技能 実績	科学作品展等の出品・受賞実績※2	・校内提出（1 点） ・地区大会（佳作 2 点、銅賞 3 点、銀賞 4 点、金賞 5 点） ・県大会（佳作 6 点、優良賞 7 点、優秀賞 8 点、最優秀賞 9 点） ・全国大会（受賞 15 点）			
	理数関係に関する発表会等の入賞実績等	・地区代表（3 点）、県代表（5 点）、全国大会入賞（10 点） （科学オリンピック、部活動、各科学イベント等）			
	その他、理数系分野での特筆すべき能力や資格	・上記の各評価に準じて配点する。			

※1：他の検定についても、上記の内容に準じて評価する。

※2：作品（研究テーマ）毎に、上記の基準に基づいて配点し、同一の作品で、複数の賞を受賞した場合は、最高点の得点のみ評価する。科学作品展以外の実績についても、受賞ランクに準じて同様に評価する。

(2)「小論文課題審査」 配点(100 点):
応募者の知識、理解力、読解力、発想力、論理的思考力、表現力等について評価するため、課題文を読んで論点についてまとめたり，問題解決のための意見や考えを記述するなど，論述形式の課題に解答させる。出題内容は、実生活や実社会に関連した理科・数学に関する題材を中心とするが、英語の読解力等に関しても計れる内容を出題する。
(3)「研究計画書課題審査」 配点(100 点):
計画書は「研究タイトル」,「背景・目的」,「具体的方法」,「遂行によって得られると予想する結果」からなり，発想力，知識・情報収集力，論理的思考力，目標に対する逆向き設計力など，応募者の応募者の総合的な研究思考能力を評価する.

【選抜方法・選抜体制】
志願書を提出した応募者に対し，小論課題および研究計画書課題を通知する．応募者は，応募者用 HP 等からダウンロードした課題を回答・作成し，期日までに大学担当事務局まで提出（郵送やオンライン提出）する．提出された課題は，後述する選抜体制下で，選抜基準に基づいて評価され，総合的に判断して合格者が決定される．選抜方法については，非対面式での実施を予定しているが，ポストコロナ（アフターコロナ）においては対面での実施を検討するなど，状況に応じた選抜方法の見直しを行う.
選抜の運営は、「ＧＳＣ運営委員会」を中心に「一次選抜実施ＷＧ」を組織して実施する。合格者の決定に関しては、特定分野における優れた知識・技能、探究力、高い意欲、独創性等を持つなど、ある領域において突出した才能を有する生徒の選抜には、各観点の結果を単純に合計した評価は適切ではない場合もあるので、「ＧＳＣ運営委員会」において協議し、総合的に判断して合格者を決定する。

【スケジュール、応募者数と新規に受け入れる受講生数の予定数（表）】
大学ＨＰでの情報提供を６月下旬に予定している．県教委からの各高校への文書送付および大学から各高校への広報書類の発送については，７月上旬を予定している．大学での説明会の開催を７月中旬に行う．募集期間は７月中旬～下旬を予定しており，必要に応じで，適宜、期間延長や二次募集を検討する．一次選抜実施は８月上旬，合格発表（合格通知発送）は８月下旬を予定しており，入講式（第一段階プログラム開始は９月上旬を予定している※.
各年度の新規に受け入れる受講生数の予定は以下の通りである.

	初年度	2 年度	3 年度	4 年度
応募者数	80 人	80 人	80 人	80 人
新規に受け入れる受講生数	40 名程度	40 名程度	40 名程度	40 名程度

④第一段階での受講生の育成計画
（１）講義･実験演習等の活動の具体的分野・内容・テーマを含めた計画
第一段階の教育プログラムは、すべての受講生が受講し，科学技術分野の研究者として必要な基盤的能力について実践的に育成する【基礎プログラム】と、個々の受講生の興味・関心に応じて特定のテーマをより深く習得する，選択式の講義の【応用プログラム】から構成されている。
【基礎プログラム】
一次選抜に合格した受講生に対し、研究活動を行うために必須となる各能力の成長を促す取り組みを全般的に行う。基礎プログラムは，自ら主体的に研究活動を実施するために必須となる自然科学分野の幅広い知識・技能を習得する「知識・技能習得プログラム」と，これまでに習得した知識技能を総合的に活用し，研究活動に必要な能力を実践的に習得する「探究実践プログラム」とで構成される.
「知識・技能習得プログラム」は，自然科学および応用科学を理解するために必要な知識について大学の専門基礎レベルの講義を行い、科学の各分野について体系的な理解を高める。この学習を通して、各学問分野の内容についての認識を深め、各人がより興味が持てる分野の発見につながる内容とする。オンラインでの講義を基本とし，個々の受講生が自身のペースや状況に合わせて学習できるよう，学習動画をオンデマンド方式で学習したり，反転授業形式で実施する．学習動画は，テーマ毎に複数用意し，受講生はその中から，自己の興味に合わせて選択，学習する．各講義の学習後にレポートを提出する．受講生の講義履修やレポートの提出状況，受講生へのフィードバック等はオンライン学習システムなどを用いて，受講生の負担を軽減し，効率的に運用する．自分で深く学ぶことができる様に、講義の理解に必要な関連書籍や文献、web サイト等の紹介にも十分に行う.
・学習プログラムの例

No.	テーマ	学習のねらい	内容･実施回数等	育成したい能力･資質
1	物理学概論	自然科学(基礎科学)を理解するために必要な知識について広く講義	学習動画のオンデマンド方式(45 分(レポ	・旺盛な科学的探究心
2	化学概論			

3	生物学概論	し、自然科学の各分野について体系的な理解を高める。	ート作成含む）×３回×7分野）やオンラインでの反転授業学習（60分×１回×７分野）を想定	・科学的問題解決力 ・自己学習能力
4	地学概論			
5	数学概論			
6	工学概論	応用科学を理解するために必要な基礎的な知識について講義し、自然科学のつながりを含め体系的な理解を高める。		
7	産業社会学概論			

「探究実践プログラム」は，実際の研究活動を強く想定した実習・演習を主軸とするプログラム（合計90 分×12 回程度）を基本とし，科学研究の具体的な実行に共通して必要な知識・技能（英語の学習も含む）や論理的思考力を，実践的に習得する．受講生の主体的・能動的な学習を促すために，各プログラムでは，演習，受講生同士のディスカッション・討論、コミュニケーション、グループでの協力、ブレインストーミング等の活動を積極的に導入する．対面でのプログラムを基本とするが，参加する受講生の状況に合わせ，Zoom 等のミーティングツールを活用したリアルタイム双方向型でのオンラインプログラムとのハイブリット型での実施や，メタバース空間（コンピュータネットワークの中に構築された、現実世界とは異なる 3 次元の仮想空間）でのプログラムの実地についても検討する．

・学習プログラムの例

No.	テーマ	内容	学習のねらい・実施回数等	育成したい能力・資質
1	科学および科学者とは何か？	科学や科学者について改めて考える。討論、グループでの協調学習、ブレインストーミング等の活動を通して、科学についてのより深い理解と思考を促す。	研究者的思考を理解し，アクティブ・ラーニング形式の授業になれる. 90 分×1回	・旺盛な科学的探究心 ・豊かなコミュニケーション力
2	科学調査の方法と実践	研究活動を進めるために必要な技術や能力を育むため、仮想データを題材にした探究学習を実施する。海洋生物研究などの複雑系を題材とした模擬データについて、受講生自身が解析を行い，その結果をグループで討論する。また，結果から受講生が導き出した結論および考え，社会への影響について，グループ内およびグループ間で共有・検討を行い，論理的に妥当な結論を導きだす経験をつむ．各受講生は，これらの過程を，段階ごとにレポートやポスターしてまとめる． これらを通して，調査の実施，結果の分析と評価、研究結果の発表と議論および，それらの思考をまとめ，アウトプットするために必要な能力の育成を図る。	「観察、記録、計測、データの整理、作図」などの調査方法と結果のまとめ方、「比較、推測、説明、推論、証拠と推論の区別、統計処理」などの論拠の分析と評価方法について学習する。 また，自身の研究成果まとめて発表するための思考デザインや，他者に自分の考える伝えるための表現物のデザインについても学ぶ. 90 分×6回	・科学的問題解決力 ・研究実践力 ・豊かなコミュニケーション力 ・自己学習能力
3	科学英語の基礎と実践	自身で設定した特定の研究分野・テーマについて，英語での情報検索方法および英文資料の読み込みを体験する．また，研究データを，国際大会等で発表をする場面を想定した演習を行い、資料を英語英語する際の工夫等について，受講生間で討論および相互実践を行う．これらを通して，科学分野に関する英語の読み、書き、聞き、話す能力を高める。	英語で研究発表を行うために必要な取り組みについて演習する。 90 分×4回	・豊かなコミュニケーション力 ・自己学習能力
4	科学者の責任と倫理	データの取り扱い方や論文等の引用にあたって注意することなどの研究規範や、科学者の社会的役割と責任等について学習しディスカッションを行う。	個々のケーススタディについて学び、研究倫理について理解を深める。 90 分×1回	・研究実践力 ・豊かなコミュニケーション力

【応用プログラム】（選択履修）

受講生にとって興味がある分野の発見や学習内容の深化を促す契機となるように、先端的科学研究や科学技術を活かした新規産業など，様々な内容（アントレプレナーシップ教育を含む）について紹介・学習する。第二段階の教育プログラムにおいて、受講生の受け入れを行う研究室の研究者が各々の研究内容を紹介する講義や、関連する分野の外部講師による先端分野・先端産業の研究紹介等を行い、受講生が第二段階教育プログラムで取り組む研究内容について理解を深め、興味・関心を高められる内容とする。また，沖縄県出身の博士学位取得者で，地元でベンチャー企業等を起業し，県外に販路を拡大するなど活躍している研究者の講演なども行い，研究者的素養を持った人材の多様な生き方や社会とのかかわり方についても理解を深められる内容とする．受講生個別の興味・関心に応じて受講できるように選択履修とする。11 月から 1 月にかけて、90 分×10 回程度の実施を想定している．実施にあたっては，オンラインを予定しているが，ポストコロナ（アフターコロナ）においては対面での実施を積極的に検討するなど，状況に応じた選抜方法の見直しを行う．

学習プログラムの例

No.	分野		テーマ・内容
1	健康医療系	感染防御学	感染に対する防御免疫応答の制御機構
2		分子生物学	シグナル伝達機構を中心とした分子生物学的解析
3	海洋天然科学系	水圏生命科学	サンゴ礁環境と生物の周期的な活動
4		天然物化学	生理活性物質の探索とその応用
5	亜熱帯生物系	農業情報工学	農作業支援システムの開発
6		行動生物学	シロアリが示す社会的行動
7	島嶼産業系	エネルギー化学	島嶼経済に適した水素貯蔵材料の開発
8		情報統計学	ゲーム理論を用いたグループ旅行における行動解析
9	産業振興系	科学技術・産業学	ヒューマン・コンピュータ・インタラクションのもたらす未来の産業の創出
10		アントレプレナーシップ教育	機械学習とシミュレーション技術を用いたアプリケーションの開発とベンチャー企業の立ち上げ

（２）個への対応や多様な受講生へ対応するための取組

受講生の学びのサポートとして、討論や実験に取り組むために必要な共通基礎知識や用語解説、実験手順書などの資料をオンライン学習システム上でも提供し、個々の受講生の能力に合わせた学習が可能になるように努める。各教育プログラムでは，理系分野を専攻する大学院生・大学生がメンターとして配置され，コーディネータのリーダーシップのもとで、受講生へのきめの細かい対応を担う。また，第Ⅰ期琉大カガク院修了生で，琉球大学に進学している大学生をメンターとして配置し，経験を現役受講生に伝えることで，多様な受講生にも対応する．また、沖縄県外や離島等の遠隔地からの受講生のために、Zoom などのオンライン学習システムを利用し、自宅から教育プログラムへ参加可能な環境を整えるとともに、大学での講義等の実施にあたっては，渡航費の一部を支援できるように体制を構築する。

受講開始時に実施するアンケート調査を通して、個々の受講生の興味・関心の方向性や受講生自身が目指したいと思っていること等について把握し「受講生カルテ」に記録する．また，受講生が応募時に提出する研究計画書をもとに，その個人に必要となる知識や技能を把握するとともに、受講生に助言を行い、どのような目標設定が有効なのかを、各受講生が理解できるように努める．さらに，各講義においても，授業内容の振り返りとして，各人の具体的な目標について一枚ポートフォリオに記述させ，個々の受講生の特性を把握し，個への対応へ活かすよう努める．このような、各人の目標について振り返る機会を、一つのカテゴリーの授業が終わった段階で設ける事によって、各人の思いや考え方の変遷について、受講者自身が各人の目標設定とそのことについての自分自身の変遷について、メタ認知的な理解を促す。また、この内容をメンター、コーディネーター、実施担当が情報共有することによって、各受講生の各段階での考えや希望を把握して適切なサポートを実施する．

加えて、卓越した能力や特定の分野に極めて高い能力・創造性を有する第一段階受講生がいる場合は、個別に指導研究者を紹介して、早期に研究者の指導や研究活動が行える体制を構築する。意欲や能力が特に優れている受講生に対しては、上記の学びのサポート以外にも、通常のプログラムを実施しない土・日等に発展プログラムを実施する。この発展プログラムは、個々の受講生の実態に応じて個別指導または小グループ指導の形で実施する。指導計画は、実施担当者とコーディネータが協議して策定し、大学教授等の協力研究者が受講生の指導を担当する。

（３）各プログラム中の受講生の評価についての考え方・方法

受講生は各プログラムの各講義後に，自分が学んだことや自己の変化について記述する一枚ポートフォリオシートをレポートして提出する．一枚ポートフォリオシートは，講義受講前の講義テーマに対する自己の知識・概念，講義で新たに学習した事，講義受講後の講義テーマに対する自己の知識・概念，自己の概念変化についての考え方などを記述するもので，これらを講義ごとに提出させることで，本企画の受講前・中・後の受講生の変化について補足することが出来，診断的評価および形成的評価を行うことが出来る．また，各プログラム終了後に，一連のレポートを振り返ることで，総括的評価として，目標に対する受講生の到達段階を把握することが可能である．その他，各講義の演習などでは授業での発表やグループ活動をルーブリック評価するとともに，プログラム期間中の受講生の情意面の変化をアンケート調査によって把握する．これら記録は，受講生カルテにも保存する．

⑤二次選抜計画

【選抜基準】

評価基準（判定基準）については、「育てたい人材像と能力・資質の目標水準」で示した基準に合わせて、以下の評価内容毎にルーブリック等を作成して対応する。第二段階の合格者は、目標水準が、レベル 3 以上に達した上位 40%程度の受講生を想定している。評価内容は、得られる知見に基づいて随時、改訂する。

評価の観点	評価内容	配点
旺盛な科学的探究心	・一枚ポートフォリオの評価（40点） ・受講生カルテの評価（20点） ・研究計画書の評価（40点）	100点
科学的問題解決力	・一枚ポートフォリオの評価（30点） ・受講生カルテの評価（20点） ・研究計画書の評価（40点）	100点
研究実践力	・期間中の科学作品展等の受賞実績(40 点) ・研究計画書の評価（60点）	100点
豊かなコミュニケーション力	・受講生カルテの評価(40 点) ・各活動のルーブリック評価(40 点) ・研究計画書の評価(20 点)	100点
自己学習能力	・受講生カルテの評価(40 点) ・e-learning システムでの評価(20 点) ・研究計画書の評価(40 点)	100点

【選抜方法】

二次選抜は、授業等で提出している「一枚ポートフォリオ」の記述内容、授業での発表やグループ活動を評価した「ルーブリック評価」、対外的な科学展等の受賞実績、メンターが受講生の学習行動を記録した「受講生カルテ」、実施したい研究計画をまとめた「研究計画書」および「活動記録報告書」について評価を行い、その結果を総合的に判断して決定する。「研究計画書」は「研究タイトル」，「背景・目的」，「具体的方法」，「遂行によって得られると予想する結果」からなり，発想力，知識・情報収集力，論理的思考力，デザイン力，目標に対する逆向き設計力など，応募者の総合的な研究者的思考能力を評価できる．

【選抜体制】

受講生の二次選抜にあたっては、「ＧＳＣ運営委員会」および「協力研究者」により組織された「二次選抜審議会」によって協議し、総合的に判断して合格者を決定する。二次選抜された受講生は、次年度において，研究室に配属され，研究・探究活動を行うが，第一段階の教育プログラム受講年度の途中であっても，顕著な業績や吐出して高い能力を有する第一段階受講生については，協議の上，第二段階受講生として研究活動を行えるよう支援する．

【実施スケジュール】

受講生の学習評価の集計・評価を２月上旬に予定している．受講生の研究計画書の提出・評価を２月上旬に行い，判定会議（合格者の決定）を２月中旬に予定している．二次選抜合格者に対しては，合格者オリエンテーションの実施　３月中に実施する予定である．

⑥第二段階での受講生の育成計画

【研究プログラム】（第二段階の教育プログラム）

二次選抜を合格した受講生は、各研究室に配属され研究室の一員として研究活動を行う。本年度の実施内容は、３月に配属研究室の決定とオリエンテーション実施するのみに留まるため、詳細な実施内容は、第２年度に記載した。

⑦受講生の研究実施人数と研究テーマの選定方法（マッチング方法）

二次選抜合格人数は１５～１７人程度を想定しており，「探究プログラム」では、各研究室に１～２名程度の配属を想定している。受講生の配属については、第一段階修了時に受講生自身が独自テーマとして提出する「研究計画書」に加え，受入研究室が事前に提示する「研究室の主要テーマ」に対する受講生の興味・関心，希望を調査し，これらをもとに，マッチングを行う．研究のテーマ設定については，受講生の興味・関心を最大限尊重するように配慮するが、受講生の想定する研究内容が、学術的な深みを持つ研究に発展しないと思われる場合は、受講生と指導教員，コーディネータ（サブコーディネータ）が良く話し合って、研究室由来のテーマや新たな研究テーマについて検討する。研究室での活動について，基本的には個人での活動を想定し，個々の受講生が研究活動を行い，学会発表，論文執筆，各種の科学イベント等での発表等，研究成果の発表を行う（（5）数値目標との関係）．ただし，研究分野および研究テーマ，受講生本人の希望と適性を考慮したうえで，複数人での研究テーマ遂行も検討する．

⑧第一段階・第二段階の受講生評価の計画

受講生が第一段階の学習プログラムによって獲得した達成水準や、成長の程度を評価するために、取り組み前および第一段階終了時に、アンケート調査と研究･業務計画書の評価を実施する。情意領域（関心・意欲）に関する学習効果については、アンケート調査結果を、認知領域（知識・理解）の学習効果については、研究･業務計画書の評価を比較することによって、受講生の達成段階や成長の程度を確認する。また、これらの調査に加えて、各授業等で提出している「一枚ポートフォリオ」の記述内容、授業での発表やグループ活動を評価した「ルーブリック評価」、対外的な科学展等の受賞実績、メンターが受講生の学習行動を記録した「受講生カルテ」、e-learning システムでの自己学習の記録について評価を行うことによって、各人の成長のプロセスも含めた詳細な評価を実施する。

第二段階の学習プログラムでは、終了時のアンケート調査、研究成果としての学会発表数、論文発表数などの研究実績等で評価する以外に、研究室のメンターが受講生の様子を記録した「受講生カルテ」の内容や、受講生の記録した「研究ノート（実験結果の記録、研究アイディア、論文や研究室のメンバーから学んだ事等の研究生活全般の記録、自宅での研究に関する学習の記録等）」の記述内容の変化，また，第二段階終盤に再度，研究･業務計画書を作成する課題を行い，その記述内容の変化をみることを通して，受講生個々の伸長過程の把握を行う。このような様々な教育効果の量的・質的データについては、教育学部の実施担当者が積極的に関与し、信頼性の高い教育評価になるよう留意する。

評価の観点	評価方法及び根拠資料 ①:第一段階、②:第二段階		根拠から使用するデータ
旺盛な科学的探究心	①	一枚ポートフォリオの評価 受講生カルテの評価 研究計画書の評価	興味･関心に関する記述内容 取り組みへの積極性等の記述
	②	受講生カルテの評価 研究ノートの記述内容 研究計画書の評価	取り組みへの積極性等の記述
科学的問題解決力	①	一枚ポートフォリオの評価 二次選抜試験の評価	論理的思考に関する記述内容 試験での点数、記述内容等
	②	受講生カルテの評価 研究ノートの記述内容 研究計画書の評価	研究内容の理解に関する記述
研究実践力	①	科学作品展等の受賞実績 研究計画書の評価	受賞の内容と賞のグレード 研究計画書の記述内容
	②	研究ノートの記述内容 研究活動実績評価 研究計画書の評価	研究の取り組み方やアイディア 学会等での発表数や論文数
豊かなコミュニケーション力	①	受講生カルテの評価 各活動のルーブリック評価	メンターから見た受講生の態度等 発表活動での取り組み内容
	②	受講生カルテの評価 研究ノートの記述内容 研究計画書の評価	受講生の発表研究室での様子 受講生の研究室での
自己学習能力	①	受講生カルテの評価 e-learning システムでの評価	質問や自宅学習の記録 システムへのアクセスの度合い等
	②	研究ノートの記述内容 研究計画書の評価	自宅での学習内容の記録

評価基準（判定基準）については、「（３）育てたい人材像の育成要件と取組との関係」で示した「育てたい能力や資質」の目標水準に合わせて、評価方法毎にルーブリック等を作成して対応する。

⑨得られた成果の把握と普及・展開に関する計画

本企画における各取組内容については、大学のホームページや協力機関のイベント等での紹介などの広報活動を行って広く紹介するとともに、学会発表、論文を通して活動の効果と検証を行う。また、取り組みの結果得られた成果や探究活動指導のノウハウ等については、県教委や市町村教委の主催する教員研修で活用し、理科教員の指導力向上にも寄与する。

また、修了生による同窓会を組織し、修了生と後輩受講生との交流も加味した定期的な研究相談会を開催する。修了生とは、継続して電子メール等で連絡が取れる関係を維持し、定期的に各修了生の活躍状況（進学大学、学部学科等の専攻、専攻分野：実施テーマとの比較、社会人になった際の就職先等）の追跡調査を実施する。琉球大学では，第Ⅰ期企画時に，修了生による同窓会を組織し，後輩受講生との交流を行う交流会を開催するなど，修了生との繋がりを維持ずる体制が構築されており，本企画の実施に当たっても，この体制を利用する予定である．また，Ⅰ期実施時の修了生に対する追跡調査についても実施しており，修了後の進学先（大学・学部学科・分野含む）や受講生の状況，GSC プログラムの受講経験が自分のどのような影響があるかなどプログラムの効果について，調査・把握しているなど，追跡調査を行う体制が整っており，本企画においても迅速な実施が可能である．

その他、本企画を円滑に実施するために、関係機関との連携体制の強化を進める。平成２７年度から沖縄県教育委員会と共催で開催し，主に理系の研究を進める中高生が研究成果を発表する場である「沖縄科学技術教育シンポジウム（OASES）」および令和３年度から沖縄県教育委員会と共催で開催し，主に文系の研究を進める中高生が研究成果を発表する場である「沖縄未来社会創生シンポジウム（OFSIS）」を活用し、琉球大学、県教育委員会（教育センター、SSH 校）などが協力して、本企画によって開発された手法・成果等を地域に発信し、次世代の科学的人材育成を支援する地域連携型の人的・機関的ネットワークを構築する。

人材育成に係る学内体制の整備としては、小中高校生に対する科学教育の支援等を行う専門委員会を設置し、各学部や研究組織等と連携した取り組みが行えるよう大学運営推進組織に位置付けるとともに、本企画から得られたカリキュラムや評価方法等についての研究を進め、論文発表等を通して企画自体についての学術的評価を明らかにする等、本企画について多様な観点からの成果の創出を進める。

○2 年度

①コンソーシアムの設立計画と構成メンバー、役割

コンソーシアムの設立計画と構成メンバー、役割については、基本的に１年度と同様に実施するが、コンソーシアムに新たなメンバーが加入した場合や，前年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。

②募集（広報含む）

募集や広報についての方法については、基本的に前年度と同じだが、前年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。

③一次選抜計画

「選抜の観点」、「選抜基準」、「選抜方法」、「選抜体制」、「新規に受け入れる受講生数の予定数」の各項目については、基本的に前年度と同様に実施するが、前年度に実施した結果から見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。ただし、実施スケジュールに関しては、第 2 年度から本企画が４月から開始できるために、以下の様に変更して行う。

【スケジュール】

大学ＨＰでの情報提供は４月を予定している．県教委からの各高校への文書送付および大学から各高校への広報書類の発送については，前年度３月を予定している．大学での説明会の開催を４月中旬に行う．募集期間は４月下旬～５月中旬を予定しており，必要に応じで，適宜、期間延長や二次募集を検討する．一次選抜実施は６月上旬，合格発表（合格通知発送）は６月下旬を予定しており，入講式（第一段階プログラム開始は７月上旬を予定している

④第一段階での受講生の育成計画

実施内容および実施回数については、基本的に１年度と同様に実施するが、１年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。また、実施時期については、6 月～12 月とし，特に夏休み期間に集中して行うことを検討する．

⑤二次選抜計画

上記⑦～⑨について，基本的に前年度と同様に実施するが、前年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。

⑥第二段階での受講生の育成計画

【探究プログラム】（第二段階の教育プログラム）

二次選抜された受講生は、各研究室に１～２名配属され，研究室の一員として研究・探究活動を行う。この「探究プログラム」では、コーディネータ（サブコーディネータ）と配属研究室の指導教員が協力して作成した研究・探究活動支援プログラムにしたがって、配属研究室において活動を実施する。研究

プランの作成にあたっては、受講生の第一段階プログラム時の学習記録（受講生カルテ）の活用や面談等を通して，個々の受講生の特性に対応できるよう努め，また，期間中は個々の受講生の研究進度に応じたプランとなるよう指導教員とコーディネータ（サブコーディネータ）との間で，定期的な情報共有と見直しを行う．配属研究室での研究内容は、各研究課題によって異なる部分も生じると思われるが、一般的には以下のような内容を想定している。

具体例

〇第二段階の研究 （各受講生が受ける最低限の想定時間は、以下の通りである。）
研究: 120 時間／12 ヶ月間、 年度を超えて受講する場合の研究:240 時間　　研究テーマ数:12～15 件
【研究テーマ・研究内容・水準・時期・頻度の例】

No.	研究分野	「研究テーマ」及び研究内容	研究水準	研究時期・頻度
1	分子生物学	「結核菌病原因子の遺伝子発現および活性化メカニズム解明」 細胞内の遺伝子発現を対象とした結核菌による分子機構の解明	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度
2	天然物化学	「沖縄に植生する生物に含まれる天然物の薬理活性評価」 細胞を対象とした天然化合物の生理活性調査	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度
3	行動生物学	「社会生物学アプローチによるアリの進化過程解明」 シロアリを対象とした生殖戦略解明に関する研究	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度
4	エネルギー化学	「アンモニアボラン系水素貯蔵システムの開発」 化合物からの水素発生・吸収反応開発	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度
5	情報統計学	「グループ旅行における行動選択に関する研究」 旅行者情報と観光地の印象の相互関係解析	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度
6	考古学	「文化財の化学成分・X 線解析による構造の解明と応用」 科学的解析による考古物解析と現在資料の比較	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度
7	産学連携	「SDGsを達成する陸上養殖海水魚の飼育技術と販路」 新規産業技術の確立と販路網の調査	国際学会発表を目標	4 月～翌年 3 月／月 2 回程度

受講生の研究内容が想定よりも発展的になることが想定される場合は，クラウドファンディング等による研究資金や獲得や，ベンチャー企業等からのアドバイスを受け，社会的応用や実装に向けて活動できるよう努める．

【受講生の個別指導】

受講生は、各自の日程を調整して研究室を訪問し、研究内容についてのアドバイスを受けるとともに、大学や研究機関，協力企業の機材・設備を活用して自宅や学校では実施できない実験等を行う。プログラムには、英語論文を紹介する研究室ゼミへの参加や、英語での研究成果発表支援（発表原稿作成支援、口頭発表練習など）を含んでおり、オンライン学習システムなども活用して、時間的、距離的制約をカバーする教育体制で取り組む。

受講生の指導は、配属研究室の指導教員（教授等）が責任を持って担当し、配属研究室の大学院生がメンターとなって受講生のサポートを継続的に行う。また、それぞれの時期に応じて、学会等での発表、科学オリンピック等へ参加，研究・事業助成プログラムへの応募など，様々な活動に向けてのアドバイス等も実施する。加えて、個々の受講生の将来の希望等を聞き、将来のキャリア形成についても指導・助言を行う。受講生の研究内容が想定よりも発展的になることが想定される場合は，研究内容について本企画に協力するベンチャー企業担当者等からもアドバイスを受け，社会的応用や実装に向けて活動できるよう努める．能力の高い受講生には、海外の学会や科学コンテスト等での発表，企業プレゼンを行う取り組みを実施し、国際性やイノベーション精神を身につける機会を創出に努める。

【実施スケジュール（研究期間や研究の発表時期）】

４月から翌年２月まで，配属研究室において、研究活動を実施する。受講生は、各自の日程を調整して研究室を訪問し、各自の研究内容についてのアドバイスを受けるとともに、大学や研究機関の機材・設備を活用して自宅や学校では実施できない実験等を行う。これらの研究活動の過程では，理系の学会やシンポジウムなどで基本的にすべての第二段階生が研究内容を発表し，自己の研究の進捗状況について把握するとともに，他者からの客観的な評価を受けることで，自己の研究の社会的な位置づけについての理解を深める．また社会的な応用が見込める研究テーマについては，文系の学会やシンポジウムなどでも受講生が発表するよう積極的に推進し，自己の研究・知識・技術の社会的な活用についての思考が深まるよう促す．さらに，海外の高校生も参加する国際シンポジウムにおいて，英語による研究発表（オンランを含む）を行い，海外の高校生との研究交流を行うことで，国際的な状況の中における自己の研究の評価や役割について理解を深める．加えて，得られた研究成果の，将来的な実社会での応用や商品化を含めた実用案を検討し，企業等の前でプレゼンを行う．

研究室でのスケジュールについては、各研究課題によって異なる部分も生じると思われるが、一般的には以下のような内容を想定している。

＜スケジュールの例＞

月	指導項目	指導内容
4	研究計画についての	研究テーマについて、指導教員のアドバイスを受け検討。
	研究計画作成	研究活動の過程では、大学生・大学院生との交流を通して、社会性やコミュニケーション力の育成を図る。
5	研究指導	ラボノートの書き方についての説明。実験器具使用法の説明。研究に従事する者が守るべき研究倫理についての説明。
	実験指導 1	実験プロトコルについての確認。予備実験の開始。
6	研究の実施 1	具体的な研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	実験指導 2	
7	研究の実施 2	具体的な研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	実験指導 3	
8	中間発表の準備	中間発表に向けて、図表のまとめ方について指導を受ける。
	中間発表会	主に理系の研究を進める中高生が研究成果発表する場である「沖縄科学技術シンポジウム OASES」で研究内容を発表。
9	発表結果の振り返り	中間発表でのアドバイス内容を検討し、必要に応じて実験計画等の変更を行い、研究を進める。
	研究の実施 3	
10	研究の実施 4	研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	実験指導 4	
	研究サポート面談 1（コーディネータによる面談と活動記録ノートの確認）	
11	研究の実施 5	研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	実験指導 5	
12	実験結果の解析	指導教員のアドバイスを受けながら、この段階までで得られた実験データ等について解析し、研究結果の考察を行う。
	追加実験等の実施	解析の結果、不足している実験等の追加実験を行う。
	文理融合の場での研究発表	主に文系の研究を進める中高生が研究成果発表する場である「沖縄未来社会創生シンポジウム（OFSIS）」で，研究内容を発表。
	研究成果応用の検討と企業プレゼン	得られた研究成果の実社会での応用・実用案を検討し，ベンチャー企業等の前でプレゼンを行い，アドバイスを受ける.
1	実験結果の解析	指導教員のアドバイスを受けながら、この段階までで得られた実験データ等について解析し、研究結果の考察を行う。
	追加実験等の実施	解析の結果、不足している実験等の追加実験を行う。
2	研究成果発表会&国際シンポジウムでの発表	第一段階・第二段階が共通して参加するプログラム内で模擬学会を実施し研究内容を発表するとともに，各学会等での発表に挑戦する。また，海外の高校生・大学生も参加する国際シンポジウムにおいて，英語による研究発表（オンラインを含む）を行い，海外の高校生との研究交流を行う.
	論文作成	指導教員のアドバイスを受けながら、研究内容を論文にまとめる。
	研究サポート面談 2（コーディネータによる面談と活動記録ノートの確認）	

【研究活動の進捗把握】

受講生は研究室等，第二段階での活動について，活動記録ノート（オンライン上での記録を含む）をつけ，自己の活動内容やそれに付随した新しく習得した概念や，自己の考えの変化について客観的に見る能力を養う．コーディネータは，受講生の活動記録ノートを定期的に確認するとともに，定期的に面談を実施し，研究活動の進捗や受講生の状況や各配属研究室のサポート体制等について問題が無いかどうか確認する。さらに，コーディネータが，定期的に，受講生の配属研究室の指導教員を訪問し、受講生の取り組み状況について聞き取りを行ったり，コーディネータが把握した受講生の状況などについて，指導教員と情報を共有する.

【個に応じた才能育成プランや多様な受講生へ対応するための取組】

研究室での研究のテーマ設定については，受講生の興味・関心を最大限尊重するように配慮するが、受講生の想定する研究内容が、学術的な深みを持つ研究に発展しないと思われる場合は、受講生と指導教員が良く話し合って、研究室由来のテーマや新たな研究テーマについて検討する。これら研究室配属や研究テーマ設定に際しては，話し合いの場にコーディネータ（サブコーディネータ）が参加し、双方の思いが良く反映出来るような調整役を担う。また、各研究室に所属する大学院生が研究メンターとなることで、受講生へのきめ細やかな指導体制を構築し、受講生の理解を支援する。

【国際性付与の取組（国際学会発表等海外渡航の取組を含む）】

英語にて学術論文を読解、執筆し、英語にて議論が行える能力が重要となる。サブコーディネータが、第二段階受講生全員を対象とした少人数セミナーを開催する。論文サマリーを題材として、科学英語の読解、分析を行い受講生間で議論を行う。また、論文執筆に向けた記述訓練も行う。このセミナーは３回程度を計画している。この活動を通して、受講生の論文読解、執筆能力を向上させ、自身が関心を持つ国際誌の研究論文を円滑に理解できるようになることで、受講生の国際的視野の拡大を目指す。

第二段階受講生の海外研究発表も計画しており、サブコーディネータによるポスター作成講座、プレゼンテーションセミナーを適宜開催する。国内外の学会での発表成果や経験は、第一段階受講生および第二段階受講生が受講可能な応用プログラムにて情報を共有し、教育効果の最大化を図る。さらに、研究成果の充実度・重要度に合わせて、適宜成果発表会の開催を検討する。国際・国内学会も含めて、第二段階受講生の積極的な参加を呼びかけるとともに、第一段階受講生に対しても周知を行い、国際学会への挑戦に向けたモチベーションの向上に務める。海外の高校生も参加する国際シンポジウムにおいて，英語による研究発表（オンランを含む）を行い，海外の高校生との研究交流を行うことで，国際的な状況の中における自己の研究の評価や役割について理解を深めるとともに，異なる国のそれぞれの社会が共通・非共通して抱える課題についても理解を深め，その解決のために自己の研究がどのように応用可能であるかを考察することを促す．また，海外の人材とコラボレートした研究を行う意識を高める．

特に，琉球大学では，第Ⅰ期採択および実施時において，米国ユタ州 Dixie State University と，令和元年度より共同の研究発表会や国際フォーラムを企画するなど，関係構築を行ってきた．同大学は，教職員約 400 名、学生数約 9000 名の総合州立大学であり、2018 年には小学生から大人を対象とした 17 個もの科学教育プログラムが動いている。プログラムコードからゲノムまで、幅広い分野のプログラムが提供されており、毎年、強化されている。さらに、高校生を含めた学生起業を支援するインキュベーター施設も整備されており、小学生からの研究活動、起業家精神育成に取り組んでいる。本企画においても，同大学との協力を進め，プレゼンテーションセッション、ワークショップ、文化紹介セッションを企画し、研究活動に取り組む高校生や起業を目指して取り組む高校生の参加を想定している。文化紹介セッションでは、同大学の English as a Second Language(ESL)に所属する学生も参加し、国際理解の深化に努める。第二段階受講生のうち、研究成果を挙げた 5 名程度の参加を想定しており、同大学のドミトリーもしくは研修宿泊施設に宿泊予定である。これ以外にも、教育先進国であるフィンランドや、オランダおよびイギリスなどのヨーロッパ圏、台湾やシンガポール、ミャンマーなどのアジア圏での科学才能教育への取り組みを調査し、教育プログラムの改善や本企画との連携について検討する。

このように理工系分野で将来が期待される高校生との研究成果発表参加や、国際学術会議にて成果発表を行う受講生、起業プレゼン，国際共同研究のために議論が必要と認められたもの等についても、担当教員承認のもと、受講生も海外渡航を行う。一方、世界的な新型コロナウイルス感染症対応の影響によって、海外渡航がかなわない状況も考えられる。このような状況を考慮し、受講生と海外研究者とのオンライン討論会参加など、海外渡航に代わる取り組みも合わせて計画する。

⑦受講生の研究実施人数と研究テーマの選定方法（マッチング方法）
⑧第一段階・第二段階の受講生評価の計画
⑨得られた成果の把握と普及・展開に関する計画

上記⑦～⑨について，基本的に前年度と同様に実施するが、前年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。

○3 年度

①コンソーシアムの設立計画と構成メンバー、役割
②募集（広報含む）
③一次選抜計画
④第一段階での受講生の育成計画
⑤二次選抜計画
⑥第二段階での受講生の育成計画
⑦受講生の研究実施人数と研究テーマの選定方法（マッチング方法）
⑧第一段階・第二段階の受講生評価の計画
⑨得られた成果の把握と普及・展開に関する計画

上記①～⑨について，基本的に前年度と同様に実施するが、前年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。

○4 年度

①コンソーシアムの設立計画と構成メンバー、役割

②募集（広報含む）
③一次選抜計画
④第一段階での受講生の育成計画
⑤二次選抜計画
⑥第二段階での受講生の育成計画
⑦受講生の研究実施人数と研究テーマの選定方法（マッチング方法）
⑧第一段階・第二段階の受講生評価の計画
⑨得られた成果の把握と普及・展開に関する計画

上記①～⑨について，基本的に前年度と同様に実施するが、前年度に実施した結果見直しが必要と判断された内容については、適宜修正して実施する。

（８）実施体制

コンソーシアムを含む実施体制について、機関・組織・人員の配置と関係がわかるように2ページ以内で説明してください。

※下記の内容を図に含めてください。

・連携機関、共同機関（参画がある場合）、重点連携機関（Ⅲ期目応募機関のみ）

・実施機関及び共同機関において主体となる組織および参画する組織

（ここでいう「組織」とは、学部・研究科等を指します。）

・実施責任者、実施主担当者、実施担当者、共同実施担当者（いる場合のみ）、コーディネータ、サブコーディネータ

①企画の中核組織、実施責任者がリーダーシップ等を発揮する体制や取組

第Ⅰ期企画と同様に，実施機関である琉球大学では、実施責任者である学長の指導・監督のもと、「ＧＳＣ運営委員会」を組織する。ＧＳＣ運営委員会は、実施主担当者が委員長、実施担当者が構成メンバーを務め、企画・運営等の実務を担当する。業務を円滑に実施するため、ＧＳＣ事務局を新たに設置し、ここがハブとなって琉球大学本部、各学部・研究者等、外部機関とのやり取りを担当する。

学内の研究者は「ＧＳＣ協力研究者」として、各教育プログラムの講師や、受講生を研究室に受け入れる「指導教員」として参画する。ＧＳＣ運営委員会、指導教員、コーディネータ、サブコーディネータは、各取り組み内容について、電子メール等での情報共有を密にし、四半期毎に指導内容等についての検討会を実施する。連携機関は、連絡調整担当として「業務協力者」を任命し、企画への協力体制を構築する。また、実施機関と連携機関のコンソーシアムとして、ＧＳＣ運営委員会委員と連携機関業務協力者がメンバーとなる「ＧＳＣ連絡協議会」を設置し、企画全体への協力や企画に対する対外的評価について対応する。実施機関と連携機関の協力体制を強固にすることによって、企画を効果的に運営･実行していくための組織体制を構築する。琉球大学では本事業の第Ⅰ期採択および実施時に，これらの学内・学外体制をすでに構築済みであり，迅速な実施が可能である

②受講生への研究指導体制、研究室やメンター・チューター等に対する管理体制

メンターは、理系分野を専攻する大学院生・大学生が務め、コーディネータのリーダーシップのもとで、受講生へのきめの細かい対応を担う。そのため、コーディネータには、自然科学系の研究者（博士号取得者）であると同時に、高校の教員免許を保持し、授業経験を有する優れた若手研究者を雇用し、本企画に専属で対応する。実施組織役割と責任を明確化することによって、受講生の募集から評価までを安定的に運営･実行していくための組織体制を構築する。また、サブコーディネータとして、高校等での授業経験を有し，英語等についても堪能な応用科学や社会科学系の研究者を専属で雇用し、地元ベンチャー企業等の連携や，国外との連携教育プログラム開発，国際会議・国際誌での発表執筆活動支援に従事する。コーディネータ（サブコーディネータ）とメンター、指導教員とが連携して受講生の活動を促すことで、個々の関心に沿った研究指導体制を構築する。特に第二段階教育プログラムでは、指導教員は研究指導に注力することで、研究活動の促進をねらう。

③受講生の募集・選抜、第一段階・第二段階、評価に関する計画を安定的･効果的に運営･実行していくための組織のあり方および考え方

※受講生の研究指導に協力する学部・研究室が分かるように記載してください。

企画の実施に際しては、学内の理系学部等との全学的な協力体制の構築が重要になる。そのため、地域連携推進機構内の「地域競争企画室」を調整部局に位置付け、学内の幅広い分野との連携・協力について対応する。地域競争企画室には、琉球大学の理学部、農学部、工学部、医学部、法文学部等の７学部，大学院の８研究科，大学病院等の人材で構成される「地域共創人材バンク」があり，学問分野や所属部局の枠を越えた研究プロジェクトへの協力が可能なため，各部局との調整機関として最適である。さらに、琉球大学博物館（風樹館）とこれに附帯するビオトープ施設や国際沖縄研究所などの文理融合型部局がある琉球大学研究推進機構とも連携し，本企画を効果的に実行できると思われる．また、「地域競争企画室」は，琉球大学が令和３年３月に第Ⅱ期機関といて応募予定である小中学生を対象とした科学技術人材育成プログラム「琉球大学ジュニアドクター育成塾」についても，担当調整部局となることから，本事業とも密に連携することで、得られる知見を相互活用し、本事業の効率的運用に取り組む。

④コンソーシアム構成機関の役割と運営

琉球大学ＧＳＣ運営委員会と連携機関である沖縄県教育委員会、一般財団法人沖縄美ら島財団，日本トランスオーシャン航空株式会社が協力してコンソーシアム（ＧＳＣ連絡協議会）を組織する。具体的には、教育プログラムの内容、効果的な受講生募集の体制、学校現場への波及効果や地域社会への還元方法の検討等、企画全般について協議を行い、効果的な取り組みとなるよう協力関係を構築する。すで

に基盤となるコンソーシアムは出来上がっており、迅速な実施が可能である。

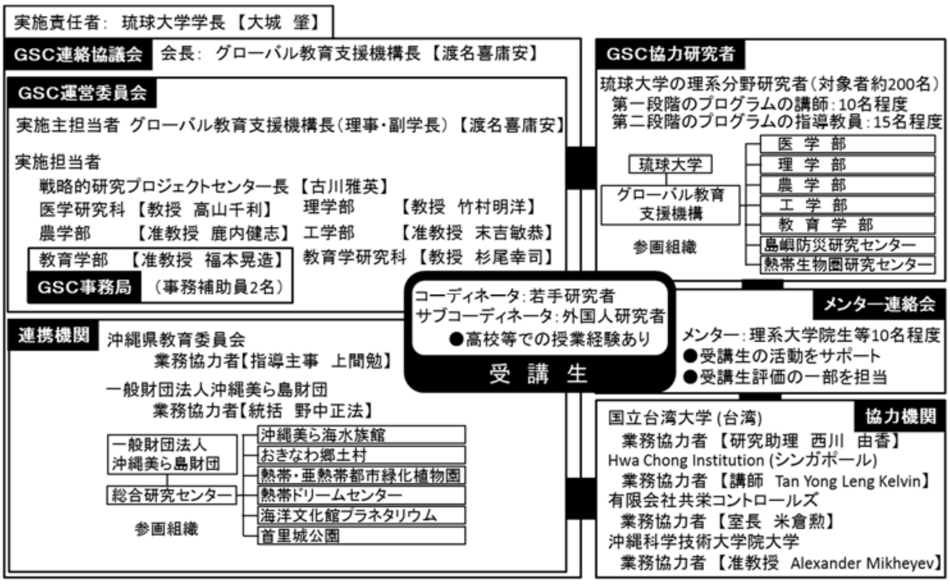
１）沖縄県教育委員会の役割
受講生の募集にあたっては、才能ある生徒の推薦の協力を、各高等学校依頼するなど教育現場の理解と協力が不可欠である。そのため、県教委には、県内の高等学校への周知と学校現場の理解を深める取り組みについて中心的な役割を担ってもらう。特に、受講生募集への対応や、企画の成果を学校現場に波及する活動等については、緊密な協力が不可欠だと考えている。県教委とは、理科や科学技術に興味・関心がある生徒に対して、研究内容の発表の場を提供し、科学を楽しみ、学校の枠を超えた交流を推進する事を目的に実施している「沖縄科学技術教育シンポジウム」の開催や，琉球大学の本事業の第Ｉ期採択および実施時に，協力関係を構築済みであるため、本事業での連携について問題ないと認識している。
また、教育プログラムの学習効果を相乗的に発揮するためにも、ＳＳＨ校である沖縄県立球陽高等学校および沖縄県立向陽高等学校の協力を得る。実施主担当者と担当者は、ＳＳＨ運営指導委員会等のメンバーとして球陽高校・向陽高等学校のＳＳＨ事業のサポートを行っていることに加え，球陽高校では，琉球大学の本事業の第Ｉ期採択および実施時に，評価法等の，実施によって得ら知見の普及や教育現場での実践等で協力した実績があり，連携について問題ない。

２）一般財団法人沖縄美ら島財団の役割
美ら島財団は、美ら海水族館等を擁する国営沖縄記念公園の管理運営を行っており、亜熱帯性動植物・海洋文化・首里城等に関する調査研究・普及啓発、公園管理等を事業の柱としており、自然科学に関係する取り組みとしては、総合研究センターを拠点として、沖縄の海の生き物に関する事業と亜熱帯性植物に関する事業を展開している。
沖縄の海の生き物に関する事業では、入館者数日本一を誇る沖縄美ら海水族館の管理運営に加えて、沖縄周辺にみられる熱帯・亜熱帯性の海洋生物の多様性研究や、生理学・生態学的特性を研究することにより、自然環境の保全と持続可能な利用に資する活動を行っている。
亜熱帯性植物に関する事業では、熱帯ドリームセンター、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、なごアグリパークの管理運営に加えて、沖縄在来植物の保全・活用などに関する調査研究、亜熱帯性植物に関する知識の普及啓発、専門家を対象とした講演・講習会等を行っている。また、社会教育施設である「沖縄県立博物館･美術館」「沖縄県立名護青少年の家」やウミガメの調査研究施設である「美ら島自然学校」を管理運営しており、生徒に対する教育啓蒙活動の実績も十分に有している。特に，沖縄県立博物館･美術館では，沖縄県の文化財などの

このように、海洋生物・亜熱帯植物研究に関する研究実績と魅力的な施設、子どもを対象とした啓蒙活動についての豊富なノウハウを有しているため、募集対象者への周知への協力や第一段階教育プログラムにおける講師と施設の紹介、第二段階教育プログラムにおける受講者の研究室への受け入れ等、多面的な協力を得る。同財団とは，第Ｉ期企画時に，協力関係を構築済みであり、本事業での連携について問題ないと認識している。

３）本トランスオーシャン航空株式会社の役割
○○
○○
○○
○○
○○
○○
○○
○○○

（下の図は修正が必要）



⑤協力機関との連携

コンソーシアム構成機関（琉球大学、沖縄県教育委員会、沖縄美ら島財団，日本トランスオーシャン航空株式会社）に加え、国外の研究・教育機関や民間企業が協力機関として参画する予定である。各機関とは、琉球大学の本事業の第Ｉ期採択および実施時や他の科学教育プロジェクト等ですでに連携しており、協力関係は構築済みである。

＜大学・研究・教育機関等＞

●国立台湾大学（台湾）：大学教員による講義提供や、大学院生との協働学習（フィールドワークなど）の実施などで協力予定。台湾師範大学附属高級中学校を含む台湾各地との連携を中心となって策定する。

●Hwa Chong Institution（シンガポール）：国際学力調査（ＰＩＳＡ、ＴＩＭＳＳ）の上位国（2015 年調査では全項目１位）であるシンガポールの科学教育モデル校であり、高校を内包した教育機関。生徒間の交流や相互発表、主催する International Science Youth Forum への参加を通じて、将来が期待される世界の高校生との人脈形成も期待できる。

●沖縄科学技術大学院大学（日本）：外国人が占める比率が、教員 63%、学生 83%と国際色豊かな環境の下、卓越した教育及び研究が実施されており、連携協力協定締結済み。講義提供や研究室配属等を担当。

　また、台湾やシンガポールなどの環太平洋地域の機関との連携については、一過性の連携にとどまることなく、発展的かつ継続的な連携となるように、連携協定等の締結を検討し、継続的な関係構築を図る。さらに、沖縄県教育委員会と共催で開催している「沖縄科学技術教育シンポジウム」への海外の高校生の招待発表等についても検討し、発展的な関係構築を進める。

●角川ドワンゴ学園（日本）：○○

＜企業＞

●有限会社共栄コントロールズ（日本）：水質改善関連の研究開発型中小企業で、高校生科学クラブとの研究支援にも取り組んでいる。民間企業としての研究開発や工学分野での研究活動支援を担当。

●株式会社 Alpaca.Lab（日本）：○○○

●株式会社ラフィネット（日本）：○○○

●株式会社 FROGS（日本）：○○○

●株式会社 roku you（日本）：○○

※本項目で示した図のうち、募集計画、成果の普及展開の取組等の構成機関の役割ならびに運営計画を

具体的に記述してください。

【自己資金で実施する教育支援プログラム】
琉球大学では，2018 年度～2022 年度において，グローバルサイエンスキャンパス（ＧＳＣ）事業に採択され（第Ⅰ期企画），2023 年度は大学の自己資金を用いて，第Ⅰ期企画を継続して実施している．また，　琉球大学は 2017 年度～2022 年度において，ジュニアドクター育成塾事業に採択され，2023 年度は大学の自己資金を用いて同事業を継続して実施している．本企画では，広報や受講生の募集，教育プログラムの実施，教育評価，受講生と修了生との交流など様々な場面で，これら自己資金で行っている事業とも連携し，教育効果を高める．
また，琉球大学では，理科や科学技術に興味・関心がある生徒に、研究内容の発表の場を提供するとともに、科学を楽しみ、学校の枠を超えた交流を推進する事を目的に、2015 年度から沖縄県教育委員会と共催で、「沖縄科学技術教育シンポジウム（OASES）」を実施している。取り組み内容は、中高生対象の「課題（自由）研究発表会」・「実験教室」・「研究者との交流会」、科学クラブ等の指導教諭を交えた「意見交換会」・「指導者研修会」等である。夏休みの自由研究や、科学部の研究成果について、中高生、大学生、中高教諭、研究者が自由に意見交換できる場を提供することによって、研究内容の進め方やまとめ方、新たな研究のヒントなどの、多面的な情報交換が可能になるため、研究意欲のある生徒にとって貴重な機会になっている。さらに，琉球大学では，社会的な課題や文系的課題テーマに興味・関心がある生徒に、研究内容の発表の場を提供するとともに、研究を楽しみ、学校の枠を超えた交流を推進する事を目的に、2021 年度から沖縄県教育委員会と共催で、「沖縄未来社会創生シンポジウム（OFSIS）」を実施している．取り組み内容は、中高生対象の「課題（自由）研究発表会」・「意見討論会」・「研究者との交流会」、指導教諭を交えた「意見交換会」・「指導者研修会」等であり，文系的テーマを嗜好する中高生にとって，情報交換，研究内容の進め方やまとめ方新たな研究のヒントなど研究意欲のある生徒にとって貴重な機会になっている。
本企画においては，教育プログラムのスケジュールに、「沖縄科学技術教育シンポジウム」および「沖縄未来社会創生シンポジウム」への参加や研究成果発表を組み込むことによって、ＧＳＣ受講生が、SSH 校等の高校生とお互いの研究内容についてディスカッション等を行ったり，文系的テーマを志向する中高生との交流を促すことが可能になる．これらの活動により、ＧＳＣ受講生が自己の研究内容を見つめ直し、文理にそれぞれへの興味の幅を広げ，単純な理系研究者にとどまらず，　分離が融合した研究を発想・推進し，今後の取り組みへのモチュベーションを高める効果が期待できる。
※「琉球大学ジュニアドクター育成塾」については，現在，Ⅱ期目応募機関として，JST に提案書を提出している．ただし，その採択に関わらず，令和４年度においては大学の自己資金で実施することから，連携に支障はない．

（９）企画実施期間終了後の予定

企画実施期間終了後に、実施機関において企画をどのように継続、展開していくか、その方向性や方法等（実施担当者等の活動を評価するなど、取組の継続性を高めるための環境整備、他の取組との接続、民間資金を活用する等の資金計画含む）を1ページ以内で記述してください。

Ⅲ期目応募機関については、重点連携機関における取組の継続、展開の構想を含めて、2ページ以内で記述してください。

①企画の継続性の確保

実施体制と連携機関との協力は、そのままの体制を維持して継続した取り組みを実施したいと考えている。事業継続に必要な資金は、外部資金や学内の競争的資金を積極的に活用する。特に、学内の競争的資金である「戦略的教育推進経費」は、継続企画に適していると考えている。この経費の対象には、地域社会の発展を担う人材育成等、地域との連携、地域の活性化機能の強化に取組むための経費が含まれており、継続して実施する理数・情報分野に関して突出した意欲・能力を有する児童・生徒をさらに伸ばすための新たな企画は、地域貢献と人材育成をビジョン（中期計画）の一つとして掲げている本学の戦略的かつ重点的取組として魅力ある内容だと思われる。

これと同時に、第一段階教育プログラムについては、オープンコースウェアのようなインターネットを活用して公開する仕組みの構築も検討している。新企画においても、本企画の趣旨を活かして、第一次選抜を実施した後に受講生を決定するので、誰でもオープンに学習コンテンツにアクセスできるようにするかは検討が必要であるが、大学のホームページから、学習コンテンツにアクセスできる体制を構築できれば、琉球大学で授業を受けることが難しい離島等の高校生にとっても、プログラムに参加する機会が増加する。公開する学習コンテンツについては、４年間の取り組み内容の蓄積から、高校生にとってより効果的なプログラムが実現可能であると想定できる。ただし、このようなコンテンツでは、高校生が議論したり発表したりする協同的な学びの機会を提供するのが難しいので、スクーリング等を学校の夏休み期間に集中して実施するなど、受講生の状況に応じた柔軟な対応を検討する必要がある。

②企画の中核組織やコンソーシアムの維持・運営

実施機関である琉球大学は、コンソーシアムを構成する沖縄県教育委員会、沖縄美ら島財団，日本トランスオーシャン航空株式会社と、それぞれ高大連携事業協定、包括連携協定を締結している。４年間の本企画実施期間中に、取り組み内容の成果発表等を積極的に行い、本企画の意義と重要性について理解を深めることで、終了後も継続してコンソーシアムの維持、運営に努める。また、協力する意志はあっても、生徒への対応をどのように行えば良いのか苦慮している研究者も多いと思われる。そのため、本企画で得られた成果を基に、児童・生徒への効果的なアプローチ法について学内外での啓蒙活動を行い、研究者が協力しやすい環境づくりにも尽力する。これら一連の発信活動ではコンソーシアム内での求心力を高めるだけでなく、連携機関以外の機関等との協力についても、その意義の理解が進むと思われるので、多くの関連機関に働きかけて協力関係の拡大を進めていく。将来の産業を支える人材の育成に関連し、沖縄を中心とする産業界にも積極的にアプローチを行い、本企画終了後の資金提供もねらう。すでに協力機関として研究開発型の民間企業が参画予定であり、企業の意見を反映させた教育プログラム、人材評価システムを開発することで、産学双方にとって有用な事業への発展を目指す。

③企画内容の改善

〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

④追跡調査

本企画終了後も、受講生の成長を把握するために継続して調査を行う予定である。企画実施段階から、修了生による同窓会を組織して，修了生と後輩受講生との交流も加味した定期的な研究相談会を開催する。修了生とは、継続して電子メール等で連絡が取れる関係を維持し、定期的に各修了生の活躍状況（進

学大学、学部学科等の専攻、専攻分野：実施テーマとの比較、社会人になった際の就職先等）の追跡調査を実施する。調査結果については、各修了生の「受講生カルテ」に追記する形で保管し継続的に記録する。

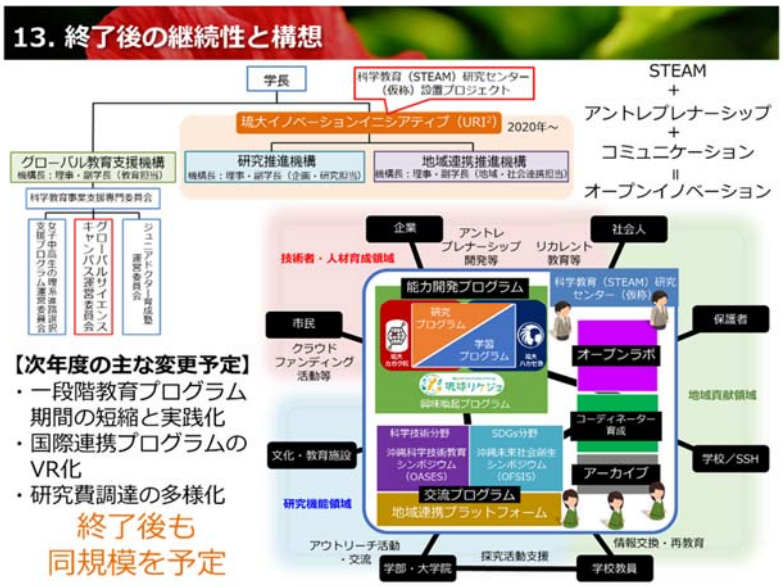
琉球大学では，第Ⅰ期企画時に，修了生による同窓会を組織し，後輩受講生との交流を行う交流会を開催するなど，修了生との繋がりを維持ずる体制が構築されており，本企画の実施に当たっても，この体制を利用する予定である．また，第Ⅰ期企画時の修了生に対する追跡調査についても実施しており，修了後の進学先（大学・学部学科・分野含む）や受講生の状況，GSC プログラムの受講経験が自分のどのような影響があるかなどプログラムの効果について，調査・把握しているなど，追跡調査を行う体制が整っており，本企画においても迅速な実施が可能である．

⑤継続的な実施に向けての対応

琉球大学では本事業の第Ⅰ期採択および実施時において，地域連携推進機構に科学教育（STEAM 教育）研究センター（仮称）準備専門部会の

支援期間終了後も、必要最低限の経費は学内予算で確保し事業を継続できる体制を構築する。継続体制の構築については、科学教育事業を支援する専門委員会において採用初年度から検討し、支援期間（４年）中にノウハウを蓄積する事によって実現を目指す。また、企業からの寄付等の外部資金の確保等の方策についても合わせて検討する。

※追跡調査については学内での体制と調査項目、対象者、進学先の機関、学部学科等の専攻、分野（実施テーマと同じ分野か）、社会人になった際の就職先等の調査項目を含んだ計画を記述してください。



（10）過去に GSC の企画を実施した機関の実績と本提案企画の関係

Ⅱ期目応募機関、Ⅲ期目応募機関のみ対象

過去に GSC の企画を実施した実績がある機関の場合、下記表にご記入ください。
本事業の趣旨を踏まえ、本提案企画の取組と過去に GSC で実施した実績において、取組の違いを比較した形で図を用いて、2 ページ以内で下記表に項目ごとに分かりやすく記述してください。

採択年度： 平成 30 年度 **GSC 企画名：** 津梁と創造の科学人材育成プログラム	**令和 4 年度 本提案企画**
※募集要項（Ⅱ．4.（4）企画の構成要素と要件）の内容における今回の提案での取組と明確に対比できる、過去に GSC の企画で実施した取組実績を本欄に記述してください。 ※本表を記述した場合には、別途、募集要項（Ⅲ．2. 応募方法）にある補足資料の提出が必要となります。 ②補足資料（ （Ⅱ期目応募機関、Ⅲ期目応募 機関 のみ提出 ） 企画 提案書「【 3】（ 10 ）過去に GSC の企画を実施した実績と本提案企画の関係」に記載 している過去の取組について、具体的に詳述した資料（10 ページ以内 ・様式任意 ）を添 付してください。	※募集要項（Ⅱ．4. （4）企画の構成要素と要件）の内容において、過去に GSC の企画で実施した取組と明確に対比できる、今回の企画の取組を本欄に記述してください。

（11）その他

募集要項（Ⅵ. 「2. 採択された実施機関の責務等」、「3. その他」）に該当する下記項目について記述してください。

① 下記の事項について確認の上、すべての□にチェックを入れてください。なお、□にチェックがない場合は、不受理となりますのでご注意ください。

□ 実施機関として個人情報の取扱に留意している。
□ 実施機関として知的財産について、取扱を定めている。
□ 安全・衛生管理の遵守が配慮された企画である。
□ 受講生や関係者に対して研究倫理教育を行う企画である。
□ 実施機関として生命倫理の遵守が配慮されている。

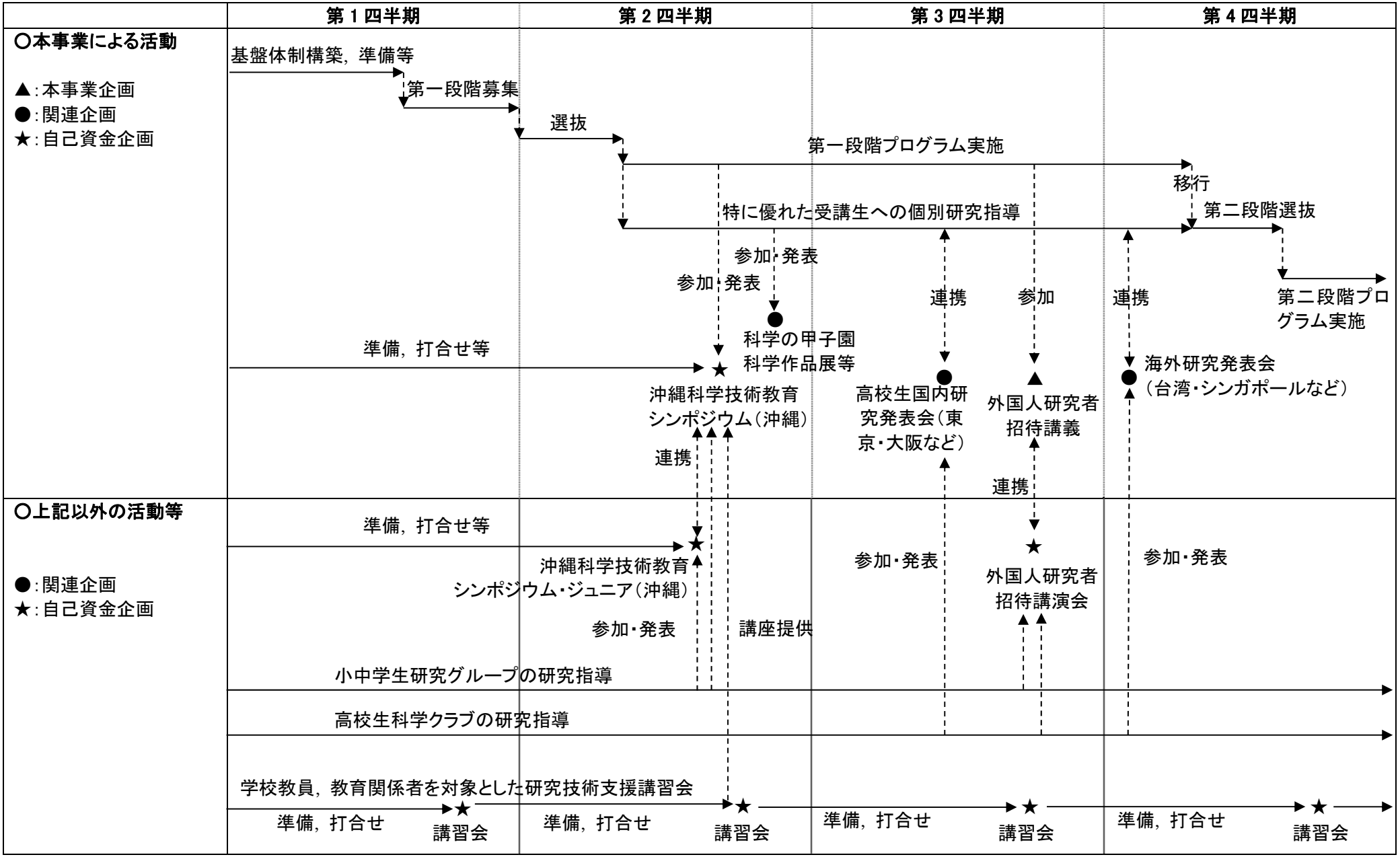
□ 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成 26 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定）について内容を理解し、遵守することを誓約します。
□ 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成 19 年 2 月 15 日文部科学大臣決定・令和 3 年 2 月 1 日改正）について内容を理解し、適切に経費執行することを誓約します。
□ 本企画内で研究活動の不正行為（ねつ造、改ざん及び盗用）並びに研究費の不正な使用を行わないことを誓約します。

② 研究倫理教育に関するプログラムの修了状況について、いずれかの□にチェックを入れてください。なお、いずれの□にもチェックがない場合は、不受理となりますのでご注意ください。

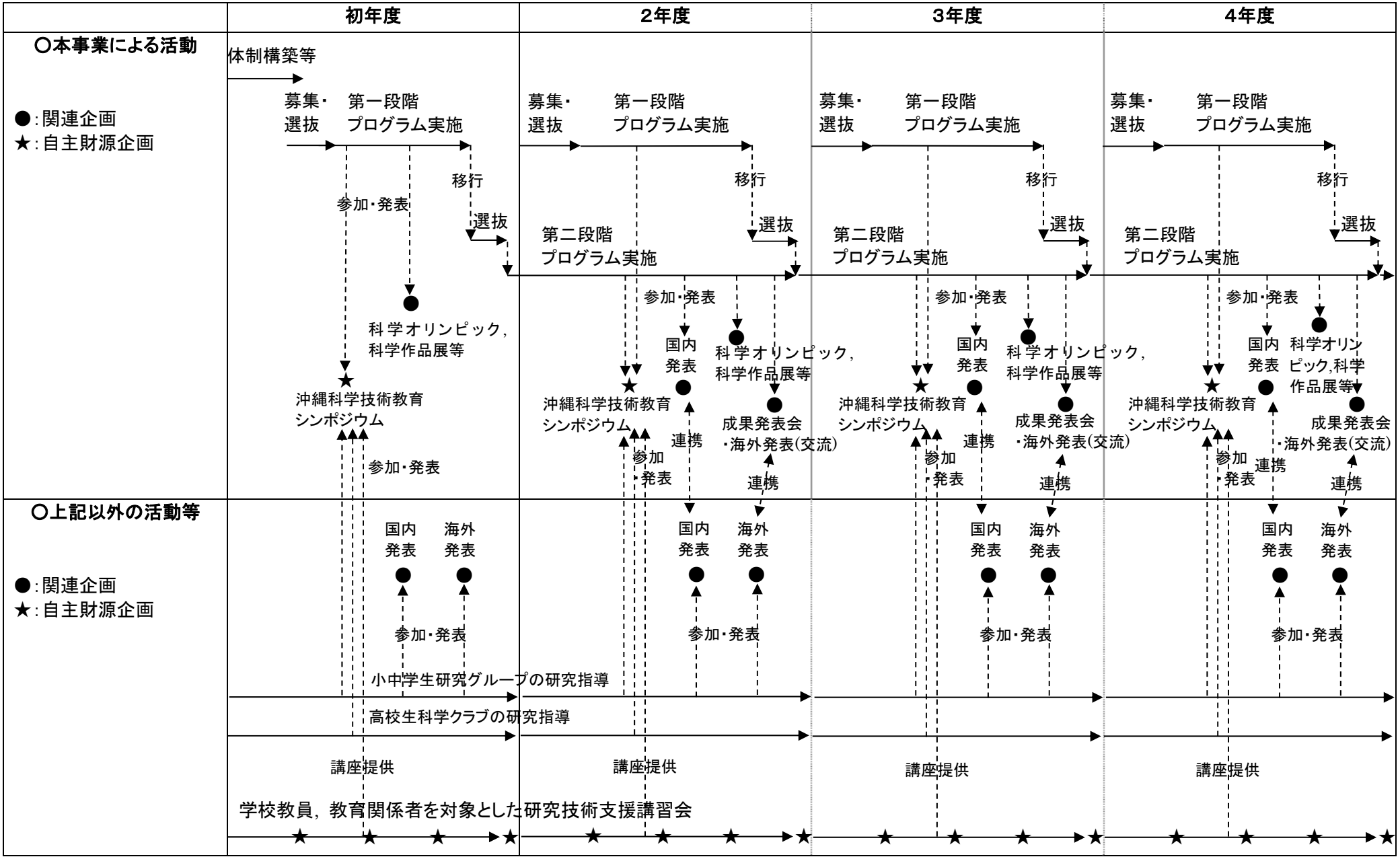
□ 所属する機関のプログラム（eAPRIN を含む）を修了している。
□ JST 事業等で eAPRIN を修了している。
□ eAPRIN ダイジェスト版を修了している。（修了証番号：　　）
※上記の項目を選択した場合、修了証番号の記述は必須。

③照会可能な連絡先
部署名：
担当者名：　※募集〆切後に問い合わせができるように複数名ご記入ください。
電話番号：　　]
メールアドレス：

【４】初年度の年間計画


第１四半期
第２四半期
第３四半期
第４四半期
○本事業による活動
▲:本事業企画
●:関連企画
★:自己資金企画
基盤体制構築，準備等
第一段階募集
選抜
第一段階プログラム実施
移行
第二段階選抜
特に優れた受講生への個別研究指導
第二段階プログラム実施
参加・発表
参加・発表
連携
参加
連携
科学の甲子園
科学作品展等
準備，打合せ等
沖縄科学技術教育
シンポジウム（沖縄）
高校生国内研
究発表会（東
京・大阪など）
外国人研究者
招待講義
海外研究発表会
（台湾・シンガポールなど）
連携
連携
○上記以外の活動等
●:関連企画
★:自己資金企画
準備，打合せ等
沖縄科学技術教育
シンポジウム・ジュニア（沖縄）
参加・発表
講座提供
参加・発表
外国人研究者
招待講演会
参加・発表
小中学生研究グループの研究指導
高校生科学クラブの研究指導
学校教員，教育関係者を対象とした研究技術支援講習会
準備，打合せ
講習会
準備，打合せ
講習会
準備，打合せ
講習会
準備，打合せ
講習会

【５】企画実施期間（４ヵ年）の計画



【６】所要経費見込み　初年度

初年度の所要経費について、費目ごと、種別ごとに主な内訳・使途、および見込み額を、計算根拠（式）とともに、記述してください。
※共同機関（重点連携機関を含む）がある場合には、実施機関と共同機関それぞれの金額の内訳が分かるよう記述してください。

費目・種別			主な内訳・使途	予定合計金額（円）
直接経費	①物品費	設備備品費	統計解析ソフトウェア:　500,000 円 化学描画・計算ソフトウェア:　350,000 円	850,000 円
		消耗品費	講義提供に係る消耗品:150,000×32 回=4,800,000 円 動画配信用デジタルビデオカメラ 90,000 円 生徒研究活動に係る消耗品:1,010,000 円×5 名=5,050,000 円 サテライトキャンパスの実験器具:350,000 円×3 か所=1,050,000 円	10,990,000 円
	②人件費・謝金	人件費	コーディネータ 1 名（専任）:年間給与 7,000,000 円 サブコーディネータ 1 名（専任）:年間給与 3,000,000 円 事務補助員 3 名（専任）:年間給与 1,300,000 円×2 名=3,900,000 円	13,900,000 円
		謝金	メンター10 名:時給 1,000 円×月 20 時間×8 ヵ月×10 名=1,600,000 円 外部講師（外国人を含む）5 名:20,000 円×5 名=100,000 円 実習・講義等の受付・補助:5,000 円×20 回分=100,000 円 アンケート集計・データ整理作業 2 名:800 円×6 時間×15 日×2 名=144,000 円 外国人留学生TA15 名:時給 1,000 円×6 時間×15 名=90,000 円	2,034,000 円
	③旅費	内国旅費	本島内学校説明会 1,000 円×5 名×30 校=150,000 円 離島学校説明会（宮古・石垣・久米島）60,000 円×5 名×3 島=900,000 円 外部講師招聘旅費 4 名:100,000 円×4 名=400,000 円 琉球大学GSC連絡協議会　旅費 2 名:10,000 円×2 名=20,000 円 JST連絡協議会　出席旅費 3 名分:100,000 円×3 名=300,000 円 受講生研究成果発表会 10 名分:100,000 円×10 名=1,000,000 円 国内科学教育プログラムに関する情報収集 5 名分:100,000 円×5 名=500,000 円	3,270,000 円
		外国旅費	琉球大学GSC連絡協議会　参加旅費 1 名 2 回分:100,000 円×2 回=200,000 円 国際科学教育プログラムに関する打合せ旅費 3 名分:300,000 円×3 名=900,000 円	1,100,000 円
	④その他		大型装置使用料（20 回分）:70,000 円 ロゴマーク・広報用リーフレットの製作費:500,000 円 テキスト、報告書、広報用チラシの印刷製本費:300,000 円 受講生の傷害保険料・損害賠償保険料（40 名 32 回分）5000 円×32 回＝160,000 円 広報・e-learning 用ウェブページの開設・運用費用:1,000,000 円 通信運搬費:　30,000 円	2,060,000 円
一般管理費（直接経費総額の 10%以下）				円
合計（3,000 万円以下）				円

※記入の際は、募集要項（Ⅵ．1．（6）経費執行について）をお読みください。
※消費税率は10%で計算してください。
※直接経費と一般管理費の合計は必ず記載してください。予算の合計が空白の場合、費目の合計額を予算上限とみなします。

【7】所要経費見込み　2年度 ～ 4年度

2年度から4年度の所要経費について、費目ごと、種別ごとに見込み額を、記述してください。
※共同機関（重点連携機関を含む）がある場合には、実施機関と共同機関それぞれの金額の内訳が分かるよう記述してください。

費目・種別			2年度	3年度	4年度
直接経費	①物品費	設備備品費	0円	0円	0円
		消耗品費	7,290,000	7,380,000	7,380,000
	②人件費・謝金	人件費	14,000,000円	14,000,000円	14,000,000円
		謝金	2,034,000円	1,944,000円	1,944,000円
	③旅費	内国旅費	3,470,000円	4,170,000円	4,170,000円
		外国旅費	2,500,000円	1,800,000円	1,800,000円
	④その他		2,510,000円	2,510,000円	2,510,000円
一般管理費（直接経費総額の10%以下）			3,180,000円	3,180,000円	3,180,000円
合計（3,500万円以下）			34,984,000円	34,984,000円	34,984,000円
経費変動事由 ※対前年度比で費目別に3割以上変動するものについては変動事由がわかるよう根拠となる式とともに示してください。			取り組み2年目では、設備備品費(研究用ソフトウェア)を計上していない。消耗品費では、講義提供に使用する器具の一部は購入済みであるため、70,000円×32回=2,240,000のみを計上した。一方、研究成果が出始めてくるため、内国・外国旅費ともに増額している。特に外国旅費について、H31では台湾研修を計画しており、100,000円×8名（受講生7名、付き添い教員1名）=800,000円を新たに計上している。		

※本表は、各年度の予算内訳を確定させるものではなく、応募時の計画における目論見を確認するものです。各年度の成果検証・フィードバック等により一部内容が変更となるなどして、実際の各年度の予算内訳が変更となることは問題ありません。
ただし、各年度の予算総額（上記において「合計」欄）を途中で増額することはできません。
※記入の際は、募集要項（Ⅵ. 1. （6）経費執行について）をお読みください。
※消費税率は10%で計算してください。
※直接経費と一般管理費の合計は必ず記載してください。予算の合計が空白の場合、費目の合計額を予算上限とみなします。

設備備品購入理由書

【6】所要経費見込み　初年度」で設備備品費を計上している場合は、購入理由書を提出してください。
※一物品につき1ページ以内としてください。
※「設備備品」：取得価額が20万円以上かつ使用可能期間が1年以上の設備備品、ソフトウェア（既製品）。

以下の各項目について記述してください。

①品名

②製品概要

③購入数量

④購入金額（見積書等金額の根拠がわかるものがあれば別途添付してください）

⑤使用目的

⑥期待する効果

⑦選定理由

⑧使用期間および使用頻度

⑨学内の既存品等を活用できない理由

グローバルサイエンスキャンパス提案書チェックリスト

提案企画書の各項目については漏れがないかチェックの上、提出してください。本シートは提出不要です。
なお、企画提案書に不備がある場合には不受理となる可能性がありますので、ご注意ください。

項目		主な確認ポイント	チェック欄
【1】応募概要		・記述漏れがないか。	□
【2】実施機関の概要		・記述漏れがないか。 ・1ページ以内か。	□
【3】企画内容	（1）全体の目的、目標	・記述漏れがないか。 ・1ページ以内か。	□
	（2-1）人材育成事業および高大連携事業一覧	・記述漏れはないか。 ・1ページ以内か。	□
	（2-2）人材育成事業および高大連携事業一覧　補足事項	・記述漏れはないか。 ・1ページ以内か。	□
	（3）全体概要	・図があるか。記述漏れはないか。 ・1ページ以内か。	□
	（4）育てたい人材像の育成要件と取組との関係	・記述漏れがないか。 ・3ページ以内か。	□
	（5）各年度の重点目標	・記述漏れがないか。 ・1ページ以内か。	□
	（6）数値目標	・記述漏れがないか。 ・1ページ以内か。	□
	（7）計画	・記述漏れがないか。 ・10ページ以内か。	□
	（8）実施体制	・記述漏れがないか。 ・2ページ以内か。	□
	（9）企画実施期間終了後の予定	・記述漏れがないか。 ・1ページ以内か。 ※Ⅲ期目応募機関は2ページ以内か。	□
	（10）過去にGSCの企画を実施した機関の実績と本提案企画の関係 ※該当する機関のみ提出	・記述漏れがないか。 ・2ページ以内か。	□
	（11）その他	・記述漏れはないか。	□
【4】初年度の年間計画		・記述漏れはないか。	□
【5】企画実施期間（4カ年）の計画		・記述漏れはないか。	□
【6】所要経費見込み　初年度		・「合計」が「直接経費」及び「一般管理費」の和と合致しているか。 ・一般管理費は直接経費総額の10%以下か。	□
【7】所要経費見込み　2年度～4年度		・「合計」が「直接経費」及び「一般管理費」の和と合致しているか。 ・一般管理費は直接経費総額の10%以下か。	□

募集要項（P13）　提出資料② ※該当する機関のみ提出	・記述漏れはないか。 ・10ページ以内か。	□
募集要項（P13）　提出資料③ ※該当する機関のみ提出	・記述漏れはないか。 ・1物品につき1ページ以内か。	□

※通しページは記載したまま提出してください。

グローバルサイエンスキャンパス
令和４年度企画提案募集の概要

●事業の趣旨・概要

将来グローバルに活躍し得る次世代の傑出した科学技術人材の育成を目的とし、地域で卓越した意欲・能力を有する生徒を募集・選抜し、選抜を通過した生徒に対して高度で体系的な育成プログラムを実施することを支援します。

個に応じた才能育成の取組等を通じて、生徒に科学技術人材として必要な能力を獲得させ、その意欲、能力をさらに伸ばしていくことを主眼としています。また、実施機関が中心となり、地域を挙げて効果的に企画を実施してください。

●募集対象

全国の国公私立大学（短期大学を除く）、大学共同利用機関および国立研究開発法人

＊１機関につき、応募は１件とします。

＊過去にGSCに採択された機関の再応募も可能です。（応募にあたっては要件があります）

●採択予定件数、支援金額等

採択予定件数：４件程度

支援金額上限：年間３，０００万円

＊ＪＳＴと実施協定を締結した機関が、４年度間の支援事業として企画を実施する。

●受講生の募集規模

４０名程度/年

●採択スケジュール（予定）

＊募集開始	令和４年１月２４日（月）
＊募集締切	**令和４年３月　８日（火）正午**
＊面接審査	令和４年４月
＊採択結果の公表	令和４年５月

【募集の詳細について】

募集要項・企画提案書・FAQ等は、下記のWebサイトをご覧ください。

https://www.jst.go.jp/cpse/gsc

【お問い合わせ先】

国立研究開発法人科学技術振興機構　理数学習推進部能力伸長グループ

E-mail: gsc@jst.go.jp

注）本募集は令和４年度政府予算の成立を前提としており、予算の成立状況によっては実施スケジュール、実施内容等で変更・調整が必要となる場合があります。

（案）

ジュニアドクター育成塾
企画提案書

【1】応募概要

企画名	美ら海・美ら島の未来を担う科学者養成プログラム「琉大ハカセ塾」（仮）
ふりがな	こくりつだいがくほうじんりゅうきゅうだいがく
実施機関名	国立大学法人琉球大学
ふりがな	がくちょう　にしだ　むつみ
実施責任者名（役職、氏名）	学長　西田　睦
ふりがな	りゅきゅうだいがく　ちいきれんけいすいしんきこう
実施組織名	琉球大学 地域連携推進機構
所在地	〒903-0213　沖縄県中頭郡西原町字千原１番地
連絡先	電話 098-895-8997　E-Mail　chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp FAX 098-895-8185
ふりがな	りゅうきゅうだいがく りじ・ふくがくちょう（ちいきこうけん・こくさいこうりゅう・こうほうたんとう）/ちいきれんけいすいしんきこうちょう　うしくぼ きよし
実施主担当者名（役職、氏名）	琉球大学　理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報担当）/地域連携推進機構長　牛窪潔
共同機関名	
連携機関名	・沖縄県教育委員会 ・一般財団法人沖縄美ら島財団 ・日本トランスオーシャン航空株式会社
企画概要	本企画は、大学・教育行政・民間非営利団体が協力して、自然科学分野において非凡な才能を有する児童・生徒を発掘し、その個性や能力を育成する取り組みを行う。実施にあたっては、受講生の発達段階と個々の才能や意欲とのバランスに考慮しながら、科学者として必要な基盤的能力を幅広く育成する教育プログラムを開発するとともに、メンター等を活用した手厚いサポートを通して、各人の潜在能力を最大限に引き出せるような取り組みを実施する。また、その成果や効果の継続的な検証を通して、開発された手法・成果等を地域に発信するとともに、スーパーサイエンスハイスクールなども含めた、県内の科学技術系リソースを効果的に活用した地域連携型の人的・機関的ネットワークを構築する。

【2】実施機関の概要

実施機関の設置目的、経緯、特色等について、概要がわかるように記述してください。
特に、教育活動等に関して特筆すべきことがあれば、記述してください。

本学は、地域との共生・協働によって「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、太平洋島嶼地域を含めた地域の資源を活用し地域づくりを支える「アジア・太平洋地域の活性化に貢献する中核的な教育研究拠点」となることを目指すことをビジョンとして掲げている。これは、本学が戦後，高等教育機関の設置を望む県民運動によって設立に至ったことや、1950年の開学から18年間，米国の Land Grant University であるミシガン州立大学から派遣された教師陣の指導を受けて根付いた「研究成果を地域に還元し、普及させ、地域に貢献する大学」となることの精神がいまでも継承されていることによるものである。

また、本学は、沖縄県に立地する唯一の総合大学として、さらに附属小学校・中学校を有する大学として、沖縄県における多様な人材育成と科学技術の振興に貢献する責務を負っている。このことは、沖縄振興のための『沖縄21世紀ビジョン基本計画（平成24年策定）』においても、「本県唯一の総合大学である琉球大学においては、教育研究施設や地域貢献拠点施設等の整備充実を図り、人材育成、研究機能及び地域貢献活動の強化を促進する」ことが記されているところである。特に、亜熱帯島嶼地域に位置する特性を活かし、本学の強み･特色である亜熱帯、島嶼、海洋といった分野、さらに長寿県の変容を踏まえた健康･長寿といった分野での研究を推進するとともに、今後より一層、地域に根ざした教育研究活動を活性化させ、成果を地域に還元することを目指している。これらにより、広くアジア・太平洋地域に貢献する中核的な教育研究拠点となるべく、社会変革にしなやかに対応できるイノベーティブな大学としての歩みを加速しつつある。

以上の背景を踏まえ、主に教育・人材育成の観点からは、現在6カ所に置かれているサテライトキャンパス（那覇市、宮古島、石垣島、久米島、国頭村、大宜見村）を活用した学習コミュニティづくりを強化し、多様な学習ニーズや学び直しの学習機会の充実を図り、地域で暮らし、地域の活性化を担う多様な人材の質の向上に貢献している。また、地域産業の振興を担うグローカルな人材を育成するため、沖縄産学官協働人財育成円卓会議と連携して、地域社会を支える人材の高度化プログラム、産学官コーディネーター等の産業振興を担っている。さらに、国際的な島嶼型高等教育システムの構築を目指し、他の大学に先駆けて太平洋島嶼地域を対象とする総合的な編入学プログラムを開発・実施している。受入留学生と本学学生との同時履修を促進することなどにより、「教育のグローバル化」と「太平洋島嶼地域の中核人材の高度化」の取組を同時に推進している。この取組を基盤として、島嶼・海洋性等の共通する地域特性や社会経済等の課題に焦点を当てた科目群の編成，英語による授業の拡充、アクティブ・ラーニングを中心とした授業の提供、産学官と連携したインターンシップ及び就職支援などの取組を展開するとともに，我が国にとって重要なパートナーとなる太平洋島嶼地域の国々との良好な人的ネットワークの拡充に寄与する計画である。

これらの取り組みの中核となる組織として、平成27年度から本学に「グローバル教育支援機構」を設置し、グローカル教育を推進するとともに、学内外の人材が地域・国際的な観点からの教育について協働するプラットフォームを整備しつつある。特に理系分野では、理学部、教育学部理科教育部門、医学部、およびこれらに接続する大学院や研究施設・センター等が中核となって研究教育を推進している。さらに、附属小学校・中学校における教育や、沖縄県内のスーパーサイエンスハイスクールへの運営支援などに加え、本申請企画により、数理分野の高い意欲や能力を有する小中学生を発掘し、さらなる育成に関する体系的な取組の実施を目指す。

【3】企画内容

（1）全体の目的、目標

企画の目的と達成目標を、以下の観点を含めて記述してください。

実施期間（最大5ヵ年度）を通した支援を JST から受けることを前提とし、達成目標は実施期間終了時のものとします。

◆科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて高い意欲や突出した能力を有する児童生徒をさらに伸ばすための取組を行う目的、実現したい目標、背景となる問題意識

◆受講者の意欲・能力を見出す際の具体的観点と育てたい人材像(育てたい人材像の詳細は【3】（3）で記述してください）。

1）企画の目的

「科学技術イノベーション立国」を標榜する我が国にとって、科学技術分野における卓越した人材の確保は、国の将来を左右する重要な課題の一つである。そのため、自然科学分野において高い興味・関心を持ち、非凡な才能を有する子どもたちを、早い段階で見いだして個々の能力を最大限に伸長させる機会を与えることは、傑出した科学技術系人材の育成に向けて非常に重要であると考えられる。しかしながら、現状では、そのような子どもたちを支援する体制が確立されているとは言いがたい状況にある。

そのため、本企画では、大学・教育行政・民間非営利団体が協力して、自然科学分野において非凡な才能を有する児童・生徒を発掘し、その個性や能力を育成する取り組みを行う。実施にあたっては、体系的で効果的な教育プログラムの開発を行うとともに、その成果や効果の継続的な検証を通して、開発された手法・成果等を地域全体に発信する。また、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）なども含めた、沖縄県内の自然（美ら海・美ら島）と科学技術系リソースを効果的に活用した地域連携型の人的・機関的ネットワークを構築する。

離島県である沖縄県の児童・生徒は、その地理的ハンディキャップのために、県外にある科学博物館や科学イベント等に参加することは容易ではない。そのため、潜在的な能力を有している子どもがいても、その才能を開花させる機会に恵まれて来なかった。本企画は、これまで機会に恵まれなかった沖縄県の児童・生徒に、潜在的才能を開花させる新たな機会を提供する事業として、科学技術系の人事育成に大きな貢献をもたらすであろう。

2）達成目標

本企画は、科学技術イノベーションを牽引し、引我が国の将来を担う活躍をする傑出した人材を育成することを目的にしている。科学技術イノベーションを牽引する傑出した研究者には、卓越した才能を早期に開花させる早熟型の人材もいれば、子どもの時に興味を持った研究に継続して長い期間取り組むことによって画期的な成果を生み出す大器晩成型の人材もいる。そのため、本企画では、各受講生の発達段階と個々の才能や意欲とのバランスに考慮しながら、科学者として必要な基盤的能力を幅広く育成する教育プログラムと、メンター等の手厚いサポートを通して、各人の潜在能力を最大限に引き出せるような取り組みを行う。また、教育プログラムの実施にあたっては、教育行政、民間非営利団体の協力を仰ぎ、地域連携型の支援体制を構築する。

本企画では、受講者の意欲・能力を見出す際の具体的観点として、「旺盛な科学的探究心」、「科学的問題解決力」、「研究実践力」、「豊かなコミュニケーション力」、「自己学習能力」を想定している。

未知の事物・現象について知りたいと思う好奇心や、その原因を調べてみたいと思う探究心は、研究を進めるための原動力になる（旺盛な科学的探究心）。しかし、強い思いだけでは、科学的な結果は得られない。実際に探究活動を行うためには、調査対象・現象に関する専門的知識や実験や調査に必要な技能、得られたデータを分析し推論する論理的思考力等の能力が必要になる（科学的問題解決力）。また、構想した研究を実現するには、問題を発見し研究をデザインする発想力や構想力、試行錯誤しながら問題解決を進める忍耐力や実行力などの能力も必要である（研究実践力）。それに加えて、他者と協力して研究を進めるためには、コミュニケーション力やリーダーシップが、自身の研究の面白さを他者に伝えるためには、プレゼンテーション力が必要となる（豊かなコミュニケーション力）。さらに、自立した研究活動を続けるためには、与えられたカリキュラムを消化するといった受け身的な学習だけではなく、自己の意欲・興味に基づき、主体的・省察的に学ぶ能動的な学習能力が必要になる（自己学習能力）。本企画における受講生の学習内容は、小中学校の教育課程レベルを凌駕するため、配布資料の予習や復習は必須であり、紹介された書籍や文献等について、主体的に学んで行く積極性がなければ、レベルの高い探究活動を行うことはできないであろう。

この5つの能力は、将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必須の基盤的能力と考えられるので、第一段階の教育プログラムから各能力の育成を図り、プログラム修了時に、これらの能力の達成度を評価することによって、卓越した才能を有する受講者を見いだす。選抜にあたっては、評価が平均して高い場合や、特定の評価が突出して高い場合など、様々な視点から受講生の潜在能力を発見できるように努力する。

第二段階の教育プログラムでは、選抜された受講生が大学の研究室に配属され、研究者やメンターからのアドバイスを受けながら、各受講生の強みを活かした分野において探究活動を続ける。評価が高い受講生の場合は、中学卒業まで継続した支援が受けられるため、受講生の個性を活かした様々な成果が期待できる。具体的な成果としては、科学の甲子園ジュニア全国大会、全国レベルの科学賞、国際科学技術コンテストでの活躍や、学会での研究発表、学術誌への論文発表等を想定している。

また、修了生には、SSH校への進学を勧め、研究活動を継続できるような進路指導を行うとともに、OB・OGによる同窓会を組織して、後輩受講生との交流も加味した定期的な研究相談会を実施し、人的ネットワークを構築する。

◆企画の背景

1）これまでの類似の活動の実績・成果と解決すべき課題

「理工系人材育成戦略」（平成27年3月　文部科学省）には、超高齢化社会に直面する日本の国際競争力維持・向上のために、理工系人材の育成が急務であることがうたわれており、科学技術者の育成は、我が国の将来を担う重要な教育テーマの一つである。そのため、本学においても、研究者が学校に出向いての出前授業の実施や、中高生を大学の研究室に招いての体験実習等の児童・生徒の科学技術への興味・関心を高めるための取り組みを行ってきた。

しかし、これらの活動の多くは、理科好きの裾野を広げる事業であり、各人が持つ潜在的な科学的才能の開花を支援する機会の提供には繋がっていなかった。そのため、平成27年度から沖縄県教育委員会（以下、県教委）と共催で「沖縄科学技術教育シンポジウム」を実施している。この事業は、理科や科学技術に興味・関心がある児童・生徒に対して、研究内容の発表の場を提供し、科学を楽しみ、学校の枠を超えた交流を推進する事を目的に実施している。

具体的には、中高生対象の「課題（自由）研究発表会」・「実験教室」・「研究者との交流会」、科学クラブ等の指導教諭を交えた「意見交換会」・「指導者研修会」を実施している。ここでは、中高生の夏休みの自由研究や、科学部の研究成果についてのポスター発表会を実施し、中高生、大学生、中高教諭、研究者が自由に意見交換できる場を提供することによって、研究内容の進め方やまとめ方、新たな研究のヒントなどの、多面的な情報交換が可能になるため、研究意欲のある生徒にとって貴重な機会になっている。実際、本プログラムに参加した高校生がアドバイスをヒントに研究を発展させ、科学作品展等で高い評価を受けるなど、探究活動への支援プログラムとして一定の成果を挙げてきた。

しかし、実施期間が夏休みに限定されていることや、児童・生徒が自分で研究を行うために必要な知識や技能について十分な学習プログラムが用意されていないなどの問題点があり、自然科学分野において非凡な才能を有する児童・生徒を発掘し、その個性や能力を育成する教育プログラムとしては、実施期間や実施内容が不十分であった。

2）本企画での重点項目・強化点

そのため本企画では、県教委の協力を得ながら、参加者を広く公募し、受講する児童・生徒の発達段階を十分に考慮した継続的な学習プログラムを開発・実施する。実施にあたっては、受講生の発達段階と個々の才能や意欲とのバランスに考慮しながら、科学者として必要な基盤的能力を幅広く育成する教育プログラムを開発するとともに、メンター等を活用した手厚いサポートを通して、各人の潜在能力を最大限に引き出せるような取り組みを行う。また、県教委や「美ら島財団」総合研究センター、県内のSSH校等と連携を図り、未来の科学者を見いだし支援するための地域連携体制を構築して、大学単独では実施できない継続的で、きめ細かな対応を行う。

本企画では、受講者の意欲・能力を見出す際の具体的観点として、「旺盛な科学的探究心」、「科学的問題解決力」、「研究実践力」、「豊かなコミュニケーション力」、「自己学習能力」を想定し、第一段階の教育プログラムから各能力の育成を図り、これらの能力の達成度を評価することによって、卓越した才能を有する受講者を見いだす。この第一段階教育プログラムでは、一次選抜に合格した40人の受講生全員に対して、約8ヶ月間（年間24回程度）のカリキュラムを実施する。その内、必修プログラムでは、各能力の成長を促す取り組みを全般的に行い、選択プログラムでは、受講生にとって興味がある分野の発見や学習の深化に繋がるように、先端的科学研究の様々な内容について紹介・学習する機会も設けた。この、第一段階の教育プログラムは、全ての受講生に対して共通して実施するが、特定の分野に極めて優れた能力や創造性を有する受講生がいる場合は、この第一段階の教育プログラムと平行して、個別に指導研究者を紹介して、早期に研究者の指導が仰げるような体制を構築する。

第二段階の教育プログラムでは、選抜された受講生が大学の研究室に配属され、研究者やメンターからのアドバイスを受けながら、各受講生の強みを活かした分野において探究活動を続ける。合格者は、第2次選抜によって決定（受講者の10～20％程度）されるが、評価が平均して高い場合や、特定の評価が突出して高い場合など、様々な観点から受講生の潜在能力を発見できるように努力する。この段階では、シニアメンターが中心となり各受講生のサポートを行いながら、各研究室の研究者やメンターと協力した研究活動支援プログラムを実施する。第二段階教育プログラムの受講期間は、最短の場合1年であるが、特定の分野の優れた能力や創造性を有する受講生については、中学校卒業まで継続して受講できる。評価が高い受講生の場合は、中学卒業まで継続した支援が受けられるため、受講生の個性を活かした様々な成果を期待している。

本企画は、自然科学分野において非凡な才能を有する児童・生徒を発掘し、その個性や能力を育成することを目的としているが、受講生の発達段階について十分な配慮が必要だと考えている。特定の分野に極めて優れた能力や創造性を有する受講生がいる場合は、本人の能力と意欲に応じて、大学生レベルの知識や実験技能等の早期の習得も積極的に支援するが、高い意欲と資質は有するものの、受講段階で研究活動を行うために必要な知識や技能が身に付いていないケースも想定される。そのため本企画は、いたずらに大学生レベルの知識や実験技能等の早期の習得のみを目指すのではなく、将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な基盤的能力を伸張させることを主眼に実施する。小中学生の知識・技能をベースに、段階を踏んで、より高度な探究的で主体的・能動的な学習に取り組むことによって、科学研究に必要な基盤的能力を獲得し、本企画修了後も独立して研究活動に取り組める人材の育成を目指す。

(2)全体概要図

５年間にわたる計画について、育成目標・実施内容・実施体制を含む最終の全体概要のイメージ図を作成してください。取組初期段階との違いがある場合は、それがわかるようにコメント等で補足してください。

事業の全体像

本事業の全体概要図を図1、事業関係者一覧を表1に示す。

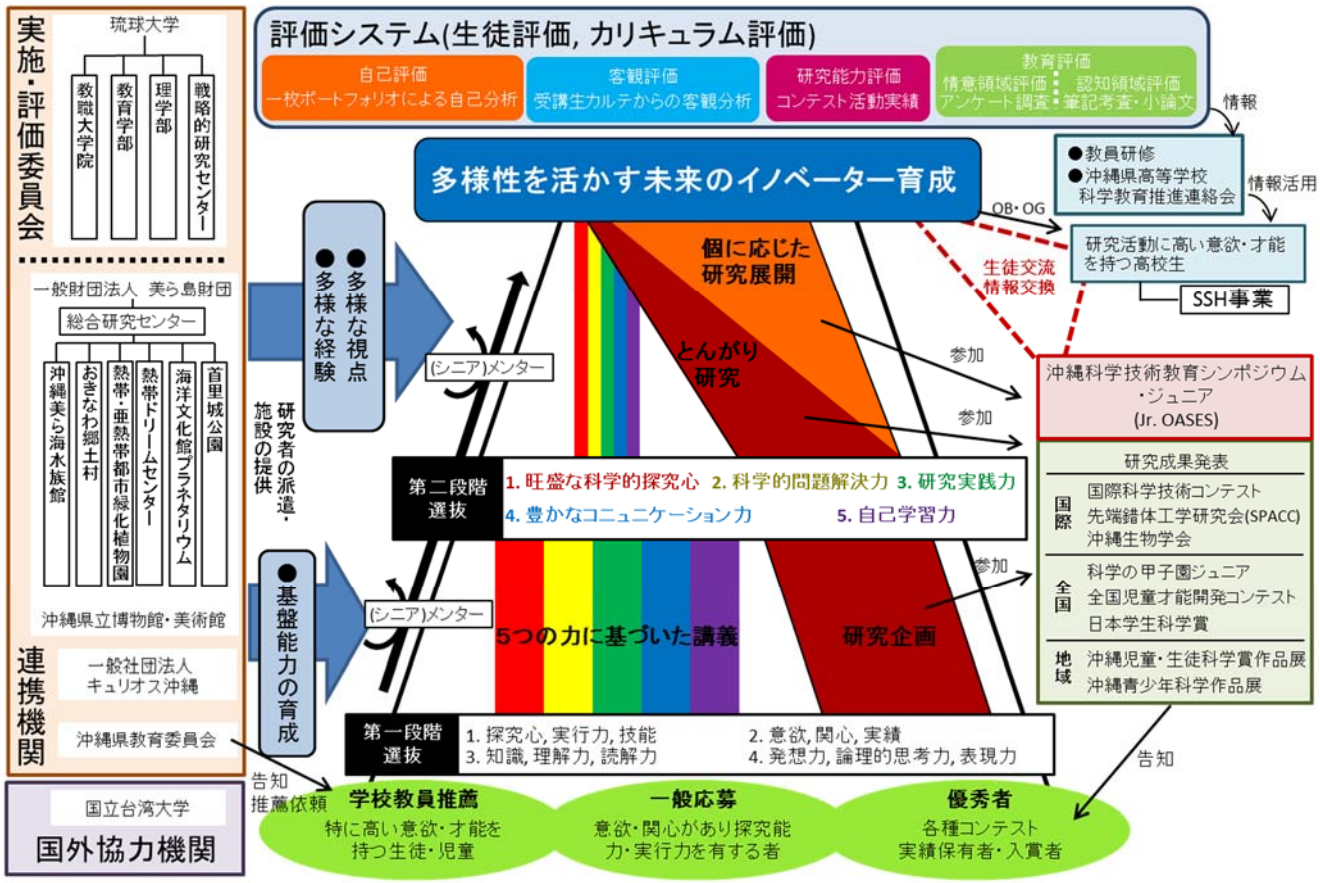


図 1. 事業全体の概要

表1. 事業関係者一覧

所　　属	職　名	氏　　名	本事業に於ける役割
戦略的研究センター	教授	古川　雅英	実施担当者
理学部	准教授	前野　昌弘	実施担当者
教育学部	准教授	福本　晃造	実施担当者
教職大学院	教授	伊禮　三之	実施担当者
教職大学院	教授	杉尾　幸司	実施担当者
一般財団法人美ら島財団 美ら島財団総合研究センター	統括	野中　正法	連携機関
沖縄県立博物館・美術館	主任学芸員	山崎　仁也	連携機関
一般社団法人キュリオス沖縄	理事	仲栄真　礁	連携機関
沖縄県教育委員会	指導主事	有銘　真一郎	連携機関

（3） 人材育成の目標設定 （育てたい人材像の育成要件）と取組との関係

(1)で記述した本プログラムで「育てたい人材像」について、目標とする資質・能力を具体的に記述してください。
また、上記の目標とする資質・能力と取組とがどのように結びついているのか、育てたい能力や資質の内容と取組概要との関係も併せて記述してください。（なお、ここで記載した内容は、計画変更の手続きを経ることにより、実施期間中に変更することは可能です。）

【第一段階の育成プログラム修了時】

①育てたい能力・資質	②育てたい能力・資質の定義	③目標水準	④育成のための取組
旺盛な科学的探究心	研究を進めるための原動力となる、未知の事物・現象について知りたいと思う好奇心や、その原因を調べてみたいと思う探究心。身の回りの不思議な現象を発見する観察力や、問題の解決を試みるチャレンジ精神の原動力となる。（関心、意欲、好奇心、探究心等）	科学への強い興味・関心と、未知の事物・現象に対する好奇心・探究心を原動力に、困難な課題を克服しようとする意欲・態度を持つ。 ・達成度：レベル4 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5	必修プログラム：A 必修プログラム：B 必修プログラム：C 必修プログラム：D 選択プログラム：F
科学的問題解決力	科学的な探究活動を行うために必要な、専門的知識や技能、理解力、結果について推論を行う論理的思考力、必要なデータ・資料を収集する情報収集力など、未知の問題を科学的に検証する能力。（知識、技能、思考力、判断力等）	研究に必要な高校レベルの知識・技能を習得している。問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、推論できる。 ・達成度：レベル4、科学技術コンテストへの参加。 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5、科学技術コンテスト全国大会への参加。	必修プログラム：B 必修プログラム：C 必修プログラム：D
研究実践力	実際に研究を進めて行くために必要な実践力。問題を発見し研究をデザインする発想力や構想力、試行錯誤しながら問題解決を進める忍耐力や実行力など、実際に問題を解決するために必要な様々な能力。 （発想力、創造力、計画力、忍耐力、実行力等）	問題を発見して、具体的な研究計画を立案し、試行錯誤しながら研究を進めることが出来る。 ・達成度：レベル4、県大会以上の科学作品展研究等への出品。 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5、県大会以上の科学作品展研究等への出品。	必修プログラム：D 必修プログラム：E
豊かなコミュニケーション力	他者と協力して研究を進めるために必要な協調性やリーダーシップ、自身の研究の面白さを他者に伝えるために必要なプレゼンテーション力など、科学技術の分野で活躍するために必要となるコミュニケーション能力。 （表現力、協調力等）	他者と協力して実験等を行ったり、結果について円滑にディスカッションを行える。研究倫理について理解している。 ・達成度：レベル4 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5、国内の自然科学系学会等での研究発表。	必修プログラム：A 必修プログラム：D 必修プログラム：E
自己学習能力	与えられたカリキュラムを消化するだけの受け身的な学習ではなく、自己の意欲、興味に基づき、主体的・省察	自己の意欲、興味に基づき、高校レベル以上の学習内容について、継続的、能動的に学習を行う	必修プログラム：B 必修プログラム：C 必修プログラム：D 必修プログラム：E

	的に学ぶ能動的な学習能力。（継続力・省察力等）	ことができる。 ・達成度：レベル4 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5	

【第二段階の育成プログラム修了時】

①育てたい能力・資質	②育てたい能力・資質の定義	③目標水準	④育成のための取組
旺盛な科学的探究心	研究を進めるための原動力となる、未知の事物・現象について知りたいと思う好奇心や、その原因を調べてみたいと思う探究心。身の回りの不思議な現象を発見する観察力や、問題の解決を試みるチャレンジ精神の原動力となる。（関心、意欲、好奇心、探究心等）	・達成度：レベル4 ・スーパーサイエンスハイスクールへの進学 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5 ・科学技術コンテスト国際大会への参加	・研究活動支援プログラム（配属研究室での活動、指導教員の指導等） ・研究サポート面談
科学的問題解決力	科学的な探究活動を行うために必要な、専門的知識や技能、理解力、結果について推論を行う論理的思考力、必要なデータ・資料を収集する情報収集力など、未知の問題を科学的に検証する能力。（知識、技能、思考力、判断力等）	・達成度：レベル4 ・科学の甲子園ジュニア全国大会への参加 ・科学技術コンテスト国内大会への参加 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5 ・科学技術コンテスト国際大会への参加	・研究活動支援プログラム（配属研究室での活動、指導教員の指導等） ・研究サポート面談
研究実践力	実際に研究を進めて行くために必要な実践力。問題を発見し研究をデザインする発想力や構想力、試行錯誤しながら問題解決を進める忍耐力や実行力など、実際に問題を解決するために必要な様々な能力。 （発想力、創造力、計画力、忍耐力、実行力等）	・達成度：レベル4 ・全国レベルの科学作品展への出品 ・国内の自然科学系学術雑誌等へ論文の投稿・採択 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5 ・国際的な自然科学系学術雑誌等へ論文の投稿・採択	・研究活動支援プログラム（配属研究室での活動、指導教員の指導等） ・研究サポート面談
豊かなコミュニケーション力	他者と協力して研究を進めるために必要な協調性やリーダーシップ、自身の研究の面白さを他者に伝えるために必要なプレゼンテーション力など、科学技術の分野で活躍するために必要となるコミュニケーション能力。（表現力、協調力等）	・達成度：レベル4 ・国内の自然科学系学会等での研究発表（口頭・ポスター） 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5 ・国際的な自然科学系学会等での研究発表（口頭・ポスター）	・研究活動支援プログラム（配属研究室での活動、指導教員の指導等） ・研究サポート面談
自己学習能力	与えられたカリキュラムを消化するだけの受け身的な学習ではなく、自己の意欲、興味に基づき、主体的・省察的に学ぶ能動的な学習能力。（継続力・省察力等）	・達成度：レベル4 ・国内の自然科学系学術雑誌等へ論文の投稿・採択 【挑戦的目標】 ・達成度：レベル5 ・国際的な自然科学系学術雑誌等へ論文の投稿・採択	・研究活動支援プログラム（配属研究室での活動、指導教員の指導等） ・研究サポート面談

（4）実施年度ごとの重点目標

各欄に記載の観点を含め、実施期間（最大5ヵ年度＋6年度目以降）各年度の重点目標（実現したい状況）を年度毎に箇条書きで記述してください（「募集要項」16 ページ参照）。

初年度	＜実施・指導体制＞ ・沖縄県教育委員会や民間非営利団体等との連携体制の確立 ・企画推進のための学内協力体制の充実 ＜教育プログラムの開発（受講生評価を含む）＞ ・第一段階教育プログラムの開発と受講生への教育効果の検証 ・第一段階受講生の評価に基づく第一次選抜方法、評価内容の検討 ・第二段階に選抜されなかった受講生へのフォロー指導の実施 ・企画実施関係者(運営担当者、メンター、連携機関担当者等）への研修会の実施 ＜成果の把握＞ ・第一段階の受講生の評価と検証
2年度目	＜実施・指導体制＞ ・第二段階教育プログラムの本格実施に伴う連携協力体制の改善・充実 ＜教育プログラムの開発（受講生評価を含む）＞ ・第二段階教育プログラムの本格実施と受講生への教育効果の検証 ・第二段階教育プログラムに携わる協力研究者、メンター等への研修会の実施 ・前年度の取り組み内容の反省を活かした第一段階教育プログラムの改善 ・第二段階教育プログラム修了生へのフォロー指導の実施 ＜成果の把握＞ ・第二段階教育プログラム修了生の評価
3年度目	＜実施・指導体制＞ ・企画推進のための連携協力体制の確立と機能強化 ＜教育プログラムの開発（受講生評価を含む）＞ ・前年度の取り組み内容の反省を活かした第二段階教育プログラムの改善 ・第二段階教育プログラム修了生への教育効果の検証 ・メンターを含む企画実施関係者の教育プログラム全体に関する役割と効果の検証 ＜成果の把握＞ ・修了生の高校進学後の活動状況の把握と教育効果の検証
4年度目	＜実施・指導体制＞ ・企画推進のための連携協力体制の拡大とネットワーク機能の強化 ＜教育プログラムの開発（受講生評価を含む）＞ ・教育プログラム全体の評価と改善・充実 ＜成果の把握＞ ・修了生の追跡調査による教育プログラムの成果の把握と検証
5年度目	＜実施・指導体制＞ ・企画修了後を見据えた、地域連携型の人的・機関的ネットワークの構築 ＜教育プログラムの開発（受講生評価を含む）＞ ・追跡調査の結果を踏まえた教育プログラムの検証と内容の確立 ＜成果の把握＞ ・期間全体の教育効果の把握と検証 ・地域連携ネットワークを活用した成果の公開や普及
6年度目以降	5年間の取り組みで得られた成果を継承し、発展させるため、琉球大学を中心とした地域連携型の理系人材育成人ネットワークを構築し、継続した取り組みの実施を目指す。第一段階教育プログラム等については、小中学生対象の理系才能教育オープンコースウェアのようなインターネットを活用して公開する仕組みを構築して、大学に通わなくても意欲のある児童・生徒が無償で利用できるようなシステムを検討したい。第二段階教育プログラムについては、協力研究者に引き続き支援をお願いする。これらの取り組みの実現のために、自己負担経費の確保に加えて、新たな外部資金等の獲得も積極的に行う。

（5）5年間の詳細計画

前項（4）の重点目標を踏まえた計画を、年度ごとに、以下の観点を含めて具体的に記述してください。
特に、実施機関と連携機関（・共同機関）、実施組織等の役割が明確になるように記述してください。
なお、自己財源等によって実施する部分や、連携する活動がある場合は、その旨が分かるように記述してください。

- ◆ 受講生の募集方法、受講者の意欲・能力を見出す具体的方法、カリキュラム・連携手法・指導法等、育成プラン開発、ならびに開発したプランに対する検証方法
- ◆ 第一段階、第二段階の育成プログラムにおける受講者育成の達成目標と検証方法
- ◆ 他機関への波及効果（社会的貢献）に関する計画

2022年度

◆受講生の育成目標

1）「育てたい能力・資質」の育成目標

将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な五つの基盤的能力について育成する。第一段階の教育プログラムでは、各能力の成長を促す取り組みを全般的に行い、プログラム修了時に各能力の達成度を評価することによって、卓越した才能を有する受講者を見いだす。第二次選抜にあたっては、評価が平均して高い場合や、特定の評価が突出して高い場合など、様々な視点から受講生の潜在能力を発見できるように努力する。

① 第一段階の教育プログラムの今年度の達成目標
将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な五つの基盤的能力について育成する。受講生の50％以上が総合評価達成度レベル3に到達し、研究作品を沖縄県児童・生徒科学賞作品展等に出品することを到達目標とする。

② 第二段階の教育プログラムの今年度の達成目標
次年度に向けての研究計画の作成と所属研究室の決定を行う。3月に第二次選抜結果を発表し、土日と春季休業期間を活用して研究計画の作成と所属研究室の決定を行うスケジュールであるため、第二段階の教育プログラムの本格的実施は、次年度以降になる。

2）科学技術コンテスト等への参加目標

種別	参加目標人数	備考
県内レベルの数学・科学作品展、	20	沖縄県児童・生徒科学賞作品展 算数・数学の自由研究作品コンクール 沖縄青少年科学作品展等
全国レベルの数学・科学作品展等	1	全国児童才能開発コンテスト、日本学生科学賞等、算数・数学の自由研究作品コンクール等

3）その他の育成目標（上記にあてはまらない育成目標がある場合）
特にありません。

◆受講生の募集・一次選抜

受講生の募集・選抜方法

【募集・選抜の実施体制】
受講生の募集にあたっては、連携機関と協力して沖縄県内の小中学生に広く周知し、応募者を公平に受け入れ、選抜する体制を構築する。沖縄県の地理的特性から、県外からの応募は難しいと考えられるので、県内での募集を基本とする。

【対象地域】
原則として沖縄県内全域。教育プログラムを実施する琉球大学への交通費は自己負担になる旨を募集要項に明記し、応募に際しては保護者の承諾を必須とする。離島等からの応募者については、一部の教育プログラムについて、e-learning システムやサテライトキャンパス等を活用し、交通費の軽減に配慮することも検討する。

【募集人数、対象の児童・生徒】

募集人数：40人。
募集対象：小学校5年～中学校3年生。
本企画への参加資格が中学生以下であるため、中学３年生の場合は、本企画の参加期間が1年未満となり、第二次選抜以降も含めた継続した教育プログラムの実施が困難となる旨については、募集要項に明記して応募者の誤解が無いように注意するが、傑出した人材を見いだすという観点から、小学校5年～中学校3年生までを募集対象とする。

【募集対象者への周知の方法】
募集要項等を、県教育委員会から県内の全小中学校に配布する。また、校長会等を活用して、各学校長宛に児童・生徒の推薦についての呼びかけを行い、各学校からの児童・生徒の推薦について協力を依頼する。さらに、県内の小中学生対象の科学作品展等への出品数が多い小中学校等に対しては、個別に学校訪問を行い、本企画の説明と応募の呼びかけを行う。
また、一般財団法人「沖縄美ら島財団」の協力を得て、関連管理施設「沖縄美ら海水族館、沖縄県立博物館・美術館」などでの体験イベントや教育プログラムへの参加者等への周知を行う。県内新聞各紙（沖縄タイムス、琉球新報）への企画内容の紹介記事や募集案内等の掲載依頼を行う。インターネット上での情報開示方法として、琉球大学公式 HP に、本企画の内容の掲載サイトを作成し、企画内容の案内や募集要項等の必要情報がダウンロードできる環境を構築する。これらの広報活動に加えて、琉球大学で募集説明会を開催し、応募希望者に対して直接説明をする機会も設ける。

【児童・生徒の推薦】
募集にあたっては、県教育委員会から各学校長宛に児童・生徒の推薦についての呼びかけを行い、各学校からの児童・生徒の推薦について協力を依頼する。ただし、本企画への応募については、参加交通費が自己負担になる事に鑑み、最終的な応募の決定は各家庭に委ね、応募に際しては、責任を持って教育プログラムに参加する旨の保護者の承諾を必須とする。また、各学校から推薦のあった児童・生徒については、一次選抜基準にもとづいて、加点を行うが、推薦の有無のみによって合否を決定することはしない。そのため、各学校に対して、推薦した児童・生徒への本企画への応募を積極的に働きかけてもらうとともに、推薦によって一次選抜が免除されるのではないことを十分に理解してもらう。

【選抜方法】
一次選抜にあたっては、「書類審査」、「筆記審査」、「面接審査」の結果を下記の一次選抜基準にもとづいて総合的に判断して、合格者を決定する。ただし、応募者が定員を大幅に上回った場合は、書類審査の結果のみによる事前選抜を実施する。
① 書類審査
志願書および推薦書の記述内容について、意欲・関心、探究能力、実行力等の観点から評価する。志願書には、「科学作品展等の出品内容・受賞実績」や「志願理由（興味関心がある内容や数検等の実績等も含めて記述）」等の欄を設ける。推薦書の添付は、必須としない。
② 筆記審査
筆記問題（理数分野の知識、理解力、読解力）、小論文（発想力、論理的思考力、表現力）。
理数分野に関する筆記試験と小論文を実施し、応募者の知識、理解力、読解力、発想力、論理的思考力、表現力等について評価する。筆記試験については、「科学の甲子園ジュニア」の筆記競技で出題されている問題や「全国学力・学習状況調査」の B 問題で出題された問題等を参考に作成する。
③ 面接審査
日常生活の中で受験生が興味・関心を持っている事、研究したい内容や研究のためのアイディア等について受験生との対話を行い、コミュニケーション力、創造力、独創力、好奇心等の書面では読み取れない受験生の様々な潜在的能力について評価する。

2）受講者の意欲・能力を見出す具体的観点とその基準（一次選抜基準）

審査方法	評価の観点	評価内容	配点
書類審査	探究能力、実行力、技能	【科学作品展等の出品・受賞実績】 科学の甲子園、科学オリンピック等の実績 受賞作品の数および、各作品の受賞レベル、参加実績のレベルに応じて配点する。	50 点
	意欲、関心、実績	【志願理由書、推薦書の記述内容】 志願理由書や推薦書の記述内容にもとづいて、志願者の意欲・関心について評価する。評価内容には、科学オリンピック等へ	50 点

		の参加実績や数学・算数検定、理科検定等の取得実績を含む。	
筆記審査	知識、理解力、読解力	【筆記試験】 理科・数学などの複数分野において、実生活・実社会との関連、融合領域に配慮した出題を行い、応募者の知識、理解力、読解力について評価する。	50 点
	発想力、論理的思考力、表現力	【小論文】 実生活や実社会に関連した理科・数学に関する問題を題材に実施し、応募者の発想力、論理的思考力、表現力を評価する。	50 点
面接審査	コミュニケーション力、創造力、独創力、好奇心	【面接】 受験生との対話を通して、書面では読み取れない受験生の様々な潜在的能力等について評価する。	50 点

特定分野における優れた知識・技能、探究力、高い意欲、独創性等を持つなど、ある領域において突出した才能を有する児童・生徒の選抜には、各観点の結果を単純に合計した評価は適切ではないと思われる。そのため、特定の観点の評価が最高得点の応募者は、他の観点の結果にかかわらず合格させるなど、突出した能力がある児童生徒を選抜できるよう、県教委等の連携機関の意見も参考に、後述する「ジュニアドクター運営委員会」が総合的に判断して合格者を決定する。

3）受講開始時の意欲・能力等の調査計画

一次選抜合格者には、オリエンテーション実施時に、情意領域（関心・意欲）に関するアンケート調査を実施し、認知領域（知識・理解）については、一次選抜の筆記試験と小論文の結果を利用する。

情意領域に関するアンケート調査については、国際学力調査（PISA、TIMSS）における生徒質問紙（算数・数学、理科に対する意識）の内容を参考に実施し、これらの調査結果との比較を行う。

また、同様のアンケート調査を、第一段階の教育プログラム修了時にも実施し、情意領域における学習効果についても評価する。

認知領域に関する筆記試験と小論文についても、第一段階の教育プログラム修了時に再度実施し、認知領域における学習効果について評価する。

また、これらの調査に加えて、受講者には各学習プログラム終了時に一枚ポートフォリオを作成してもらう。この、一枚ポートフォリオには、A4用紙に授業内容の記録と授業に対する自己評価欄が作られており、毎回の授業毎に授業の内容理解と、自己の活動内容に対する評価確認することができる。このポートフォリオの記録内容を振り返ることによって、第一段階の教育プログラムの効果についての各人の詳細な評価が可能になる。これらの結果については、第二次選抜においても有効に活用する。

◆育成プログラムと指導体制・指導方法

1）5年間を通した教育プログラムの基本サイクルと受講生の育成期間

① 第一段階の教育プログラム

一次選抜に合格した40人の受講生全員に対して、約8ヶ月間（年間24回程度）の学習プログラムを実施する。第一段階教育プログラムは、各年度とも40人の受講生を想定している。実施スケジュールとして、毎年度4月に募集を開始し、5月に選抜を行い、6月から1月にかけて各プログラムを実施する。実施中は、e-learning システムの活用によって学習サポート体制を強化する。その後、2月に第2次選抜を実施し第二段階の教育プログラム受講生を決定する。（2017年度は、企画の実施が6月以降になるため、学習プログラムの実施間隔を調整して、8月から1月の期間内に実施する）。

ただし、特定の分野に極めて優れた能力や創造性を有する受講生がいる場合は、この第一段階の教育プログラムと平行して、個別に指導研究者を紹介して、早期に研究者の指導が仰げるような体制を構築する。

② 第二段階の教育プログラム

第一段階教育プログラムの結果を評価する第2次選抜を2月に実施し、第二段階教育プログラム受講者を決定する。第2次選抜の合格者数は、受講者の10～20%（4～8人）程度を想定している。

第二次選抜合格者に対しては、3月の土日と春期休業期間等を利用して、オリエンテーションを実施す

るとともに、受け入れ研究室との調整を行う。第二段階の教育プログラムでは、シニアメンターが中心となり各受講生のサポートを行いながら、各研究室の研究者やメンターと協力した研究活動支援プログラムを4月から1月まで実施する。プログラムでは、専門的観点からの助言や一連の研究成果発表支援（コンテスト紹介、原稿作成支援、口頭発表練習など）を含んでおり、ICT 機器の活用によって時間的、距離的制約を排除した教育体制で取り組む。2月には、一段階教育プログラムを終了した受講生から新規の第二段階の教育プログラム受講生を選抜するとともに、次年度以降も同プログラムを継続する受講生の選抜も実施する。そのため、第二段階教育プログラムの受講期間は、最短の場合1年であるが、特定の分野の優れた能力や創造性を有する受講生については、中学校卒業まで継続して受講できる。

実施年度（教育プログラム）		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2017	第一段階			募集	選抜	→	→	→	→	→	→		
	第二段階											選抜	→
2018	第一段階		募集	選抜	→	→	→	→	→	→	→		
	第二段階	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	選抜	→
2019	第一段階		募集	選抜	→	→	→	→	→	→	→		
	第二段階	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	選抜	→
2020	第一段階		募集	選抜	→	→	→	→	→	→	→		
	第二段階	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	選抜	→
2021	第一段階		募集	選抜	→	→	→	→	→	→	→		
	第二段階	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	選抜	→

2）第一段階教育プログラムの指導体制と指導方針

① 指導方針

将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な五つの基盤的能力を全般的に育成する。受講生の主体的・能動的な学習を促すために、各プログラムにおいて討論、コミュニケーション、グループでの協力、ブレインストーミング等の活動を積極的に導入する。

受講生は、4名で1グループを構成し、全体を10グループに分け、演習や実験等は、グループ単位で活動を行う。各プログラムは、1回120分（講義・演習：90分、振り返り：30分）を想定し、演習や実験を伴う内容の実施に際しては、1クラスを20人（5グループ）に分割して実施する。その場合、各グループに1人のメンターが配属され、受講生のサポートを行う。各プログラムは、主に琉球大学共通教育棟の講義室、実験室を使用して実施する。

受講生には、毎回の授業毎に授業の内容理解と、活動の自己評価を行う一枚ポートフォリオを提出させ、このポートフォリオの記録内容の変化を解析することによって、受講生の変容等の継続的な学習活動の成果の「見える化」を行う。また、その結果は、受講生の個別サポートの際に、受講生にフィードバックする事によって、受講生が自分の強みと弱みに気づき、今後の課題を認識できるように対応する。

受講生の学びのサポートとして、討論や実験に取り組むために必要な共通基礎知識や用語解説、実験手順書などの資料を e-learning システム上でも提供し、在住地域や年齢による格差縮小に努める。また、研究倫理などの知識確認を要する内容は、システム上でチェックテストを実施する。

また、教育プログラムのスタート段階において、知識・技能等の学年による発達段階の差が顕著である場合は、上記の学びのサポートによって対応するが、効果が不十分な場合は、通常のプログラムを実施しない土・日等に補習プログラムを実施する。補習プログラムは、個々の受講生の実態に応じて個別指導または小グループ指導の形で実施する。指導計画は、実施担当者とシニアメンターが協議して策定し、担当メンターおよびシニアメンターが受講生の指導を担当する。

② 指導体制（授業担当者）

各教育プログラムの授業は、琉球大学の協力研究者、シニアメンター、連携機関等の研究者（連携研究者）、外部講師等が各専門領域に関する内容について実施する。

③ 指導体制（メンター）

シニアメンター（若手研究者）1人、メンター（大学院生）5人が、受講生の個別サポートにあたる。実施主担当者の指導のもとに、シニアメンターが受講生の履歴や履修状況・評価を記録した「受講生カルテ」を作成し、受講生の学習状況や目標等に基づいた個別の目標設定等について検討する。メンターは、シニアメンターの指導のもとで、1人が2グループの受講生を担当し受講生のサポートを行う。演習や実験を伴う内容の授業では、1クラスを20人（5グループ）に分割して実施ため、各グループに1人のメンターが配属される。メンターは、ディスカッションや実験等のサポートを行うとともに、各受講生の取り組み状況の評価を実施する。また、学習プログラム実施日以外の個々の受講生からの相談等については、電子メールや Skype 等のインターネット電話サービスを活用して対応する。

メンターの研修については、第一段階教育プログラムの開始前に1回、実施期間中に2回、修了後に1回の計4回実施する。研修内容としては、小中学生への接し方等に関する児童・生徒理解、受講生のプライバシーへの配慮等の倫理的責任、授業への取り組み状況の評価方法、個別の教育相談時の注意などの教育的内容や探究活動へ支援方法等について、協力研究者やシニアメンターとの協議を中心に実施する。

3） 第一段階教育プログラムの内容

将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な五つの基盤的能力を育成する教育プログラムを実施する。必修プログラムは、各能力の成長を促す取り組みを全般的に行う。また、選択プログラムでは、受講生にとって興味がある分野の発見や学習内容の深化を促す契機となるように、先端的科学研究の様々な内容について紹介・学習する機会を設けた。また、各学習プログラムは、安全・衛生管理や生命倫理等に配慮して実施する。

①必修プログラム

A：討論会や交流会による「旺盛な科学的探究心」「豊かなコミュニケーション力」の育成

他の受講生とのディスカッションや SSH 高校生の研究発表会での交流等を通して、科学的探究心やコミュニケーション力の育成を図るためのプログラム。

【講義担当者】協力研究者、シニアメンター 【TA】メンター 【実施場所】琉球大学

◆ 科学とは何か？科学者とは何をする人？		学習のねらい
1	オリエンテーション 【ディスカッション】 話し合ってみよう！「科学とは何か、科学者とは何をする人？」	受講者自己紹介。グループ分け（4人×10グループ）。プログラム実施スケジュールの紹介。科学や科学者についてディスカッションを行い、受講生のコミュニケーション力の育成を図る。批判的思考力を用いた討論、コミュニケーション、グループでの協力、ブレインストーミング等の活動を行う。
2 3	【見学】 研究発表会に参加しよう！	「沖縄科学技術シンポジウム・ジュニア」を開催し、受講生のこれまで行ってきた自由研究等の発表会を行う。実際に研究発表を行い、お互いの研究内容についてのディスカッションを通して、受講生同士が切磋琢磨する雰囲気を盛り上げる。また、高校生や受講生以外の中学生が発表を行う「沖縄科学技術シンポジウム」の研究発表会に参加し、SSH 校等の高校生の研究内容を見学、質問を行う。近い将来の目標である SSH 校生の研究内容に触れる事によって、今後の取り組みへのモチュベーションを高める。
4 5	【発表】 興味のある事を発表しよう！	各人が取り組んでいる自由研究の内容や、興味のある研究分野について発表し、質疑応答することで、各受講生の発表力とコミュニケーション力の育成を図る。全員が発表するために、2回分実施する。研究内容についての討論、コミュニケーション、グループでの協力、ブレインストーミング等の活動を行う。

B：自然科学の学習による「旺盛な科学的探究心」「科学的問題解決力」「自己学習能力」の育成

中学校の教育課程では知ることができない、自然科学に関する知識を、科学史を交えながら全般的に講義する。限られた時間に多くの知識を詰め込むのではなく、受講生が興味を持った分野について、自分で深く学ぶことができる様に、関連書籍や文献、web サイト等の紹介にも注力する。

【講義担当者】協力研究者、シニアメンター 【TA】メンター 【実施場所】琉球大学

◆ 自然科学とはどの様な学問か（科学の歴史と役割）	学習のねらい

6	【講義】物質の成り立ち （原子・分子・物質の合成）	自然科学に関する様々な問題を理解するために必要な知識を、自然科学の発展の歴史に沿って講義する事によって、物理・化学・生物・地学の各領域について幅広く学習する。講義は、高等学校段階で学習する内容も含むが、段階を追ったカリキュラムの構成を行うことによって、受講生が理解し易いように工夫する。中学校段階の学習指導要領を超えた内容を学習することによって、自然科学分野への興味関心を高めるとともに、各人のより興味が持てる分野の発見につながる内容とする。
7	【講義】生命をさぐる （細胞の働き・生物の進化）	
8	【講義】エネルギーと電気 （エネルギーの保存・電気の働き）	
9	【講義】宇宙と地球の働き （ニュートン力学・大地の移動）	

C：数学分野の学習による「旺盛な科学的探究心」「科学的問題解決力」「自己学習能力」の育成

数学分野の数理的な考え方を様々なカリキュラムを通して学習することによって、数学的思考法について中学校の教育課程を超えた内容を深く学ぶ。数学は、物理学や情報科学、エンジニアリング等とも関連が深く、その才能を早期に開花させる事例もある事から、必修科目として実施する。

【講義担当者】協力研究者、シニアメンター 【TA】メンター 【実施場所】琉球大学

◆ 数学的問題解決（数学的活動）の特徴とその意義・役割		学習のねらい
10	【講義・演習】2進法の数当てマジックとその発展課題（2進法・転置式暗号・3進法）	現実の世界と数学の世界の往還的な学習を通して、数学的問題解決の特徴とその意義を理解するとともに数学の有用性を実感し数学に対する興味・関心を喚起する。具体的には、数当てマジックのトリックの解明を通して、現代社会に不可欠なコンピュータの原理となる2進法の仕込みを理解し、転置式暗号等への応用や3進法等への発展課題から数学的思考法（類推・拡張・一般化等）の特徴を理解する。また、現在のネットワーク通信を支える誤り訂正符号理論を嘘発見の数当てマジックを通して直感的に把握し、数学の社会的有用性を理解する。さらに、フィボナッチ数列を題材にして、条件変更等による児童生徒自身の問題設定とグループによる解の探究活動を通して、数学者の探究活動（問題設定→解の探究と証明→論文やポスターセッションによる成果発表→共有）を疑似体験する。そのことで、数学に対する研究活動を進めるために必要な数学的な思考や数学的手法を学ぶ。
11	【講義・演習】嘘発見器付き数当てマジック（誤り訂正符号理論）	
12	【講義・演習】フィボナッチ数列の周期性の探究とその条件変更による問題設定による数学者の探究活動の疑似体験（フィボナッチ数列・合同式・文字式の証明・RLA (Researcher-Like Activity)）	

D：探究学習による「旺盛な科学的探究心」「科学的問題解決力」「研究実践力」「豊かなコミュニケーション力」「自己学習能力」の育成

研究活動を進めるために必要な技術や能力を育むため、環境問題を題材にした探究学習を実施する。

【講義担当者】協力研究者、シニアメンター 【TA】メンター 【実施場所】琉球大学

受講生の支援活動が十分行えるように、各プログラムとも20人（5グループ）の少人数で実施する。

◆ 科学と調査（環境問題を題材にした探究学習）		学習のねらい
13	【演習】X 湖で魚が減少した原因は何だろうか？各資料を比較しながらディスカッションを行い、その原因を推測する。	研究活動を進めるために必要な技術や能力を育むため、環境問題を題材にした探究学習を実施する。受講生に架空の湖 X 湖で、魚が減少した原因について問いかけ、関連資料の比較、実験、演習を行いながら、ディスカッションを行う。 毎回の学習テーマでは、理科の各領域に関する実験や演習を行うことで、問題解決のための知識
14	【実験・演習】塩素汚染の可能性 湖で塩素汚染が起こった可能性を調べる実験とディスカッション。	

15	【実験・演習】酸性雨の可能性 湖が酸性雨で汚染された可能性を調べる実験とディスカッション。	と技能についても習得していく。調査（実験・演習）の結果については、各グループで振り返りを行い、グループ内でのディスカッションを繰り返す。その際、各グループを担当するメンターがサポート行う。グループ内で一定の結論を得たら、その結果について発表を行い、各グループの考えをクラス全体で検討し、ディスカッションを深めて行く。 一連のプログラムを学習することによって、「観察、記録、計測、データの整理、作図」などの調査方法と結果のまとめ方、「比較、推測、説明、推論、証拠と推論の区別、統計処理」などの論拠の分析と評価方法、「コミュニケーション力、論理的思考力、問題解決力」などの研究結果の発表と議論に必要な能力の育成を図る。 観察、比較、推測、調査、実験のデザイン、計測、記録、計算、データの分析と評価、推論、証拠と推論の区別、記録、データの整理、協力、コミュニケーション、プレゼンテーション、論理的思考等の活動を行う。
16	【実験・演習】土砂堆積の可能性 湖が河川から流入した土砂によって汚染された可能性を調べる実験とディスカッション。	
17	【演習・実習】個体数変動の可能性 生物の個体数変動についてのシミュレーション演習を行い、環境汚染以外に個体数変動の可能性についてディスカッションする。	
18	【演習】まとめ X 湖に関する資料（調査結果や住民の意見など）と、これまで行ってきた実験・演習の結果をもとに、X 湖で魚が減少した原因についいてディスカッションを行う。	

E：研究倫理の学習による「研究実践力」「豊かなコミュニケーション力」「自己学習能力」の育成

研究活動を行う際に必要な、データの取り扱い方や論文等の引用にあたって注意することなどの研究規範や、科学者の社会的役割と責任等について学習しディスカッションを行う。

【講義担当者】協力研究者、シニアメンター 【TA】メンター 【実施場所】琉球大学

◆ 科学者の責任ある行動とは（研究倫理）		学習のねらい
19	【講義】 研究倫理と科学者の責任	研究活動に伴うデータの取り扱い方、論文等の引用にあたって注意すること、科学上の間違いと手抜き行為、科学における不正行為、科学者の社会的役割と責任等について学習するとともに、個々のケーススタディについてディスカッションを行い、研究倫理についての理解を深める。 研究倫理についての理解、批判的思考力を用いた討論、コミュニケーション、ブレインストーミング等を行う。
20	【ディスカッション】 ケーススタディについての議論	

② 選択プログラム

F：先端分野の研究紹介による「旺盛な科学的探究心」の育成

協力機関や外部講師等の協力を得ながら先端分野の研究内容等を紹介し、受講生の興味・関心を高める。受講生個別の興味・関心に応じた選択履修とする。

【講義担当者】協力研究者、連携研究者、外部講師 【TA】メンター 【実施場所】琉球大学、連携機関等

◆ 先端分野の研究紹介		学習のねらい
21	スーパーコンピュータで見るスーパー台風のでき方（気象学の最前線の講義と演習）	沖縄の自然環境を取り巻く様々な問題についての最新研究内容を紹介し、受講生の興味・関心を高める。気象学の研究でスーパーコンピュータを活用していたり、生物学の研究でCTスキャナーや数理モデルを活用しているなど、最先端の研究現場では、物・化・生・地の各分野の内容が融合して活用されている。このような先端科学の研究事情を理解してもらい、修了後の高等学校での各領域の理科学習のモチュベーションが高まることも期待している。
22	巨大サンゴが語る地球環境の変化（古環境学・気候学の最前線の講義と演習）	
23	沖縄の海の生き物たちの調査・保護・育成：CTスキャナーの活用や加圧治療水槽の開発（海洋生物学研究の最前線の講義と施設見学）	
24	亜熱帯の森の生き物と生物多様性：DNA 解析や数理モデルの活用（琉球列島の陸上生態系研究の最前線の講義と施設見学）	

※選択プログラムについては、受講生へのアンケート調査を実施して、要望の多い分野や研究内容等を追加する予定である。受講生にとって広い視野を確保できるような、幅広い分野の研究内容についてカバーし、受講生が興味を持てる分野を発見するために必要な取り組みとする。また、この選択プログラムで、第二段階教育プログラムに進む受講生が、配属先の研究室を検討する際の参考になるような情報も提供する。

4）第二段階教育プログラム受講生の選抜方法

第一段階の教育プログラム受講の際に、受講者は各学習プログラム終了時に一枚ポートフォリオを作成し提出している。この、一枚ポートフォリオには、A4用紙に授業内容の記録と授業に対する自己評価欄が作られており、毎回の授業毎に授業の内容理解と、自己の活動内容に対する評価の変容を確認することができる。このポートフォリオの記録内容をもとに、各観点の内容について評価する。また、一次選抜にあたって実施した「筆記審査」と同様の筆記検査の結果、今後の研究計画をまとめた「研究計画書」の内容等についても評価する。これに加えて、受講生カルテによる受講生の取り組み状況の評価、科学作品展等の受賞実績等について評価を行う。審査にあたっては、協力研究者やシニアメンター、ジュニアドクター連絡協議会の意見も参考に、ジュニアドクター運営委員会が総合的に判断して合格者を決定する。

二次選抜基準

評価の観点	評価内容	配点
旺盛な科学的探究心	・一枚ポートフォリオの評価 ・受講生カルテの評価	100 点
科学的問題解決力	・一枚ポートフォリオの評価 ・筆記試験の評価	100 点
研究実践力	・一枚ポートフォリオの評価 ・期間中の科学作品展等の出品・受賞実績 ・研究計画書の評価	100 点
豊かなコミュニケーション力	・一枚ポートフォリオの評価 ・小論文の評価 ・受講生カルテの評価	100 点
自己学習能力	・受講生カルテの評価 ・研究計画書の評価 ・小論文の評価	100 点

5） 二次選抜を通過しなかった受講生への対応

二次選抜を通過できなかった受講生を対象にした説明会を実施し、選抜内容や経緯について十分な説明を行い、希望者には個人面談も実施する。また、二次選抜を通過しなかった受講生に対しても、本人の希望に応じて、電子メール等での連絡や研究相談を行い、個々の受講生のモチュベーションに維持に努める。

6） 第二段階教育プログラムでの指導内容

第一段階教育プログラムの結果を評価する第二次選抜を2月に実施し、第二段階教育プログラム受講者を決定する。第二次選抜の合格者数は、受講者の10～20%（4～8人）程度を想定している。第二次選抜合格者に対しては、3月の土・日と春期休業期間等を利用して、オリエンテーションを実施するとともに、配属研究室との調整を行う。配属研究室については、受講生の作成した研究計画書、受講生カルテの活動評価内容等を考慮して、ジュニアドクター運営委員会とシニアメンターが該当研究室を絞り込み、受講生と受け入れ研究者（琉球大学、連携機関：沖縄美ら島総合研究センター等の研究者、以下指導教員とする）との面談を行って決定する。受講生の育成計画については、個々の受講生の研究進度に応じたプランとなるように、指導教員とジュニアドクター運営委員会との間で十分に調整をおこなう。

オリエンテーションでは、研究を進めるために必要な、実験計画の作成方法、データの解析方法、図表の作成方法、文献等の検索方法、論文の作成方法等の研究に必要な知識や技術等について復習を行い、4月以降の配属研究室での活動に備えた準備を行う。

7） 第二段階教育プログラムでの指導体制

シニアメンターと指導教員が協力して、受講生の研究活動支援プログラムを作成する。また、配属研究室の大学院生がメンターとなり、配属受講生のサポートを実施する。実施内容と進度等については、ジュニアドクター運営委員会と指導教員が定期的に協議を行い、必要に応じて調整する。

8） 自己資金で実施する教育支援プログラム

平成27年度から実施している「沖縄科学技術教育シンポジウム」では、中高生対象の「課題（自由）研究発表会」・「実験教室」・「研究者との交流会」等を実施してきたが、この取り組みは高校生や一般の中学生も含んでいるため、新たに受講生のみを対象にする「沖縄科学技術教育シンポジウム・ジュニア」を

実施する。受講生が実際に研究発表を行い、お互いの研究内容についてのディスカッションを通して、受講生同士が切磋琢磨する雰囲気を盛り上げる。また、独自に実施している「沖縄科学技術教育シンポジウム」も本企画とは別に実施し、受講生以外の中学生や SSH 校等の高校生の研究内容を受講生が見学・質問する機会を設け、近い将来の目標である SSH 校生の研究内容に触れる事によって、今後の取り組みへのモチュベーションを高める。

◆受講生の評価

1）取り組み前および第一段階終了時の受講生の評価

受講生が第一段階の学習プログラムによって、どのような達成水準を獲得し、その伸張の程度を評価するために、取り組み前および第一段階終了時に、同様のアンケートと筆記考査（筆記試験、小論論文）を実施する。情意領域（関心・意欲）に関する学習効果については、アンケート調査結果を、認知領域（知識・理解）の学習効果については、筆記試験と小論文の結果を比較することによって、受講生の達成段階や伸張の程度を確認する。また、これらの調査に加えて、受講者には授業終了時に一枚ポートフォリオを作成してもらう。この、一枚ポートフォリオには、A4用紙に授業内容の記録と授業に対する自己評価欄が作られており、毎回の授業毎に授業の内容理解と、自己の活動内容に対する評価の変容を確認することができる。このポートフォリオの記録内容の変化を解析することによって、第一段階の教育プログラムの効果についての各人の成長のプロセスも含めた詳細な評価が可能になる。また、個々の受講生のパフォーマンス課題に関しては、ルーブリックにしたがって、担当のメンターが評価を行い、受講生カルテに記録する。

具体的な評価は、上記の二次選抜基準の得点に応じて、レベル1～5まで分類し、レベル1（20 点未満）、レベル2（20～40 点未満）、レベル3（40～60 点未満）、レベル4（60～80 点未満）、レベル5（80 点以上）、各能力の達成度の目安とする。また、これら各観点の結果を総合した、総合評価については、レベル1（100 点未満）、レベル2（100～200 点未満）、レベル3（200～300 点未満）、レベル4（300～400 点未満）、レベル5（400 点以上）とする。

また、各受講生の評価結果については、個人面談を行い個別にフィードバックする。本企画での評価が、今後の各受講生の活動の指針となるように、アンケート、筆記考査、ポートフォリオ、受講生カルテ等の結果を参照しながら、各人の成長のプロセスや、優れている点、補強が必要な点等について理解してもらう。このような評価結果を活用したフォローアップは、担当のメンターを介して第二段階教育プログラムにおいても実施する。その他、二次選抜を通過しなかった受講生に対しては、本人の希望に応じて、電子メール等での連絡や定期的な研究相談会を開催するなどのフォローアップ体制を整え、評価結果が受講生の育成に繋がるような多面的な評価システムの構築を目指す。

2）第二段階終了時の受講生の評価

第二段階の教育プログラムの本格実施は次年度以降に行うので、第二段階の評価については次年度の計画に記載する。

◆成果の把握と効果検証、成果の波及・伝搬

1）各取組の成果の把握と効果検証

募集・選抜方法の問題点把握のために、応募者全員にアンケート調査を行う。具体的には、合否判定結果の文書にアンケートを同封し、募集方法や時期、選抜方法（書類審査・筆記考査の内容等）の良不良について意見を募る。また、県教育委員会を通じて、同様のアンケートを各小中学校にも実施して学校側からの意見についても検討する。

研究活動につては、各受講生に対してメンターが常にサポートする体制を整えており、受講生からの報告は常に受けている。また、県教育委員会の担当者とも緊密に連携を取っているので、行政サイドからの情報も確認できる。そのため、受講生の科学コンテスト等の参加状況や実績の把握には問題が無い。

教育プログラム内容については、第一段階の学習プログラム開始時と終了時にアンケートと筆記考査（筆記試験、小論論文）を実施することによって、学習プログラムの効果を評価する。また、受講生は、第二段階を含む全学習プログラムにおいて、毎回の授業毎に授業の内容理解と、活動の自己評価を行う一枚ポートフォリオを提出しており、このポートフォリオの記録内容の変化を解析することによって、受講生の変容など、継続的な学習活動の成果の「見える化」を行う。

2）成果の波及・伝搬

本企画における各取組内容については、大学のホームページや協力機関のイベント等での紹介などの広報活動を行って広く紹介するとともに、学会発表、論文を通して活動の効果と検証を行う。また、取り組みの結果得られた成果や探究活動指導のノウハウ等については、県教委や市町村教委の主催する教

員研修で活用してもらい、理科教員の指導力向上にも寄与したいと考えている。また、本企画の成果は、SSH 校での探究活動の指導改善に寄与すると思われる。その他、県内の自然科学系の研究機関において、次世代の科学的人材育成を支援する気運が高まるという他機関への波及効果も期待している。

また、修了生には、SSH校への進学を勧め研究活動を継続できるような進路指導を行うとともに、OB・OGによる同窓会を組織して、後輩受講生との交流も加味した定期的な研究相談会を開催し、修了生の活躍状況の追跡調査を実施する。

将来的には、本企画によって開発された手法・成果等を地域に発信するために、琉球大学、美ら島財団、県教育委員会（教育センター、SSH 校）などが協力して、小中学生を含む次世代の科学的人材育成を支援していく地域連携型の人的・機関的ネットワークを構築する。

3） 受講生の高校進学後の評価による本企画の教育効果の検証

本企画の仮説設定を「潜在的な才能は同程度であっても、科学的才能を育成するプログラムを早くから受講した子どもの方が、科学的才能を早く開花させることができ、そのことによって、将来的には高い科学的研究成果をあげることができる」とし、その検証の第一段階として、高校進学後の修了生についての追跡調査（教諭へのアンケートや科学オリンピック等での実績等）を実施する。特に、高校での探究活動における各人の評価については、SSH校と協力して、修了生とそれ以外の生徒の比較を行うことによって、詳細な検証が可能になると考えている。

◆実施体制、及び、連携機関との協力
「（6）実施体制」を参照。

2023年度

◆受講生の育成目標

1）「育てたい能力・資質」の育成目標
「育てたい能力・資質」の育成目標については、前年度と同様。
① 第一段階の教育プログラムの今年度の達成目標
前年度と同様。

② 第二段階の教育プログラムの今年度の達成目標
将来、科学技術分野の研究者として活躍するために必要な五つの基盤的能力について更なる伸張を図る。受講生の50％以上が第二段階の教育プログラム評価基準の総合評価達成度レベル4に到達し、全員が研究作品を全国レベルの科学賞作品展等に出品することを到達目標とする。

2） 科学技術コンテスト等への参加目標

種別	参加目標人数	備考
県内レベルの数学・科学作品展、	25	沖縄県児童・生徒科学賞作品展 算数・数学の自由研究作品コンクール 沖縄青少年科学作品展
全国レベルの数学・科学作品展等	2	全国児童才能開発コンテスト、日本学生科学賞等、算数・数学の自由研究作品コンクール
科学コンテスト等	2	科学の甲子園ジュニア、国際科学技術コンテスト

◆受講生の募集・一次選抜
基本的に前年度と同様の方法で実施する。ただし、募集の開始時期を早め、5月から募集を開始し、一次選抜を6月に終了させ、新規受講生の第一段階の教育プログラム開始が、7月初旬から可能となるスケジュールで実施する。

◆育成プログラムと指導体制・指導方法

第一段階教育プログラムの指導体制、指導方針、教育内容、および第二段階教育プログラム受講生の選抜方法等については、前年度と同様に実施するが、第二段階の教育プログラムについては、本年度から本格的な開始となるので、以下に詳細な指導内容と指導組織体制について述べる。

1） 第二段階教育プログラムでの指導内容

第二段階教育プログラムの受講者に対しては、前年度の 3 月に実施するオリエンテーションにおい

て、配属研究室を決定する。配属研究室については、受講生の作成した研究計画書、受講生カルテの活動評価内容等を考慮して、ジュニアドクター運営委員会とシニアメンターが該当研究室を絞り込み、受講生と受け入れ研究者（指導教員）との面談を行って決定する。受講生の育成計画については、個々の受講生の研究進度に応じたプランとなるように、指導教員とジュニアドクター運営委員会との間で十分に調整をおこない研究活動支援プログラムを作成する。

このプログラムは、年間を通した研究室での活動計画について、指導項目と指導内容を時系列にまとめたもので、受講生への研究指導の基本計画となる。指導教員は、このプログラムに沿って受講生の研究指導を行うが、受講生の研究に対する自由度も確保するため、研究内容を定期的に確認し必要に応じてプログラムの修正を行う。この研究指導のマネジメントの際には、シニアメンターも積極的に関わり、受講生との研究サポート相談の結果について指導教員との共通理解を図るなど、受講生の研究活動について側面から支援する。4 月以降の配属研究室での具体的な研究指導方法やマネジメント等は以下の通りである。

シニアメンターと配属研究室の指導教員が協力して作成した研究活動支援プログラムにしたがって、4月から1月まで配属研究室において、研究活動を実施する。受講生は、スケジュールを調整して各月2回程度研究室を訪問し、各自の研究内容についてのアドバイスを受けるとともに、大学や研究機関の機材・設備を活用して自宅や学校では実施できない実験等を行う。

また、研究室での研究のテーマ設定については、受講生の興味・関心を最大限尊重するように配慮する。ただし、これまで取り組んできた研究内容が、学術的な深みを持つ研究に発展しないと思われる場合は、受講生と指導教員が良く話し合って、新たな研究テーマについて検討する。その場合は、話し合いの場にシニアメンターが参加して、双方の思いが良く反映出来るような調整役を担う。配属研究室での指導内容は、各研究課題によって異なる部分も生じると思われるが、一般的には以下のような内容を想定している。

月	指導項目	指導内容
4	研究計画についての検討	研究テーマについて、指導教員のアドバイスを受け検討。
	研究計画発表会	研究室で大学生も交えた研究計画の発表会を実施。 研究発表や研究活動の過程では、大学生・大学院生との交流を通して、社会性やコミュニケーション力の育成を図る。
5	研究指導	ラボノートの書き方についての説明。実験器具使用法の説明。 研究に従事する者が守るべき研究倫理についての説明。
	研究指導	実験プロトコルについての確認。予備実験の開始。
6	研究の実施	具体的な研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	研究の実施	
7	研究の実施	具体的な研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	研究の実施	
	研究サポート面談（シニアメンターによる面談とアドバイス）	
8	中間発表の準備	中間発表に向けて、図表のまとめ方について指導を受ける。
	中間発表会	研究室で大学生も交えた中間発表会を実施。
9	研究の実施	中間発表でのアドバイス内容を検討し、必要に応じて実験計画等の変更を行い、研究を進める。
	研究の実施	
10	研究の実施	研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	研究の実施	
	研究サポート面談（シニアメンターによる面談とアドバイス）	
11	研究の実施	研究計画に従って、実験等を実施する。実験結果等は研究ノートに記録し、指導教員のアドバイスを受ける。
	研究の実施	
12	実験結果の解析	指導教員のアドバイスを受けながら、この段階までで得られた実験データ等について解析し、研究結果の考察を行う。
	追加実験等の実施	解析の結果、不足している実験等の追加実験を行う。
1	研究成果発表会	研究室で大学生も交えた研究成果発表会を実施。
	論文作成	指導教員のアドバイスを受けながら、研究内容を論文にまとめる。

	研究サポート面談（シニアメンターによる面談とアドバイス）

2）第二段階教育プログラムでの指導体制

各研究室における指導は、配属研究室の教員（教授等）が責任を持って担当する。また、受講生のサポートは、配属研究室の大学院生がメンターとなって継続的に行う。受講生が在宅の場合の相談等には、電子メールや Skype 等のインターネット電話サービスを活用して対応する。研究発表練習や成果発表会においても ICT 機器を用いた動画共有システムによって支援・発信を行う。

また、その他、約3ヶ月に一度シニアメンターによる「研究サポート面談」を実施する。この面談を通して研究内容についてのアドバイスを実施するとともに、各配属研究室のサポート体制等について問題が無いかどうか、受講生から直接意見を聞いて確認する。また、それぞれの時期に応じて、科学の甲子園ジュニアへの参加、科学作品展への出品、科学オリンピック等へ参加などの様々な活動に向けてのアドバイス等も実施する。加えて、個々の受講生の将来の希望等を聞き、将来のキャリア形成についても指導・助言を行う。

メンターの研修は、「研究サポート面談」による受講生への聞き取り調査実施後に行い、面談内容から、研究室配属メンターのサポート活動についての評価や、支援内容についてのアドバイスを実施する。また、必要に応じて配属研究室の教員とメンターを交えた検討会を実施し、受講生へのより適切な支援方法について検討する。

◆受講生の評価

1）取り組み前および第一段階終了時の受講生の評価

取り組み前と第一段階の評価については、前年度と同様に実施する。

2） 第二段階終了時の受講生の評価

第一段階の教育プログラム受講の際に同様に、受講者は各学習プログラム終了時に一枚ポートフォリオを作成し提出している。この、一枚ポートフォリオには、A4用紙に授業内容の記録と授業に対する自己評価欄が作られており、毎回の授業毎に授業の内容理解と、自己の活動内容に対する評価確認することができる。このポートフォリオの記録内容をもとに、各観点について評価する。これに加えて、受講生カルテによる受講生の取り組み状況の評価、科学作品展等の受賞実績等について評価

受講生の研究室内での取り組み状況の評価は、配属研究室の指導教員が行う。また、期間中の科学作品展等の出品・受賞実績については、シニアメンターが追跡調査を行い指導教員への連絡等も徹底する。評価は、下記の第二段階の教育プログラム評価基準の得点に応じて、レベル1～5まで分類し、各能力の達成度の目安とする。レベル1（20 点未満）、レベル2（20～40 点未満）、レベル3（40～60 点未満）、レベル4（60～80 点未満）、レベル5（80 点以上）。また、これら各観点の結果を総合した、総合評価については、レベル1（100 点未満）、レベル2（100～200 点未満）、レベル3（200～300 点未満）、レベル4（300～400 点未満）、レベル5（400 点以上）とする。総合評価が、レベル4を超えた受講生は、次年度以降も継続して第二段階の教育プログラムを受講できるが、この水準に達しなかった受講生は、該当年度でプログラムを全て修了する。

第二段階の教育プログラム評価基準

評価の観点	評価内容	配点
旺盛な科学的探究心	・一枚ポートフォリオの評価 ・受講生カルテの評価	100 点
科学的問題解決力	・一枚ポートフォリオの評価 ・受講生カルテの評価	100 点
研究実践力	・一枚ポートフォリオの評価 ・受講生カルテの評価 ・期間中の科学作品展等の出品・受賞実績	100 点
豊かなコミュニケーション力	・一枚ポートフォリオの評価 ・受講生カルテの評価（研究発表内容）	100 点
自己学習能力	・一枚ポートフォリオの評価 ・受講生カルテの評価（研究発表内容）	100 点

◆成果の把握と効果検証、成果の波及・伝搬

1）各取組の成果の把握と効果検証
基本的には、前年度と同様に実施する。第二段階の教育プログラム内容については、ポートフォリオの記録内容の変化を解析することによって、受講生の変容など、継続的な学習活動の成果の「見える化」を行うとともに、指導教員やメンターによる活動状況の評価、科学作品展等への取り組み状況や受賞実績等の評価をもとに検証する。
2） 成果の波及・伝搬
前年度と同様に実施する。
3） 取組終了後の修了生との関係性の維持や追跡調査
修了生については、同窓会を組織して、後輩受講生との交流も加味した定期的な研究相談会を実施する事によって、関係性の維持をはかる。特に、毎年開催する「沖縄科学技術教育シンポジウム」に招待して、出来るだけ継続して研究活動が行えるような支援を行う。また、追跡調査として、修了生の在学している中学校や進学先の高等学校への聞き取り調査やアンケート調査等を実施する。特に、SSH校への進学者については、高校での探究活動に対する評価等について詳細に調査を行い、修了生とそれ以外の生徒の比較等も行う。

◆実施体制、及び、連携機関との協力

前年度と同様に実施する。

2024年度

◆受講生の育成目標
1)「育てたい能力・資質」の育成目標
「育てたい能力・資質」の育成目標については、前年度と同様。
① 第一段階の教育プログラムの今年度の達成目標
前年度と同様。
② 第二段階の教育プログラムの今年度の達成目標
新たに第二段階の教育プログラムに参加した受講生は、前年度と同様。
継続受講が認められた受講生については、受講生の50％以上が第二段階の教育プログラム評価基準の総合評価達成度レベル5の評価に到達し、全員が研究作品を全国レベルの科学賞作品展等に出品することを到達目標とする。

2） 科学技術コンテスト等への参加目標

種別	参加目標人数	備考
県内レベルの数学・科学作品展、	30	沖縄県児童・生徒科学賞作品展 算数・数学の自由研究作品コンクール 沖縄青少年科学作品展
全国レベルの数学・科学作品展等	3	全国児童才能開発コンテスト、日本学生科学賞等、算数・数学の自由研究作品コンクール
科学コンテスト等	3	科学の甲子園ジュニア、国際科学技術コンテスト

◆受講生の募集・一次選抜
前年度と同様に実施する。

◆教育プログラムと指導体制・指導方法
前年度と同様に実施する。

◆受講生の評価
前年度と同様に実施する。

◆成果の把握と効果検証、成果の波及・伝搬
前年度と同様に実施する。
取組終了後の修了生との関係性の維持や活躍状況の把握（追跡調査）に関する方針・計画

◆実施体制、及び、連携機関との協力
前年度と同様に実施する。

2025年度

◆受講生の育成目標
1)「育てたい能力・資質」の育成目標
前年度と同様。
① 第一段階の教育プログラムの今年度の達成目標
前年度と同様。
② 第二段階の教育プログラムの今年度の達成目標
新たに第二段階の教育プログラムに参加した受講生と継続1年目の受講生は、前年度と同様。
2年以上継続して受講が認められた受講生は、全員が第二段階の教育プログラム評価基準の総合評価達成度レベル5の評価に到達し、国内の自然科学系学術雑誌へ論文の投稿・採択されることを到達目標とする。

2） 科学技術コンテスト等への参加目標

種別	参加目標人数	備考
県内レベルの数学・科学作品展、	35	沖縄県児童・生徒科学賞作品展 算数・数学の自由研究作品コンクール 沖縄青少年科学作品展
全国レベルの数学・科学作品展等	4	全国児童才能開発コンテスト、日本学生科学賞等、算数・数学の自由研究作品コンクール
科学コンテスト等	4	科学の甲子園ジュニア、国際科学技術コンテスト

◆受講生の募集・一次選抜
前年度と同様に実施する。

◆教育プログラムと指導体制・指導方法
前年度と同様に実施する。

◆受講生の評価
前年度と同様に実施する。

◆成果の把握と効果検証、成果の波及・伝搬
前年度と同様に実施する。

◆実施体制、及び、連携機関との協力
前年度と同様に実施する。

2026年度

◆受講生の育成目標
1)「育てたい能力・資質」の育成目標
前年度と同様。
① 第一段階の教育プログラムの今年度の達成目標
前年度と同様。
② 第二段階の教育プログラムの今年度の達成目標
新たに第二段階の教育プログラムに参加した受講生と継続1・2年目の受講生は、前年度と同様。
3年以上継続して受講が認められた受講生は、全員が第二段階の教育プログラム評価基準の総合評価達成度レベル5の評価に到達し、国際的な自然科学系学術雑誌へ論文の投稿・採択されることを到達目標とする。

2） 科学技術コンテスト等への参加目標

種別	参加目標人数	備考
県内レベルの数学・科学作品展、	40	沖縄県児童・生徒科学賞作品展 算数・数学の自由研究作品コンクール 沖縄青少年科学作品展
全国レベルの数学・科学作品展等	5	全国児童才能開発コンテスト、日本学生科学賞等、算数・数学の自由研究作品コンクール

	科学コンテスト等	5	科学の甲子園ジュニア、国際科学技術コンテスト
	◆受講生の募集・一次選抜 前年度と同様に実施する。		
	◆教育プログラムと指導体制・指導方法 前年度と同様に実施する。		
	◆受講生の評価 前年度と同様に実施する。		
	◆成果の把握と効果検証、成果の波及・伝搬 前年度と同様に実施する。		
	◆実施体制、及び、連携機関との協力 前年度と同様に実施する。		

（6）実施体制

令和4（2022）年度の実施体制について、機関・組織・人員の配置と関係を、図を用いて説明してください。
下記については、必ず記載してください。

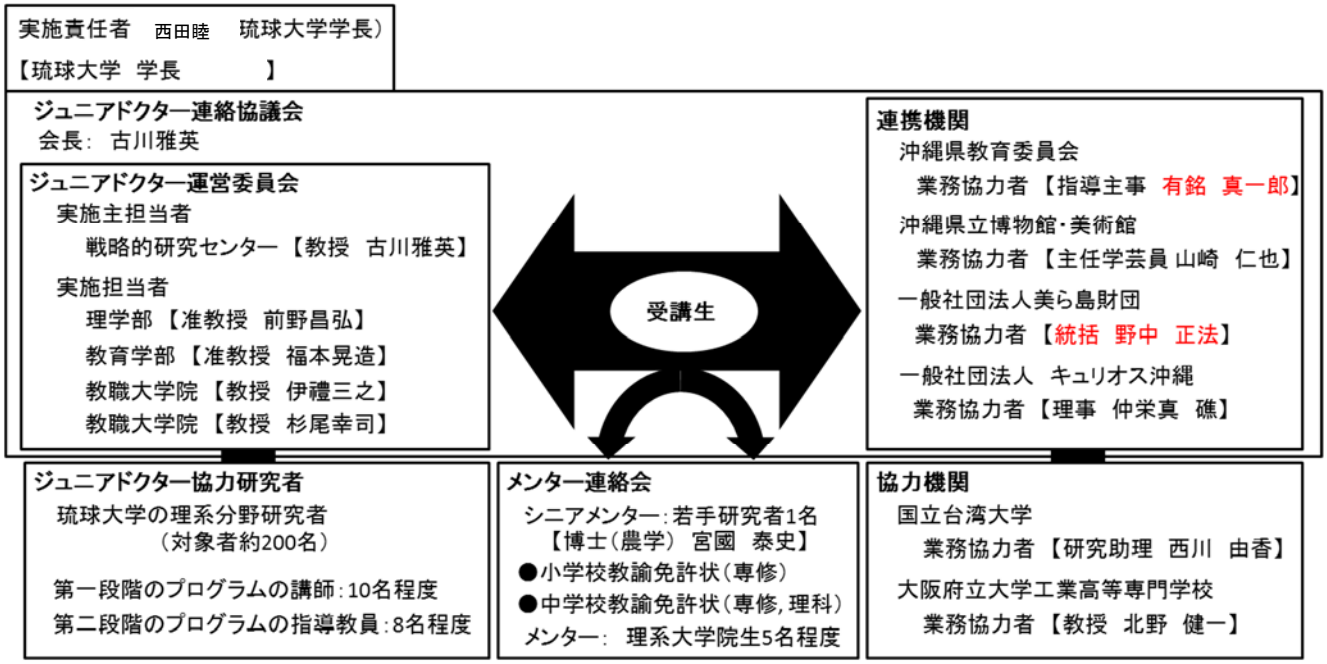
◆実施機関、連携機関（・共同機関）
◆実施組織　※　学内で企画に参画する学部・センター等もあれば明記してください。
◆実施責任者、実施主担当者、担当者

1）実施機関および連携機関

実施機関である琉球大学では、実施責任者である学長の指導・監督のもと、「ジュニアドクター運営委員会」を組織する。ジュニアドクター運営委員会は、実施主担当者が委員長、実施担当者が構成メンバーを務め、企画・運営等の実務を担当する。また、学内の研究者は「ジュニアドクター協力研究者」として、各教育プログラムの講師や、受講生を研究室に受け入れる「指導教員」として参画する。メンターは、理系分野を専攻する大学院生が務め、シニアメンターのリーダーシップのもとで、受講生へのきめの細かい対応を担う。そのため、シニアメンターには、理系の博士号取得者であると同時に、小中学校の教員免許も保持している子どもへの対応に優れた若手研究者を雇用し、本企画に専属で対応する。期間中は、ティーチング・ポートフォリオ研修も提供し、メンターとしての能力開発にも取り組む。実施組織役割と責任を明確化することによって、受講生の募集から評価までを安定的に運営・実行していくための組織体制を構築する。また、ジュニアドクター運営委員会、指導教員、シニアメンターは、各取り組み内容について、電子メール等での情報共有を密にし、四半期毎に指導内容等についての検討会を実施する。

また、企画の実施に際しては、学内の理系学部等との協力体制の構築が重要になる。そのため、「戦略的研究プロジェクトセンター」を調整部局に位置付け、学内の幅広い分野との連携・協力について対応する。戦略的研究プロジェクトセンターは、理学部、農学部、工学部、医学部、法文学部、熱帯生物圏研究センターの教員が研究主宰者として所属し、学問分野や所属部局の枠を越えた研究プロジェクトを実施・統括しているため、各部局との調整機関として最適である。さらに、同センターが所属する研究推進機構には、大学博物館（風樹館）とこれに附帯するビオトープ施設や国際沖縄研究所などの文理融合型部局があり、これらとの連携も検討する。

連携機関は、連絡調整担当として「業務協力者」を任命し、企画への協力体制を構築する。また、実施機関と連携機関のコンソーシアムとして、ジュニアドクター運営委員会委員と連携機関業務協力者がメンバーとなる「ジュニアドクター連絡協議会」を設置し、企画全体への協力や企画に対する対外的評価について対応する。実施機関と連携機関の協力体制を強固にすることによって、企画を効果的に運営・実行していくための組織体制を構築する。



1）産業界との連携等

産業界との連携については、株式会社沖縄 TLO の協力を得て、沖縄県内の研究開発部門を有する企業との連携について検討する。沖縄 TLO は、沖縄県における技術移転を中核とした新産業創出の支援を行う機関として、琉球大や県内企業が出資して設立した会社であるため、県内企業との仲介役として最適である。また、受講生の興味・関心等が高い分野については、関連する県外企業等へのアプローチも積極的に行い、連携等の可能性について検討する。

◆連携機関の役割

（6）実施体制図のうち、とくに連携機関の役割を具体的に、その実現可能性の程度を含めて説明してください。
役割遂行にあたって課題がある場合は、その解決策を含めて記載してください。

琉球大学ジュニアドクター運営委員会と連携機関である沖縄県教育委員会、一般財団法人美ら島財団、一般社団法人キュリオス沖縄が協力してコンソーシアム（ジュニアドクター連絡協議会）を組織する。具体的には、教育プログラムの内容、効果的な受講生募集の体制、学校現場への波及効果や地域社会への還元方法の検討等、企画全般について協議を行い、効果的な取り組みとなるよう協力関係を構築する。

1） 沖縄県教育委員会の役割

受講生の募集にあたっては、才能ある児童・生徒の推薦の協力を、各小中学校依頼するなど教育現場の理解と協力が不可欠である。そのため、県教委には、県内の小中学校への周知と学校現場の理解を深める取り組みについて中心的な役割を担ってもらう。特に、受講生募集への対応や、企画の成果を学校現場に波及する活動等については、緊密な協力が不可欠だと考えている。県教委とは、理科や科学技術に興味・関心がある児童・生徒に対して、研究内容の発表の場を提供し、科学を楽しみ、学校の枠を超えた交流を推進する事を目的に実施している「沖縄科学技術教育シンポジウム」の開催で協力関係を構築済みであるため、本事業での連携については特に問題ないと認識している。

また、学習プログラムにおける高校生との交流を実現するために、SSH校である沖縄県立球陽高等学校の協力を得る。SSH校は、受講生が本企画を終了した後の目標としても重要であると考えており、受講生の身近な目標としてモチベーションの向上にも効果があると期待している。実施主担当者と担当者は、SSH運営指導委員会等のメンバーとして球陽高校のSSH事業のサポートを行ってきた実績があるので、球陽高校との連携については特に問題ない。

2） 沖縄県立博物館・美術館の役割

博物館部門では、沖縄県の自然に関する展示や小中学生対象の教育普及活動を実施しており、児童･生徒に対する教育啓蒙活動に関する豊富なノウハウを有している。そのため、本企画の学習プログラムに関する指導助言を行うとともに、博物館で実施するイベント等を通して、本企画の周知や成果の普及に協力する。

3） 一般財団法人美ら島財団の役割

美ら島財団は、美ら海水族館等を擁する国営沖縄記念公園の管理運営を行っており、亜熱帯性動植物・海洋文化・首里城等に関する調査研究・普及啓発、公園管理等を事業の柱としており、自然科学に関係する取り組みとしては、総合研究センターを拠点として、沖縄の海の生き物に関する事業と亜熱帯性植物に関する事業を展開している。

沖縄の海の生き物に関する事業では、入館者数日本一を誇る沖縄美ら海水族館の管理運営に加えて、沖縄周辺にみられる熱帯・亜熱帯性の海洋生物の多様性研究や、生理学・生態学的特性を研究することにより、自然環境の保全と持続可能な利用に資する活動を行っている。

亜熱帯性植物に関する事業では、熱帯ドリームセンター、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、なごアグリパークの管理運営に加えて、沖縄在来植物の保全・活用などに関する調査研究、亜熱帯性植物に関する知識の普及啓発、専門家を対象とした講演・講習会等を行っている。

また、社会教育施設である「沖縄県立博物館･美術館」「沖縄県立名護青少年の家」やウミガメの調査研究施設である「美ら島自然学校」を管理運営しており、児童･生徒に対する教育啓蒙活動の実績も十分に有している。

このように、海洋生物・亜熱帯植物研究に関する研究実績と魅力的な施設、子どもを対象とした啓蒙活動についての豊富なノウハウを有しているため、募集対象者への周知への協力や第一段階教育プログラムにおける講師と施設の紹介、第二段階教育プログラムにおける受講者の研究室への受け入れ等、多面的な協力を得る。実施担当者との協議は既にはじめており、実現に向けて問題は無いと考えている。

4）一般社団法人キュリオス沖縄の役割

キュリオス沖縄は、琉球大学大学院理工学研究科と農学研究科の修了生が開設した自然科学系の教育活動を行う団体で、沖縄の自然環境を教育活動・研究活動・経済活動の場として活用すること目的に、科学実験教室・イベント等の企画・運営、自然観察教室のネーチャーガイド等を実施している。子どもを対象としたイベントを多数手がけているため、児童・生徒への対応方法についてのノウハウの提供と、本企画のメンターに対する教育指導のサポートを行ってもらう。平成 27 年度から実施している「沖縄科学技術教育シンポジウム」の開催時から協力関係は既に構築済みであり、本企画に対するアドバイス等も既に受けている。

(7)実施期間終了後の予定

JST からの支援終了後に、実施機関において、理数・情報分野に関して突出した意欲・能力を有する児童生徒をさらに伸ばすための企画をどのように継続、展開していくか、その方向性、方法等(資金調達方法含む)について記述してください。

◆実施体制、連携機関(・共同機関)との連携体制
◆学内他部門・連携機関以外の機関等との協力
◆企画内容、対象の拡大や改善

実施機関修了後についても、5年間の取り組みで得られた成果を継承し、発展させるため、琉球大学を中心とした地域連携型の理系人材育成人ネットワークを構築し、継続した取り組みの実施を目指す。

1) 実施体制および連携機関との連携体制

実施体制と連携機関との協力は、そのままの体制を維持して継続した取り組みを実施したいと考えている。事業継続に必要な資金は、外部資金や学内の競争的資金を積極的に活用する。特に、学内の競争的資金である「戦略的教育推進経費」は、継続企画に適していると考えている。この経費の対象には、地域社会の発展を担う人材育成等、地域との連携、地域の活性化機能の強化に取組むための経費が含まれており、継続して実施する理数・情報分野に関して突出した意欲・能力を有する児童・生徒をさらに伸ばすための新たな企画は、地域貢献と人材育成をビジョン(中期計画)の一つとして掲げている本学の戦略的かつ重点的取組として魅力ある内容だと思われる。

これと同時に、第一段階教育プログラムについては、オープンコースウェアのようなインターネットを活用して公開する仕組みの構築も検討している。新企画においても、本企画の趣旨を活かして、第一次選抜を実施した後に受講生を決定するので、誰でもオープンに学習コンテンツにアクセスできるようにするかは検討が必要であるが、大学のホームページから、学習コンテンツにアクセスできる体制を構築できれば、琉球大学で授業を受けることが難しい離島等の児童・生徒にとっても、プログラムに参加する機会が増加する。公開する学習コンテンツについては、5年間の取り組み内容の蓄積から、児童・生徒にとってより効果的なプログラムが実現可能であると想定できる。ただし、このようなコンテンツでは、児童・生徒が議論したり発表したりする協同的な学びの機会を提供するのが難しいので、スクーリング等を学校の夏休み期間に集中して実施するなど、受講生の状況に応じた柔軟な対応を検討する必要がある。

また、ICT を活用した新たな取り組みの導入によって、新企画の運営コストは低減できる可能性もあるので、仮に獲得資金が減少した場合でも、新企画の継続実施は可能であると考えている。

2) 学内他部門・連携機関以外の機関等との協力

5年間の本企画実施期間中に、取り組み内容の成果発表等を積極的に行い、本企画の意義と重要性について学内の他部門の理解と協力体制の構築に努める。また、協力する意思はあっても、児童・生徒への対応をどの様に行えば良いのか苦慮している研究者も多いと思われる。そのため、本企画で得られた成果をもとに、児童・生徒への効果的なアプローチ法について学内での啓蒙活動を行い、研究者が協力しやすい環境作りにも尽力する。

連携機関以外の機関等との協力についても、本企画の成果発表等を通して、その意義についての理解が進むと思われるので、多くの関連機関に働きかけて協力関係の拡大を進めて行く。

3) 企画内容、対象の拡大や改善

継続企画においても、理数・情報分野に関して突出した意欲・能力を有する児童生徒をさらに伸ばすという趣旨は同一であるため、受講者数を拡大する事は考えていないが、上述したように、学習プログラムをインターネットでの学習できる体制が構築できたら、第一段階教育プログラムの一部については、オープンアクセスできるようにする事も検討している。このことによって、継続企画の認知度の向上が図れると同時に、合格できなかった受験生に次年度もチャレンジしてもらえるような、良い意味での刺激になると考えている。また、離島や遠隔地の児童・生徒にとっても効果的に活用してもらいたい。さらに、地域連携型の人的・機関的ネットワークを構築する中で、小・中学校の教員に対して、学校で自由研究を指導する際の参考になる研修プログラムの提供ができ、教員対象の研究会等も積極的に開催する予定である。また、上記のシステムを活用して、この研究内容をホームページ上に公開することも検討しており、離島や遠隔地に勤務する教員や校務が多忙で参加できない教員にとっても役に立つシステムが構築できれば、理数系の人材育成により大きな貢献が出来ると期待している。

4)修了生の追跡調査と企画の効果検証

本企画修了後の新たな取り組みにおいても、OB・OGを集めて定期的な研究相談会を開催し、修了生の活躍状況の追跡調査(研究への取り組み状況、科学オリンピック等での実績、大学進学状況等)を実施する。また、修了生の進学した高等学校の協力を得ながら、担任や教科担当教諭へのアンケート調査を実施する。高校での探究活動の実績については、SSH校等と協力して、修了生とそれ以外の生徒の比較を行うことによって、詳細な検証が可能になると考えている。

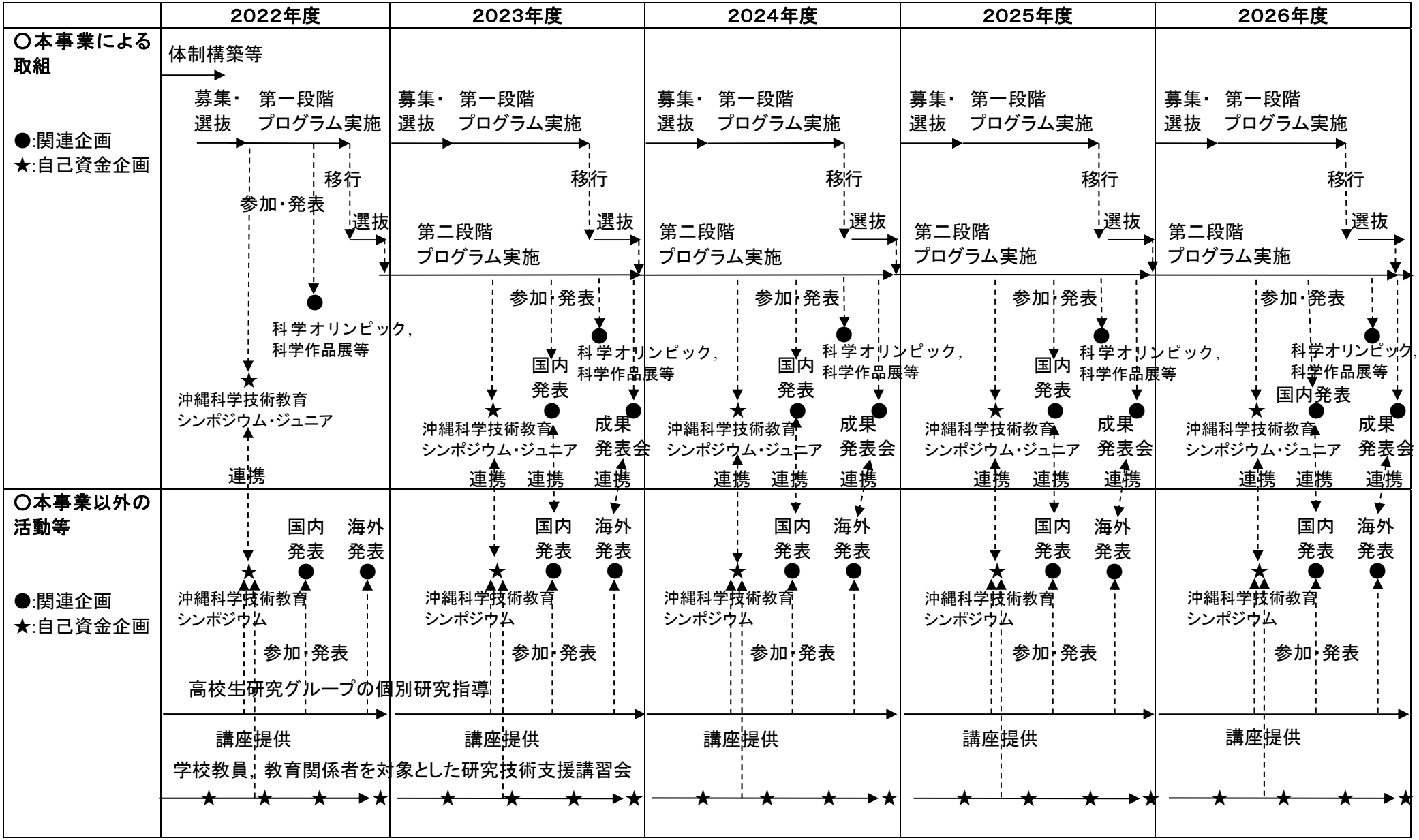
過去にジュニアドクター育成塾事の企画を実施した機関のみ対象

（8）過去にジュニアドクター育成塾の企画を実施した機関の実績と本提案企画の関係

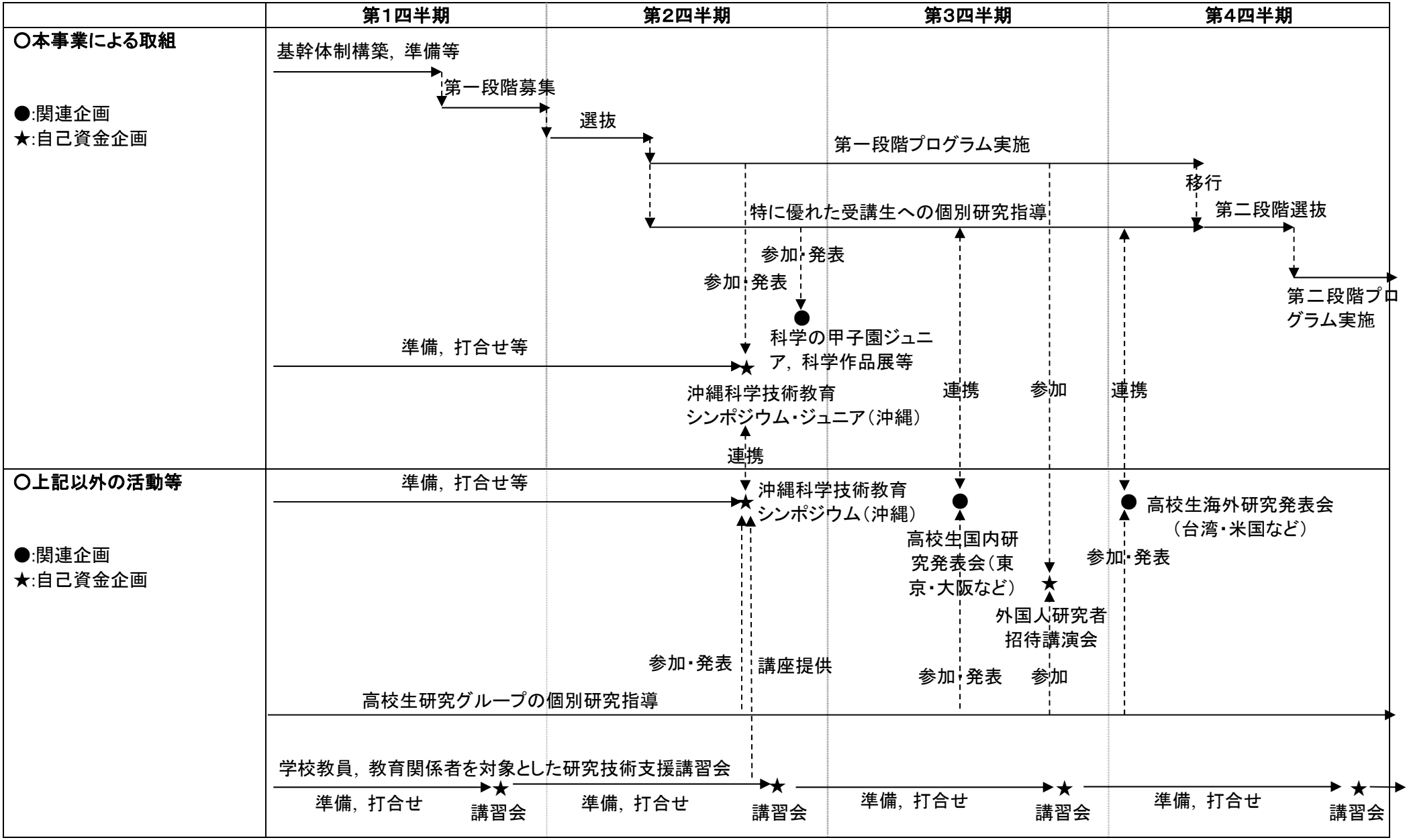
過去にジュニアドクター育成塾の企画を実施した実績がある機関の場合、下記表にご記入ください。本事業の趣旨を踏まえ、本提案企画の取組と過去にジュニアドクター育成塾で実施した実績において、取組の違いを比較した形で図を用いて、2 ページ以内で下記表に項目ごとに分かりやすく記述してください。

採択年度：　平成　　年度 ジュニアドクター育成塾企画名：　例）・・・プロジェクト	令和4年度　本提案企画
※募集要項（Ⅱ.4.(4)企画の構成要素と要件）の内容における今回の提案での取組と明確に対比できる、過去にジュニアドクター育成塾の企画で実施した取組実績を本欄に記述してください。 ※本表を記述した場合には、別途、募集要項（Ⅲ.3.応募方法）にある補足資料の提出が必要となります。	※募集要項（Ⅱ.4.(4)企画の構成要素と要件）の内容において、過去にジュニアドクター育成塾の企画で実施した取組と明確に対比できる、今回の企画の取組を本欄に記述してください。 ※以下の事項を分かりやすく記述してください。 (ア)STEAM学習等を通した探究力の育成に向けて、受講生の意識・スキルの向上と研究活動との関連を適切に評価・分析し、STEAM学習等の成果を把握するための仕組み (イ)STEAM学習等を通した多様な学びを推進し、第一段階育成プログラムの学びを第二段階育成プログラムにつなげ、第二段階での研究活動の深化・発展に資する指導体制および指導内容の工夫 (ウ)第一段階育成プログラムとのつながりを考慮した第二段階育成プログラムでの研究テーマ設定のための工夫 (エ)地域拠点機能の充実に資する以下の内容 ・取組の成果を普及・展開し、地域の拠点として地域社会に貢献する具体的な仕組み ・地域の関係者との協働による PDCA の実施等、地域との信頼・連携を深め、取組の深化・発展に資する仕組み ・支援期間終了後の継続に向けた事業展開のロードマップ (オ)修了生の継続的な研究活動につなげるための仕組み ※「【4】実施期間（最大5ヵ年）の計画」に本ロードマップも併記してください。

【4】実施期間（最大5ヵ年）の計画



【5】2022年度の年間計画



【6】所要経費見込み　2022年度

令和4年度の所要経費について、費目ごと、種別ごとに主な内訳・使途、および見込み額を、積算根拠（計算式）とともに、記述してください。

費目・種別			主な内訳・使途	予定合計金額（円）
直接経費	①物品費	設備備品費		0 円
		消耗品費	講座提供に係る消耗品：70,000 円×24 回分=1,680,000 円 生徒研究活動に係る消耗品：30,000 円×10 名分=300,000 円 サテライトキャンパスの実験器具：50,000 円×5 か所=250,000 円	2,230,000 円
	②人件費・謝金	人件費	シニアメンター1 名（専任）：　年間給与 3,000,000 円 事務補佐員 1 名（専任）：　年間給与 1,200,000 円	4,200,000 円
		謝金	メンター5 名：　時給 1,000 円×月 20 時間×8 ヶ月×5 名=800,000 円 実習：講義等の受付・補助：50,000 円 外部講師 2 名：　20,000 円×2 名=40,000 円	890,000 円
	③旅費	内国旅費	JST開催連絡協議会　参加旅費 3 名分：100,000 円×3 名=300,000 円 離島地域への旅費　6 名分：50,000 円×6 名=300,000 円 ジュニアドクター連絡協議会　旅費 4 名分：10,000 円×4 名分=40,000 円 シニアメンター研修旅費 1 名分：50,000 円	690,000 円
		外国旅費	ジュニアドクター連絡協議会　参加旅費 1 名分：100,000 円×1 名=100,000 円 国際科学教育プログラムに関する情報収集　旅費 1 名分:100,000 円×1 名=100,000 円	200,000 円
	④その他		大型装置使用料（24 回分）：70,000 円 テキスト、広報用チラシの印刷製本費：290,000 円 受講生の傷害保険料・損害賠償責任保険料（40 名 24 回分）：100,000 円 広報・e-learning 用ホームページの開設：500,000 円 通信運搬費：30,000 円	990,000 円
一般管理費（直接経費総額の10％以下）				800,000 円
合計（1，000万円以下）				10,000,000 円
自己負担経費 （本企画に使用する JST 支援 経費以外の自己負担部分）			プログラム開発に向けた大学教員の情報収集旅費： 100,000 円×5 名=500,000 円 実験講座・研究の予備実験に係る消耗品および分析機器使用料： 20000 円×24 回+20,000 円=500,000 円）	1,000,000 円
総合計				11,000,000 円

【7】所要経費見込み　2023年度～2026年度

2023年度から2026年度の所要経費について、費目ごと、種別ごとに見込み額を、記述してください。　（単位：千円）

費目・種別			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
直接経費	①物品費	設備備品費	0	0	0	0
		消耗品費	1,160,000	1,000,000	960,000	960,000
	②人件費・謝金	人件費	6,200,000	6,200,000	6,200,000	6,200,000
		謝金	980,000	980,000	980,000	980,000
	③旅費	内国旅費	500,000	660,000	660,000	660,000
		外国旅費	100,000	100,000	100,000	100,000
	④その他		260,000	260,000	300,000	300,000
一般管理費（直接経費総額の10%以下）			800,000	800,000	800,000	800,000
合計（1，000万円以下）			10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
自己負担経費 （本企画に使用するJST支援 経費以外の自己負担部分）			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
総合計			11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
経費変動事由 ※対前年度比で費目別に3割以上変動するものについては変動事由がわかるよう根拠となる式とともに示してください。			取り組み2年目となり、一部の消耗品は2022年度購入分を再利用するため消耗品費は減額されている。4月分からの人件費を計上しており、2022年度よりも雇用期間が長いため増額となっている。その他で計上しているweb ページ関連経費は、その維持に主眼が置かれるため減額となっている。			

「ジュニアドクター育成塾」
令和４年度実施機関募集の概要

- **趣旨**

科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、高い意欲や突出した能力を有する全国の小学５・６年生及び中学生を対象に、大学等が特別な育成プログラムを提供し、その能力等の更なる伸長を図る。

- **募集対象**
  - 大学、高等専門学校、公的研究機関、科学館・科学系博物館、公益法人、NPO法人及び民間事業者等を対象（※法人格を有することが必要）

- **実施形態、支援額等**
  - 支援対象期間：５年間
  - 採択予定件数：１０件程度
  - ＪＳＴ（主催者）と実施協定を締結した各機関（実施機関）が各企画を実施・運営
  - １件あたり１０００万円を上限に支援（一般管理費１０％を含む）

- **スケジュール**
  - １月２４日　　募集開始
  - ３月１０日　正午　　募集締切
  - ３月～４月　　書面審査・面接審査
  - ５月　　採択決定

【募集の詳細】
右記Webをご覧ください。

https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/index.html

【お問い合わせ先】
国立研究開発法人科学技術振興機構　理数学習推進部能力伸長グループ
E-mail: fsp@jst.go.jp

注）本募集は令和４年度政府予算の成立を前提としており、予算の成立状況によっては実施スケジュール、実施内容等で変更・調整が必要となる場合があります。

発見！琉大について
利用案内
お問い合わせ
カテゴリから探す
地域連携
SDGs
国際交流
沖縄文化・芸能
カテゴリ
カテゴリ
カテゴリ
カテゴリ
検索
English

発見！琉大

サブタイトル

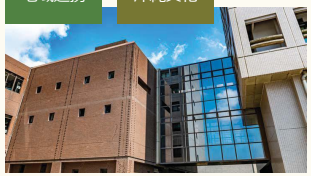
新着動画

地域連携 沖縄文化

2022.01.01

記事タイトル

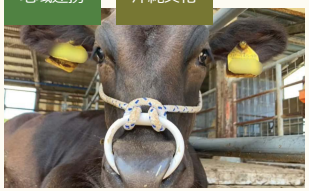
地域連携 沖縄文化



2022.01.01

記事タイトル

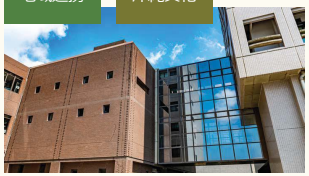
地域連携 沖縄文化



2022.01.01

記事タイトル

地域連携 沖縄文化



2022.01.01

記事タイトル

動画一覧をみる

発見！琉大について
利用案内
お問い合わせ
カテゴリから探す
地域連携
SDGs
国際交流
沖縄文化・芸能
カテゴリ
カテゴリ
カテゴリ
カテゴリ
検索
English

カテゴリー毎に動画を探す

地域連携

SDGs

国際交流

沖縄文化

カテゴリ

カテゴリ

カテゴリ

カテゴリ

社会・地域連携
国際交流
公開講座・授業
研究

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

▶ 発見！琉大について
▶ 利用案内
▶ お問合せ
▶ プライバシーポリシー

©発見！琉大

報告2

令和３年度　地域連携推進機構予算執行状況(2022.2.15現在)

１．基本的な予算

財源	目的	予算配分額(R3)	執行済額	予算残高	執行率	備考
大学運営費（その他）	教育基盤経費	1,057,000	1,151,359	-94,359	108.93%	
	大学開放事業費	2,333,000	1,864,424	468,576	79.92%	
	研究基盤経費	1,619,000	895,400	723,600	55.31%	
	（内訳）	845,000	248,191	596,809	29.37%	うち機構共通
		774,000	647,209	126,791	83.62%	うち教員研究費
	一般管理費	650,000	519,216	130,784	79.88%	
	計	5,659,000	4,430,399	1,228,601	78.29%	

２．戦略的重点配分経費-戦略的地域連携推進経費

経費	執行先	予算配分額(R3)	執行済額	予算残高	執行率	備考
地域協働プロジェクト推進経費	新規４事業	3,700,000	3,700,000	-	100%	４事業に配分済み
地域志向活動トライアル経費	正課科目における地域志向取組	1,000,000	1,000,000	-	-	配分済み
	地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）	500,000	467,868	32,132	94%	採択済み
地域連携支援体制構築強化経費	サテライト・イブニング・カレッジ事業（RSEC）	1,500,000	1,727,758	-227,758	115%	
	知のふるさと納税事業	1,500,000	0	1,500,000	0%	
	地域協働萌芽プロジェクト支援	1,500,000	448,500	1,051,500	30%	※ESLO,りゅうぎん総研委託費が未執行
	琉球大学未来共創フェア関連経費	0	0	-	-	
	地域貢献事業循環型モデル検討・調査等	500,000	0	500,000	0%	
	戦略的地域連携推進に係る運営・支援(非常勤職員人件費)					
	戦略的地域連携推進に係る運営・支援(物件)	4,500,000	4,174,679	325,321	93%	アクティブシンクタンク学内負担
	アドバイザリースタッフ派遣事業	3,500,000	3,500,000	-	100%	アクティブシンクタンク学内負担　教育学部に配分済み
	計	18,200,000	15,018,805	3,181,195	83%	

３．機能強化経費（戦略３「アクティブ・シンクタンク」）（14,000千円）

財源	目的	配分額(R3)	執行済額	予算残高	執行率	備考
大学運営費（交付金）（14,000千円）	非常勤教員給与	14,000,000	11,929,417	2,070,583	85.21%	
	非常勤講師給与	0	1,189,425	-1,189,425	-	
	教育基盤経費					
	計	14,000,000	13,118,842	881,158	93.71%	

地域連携推進機構運営会議 委員名簿

（令和３年４月１日時点）

	所属・職名	氏名	区分	備考
1	機構長 （理事・副学長（地域貢献・国際交流・広報））	牛窪（うしくぼ） 潔（きよし）	１号委員	
2	副機構長 （副学長・副理事（地域連携担当））	竹村（たけむら） 明洋（あきひろ）	２号委員	
3	地域共創企画室長 （地域共創企画室　教授）	背戸（せと） 博史（ひろふみ）	３号委員	
4	地域共創企画室　准教授	柴田（しばた） 聡史（さとし）	４号委員	
5	地域共創企画室　准教授	小島（こじま） 肇（はじめ）	４号委員	
6	総合企画戦略部 地域連携推進課長	下地（しもじ） 孝之（たかゆき）	５号委員	
7	地域共創企画室　特命准教授	島袋（しまぶくろ） 亮道（あきみち）	６号委員	
8	地域共創企画室　特命准教授	畑中（はたなか） 寛（ひろし）	６号委員	
9	総合企画戦略部長	満尾（みつお） 俊一（しゅんいち）	６号委員	

「国立大学法人琉球大学地域連携推進機構規則」より

（運営会議の組織）

第１６条 運営会議は，次に掲げる委員で組織する。

（１）機構長

（２）副機構長

（３）室長

（４）専任教員

（５）総合企画戦略部地域連携推進課長

（６）その他機構長が必要と認めた者

２ 前項第６号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。